ニッポン最後の大勝負! 青木、狂気の全米出撃!!
kamipro
紙のプロレス
MMA & PRO WRESTLING
enterbrain MOOK
2010
145
特別定価940yen
青木、
4・17ストライクフォース参戦! アメリカ死闘篇!!
ふたたび!
特集
ツイッターとは何か?
水道橋博士×谷川貞治
津田大介
独占潜入! しるこサンド工場
菊地成孔/堀辺正史
船木誠勝/高木三四郎
ガオ/天山広吉
『週プロ』に告ぐ! つまんねぇことすんな!!
俺だけのドラゴン変態座談会
大会速報、選手ブログは携帯で!
kamiproMove

闘道館・秘宝通信2010年3月号

格闘技・プロレス界の様々なモノ(お宝・珍品・資料など)を、買取・販売という方法で次世代へ残していくことが当館の使命と考えております。いらなくなったモノをお持ちでしたら、ご一報ください。高価買取いたします。毎日約100点前後の新入荷商品をHPで公開中です。
現在展示販売をしている商品の一部を以下にご紹介します。

初代タイガー'82年実使用マスク
4/11まで特別展示中!

ミル・マスカラス
サイン入り試合用マスク
¥23,100～

国際血盟軍・初代軍旗
鶴見五郎・'85年製作
実使用 ¥52,500－

アブドーラ・ザ・ブッチャー
2010.1.4東京ドーム大会実使用
¥262,500－

What is Karate?
大山倍達・著 ¥26,250－

マイク・タイソン直筆サイン
¥29,400－

アルシオン 旗揚げブレザー 選手&関係者
実使用 ¥7,350～¥21,000－

力道山杯カップ
'08年までノアで
実使用
¥294,000－

WWEスーパースター9名の直筆サイン入り
レッスルマニア23スタジャン ¥31,500－

日本プロレス 団体実使用
外国人レスラーパネル
11枚セット ¥31,500－

アルシオン実使用
レスリングマット ¥84,000－

UWA世界タッグチャンピオンベルト
実使用2本セット ¥294,000－

新日本プロレスコーナーポスト
'70年代実使用 ¥73,500－

藤原喜明
'86年賀状
直筆サイン&
自画イラスト
¥8,400－

猪木・アリ戦 ロイヤルシート
未使用チケット¥10,500－

DVD・VHS
¥525～
雑誌・パンフ・本
¥210～
フィギュア・ポスター
¥525～
Tシャツ・衣類
¥735～
その他グッズ盛沢山

テレビ東京系
「開運!なんでも鑑定団」
に当館長が鑑定士として出演

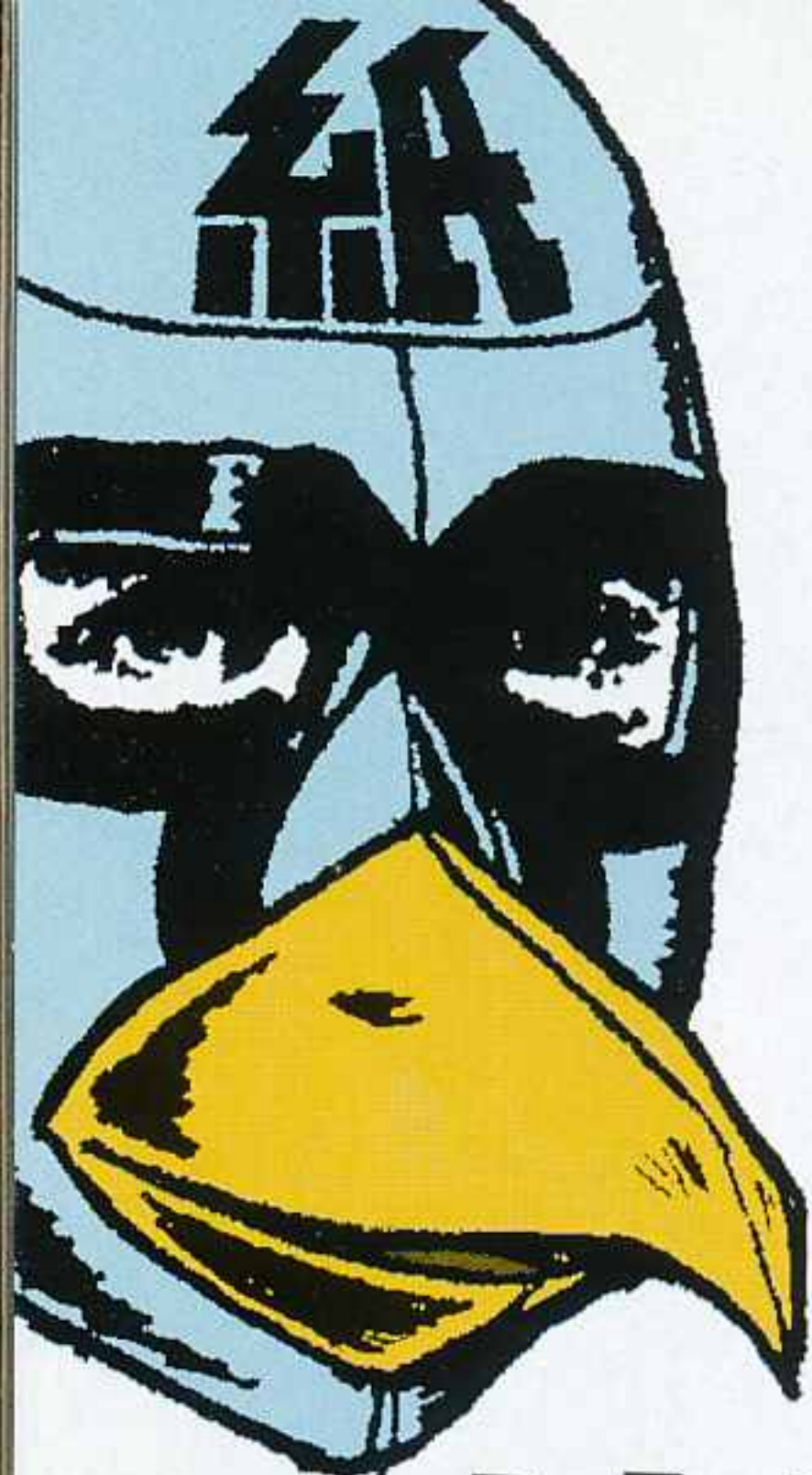
高価買取・格安販売

マスク,ベルト,Tシャツ,ビデオ,本,雑誌,パンフ,CD,フィギュア他…50,000点!

http://www.toudoukan.com 毎日夜9時、連日約100点新入荷商品を更新しています!!

闘道館 検索
詳しくはWebで!

▼携帯からも注文できます!

〒101-0061
東京都千代田区三崎町
2-9-9ナガヤビル5F&6F
(JR水道橋徒歩3分)
03-3512-2080
午前11時～午後9時(年中無休)

特集 ツイッター

つぶやく人も、つぶやかない人にも徹底直撃！

さて、何を作ってるんでしょうか!?
答えは今号の中から探そう！

2010 No.145 CONTENTS

kamipro

表紙写真／タイコウクニヨシ

MMA

Twitter

kamipro Special

Columns

ニッポン再生か、死か――!?
夢を背負いし青木真也、アメリカ進撃へ――!!

やれんのか! アメリカ! 2010

撮影／タイコウクニヨシ　文／橋本宗洋

「僕が負けたらDREAMが終わる」

4・17ストライクフォース・ナッシュビル大会でのギルバート・メレンデス戦決定が発表された記者会見で、青木真也はそう語った。大げさでも誇張でもない、まさに本心だろう。いや、むしろ控えめな表現だと言っていいかもしれない。もし青木がメレンデスに負けたら、そのときはDREAMどころか、日本の総合格闘技が〝終わる〟可能性があるのだ。

言うまでもなく、現在の総合格闘技の〝首都〟はアメリカである。UFCのブレイク以降、アメリカではMMAが最先端のスポーツとして急速に認知度を高めた。一方で、日本ではPRIDEが活動を休止し、マーケットが冷え込んだ状態だ。〝世界最高峰〟は日本ではなく、アメリカにある。

否応なしに到来してしまった〝PRIDEなき時代〟。そこで存在感を巨大化させていったのが、青木真也である。彼こそは、日本が〝世界〟と対峙していることを実感させてくれるファイターだった。DREAM旗揚げ以降、青木はJZカルバン、エディ・アルバレス、ビトー〝シャオリン〟・ヒベイロ、ヨアキム・ハンセンに勝利。世界トップクラスの戦績を残してきたことで、青木は日本の総合格闘技界のクオリティ、すなわち〝強さ〟を誇示し続けてきたのだ。

ジャンルとしての規模やイベントの大きさでは負けても、強さでは負けていない。日本で行なわれている闘いは、決して二流ではない。そう思わせてくれるのが青木だった。そういう青木が、ついにアメリカで闘う。それもストライクフォースというUFCの対抗馬的なイベントで、いきなりタイトルマッチを行なうのだ。その意味はとてつもなく大きく、そして重い。

これまでにも、さまざまな団体で強豪同士のリスキーな闘いが繰り広げられてきた。ジョルジュ・サンピエールvsBJペンの王者対決、PRIDEにおけるエメリヤーエンコ・ヒョードルvsミルコ・クロコップなど、格闘技ファンなら胃が痛くなるような緊張感を味わったことは何度もあるはずだ。彼らは、己の全存在をかけて闘いに臨み、だからこそその勝敗は重かった。

ただ、その勝ち負けの重みは、彼らが所属するイベントの盛り上がりにつながるものでもあった。どんな結果が出るにせよ、大局的に見れば得るもののほうが大きかったのだ。昨年大晦日に行なわれたDREAMvsSRCの対抗戦にしても、日本マット界の活性化という効果があった。

しかし、青木vsメレンデスは違う。もし青木が負けた場合、失なうものがあまりにも大きいのだ。訪れるのは単なる落胆ではない。青木がメレンデスに負けるということは、日本の〝強さ〟そのものが否定されてしまうこととイコール。いわば心を折られてしまうのだ。

日本の格闘技界は、規模でも、強さでもアメリカに敵わない――。そうなったとき、日本のファンは自分たちの国で行なわれている闘いにどんな意義を見出せるだろう。おそらく、日本の格闘技界は世界と向き合うダイナミズムを失ない、本当の意味で〝ローカル〟なものになってしまうのではないか。

ただでさえ格闘技への熱が失なわれている中で、誇りを失なわないこと。ファンが世界に誇れる、熱のある日本格闘技界を取り戻すこと。そのために青木はアメリカで闘うのだ。だから彼は会見でも「挑戦じゃなく勝負です」と言ったのだろう。アメリカMMAという山に登るのではなく、日本の総合格闘技界という山を崩壊させないため、さらに高くするための闘いだ。

世界と向き合い、闘っていくか。ごく一部の人間が内向きに楽しむだけの閉じたジャンルになってしまうか。青木vsメレンデス戦の結果は、日本の総合格闘技界のあり方そのものをかけた一戦なのだ。選手であれ関係者であれファンであれ、この試合に無関係な日本人は一人もいないと言っていい。

大晦日にDREAMを背負った青木は、4月17日に日本を背負って闘う。今度は中指ではなく、誇りをもって人差し指を突き立てるために。

青
ツイッターアカウント
waoki
木

真也

バカサバイバー、決意と覚悟の全米進撃！

「日本のプライドは俺が取り戻す!!」

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウ クニヨシ　試合写真／乾晋也、©DREAM

4.17ストライクフォースでビッグカード実現！王者ギルバート・メレンデスといきなりタイトルマッチ!!

青木真也

アメリカでボクが強さを証明することによって DREAMに何か返したい気持ちがあります

——青木さん、ストライクフォース（以下SF）の参戦が発表されましたね。

青木 SF。〇〇〇・フレンドの略ね。

——これこれ、冒頭から何を言ってるんですか！（笑）。

青木 ダメ？

——ダメというか、そんなこと全米中継で口にしたら、二度とアメリカに入国できないですよ（笑）。SF代表のスコット・コーカーは以前から青木さんの参戦を熱望してきましたが、出場の打診はいつあったんですか？

青木 だいぶ前からあったみたいですね。でも、ボクは「行け！」って言われて行くだけなんで。実際、タイトルマッチだって聞いたのは、記者会見の二日前くらいだしね。「あ、いいですよ、わかりました」って感じで。

——青木さんにとっては初の海外試合ですけど、いまはどんな心境ですか？

青木 組み技ではアブダビ・コンバットやヒクソン主催のブドー・チャレンジに出てるんですけど。でも、海外だからって普段と何も変わらないというか。

——でも、今回の舞台は敵地ですし、ケージは初体験じゃないですか。未知の領域に対しての恐怖はないんですか？

青木 ないと言ったらウソになるし、怖いという気持ちは毎試合あります。正直、大晦日（の廣田瑞人戦）だって怖かったし。そんな気持ちは常にあるんだけど、「俺には格闘技しかできない!!」っていうプライドがあるっすからね。

——記者会見でも言ってましたけど、今回の試合は〝日本を背負う〟覚悟があるわけですよね。

青木 はい。それは当然ありますね。でも、日本や世界というくくりで見てない部分もあるんです。闘いへのモチベーションってボクの中で凄く多様なんですよね。

——闘う理由はさまざま。

青木 ボクのモチベーションっていろいろありますからね。単純に「強くなりたい」というモチベーションもあるし。ボク、これからもっともっと強くなると思うんですよ。まだまだ伸び盛りだし、もっともっと強くなれる。そうなるための一つの手段がSFに出るっていうこと、海外でやるっていうことなんですよ。これからの青木真也が強くなるための選択でもあるんです。

——海外だから意味がある、と。

青木 やっぱり「海外でやる」「不慣れな場所でやる」という作業は単純に大切だと思うんですよね。それが一つのモチベーションであり、あとは自分の生業としてお金をもらうっていうことに対しての貪欲さも当然あるし。そして日本の総合格闘技というものが世界と闘っていくためには、もうこっちから〝行く〟しかないんですよ。いまは「来いよ！」って言えないんですよ。だって呼べる舞台がないんですもん。

——たとえば同じギャラを払うとしても、もしかしたらUFCやSFを選ぶファイターが多いかもしれないですね。

青木 むしろそうなってますよね、いまは。そこが悔しい!! でも、アメリカでボクが強さを証明することによって、DREAMに何か返せるんじゃないかなって気持ちは凄くあります。これで負けたらホントの終戦になると思うんですよ。もうポツダム宣言。

——ライト級以外は〝最強幻想〟が途絶えてひさしいですから。いまや興行的にはアメリカとだいぶ差が開いてるじゃないですか。

青木 悔しいけどね。

——でも、文化自体はまだなんとかしがみついてるところはあるんです。ここで青木さんが勝つと負けるじゃ……。

青木 （さえぎって）自分で言うのもなんですけど、ボクが負けたら終わるでしょうね（キッパリ）。ライト級はまだまだ負けてない！ という自負は持ってますよ。

——対戦相手のギルバート・メレンデスとは、本当は『PRIDE武士道』で闘う予定でしたよね。結局、メレンデスのケガで試合は流れちゃいましたけど。

青木 うーん、ここまでくると相手がどうのって話じゃないんですよね。自分をどんだけ高めることができるのか？ っていう。究極のところ、ボクは勝つために練習してるわけじゃないんですよ。やっぱり自分を信じるために練習してると思うんですよ。それは闘うことが怖いから。

——怖さを克服するために自分を高めていると？

青木 そうです。自分を高め、絶対に大丈夫だと思えるために練習してる部分もあるから。

——確かに勝負事ってそういうところがあるかもしれないですね。相手のことを考える以前に。

青木 ホントにそうですよ。

——専門家目線で見た場合、メレンデスって日本では過小評価されてるところは感じませんか？

青木 強いですよ。だって川尻（達也）選手に勝ってるんですよ。石田（光洋）選手には負けたけど、SFでリベンジしました し。メキシカンボクサーみたいに打たれ強いし、ずっと動き回るし。ハードな試合になるでしょうね。

——紙一重の勝負になるというか。

青木 ただ極めるかKOされるかじゃなくて、ホント、ボロボロになって削り合う試合になると思います。KOされるのか、それとも判定になるのかわかんないけど、凄く厳しい試合になるんじゃないかな。

——青木さん、ウチの携帯サイトのコラムで書かれてましたよね。メレンデスは4年前からMMAの最先端を走っていたって。

青木 そうですね。あの当時、まだボク自身がわかってなかった部分もあるんだけど。闘うと決まったときに「あれ、メレンデスにはどうすれば勝つんだろ？」っていう戸惑いがあったんです。で、あのとき立てた作戦は、いま思うと結果的には間違ってなかったんだけど、あのときは勝てるという確信がなかったんですよ。

——今回も〝作戦〟があるんですよね。

青木 はい。まあでも真っ向から勝負するしかないですよね。ボク、これはいつも

言うんですけど、絶対に後悔したくないで

——努力しないヤツは絶対に勝たないと

った大物がDREAMに来るんだったら、

か。カルバンとやるときも「絶対に勝てな

言うんですけど、絶対に後悔したくないですよね。自分の格闘技人生に後悔したくないから今回も闘うんだし。絶対に後悔したくないんですよねぇ……（つぶやくように）。

――でも、普通に考えたらケージに慣れるためにも、タイトルマッチの前に一戦挟んでもいいわけじゃないですか。

青木　う〜ん、もう関係ないんですっ!!　そんなに世の中甘くないというか、そんな悠長なことを言ってる状況じゃないし。一刻も早くボクがやんなきゃいけないという気持ちがあるんです。あと単純に格闘技を真っすぐやりたいんです。ボク、格闘技大好きなんですけど、毎回辞めたいっていう気持ちも正直あるし。だからよけいなお茶を濁さないで闘いたい。一戦一戦を大切にしていきたい。

――「辞めたい」っていう気持ちがあるのはどうしてですか？

青木　死ぬ恐怖ですね。殺される恐怖、自分が全否定される恐怖がある。常に持ってます。

――負けたら自分が高めてきたものが無になるってことですか？

青木　そうですね。そういう恐怖はずっと持ちながら闘っています。

――でも、勝負事ってどう転ぶかわからないじゃないですか。たとえ負けたとしても、そこまで重ねた努力に納得というか満足してもいいと思うんですよね。

青木　努力はしなくて勝てるんだったら、しないほうがいいんですよ。

――まあね。

青木　うん。で、努力しない人は勝たなきゃダメなんですよ、絶対に。努力しなくても勝っていれば正しいんです。でも、負けたら正しくないんですよね。

――努力しないヤツは絶対に勝たないといけない。

青木　ただ、勝つためにはやっぱり練習って必要なんですよ。ボクが本当に強くて、本当にメンタル的に強い人間だったら、こんなに練習していない。怖くて怖くてしょうがなくて、不安があるから練習するんだろうし。だからまだまだ弱いんでしょうね。ちゃんと練習して、調整して、いますぐ試合をしたい衝動に駆られていますもん。いてもたってもいられない。

――要は試合をして自分の状態を確認することで、安心しておきたいんですね。

青木　はい。常に安心したい気持ちはありますね。

――だから「毎月試合をしたい」と。

青木　そうしないと怖い、怖いんですよ……。

――そうか、青木さんは怖さを克服するために試合に出てるところがあるんですね。

青木　怖いです。ホントに怖いです。なんでかわかんないけど。

――でも、怖くなりたくないからアメリカへ行ってケージに入るっていう心理も凄いですよね（笑）。

青木　あと繰り返しになっちゃいますけど、試合をどんどんやることで、なんとかDREAMに恩返ししたいです。これだけ世話になって食わしてもらってきて、やっとこれから返せると思うんですよ。

――青木真也というカードをSFに出すことで、KJヌーンとかニック・ディアスといった大物がDREAMに来るんだったら、それは大きな恩返しになりますよね。

試合後の中指ばかりがクローズアップされがちだが、『戦極』ライト級王者を何もさせずに完封した青木の実力こそ、ぜひアメリカ人に見せつけたい狂気でもある。

青木　ボクとしてはそういう部分で恩返しができるんなら、やりがいはありますよね。でも、それだけじゃ終わらせない。DREAMや日本の格闘技界のためにも負けらんないっすよ。

――で、今回のSF参戦でファンが一番心配してんのは、ヒジありやロングスパッツ禁止等のルールの違いなんですよね。青木さんには釈迦に説法かもしれないですけど。

青木　まあ、いつだって心配されてるから。ボクが修斗から踏みつけありのPRIDEに出るときだって「青木は通用しない」ってみんな不安がってたじゃないですか。カルバンとやるときも「絶対に勝てない」って言われていたし。でも、いつでもひっくり返してきたし、今回もその自信はありますよ。

――任せとけ！と。

青木　任せておけというか、やっぱり結果っていうのは必ず出ますからね。青木が勝つときもあれば、負けるときもあるだろうけど、最後に勝つのはボクだから。

――青木さんがJZカルバンと初めて闘ったとき「一回目に必ず勝ちを持ってくる自信がある」とか言ってませんでしたっけ？

青木　「100回やって一回しか勝つ可能性がなくても、その一回目を持ってくる自信ありますよ」

――っていう話をされてましたよね。

青木　うん。

――今回の試合、そこが求められますよね。

青木　うん。

――で、青木さんってよく「いまのMMAで無敗はありえない」って言いますよね。

青木　だけどポイントとして勝たなきゃいけない試合は確実にあるっすよ。

――今回って、そのポイントになる試合じゃないですか。

青木　ホントに勝たなきゃいけないですね。ってか、負けたくない。

――勝敗いかんで今年の物語どころか日本のMMAの行く末自体が変わっちゃいますよ。

青木　会見では「60億分の1を取り戻したい」って言い方をしましたけど、それって要はいま日本の格闘技からは、最強が見えてないんですよ。ファンが本気で「日本がトップなんだ!!」って言えるようにしたいし、そういうロマンがあるからこそクソ高

いチケットを買ってくれるわけじゃないですか。最強が見えないと正直、チケットを買う価値がないと思うんですよ。

――格闘技への興味って、やっぱり強さにつきるわけですからね。

青木 はい、強さだと思います。

――古くさい言い方になっちゃいますけど、「最強は誰なんだ?」っていう興味があるからチケットにお金を出すわけですからね。

青木 だからその"60億分の1"という誇りを取り戻す闘いでもあるんです、今回のメレンデス戦って。ってか、今回の『kamipro』ってツイッター特集じゃないんですか?

――ツイッター特集ですよ。なんで急にそんな話を。

青木 いや、ボクにはツイッターの話を聞かないから、どうなのかなって。

――いやいや、いまの青木さんにツイッターのこと聞いてる場合じゃないっていうのはありますけど(笑)。ところで今回も大晦日に続いて対抗戦というかたちになりますけど、「刺しにいく」っていう覚悟や姿勢はあるんですか?

青木 刺しに行くっていうか、極めに行くっていうか。とにかく勝つ、「勝ちにいく」!!

――「勝ちに行けと言われれば、勝ちにいきます」。

青木 それにいま絶好調なんですよ。自分の身体の細胞がきれいになってる感じがするんですね。

――それは今回の試合が決まってから?

青木 ちゃんと練習ができてるということもあるんだけど、肌のつやもいいし、細胞が凄くきれいになってるような感じがするんですよ。無駄な添加物が身体から出てるような感じ。そういう感覚があるんです。

――じゃあ精神も充実してるってことですね。

青木 ……かなあ? まあ、いろいろ悩ましいことはいっぱいあるんだけど。

――ファンも幸せだと思いますよ。

青木 なんでですか?

06年11月5日『PRIDE武士道-其の十三-』。この大会で青木真也vsメレンデスが予定されていたが、メレンデスの負傷により消滅。青木は「ギルバート、大晦日どうよ?」と呼びかけたがそのまま時は流れ、両者が世界を代表するファイターとなったいま、ついに実現する。

――ひさびさに胸躍るニュースですからね。楽しみだと思いますよ、この試合。

青木 まあそうですね。なんていうのかな、ヘンな茶番じゃなくてガチンコですからね。

――うん。乗れますよね。燃えますし、みんな有り金をはたいて青木さんに札を置きたくなるんですよ。遠巻きに見るんじゃなくて。

青木真也

青木 なんかうれしい。ホントにうれしい。

――そういうムードになってくれて?

青木 ですね。あと全米地上波っていうのもあるし。CBSで中継されるって凄いことなんでしょ?

――凄いこと。

青木 「日本人のプロスポーツ選手が全米地上波に出るってことは凄いことだぞ」って言われて。いやあ、ヤバイなと思って。

――今回は絶対に中指は立てないでくださいね。今回だけはヤバイと思う。やめてください、お願いしますから(笑)。

青木 ニック・ディアスがやってるじゃないですか。

――アメリカ人だからまだアレですけど、日本人がアメリカ人を極めて中指を立てたら全米中からバッシングされますよ! トヨタか青木かぐらいの感じになるかもしんない(笑)。でもあれですよ、このタイミングで五味さんと青木さんがアメリカに行くのはおもしろいなと思いますよ。マット界にとっていい話だなと思いますよ。

青木 そうっすね。でも、「日本最弱」ってコピーをつけられる可能性もあるから。

――相乗効果で盛り上がるもんですからね、こういうのって。

青木 ボクは絶対、負けない。気楽なチャレンジじゃないし。メレンデス、絶対に負けない。

――セコンドは誰がつくんですか?

青木 北岡(悟)さんと中井先生で行こうかな。コーナーマンは二人って言われた。

――ルールや契約書は見ました?

青木 見ました。フードマネーがね、一人一日50ドル出る。

――ツイッターで喜んでましたね。また小さい幸せで喜んでるなと思ったんですけど。

青木 なんで?

――これから日本を背負うとか言ってる人が「フードマネーがうれしい」とか書いてるからおもしろいなって(笑)。

青木 だって、ホントにうれしいっす。一人50ドルくれるんですよ?

――6000円くらいでしょ。何日分もらえるんですか?

青木 4日間分。これで食事が浮いたと思って。

――フードマネーですから(笑)。なんかDREAMがケチってるみたいじゃないですか。

青木 あと、帰りは機内食が出るでしょ。

――それは飛行機に乗れば誰にでも出ますよ。

青木 でも、行きの飛行機では食えないから～。減量があるから。でも帰りはスゲエ食えるだろうし。

――何日前から現地に入るんですか?

青木 火曜日か水曜日に入ろうかなと思ってます。土曜日試合だから、ちょっと早めに。

――そんなもんで大丈夫なんですか?

青木 先乗りしなくて。逆に長くいたくない。パッと行ってパッと帰ってくるっていう感じがいいですね。

――ボクも現地観戦しますよ。

青木 え、なんで⁉ 斉藤さんが珍しい。でも、『kamipro』は瀕死なのにそんなお金はあるんですか?(ニヤニヤ)

――大丈夫ですよ。青木さんが勝ちまくって日本格闘技界に活気を取り戻してくれますから!

【10年3月5日/世田谷区・ロータスパラエストラ世田谷にて収録】

し、細胞が凄くきれいになってるような

ゃなくて。

小さい幸せで喜んでるなと思ったんです

ロータスパラエストラ世田谷にて収録

刺しにいく？ 極めにいくというか、とにかく勝ちにいく!!

あおき・しんや■1984年5月9日、静岡県出身。柔術、柔道をバックボーンとする軽・中量級を代表するグラップラー。JZカルバン、ヨアキム、シャオリン、アルバレスら並みいる強豪を倒している。DREAMライト級チャンピオン。180cm、70kg。

バカサバイバー絶対絶命!?

“暴力柔術”シーザー・グレイシー軍団 青木対策を完全バックアップ!!

Gilbert Melendez

「アオキの寝技は恐れない。5ラウンドフルにプレッシャーをかけてKOしてやるさ」

**4.17ストライクフォースで青木真也を迎え撃つ、メレンデスの特訓に独占潜入！
現在メレンデスは、サンフランシスコのシーザー・グレイシー柔術アカデミーを中心に練習しているが、
そこにはニック&ネイトのディアス兄弟、ジェイク・シールズなど寝技の達人がズラリ！ 完璧なまでの青木対策が行なわれていた。
その練習後、メレンデスを直撃。決戦に向けての意気込みを聞いてみた。**

取材／石井史彦　構成／堀江ガンツ　スタジオ&試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）

——青木真也選手とのタイトルマッチが正式決定したいまの心境は？

メレンデス　ワオ！　いろんな感情が入り乱れているよ。「正式に決まった」って聞いたとき、まず深呼吸をしたんだ。アオキとの試合が実現するように祈ってたのに、いざ本当に決まるとナーバスになったのも事実なんだよ。とても光栄なことだし、誇りに思うし、興奮もしているんだ。あとは試合に向けて準備するだけさ。とにかくアオキを尊敬している。

——青木戦はかねてから噂されていましたが、もうすでに青木戦用の練習は始めていたんですか？

メレンデス　ストライクフォースから「アオキと対戦させる」って、過去に2～3回は言われてたんだ。最初はホドリゴ・ダムと試合をしたとき、そのあとイシダ戦のときも、ジョシュ・トムソン戦のときも、アオキの名前は挙がっていたんだ。それが今回、ようやく正式に決まった。ストライクフォースのスコット（・コーカー）はこの試合をずいぶん前から実現させたかったようだし、常に噂はあった。そういうこともあって、アオキを意識した練習は、もう06年からスタートしていたんだ。

——4年も前からですか！

メレンデス　もちろんアオキのことばかりを考えていたわけじゃないけど、いつも頭の片隅にはアオキと闘うということがあったよ。

——その青木選手のことは、どう評価していますか？

メレンデス　誰もが認めるライト級世界第2位で、俺はもしかしたら1位なんじゃないか、とも思っている。そんなアオキとケージの中でバトルができるなんてクレイジーなことだよ。彼はライト級のトッ

プというだけでなく、パウンド・フォー・パウンドのベストファイターの一人。素晴らしいサブミッション、レスリング、そしてインテリジェントを持ち合わせている。また相手がミスを犯したら、すぐに試合を終わらせられるベストの中のベストだと思っているよ。

――もの凄く高い評価ですね。

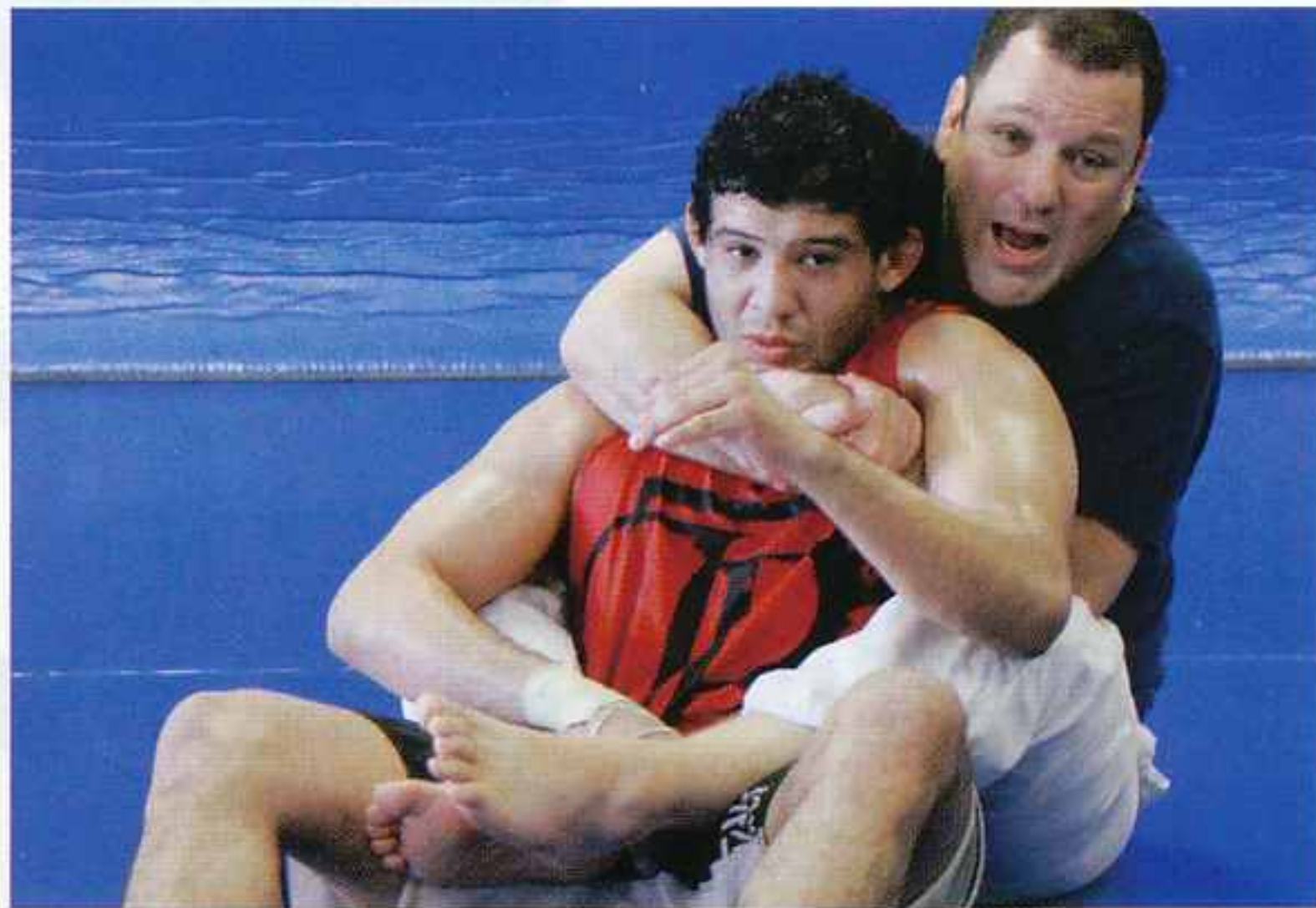
メレンデス　俺は正当な評価を正直に言ってるだけだよ。

――シャードッグやMMA WEEKLYのランキングでは、青木選手はあなたより上にランクされていますが、そういった評価についてはどう思いますか？

メレンデス　俺が思うに、ライト級のトップファイターは実力が拮抗していて、トップから15人くらいは、ほとんど同じレベルにあると思うんだ。ただ、その中でも一番上にBJ（ペン）がいて、その次にアオキがいることは間違いない。カワジリ（川尻達也）は4位にランクされていたりするけど、俺やJZとの差って、ほとんどないと思うんだ。だから俺は今度の試合に勝って、ライト級はBJペン、メレンデス、アオキが3強であることを証明したいんだ。

――日本のファンは、昨年12月に行なわれたジョシュ・トムソンとの素晴らしい試合を観ている人が少ないので、あなたの実力を過小評価している部分が少なからずある気がします。日本で闘っていた頃といまの自分はまったく違うという自負はありますか？

メレンデス　日本で試合をしていた頃から、俺はインテリジェントなファイターだと思っていたけど、当時は知らないことがたくさんあったことも事実。あれから数年、経験を積んだことで、いまでは当時とまったく違ったファイターになったと確信しているよ。日本でカワジリに勝ったあと、ジョシュ・トムソンに負けたことは、自分にとって大きな転機になった。そこから這い上がり、昨年12月にジョシュからタイトルを奪取したことで、自分の成長を証明できたと思っているんだ。

Gilbert Melendez

ディアス兄弟を"仮想・青木"に見立てたスパーリングや、シーザー・グレイシーの直接指導によって完璧な青木対策を立てるメレンデス。はたして青木はこの男を極めることができるか！

――すでに最近の青木選手の試合はビデオで観ていますか？

メレンデス　もちろん、すべての試合を観ているよ。素晴らしい試合がたくさんあるからね。その中で好きな試合は？と聞かれたら、キクチ（菊地昭）戦だね。

――へえ、意外ですね。

メレンデス　とてもアメージングな試合内容でシンヤのテクニックに感激したんだ。あとは俺がルミナ・サトーと試合をした同じ日のマッハ・サクライ戦。ほかにはJZ（カルバン）に勝った試合や、ヨアキム・ハンセンとの3度目の試合は、観ていてとても興奮するものだったよ。

――CBSの全米生中継でタイトルマッチを闘えるということは、あなたにとってどんな意味がありますか？

メレンデス　ますますナーバスになるよね（苦笑）。アオキとタイトルマッチをするとわかったとき、ナーバスになったって言ったろう？　CBSで全米中継されるって聞いたときは、もっとナーバスになったよ（笑）。自分のキャリアの中で迎えた最大のチャンス。とにかく凄いプレッシャーがあるのは事実なんだけど、そのプレッシャーの中でも自分の力を最大限に発揮できると信じているよ。

――やはり今回は、あなたにとってもキャリア最大の一戦になるという意識があるんですね。

メレンデス　"ビッゲスト・ファイト"になることは間違いないよ。すべての面で最

Cesar Gracie

「ギルバートとの闘いでアオキの本当の力がわかるだろう」

現在、ストライクフォース3階級のチャンピオンを独占するなど、名伯楽としても知られるシーザー・グレイシー。"暴力柔術軍団"の総帥は、青木をどう評価しているか。

ギルバートとアオキの試合は、ギルバートにとっても過去最大の強敵であることは間違いない。アオキはサブミッションのスペシャリストで、試合に対する感情のコントロールは超一流だからね。リングの中に入っても落ち着いて、試合だけにフォーカスできる。だからアオキは危険なんだよ。

それに彼のインストラクターはナカイ（中井祐樹）だろう？　ナカイのことは昔から知ってるし、そういう素晴らしいコーチがいるというのは、じつに厄介なことだよ。もちろん、ギルバートにも最高のチームが揃っているから、素晴らしい試合になることは間違いないね。

ゲームプランとしては、"アオキの試合"をやらせないことだろう。アオキのテイクダウン能力や、ガードポジションへの移行は素晴らしいものがあるけど、ギルバートもトップレベルのレスラーやグラップラーと毎日練習している。

仮想アオキとしてはニックとネイトのディアス兄弟、さらにエディ・ブラボー柔術の黒帯、デニーク・ロコボスもギルバートのトレーニングを助けているよ。彼らは柔軟な身体をしていて、アオキの動きを模倣できる。いま、とくにオモプラッタ、ゴモプラッタ、ヒールフックなどの対応を身体に染み込ませているんだ。

とにかく試合に期待してほしい。そして、"勝者インタビュー"でも聞きに来てくれよ（笑）。

CBS全米中継でのタイトル戦は人生最大のチャンスだと思うよ

高の舞台が揃っているんだ。ストライクフォースの世界タイトルマッチ、MMAがスポーツとして認知されてきていること、CBSを通してSHOWTIMEの約10倍にあたる4～5ミリオンの人々がライブで観てくれること、そして現役のレジェンドで最強の戦士であるアオキと対戦できるんだからね。

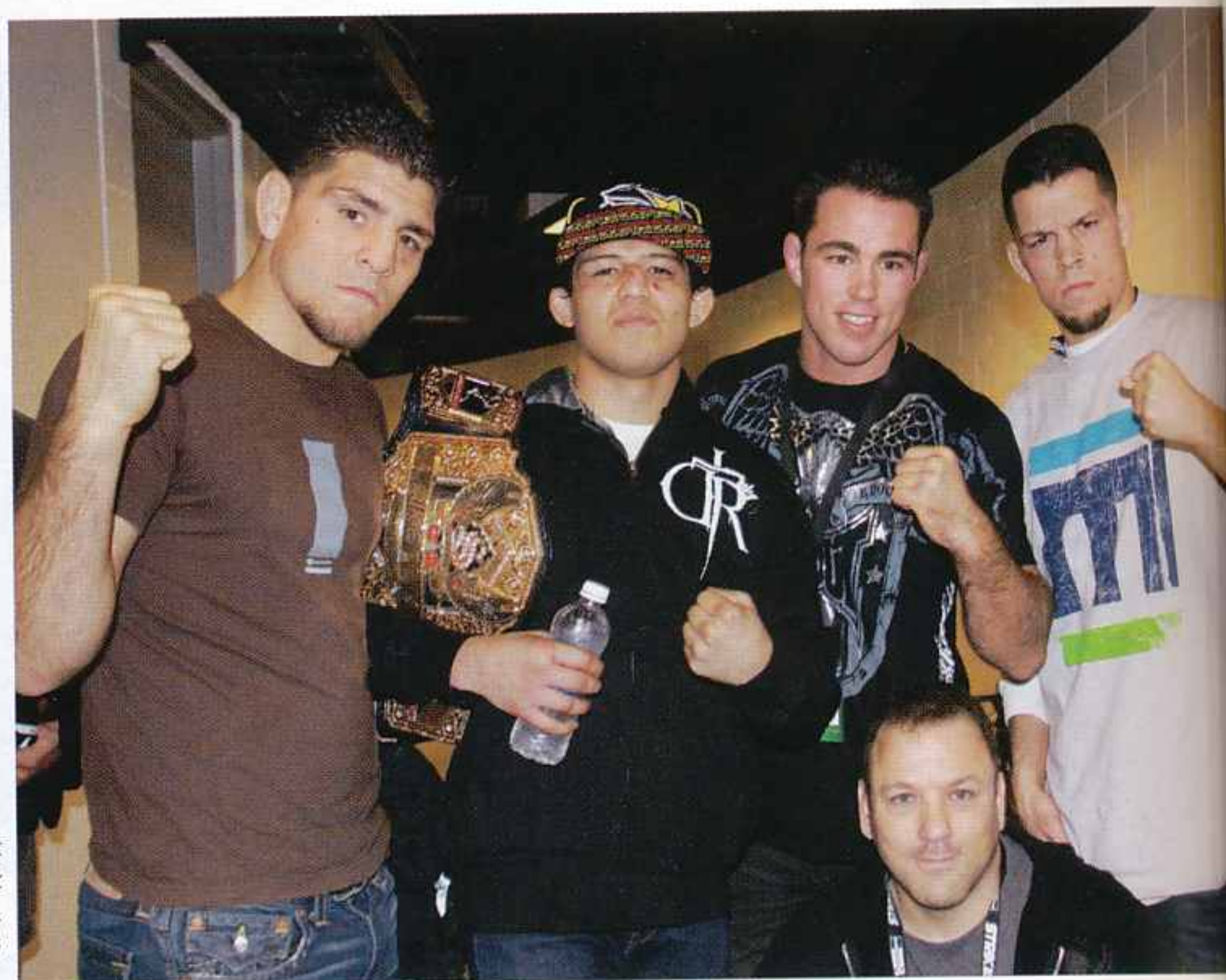
――今回のタイトルマッチは、UFCの同級タイトルマッチに勝るとも劣らないハイレベルなものになると思いますか？

メレンデス　ハハハハ。まず「UFCが最高レベルの試合をしている」って言われていること自体がおかしいし、意図的に言われているとしか思えないんだ。自分はアメリカ本土を離れ、日本でも、またハワイでも世界の強豪たちと試合をしている。UFCのトップと言われている連中は、BJはともかく、ケニー・フロリアンもグレイ・メイナードも、フランキー・エドガーも、みんなここ“アメリカ”というホームでしか試合をしてないだろう？　常にホームで闘ってばかりでアウェーで世界の強豪との試合を経験してないじゃないか。

――確かにそうですね。

メレンデス　それでも、さっき言ったランキングでは、世界の強豪たちと闘っている選手を押さえてトップ10にいること自体、戸惑いを覚えるんだ。もちろんケニー・フロリアン、メイナード、フランキー・エドガーたち自身が「ナンバー5だ」とか言ってるわけじゃないのも事実で、そのランキングを作ってるヤツが意図的に操作してるように感じるんだよ。言うまでもなく、そんなランキングは関係なく、アオキと俺の試合はMMA史上に残るベストバウトになるだろうし、最高にハイレベルな闘いになると確信しているよ。

――ホーム&アウェーという話で言えば、今回ストライクフォースのケージで闘うことは、あなたにとって大きなアドバンテージになると思いますか？

メレンデス　確信はないけど、そうなることを祈ってるよ。だからといって、アドバンテージがあるってことを前提にしているわけじゃないけどね。ケージはアオキの動きを制限させたり、また精神的な面での影響が出る可能性はあるよね。

昨年12月、メレンデスがジョシュ・トムソンを破り、ストライクフォース世界ライト級王座を奪ったときも、やはりディアス兄弟、シールズ、シーザーがサポート。ストライクフォースで3階級の王座を独占する、まさに最強軍団だ。

――DREAMは青木vsメレンデス戦を、結果にかかわらずホーム&アウェー、ストライクフォースのケージとDREAMのリングで2試合組みたい意向があるようですが、それについてはどう思いますか？

メレンデス　オンラインでそう書かれてるのを見たよ（笑）。でもスコットからは何も言われてないんだ。今回の試合をアオキが受けてくれたことを本当に感謝しているし、また尊敬もしている。わざわざ日本を離れアウェーで、それもケージで試合をしてくれる理由なんて何も見つからないし、また信じられないことなんだ。だからこそ、今回アオキが試合をするチャンスを与えてくれたんで、もし勝つことができたら、今回の敬意を表わし、喜んで日本に行って、アオキのホームである日本のリングで試合をしたいと思っているよ。

――青木vsメレンデスというカードは、日本のファンもみんな観たいカードですよ。

メレンデス　それにしても、アオキがアメリカに来てくれるなんて、本当に信じられないよ。まさか大晦日の“中指”事件の影響で、日本で試合をできなくなったわけじゃないだろう？　何かあったのかい？

――大晦日の一件が影響していたかどうかはわかりませんが、青木選手自身も望んでいた試合であることは確かですね。

メレンデス　とにかく、彼と試合ができることは光栄だよ。

――今回の試合はどんなゲームプランで挑むつもりですか？

メレンデス　とにかく、すべてのシナリオを想定して準備をしなくてはいけないけど、スタンドでの勝負ができればと思っている。だからといって、テイクダウンを狙うことを恐れているわけじゃないし、グラウンドでも上のポジションにいるかぎりは自信があるんだ。

――逆に言えば、下には絶対になりたくない？

メレンデス　もちろん、絶対に下にはなりたくないよ。ただ、“下になりたいか？”と聞かれたら“ノー”だけど、“下になることを想定しているか？”と聞かれたら、それは“イエス”だ。どんな流れになろうともそのポジションでコントロールするようにベストをつくすけど、やっぱりスタンドでKOを狙いたい。とにかく、パーフェクトでミスを犯さないファイトをしたいんだ。どんなに小さなミス一つでもアオキを勝たせることにつながるからね。

――あなたは素晴らしいストライカーではあるけれど、フィニッシャーではないという意見もあります。そういった評価についてどう思いますか？

メレンデス　そして「アオキはベストフィニッシャーだ」って言いたいんだろう？（笑）。

――はい、そのとおりでして……（汗）。

メレンデス　おそらく、キミの意見は正しいね（苦笑）。でも、自分もアオキのようになれると思っているし、それを証明したいんだ。かつてアオキに敗れたハンセンやアルバレスが持っていないもの、たとえば柔術ゲーム、レスリングゲーム、スタンドアップゲームというツールを使ってアオキを倒したいんだ。

――青木選手の練習相手にあなたほどのハードストライカー&レスラーはいません。逆にあなたの練習相手にはトップのグラップラーである、ディアス兄弟やジェイク・シールズがいます。このことは、あなたにとって大きなアドバンテージになりますか？

メレンデス　そうなると願っているよ。ただ、アオキだって俺を模倣できる練習仲間を探せるんじゃないかな。それでも自分には、ずっと練習をともにしているジェイクがいることは強みになると思う。たとえばアオキがテイクダウンを狙いにきても、ジェイクのボディロックからのテイクダウンテクニックは最高のものだからね。そのジェイクと10年も一緒に練習してきているんで、テイクダウンディフェンスには自信があるんだ。

――そういう意味でも最高のパートナーですね。

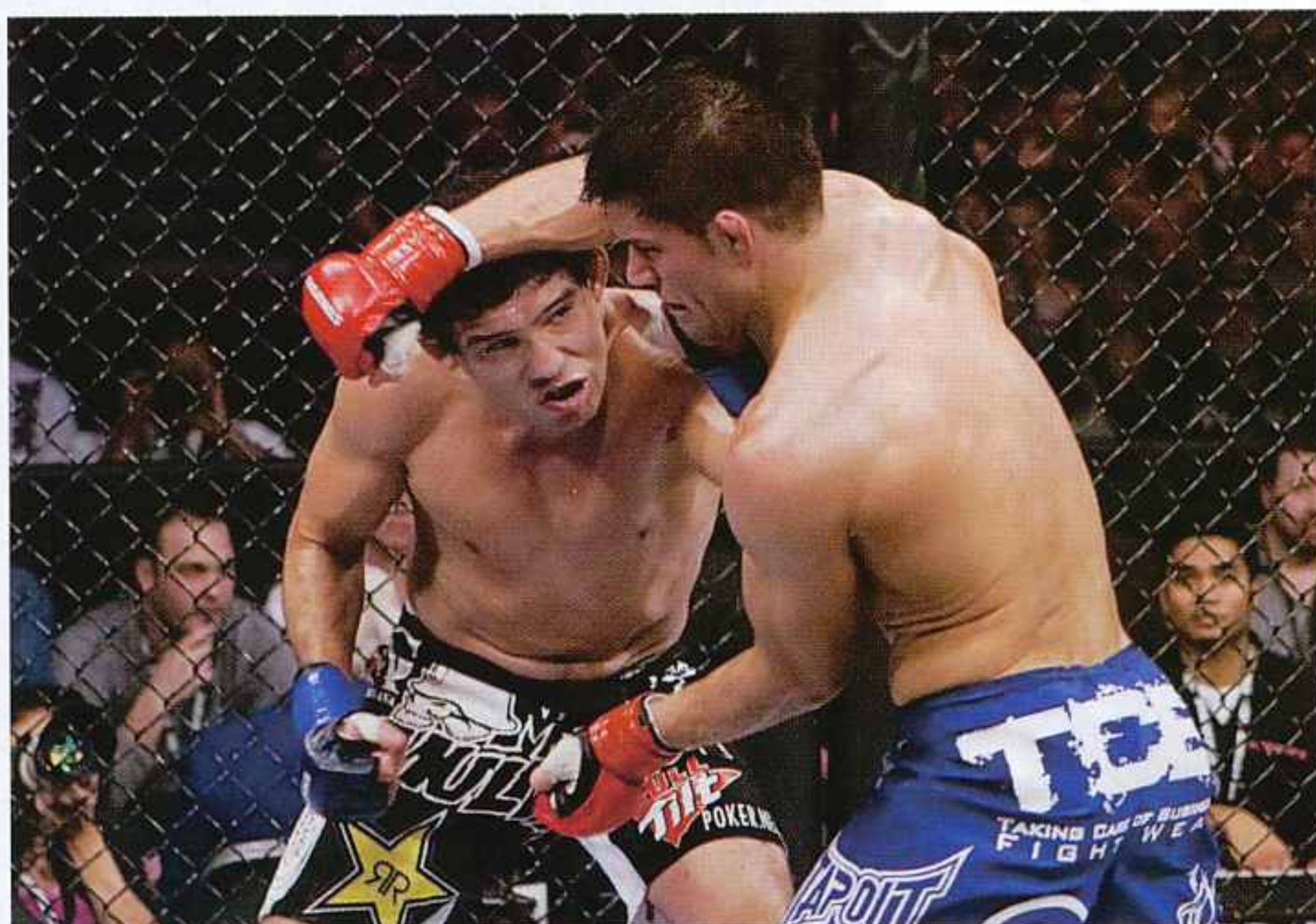
メレンデス　あとニック（・ディアス）とはここ5年、グラウンドゲーム、とくにラバーガードの練習をしてるからアドバンテージになるだろうね。

――青木選手はこれまで、ヨアキム・ハンセンやエディ・アルバレスといったハイレベルなファイターからも一本勝ちを奪っています。また、JZカルバンのようなトップグラップラーも寝技でアドバンテージを奪われましたが、その青木の寝技にあなたはどう対応するつもりでしょうか？

メレンデス　ただのブラップリングというより、とくにMMAのグラウンドゲームではハンセン、アルバレス、JZより優れている自信があるんだ。アオキとだってグラウンドゲームになることを恐れていないし、どんな体勢になっても対応できると確信してるよ。

――今回、青木選手がロングスパッツを着用できないことは、試合に影響すると思いますか？

メレンデス　確かにストライクフォースのルールというわけではなく、アメリカ国内のルールではロングスパッツを着用できないんだ。自分としてはどっちでもいいんだけど、こればかりはルールの問題だからね。もし日本で試合をするんだったら逆にロングスパッツを認めることが必要になるだろうね。確かにロングスパッツを穿くと汗で滑ったりすることがなくなり、サブミッションがタイトになるのは事実なんで、ロングスパッツを穿けないこで、アオキのアドバンテージにはならないということになるだろうね。

ジェイクと10年も練習しているから青木の寝技にも対応する自信がある

GILBERT MELENDEZ■1982年4月12日、米国カリフォルニア州出身。ライト級屈指のハードパンチャー。修斗、PRIDEのリングで佐藤ルミナ、川尻達也らを撃破。昨年12月にはジョシュ・トムソンを下し、ストライクフォース世界ライト級王座を奪取した。175cm、70kg。

Gilbert Melendez

――今回はタイトルマッチということで、5分5ラウンドで行なわれます。あなたとしては、早く仕留めたいですか、それとも長引かせて、青木にとって未知のラウンドである4～5ラウンドで勝負をかけたいですか？

メレンデス　試合時間はともかく、とにかくミスを犯さないことだけに集中したい。5ラウンドフルに自分のペースでプレッシャーかけ続け、チャンスがあればどこでもKOを狙っていくさ。アオキは本当にスマートなファイターなんで、ミスを犯したときがそのチャンスになると考えてるんだ。

――青木はストライカーではありませんが、ミドルキックなどを使い、自分の距離を作るのがうまい選手です。彼のスタンドアップについては、どう評価していますか？

メレンデス　彼はスタンドを含むすべての面においてテクニカルだから、そう簡単にはパンチを打ち込めないだろうね。確かにアオキにとってスタンドアップは弱点だとは言えるけど、それはグランドゲームが飛び抜けてるからそう映るだけであって、MMAのスタンドアップだけを評価したらテクニカルで充分なレベルにあると思うよ。たとえるならばグラップリングは博士号で、スタンドは学士というカレッジを卒業しているレベルにあるオールラウンドのファイターだってことだよ。

――今回、青木選手と五味隆典選手が同時期に全米デビューするということで、比較されています。あなたは現在の二人を比較して、どのように評価していますか？

メレンデス　確かに偶然といえどもおもしろいタイミングになったね。それに俺はゴミのスタイルに近くて、ケニーはアオキのスタイルに近いというのも笑えるよね（笑）。

――立場が逆の同じようなマッチアップなんですよね。

メレンデス　だからゴミは、俺と同じようなバックグラウンドで、ファイトスタイルも似ていることもあって、ファイターとして凄く影響を受けているんだ。俺は彼のファンであり、またファイトスタイルを真似させてももらったし、ヒーローの一人でもあるんだよ。アオキはテクニカルで素晴らしいファイターだけど、ゴミは本当の意味での戦士、ファイターして大好きだし尊敬している。二人はまったく別のタイプの素晴らしいファイターだよね。

――では、青木戦まであと5週間、どのような練習をする予定ですか？

メレンデス　ハードなトレーニングメニューになるだろうね。グラップリング、レスリング、スタンドアップ、リフティング、ランニングといった、すべてのメニューをこなしながらベストのコンディションを作り上げる予定だよ。

――最後に対戦相手である青木選手にメッセージをお願いします。

メレンデス　ヘイ、エイオキ。ストライクフォースのケージで、しかもアメリカでの試合を受けてくれたことを光栄に思ってるし、その決断を尊敬している。本当にありがとう。自分が持っているツールがどこまで通用するか試せることを楽しみにしているし、同時に自分がライト級の世界トップであることを証明できると信じているよ。4月17日、お互い最高の状態でヘキサゴンで会おう！

【10年3月10日／米国カリフォルニア州サンフランシスコ、シーザー・グレイシー柔術アカデミーにて収録】

路地裏の暴力柔術王

Nick Diaz

悪魔の予言

「アオキがギルバートに勝つのは不可能。テイクダウンすら奪えないだろう」

1.31ストライクフォースで、DREAMウェルター級王者マイウス・ザロムスキーをKOしたニック・ディアス。この男こそ、メレンデスの兄貴分にして“仮想・青木”のスパーリングパートナーの一人でもある。そんなディアスに青木vsメレンデスの話を聞くと、恐るべき予言が続出！　青木真也、危うし！

取材／石井史彦　構成／堀江ガンツ　スタジオ&試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）

――まずは1月のマリウス・ザロムスキー戦の感想を聞かせてください。トップストライカー相手にKO勝ちするとは驚きましたよ！

ニック 試合に備えてトップのプロボクサーたちと、ラウンドを重ねてスタンドのトレーニングを行なってきたんだ。だからザロムスキーのような、優れたストライカーに対してもスタンドで試合をコントロールする自信があったよ。俺のスタンドでの実力を証明するいい機会になったと思う。

――DREAMのチャンピオンを倒したということについて、どう思いますか？

ニック 今回はベルトこそ懸かっていなかったけど、DREAMのチャンピオンシップのつもりで闘ったつもりだよ。ザロムスキーをKOしたことで、ベルトがあろうがなかろうが、俺はDREAMのタイトルを獲得したって考えている。

――あらためてDREAMのタイトルマッチを闘いたい気持ちはありますか？

ニック もちろんタイトルマッチは行ないたい。いいファイトマネーだったら最高だね。俺はプロフェッショナルのファイターとして、試合をすることで生計を立ててるんだ。ビッグファイトを闘って、もっと稼ぎたいと思っている。俺はみんなが思ってるほど、収入が多いわけじゃないからね。

――そうなんですか⁉

ニック 少なくはないけど、そのわりには多額の所得税は取られるし、奨学金のローンも返さなきゃいけない。ファイターとしての投資だって馬鹿にできないんだよ。身体にいいものを選んで食べるから、毎日少なくとも100ドルは食費に充てているし、トレーニングのためにいろんなアカデミーへ移動するガソリン代だって、毎日満タンにする必要があるから軽く80ドルは必要なんだ。それにトレーニングに明け暮れて、ガールフレンドと一緒にすごせる時間が少ないから、ちょっと気合いの入ったプレゼントでご機嫌をとらないといけないしね、男だったらわかるだろう？

――男は大変ですよね（笑）。

ニック そうやって〝必要経費〟を引いたら、いくら手元に残るか容易に想像できるだろう。俺はプロのファイターで、世界チャンピオンなんだから、いい家にも住みたいし、いい車もほしいからね。だからこそ、試合のオファーが来るのはうれしいことだし、ベルトが懸かっていたりしたら〝グレート〟の一言だよ。もちろん、そのために誰よりも厳しいとレーニングをしている自負もあるしね。

Nick Diaz

07年2月24日のPRIDEラスベガス大会で、五味隆典と激闘を展開しているニック（一本勝ちしたが、のちに禁止薬物陽性反応でノーコンテスト）。五味vsケンフロは、五味の勝利を予想！　五味はこの声に応えられるか。

――5月に日本で闘うという噂がありますが、それは本当ですか？

ニック 俺も噂では聞いているけど、それが本当かどうかは知らないんだ。でも、日本で試合をすることは、いまでも憧れだし、誰とでも闘うから早く決まることを祈っているよ。

――かつてあなたと対戦した五味隆典選手が、3・31『UFN』でケニー・フロリアンと対戦します。この試合はどんな展開を予想しますか？

ニック 俺はゴミが勝つと信じているし、勝たなきゃダメな試合だよ。

――ケンフロは五味選手が勝たなきゃいけない相手ですか？

ニック ああ、五味はハードで重いパンチを持っているし、しっかりとしたレスリングベースもある。ケニーの柔術ゲームはゴミが恐れるほど高いレベルではないし、タップさせるのは難しいだろう。レスラーであるゴミからテイクダウンを奪うのも簡単なことじゃないしね。このマッチアップは、ゴミにとってアメリカで名前を売るいいチャンスさ。

――では、4・17ストライクフォースで実現する、メレンデスvs青木真也についてはどう思いますか？

ニック みんなが楽しみにしているカードだね。ただ、アオキにとっては苦しい試合になるだろうな。確かにアオキのグラップリングは素晴らしいよ。でも、彼はギルバートにダメージを与えるような打撃を持っていないし、テイクダウンを奪うのも困難だろう。逆にメレンデスのスタンドは嵐のような激しさで、レスラーでもあるから、テイクダウンを奪ってケージに押し込むこともできるからね。アオキにとってケージで試合することは不利になる要因の一つだと思うよ。

――あなたと青木選手は同タイプのファイターとよく言われますが、青木のことをどう評価していますか？

ニック アオキは間違いなく素晴らしいMMAファイターなんだけど、俺はここ数年で、もう少しスタンドアップの技術を身につけるべきだと思ってたんだ。でも、ダメージを与えられるような打撃は、いまだに持っていない。おそらくアオキに対して、スタンドアップを磨くようにアドバイスする人間が周りにいないんだろうな。だから、いつも自分自身で判断してトレーニングをしているように感じるんだ。ハッキリ言って、それじゃあ成長に限界がある。

――あなたから見ると、いまのままじゃダメですか。

ニック たとえば俺はスタンドアップも柔術と同じようなハイレベルなトレーニングを行なっているけど、アオキの場合はまだグラウンドゲームに特化したトレーニングになってるんじゃないか？　それはMMAファイターとして成長するためには、よくないことだ。なぜよくないかは、ここ数試合を見てもわかるはずさ。あまりにもグラウンドゲームにこだわって、簡単にKOされてしまう試合があっただろう。あの敗戦は、間違いなくスタンドの練習不足が影響しているんだと思うよ。

――でも、青木選手はそれをハンデとしないほどのグラウンド技術があります。青木こそナンバーワン・グラップラーと評価する向きについては、どう思いますか？

ニック う〜ん、なんて答えていいのかわからないな……。以前、マルセロ・ガルシアがMMAに挑戦したけど、思ったような結果が残せなかったよな。でも、そのマル

セロはアブダビ・コンバットでアオキから

かないからね。

ーとの練習もしている。ハッキリ言って、

ニック アオキはここ数年、MMAファイ

練習仲間のレベルと内容を考えると
ギルバートに負ける要素はないよ

セロはアブダビ・コンバットでアオキからタップを奪っているんだよ。アオキのテクニックは、まさに世界のトップではあると思うけど、それがあるだけでオールマイティとは違うんだ。

——では、ギルバートと青木選手の試合はどんな展開になると思いますか？

ニック　おそらくアオキは座り込んで、バタフライガードで攻めてくるんじゃないかな？　でも、仮にシングルレッグを取れてフェンスに押し込めたとしても、ギルバートを押さえ込むことなんて絶対にできないと思うんだ。ギルバートをコントロールするにはパンチを当ててダメージを与えないと無理なんだよ。

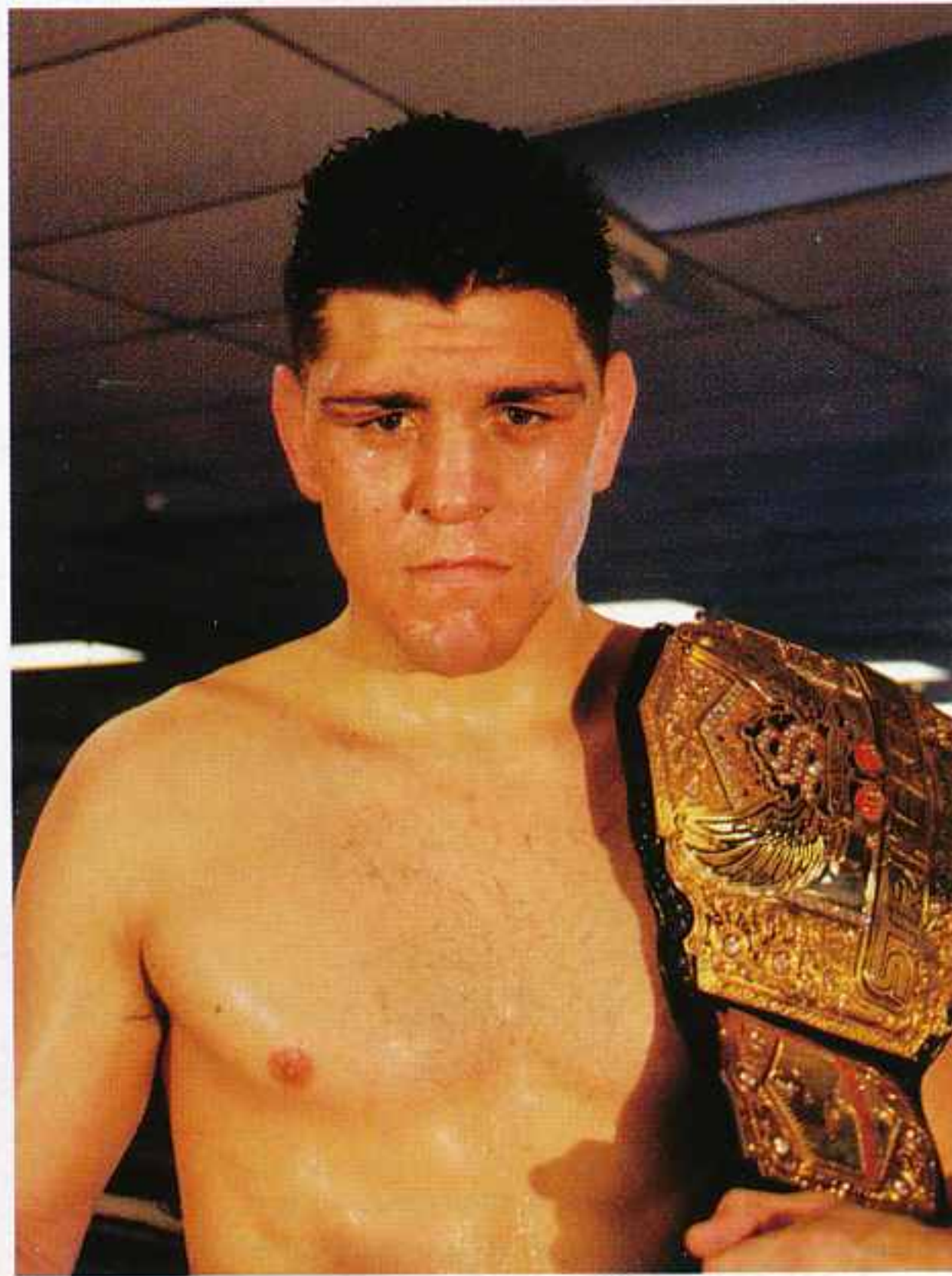
——ノーダメージのギルバートは、テクニックではコントロールできませんか。

ニック　だから俺がギルバートと対戦するとしたら、とにかくパンチを当ててダメージを与えてから攻めるようにするけど、それだって俺がギルバートより有効なパンチを当てられることを前提で話しているのであって、その自信だって怪しいものなんだよ。ましてや、アオキがギルバートにダメージを与えられるなんて、俺はまったく思わない。

——う～ん。

ニック　ギルバートの打撃はさらに向上してるし、アオキはパンチでは対抗できないから、結局はギルバートにテイクダウンを取らせてグランドでの勝負に持ち込むしかないと思う。俺はアオキがギルバートからテイクダウンを奪う姿も想像がつかないからね。

——テイクダウン能力には定評がある青木選手でも、ですか？

ニック　確かにアオキは柔道をベースにした、素晴らしいテイクダウンテクニックを持っているけど、ギルバートは毎日トップレスラーとテイクダウンディフェンスの練習をしてるんだよ。逆にアオキは自分以上のテイクダウン技術を持つレスラーは、パートナーにいないだろうし、仮にそういう練習ができたとしても、毎日繰り返さないと身につかないからね。

NICK DIAZ■1983年8月2日、米国カリフォルニア州出身。WEC、IFCウェルター級を奪取し、07年2月のPRIDEラスベガス大会では五味隆典と激闘を展開。今年1月にはマリウス・ザロムスキーを破り、ストライクフォース世界ウェルター級王者となった。

——その点、ギルバートの練習は万全ということですか？

ニック　ああ。ギルバートは毎日柔術の練習をしているし、5ラウンドのMMAスパーもやっているし、パーソナルトレーナーとの練習もしている。ハッキリ言って、練習仲間のレベルの高さや、練習内容の濃さを考えると、ギルバートが負ける要素はまったく思いつかないんだよ。

——では、ギルバートはズバリ、青木に勝てると思いますか？

ニック　もちろんギルバートが勝つさ。いつでもKOが奪えるほどのハードパンチャーであり、テイクダウンを奪われることもないだろう。また、グラウンドで上になってからのコントロールは素晴らしいものがあるんだ。もし下になっても、アオキの動きは俺たち兄弟がすべて模倣できるから、極めることは不可能だしね。

——青木選手の弱点というのは、どこだと思いますか？

ニック　多くの人がわかっていると思うけど、スタンドでもグラウンドでも打たれ弱く、KOされてしまう点だね。KOされなくても、打撃を打たれるのを嫌っているのは間違いないからね。ギルバートにとってはアオキが組んできたとき、足、腕、ボディと身体中にパンチを落とすのは有効な攻めになると思う。

——あなたがもし、青木戦がオファーされたら受けますか？

ニック　アオキは昔から闘いたかった相手だし、もちろん勝つ自信もある。ただ、3～4年前までは自分に近いスタイルで、アオキとの対戦に興味があったんだけど、正直に言うと、いまではその気持ちが薄れてきてるんだ。

——興味が薄れているんですか？

ニック　アオキはここ数年、MMAファイターとしての向上を見せていないし、取りこぼしもあるから、俺にとってそんなに重要な試合ではなくなってしまったんだ。ただ、もしギルバートが負けるようなことがあったら、必ず挑戦者として名乗りを挙げるよ！　アオキにかかわらず、自分のチームのファイターに勝ったヤツがいたらリベンジするさ。そうやって最強のチームである事を証明したんだ。

——では、あなたが考えるライト級のトップ3は誰ですか？

ニック　BJペン、ギルバート・メレンデス、ネイト・ディアスがトップ3さ。ネイトはこのあいだグレイ・メイナードにスプリットの判定負けをしたけど、あの試合だって勝ってる試合だよ。どんなにコントロールしていようとテイクダウンでポイントを取られてしまったというルールが不利に動いてしまったんだ。

——ネイトは『UFC111』でウェルター級の試合をするようですね？

ニック　そうらしいけど、いいアイデアだとは思わないんだ。ネイトにはライト級が合ってるのに、おそらくUFCがオファーしたんだろうけどね。

——では、あなたが考えるウェルター級トップ3は誰ですか？

ニック　GSP、ジェーク・シールズ、そしてもちろん、このニック・ディアズさ。

——では、日本で試合が観られることを楽しみにしています。

ニック　日本で試合をすることが待ち遠しいよ。対戦相手は誰でもいいけど、サクライ（桜井"マッハ"速人）と対戦できたら最高だね。

【10年3月10日／米国カリフォルニア州サンフランシスコ、シーザー・グレイシー柔術アカデミーにて収録】

WEC

[07.05.12 WEC27 Marshall vs. McElfrish]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロックホテル&カジノ
×三浦広光 vs ジェイソン・“メイヘム”・ミラー○
(3R終了 判定0-3)

[07.08.05 WEC29 Condit vs. Larson]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロックホテル&カジノ
○三浦広光 vs フェルナンド・ゴンザレス×
(2R 3分35秒 TKO)

[08.02.13 WEC32 Condit vs. Prater]
米国ニューメキシコ州アルバカーキ、サンタアナ・スターセンター
○前田吉朗 vs チャーリー・バレンシア×
(1R 2分29秒 TKO)

[08.02.13 WEC32 Condit vs. Prater]
米国ニューメキシコ州アルバカーキ、サンタアナ・スターセンター
×高谷裕之 vs レオナルド・ガルシア○
(1R 1分31秒 KO)

[08.03.26 WEC33 Marshall vs. Stann]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロックホテル&カジノ
○三浦広光 vs ブラス・アヴェナ×
(1R 2分35秒 TKO)

[08.06.01 WEC34 Faber vs. Pulver]
米国カリフォルニア州サクラメント、アルコ・アリーナ
×前田吉朗 vs ミゲール・トーレス○
(3R終了時 TKO)

[08.08.03 WEC35 Condit vs. Miura]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロックホテル&カジノ
×三浦広光 vs カーロス・コンディット○
(4R 4分43秒 TKO)

[08.11.05 WEC36 Faber vs. Brown]
米国フロリダ州タンパ、セミノール・ハードロックホテル&カジノ
×前田吉朗 vs ハニ・ヤヒーラ○
(1R 3分30秒 フロントチョーク)

[08.12.03 WEC37 Torres vs. Tapia]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロック・カジノ&ホテル
×田村彰敏 vs ヴァグネイ・ファビアーノ○
(3R 4分48秒 肩固め)

[08.12.03 WEC37 Torres vs. Tapia]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロック・カジノ&ホテル
×高谷裕之 vs カブ・スワンソン○
(3R終了 判定0-3)

[09.01.25 WEC38 Varner vs. Cerrone]
米国カリフォルニア州サンディエゴ、サンディエゴ・スポーツアリーナ
×三浦広光 vs エドガー・ガルシア○
(1R 1分18秒 TKO)

[09.04.05 WEC40 Torres vs. Mizugaki]
米国イリノイ州シカゴ、UICパビリオン
×水垣偉弥 vs ミゲール・トーレス○
(5R終了 判定0-3)

[09.04.05 WEC40 Torres vs. Mizugaki]
米国イリノイ州シカゴ、UICパビリオン
○田村彰敏 vs マニー・タピア×
(5R終了 判定3-0)

[09.08.09 WEC42 Torres vs. Bowles]
米国ネバダ州ラスベガス、ハードロック・カジノ&ホテル
○水垣偉弥 vs ジェフ・カラン×
(3R終了 判定2-1)

[09.12.19 WEC45 Cerrone vs. Ratcliff]
米国ネバダ州ラスベガス、ザ・パール
×水垣偉弥 vs スコット・ヨルゲンセン○
(3R終了 判定0-3)

[10.01.10 WEC46 Varner vs. Henderson]
米国カリフォルニア州サクラメント、アルコ・アリーナ
×田村彰敏 vs チャーリー・バレンシア○
(5R終了 判定1-2)

Strikeforce

[09.08.15 Strikeforce Carano vs. Cyborg]
米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオン
×石田光洋 vs ギルバート・メレンデス○
(3R 3分56秒 TKO)

[08.09.20 Strikeforce Playboy Mansion II]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス、プレイボーイマンション
○三崎和雄 vs ジョー・リッグス×
(2R 2分29秒 TKO)

[08.09.20 Strikeforce Playboy Mansion II]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス、プレイボーイマンション
○石田光洋 vs ジャスティン・ウィルコックス×
(1R 1分21秒 腕ひしぎ十字固め)

[09.12.19 Strikeforce Evolution]
米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオン
×中村大介 vs ジャスティン・ウィルコックス○
(3R終了 判定0-3)

Cage Rage

[06.04.22 Cage Rage16]
英国ロンドン、ウェンブリー・カンファレンス・センター
○中村大介 vs マイケル・ジョンソン×
(1R 1分54秒 アームロック)

[06.12.09 Cage Rage19]
英国ロンドン、アールズコート・エキシビションセンター
×中村大介 vs ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ○
(1R 3分55秒 TKO)

[07.02.10 Cage Rage20]
英国ロンドン、ウェンブリー・アリーナ
○今成正和 vs ロビー・オリヴィエ×
(1R 0分27秒 腕ひしぎ十字固め)

[08.03.08 Cage Rage25]
英国ロンドン、ウェンブリー・アリーナ
○今成正和 vs ジーン・シウバ×
(1R 2分30秒 ヒールホールド)

Rumble on the Rock

[03.10.10 Rumble on the Rock 4]
米国ハワイ州ホノルル、ニール・ブレイスデル・アリーナ
×五味隆典 vs BJペン○
(3R 2分35秒 チョークスリーパー)

[06.01.20 Rumble on the Rock 8]
米国ハワイ州ホノルル、ニール・ブレイスデル・アリーナ
○岡見勇信 vs アンデウソン・シウバ×
(1R 2分33秒 反則)

[06.04.21 Rumble on the Rock 9]
米国ハワイ州ホノルル、ニール・ブレイスデル・アリーナ
×岡見勇信 vs ジェイク・シールズ○
(3R終了 判定0-2)

集め始めたら一気に70試合突破!

[戦績] 30勝38敗2分

日本人ファイター おもな 世界挑戦の記録

青木真也のストライクフォース参戦がたいへんな話題になっているが、これまでにも世界に挑戦した日本人ファイターはこんなにたくさんいるのだ! というわけで、世界で闘った日本人ファイターのおもな試合を集めてみた。しかし、世界はやっぱり強いなあ〜。

※「あの人の試合が載ってない!」という苦情は一切受け付けませんのであしからず。

構成／松下ミワ

CHALLENGE THE W

UFC

[94.03.11 UFC2 No Way Out]
米国コロラド州デンバー、マンモス・ガーデン
×市原海樹 vs ホイス・グレイシー○
(5分08秒 片羽絞め)

[98.03.13 UFC16 Battle in the Bayou]
米国ルイジアナ州ニューオーリンズ、ポンチャートレイン・センター
○高阪剛 vs キモ×
(1R終了 判定3-0)

[99.01.09 UFC18 Road to the Heavyweight Title]
米国ルイジアナ州ニューオーリンズ、ポンチャートレイン・センター
×高阪剛 vs バス・ルッテン○
(延長R 2分13秒 TKO)

[99.07.16 UFC21 Return of the Champions]
米国アイオワ州シーダーラピッズ、ファイブシーズンズ・イベントセンター
○高阪剛 vs ティム・レイシック×
(2R終了時 TKO)

[99.11.14 UFC23 Ultimate Japan 2]
千葉・東京ベイNKホール
×高阪剛 vs ペドロ・ヒーゾ○
(3R 1分12秒 TKO)

[01.02.23 UFC30 Battle on the Boardwalk]
米国ニュージャージー州アトランティックシティ、トランプ・タージマハル・カジノ
×宇野薫 vs ジェンス・パルヴァー○
(5R終了 判定0-2)

[01.06.29 UFC32 Showdown in the Meadowlands]
米国ニュージャージー州イーストルーサーフォード、コンチネンタル・エアライズ・アリーナ
○宇野薫 vs ファビアーノ・イハ×
(1R 1分48秒 TKO)

[01.11.02 UFC34 High Voltage]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
×宇野薫 vs BJペン○
(1R 0分11秒 KO)

[02.05.10 UFC37 High Impact]
米国ルイジアナ州ボシアーシティ、センチュリーテル・センター
○宇野薫 vs イーブス・エドワーズ×
(3R終了 判定3-0)

[02.05.10 UFC37 High Impact]
米国ルイジアナ州ボシアーシティ、センチュリーテル・センター
×高阪剛 vs リコ・ロドリゲス○
(2R 3分25秒 TKO)

[02.07.13 UFC38 Brawl at the Hall]
英国ロンドン、ロイアル・アルバート・ホール
○須藤元気 vs レイ・レメディオス×
(2R 1分38秒 チョークスリーパー)

[02.09.27 UFC39 The Warriors Return]
米国コネチカット州アンキャスビル、モヒガン・サン・アリーナ
○宇野薫 vs ディン・トーマス×
(3R終了 判定3-0)

[03.02.28 UFC41 Onslaught]
米国ニュージャージー州アトランティックシティ、トランプ・プラザ
△宇野薫 vs BJペン△
(5R終了 判定1-1)

[03.04.25 UFC42 Sudden Impact]
米国フロリダ州マイアミ、アメリカン・エアラインズ・アリーナ
×須藤元気 vs ドゥエイン・ラドウィッグ○
(3R終了 判定0-3)

[03.09.26 UFC44 Undisputed]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
×宇野薫 vs エルメス・フランカ○
(2R 2分46秒 KO)

[04.04.02 UFC47 It's On!]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
○須藤元気 vs マイク・トーマス・ブラウン×
(1R 3分31秒 腕ひしぎ三角固め)

[06.08.26 UFC62 Liddell vs. Sobral]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
○岡見勇信 vs アラン・ベルチャー×
(3R終了 判定3-0)

[06.10.14 UFC64 Unstoppable]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
○岡見勇信 vs カリブ・スターンズ×
(3R 1分40秒 TKO)

[06.12.30 UFC66 Liddell vs. Ortiz 2]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
○岡見勇信 vs ローリー・シンガー×
(3R 1分40秒 TKO)

[07.04.07 UFC69 Shootout]
米国テキサス州ヒューストン、トヨタセンター
○岡見勇信 vs マイク・スウィック×
(3R終了 判定3-0)

[07.06.16 UFC72 Victory]
英国アントリム州ベルファスト、オデッセイアリーナ
×岡見勇信 vs リッチ・フランクリン○
(3R終了 判定0-3)

[07.09.22 UFC76 Knockout]
米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター
×小見川道大 vs マット・ワイマン○
(3R終了 判定0-3)

[07.09.22 UFC76 Knockout]
米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター
×中村和裕 vs リョート・マチダ○
(3R終了 判定0-3)

[07.10.20 UFC77 Hostile Territory]
米国オハイオ州シンシナティ、USバンク・アリーナ
○岡見勇信 vs ジェイソン・マクドナルド×
(3R終了 判定3-0)

[07.11.17 UFC78 Validation]
米国ニュージャージー州ニューアーク、プルデンシャル・センター
×長南亮 vs カロ・パリシャン○
(3R終了 判定0-3)

[07.11.17 UFC78 Validation]
米国ニュージャージー州ニューアーク、プルデンシャル・センター
○郷野聡寛 vs タムダン・マクローリー×
(2R 3分19秒 腕ひしぎ十字固め)

[08.03.01 UFC82 Pride of a Champion]
米国オハイオ州コロンバス、ナイションワイド・アリーナ
○岡見勇信 vs エヴァン・タナー×
(2R 3分00秒 KO)

[08.01.23 UFC Fight Night 12]
米国ネバダ州ラスベガス、パームスカジノ&リゾート
×小見川道大 vs チアゴ・タバレス○
(3R終了 判定0-3)

[08.05.24 UFC84 Ill Will]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
○吉田善行 vs ジョン・コッペンハーバ×
(1R 0分56秒 スピニングチョーク)

[08.05.24 UFC84 Ill Will]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
×中村和裕 vs ソクジュ○
(1R終了時 TKO)

[08.09.06 UFC88 Breakthrough]
米国ジョージア州アトランタ、フィリップス・アリーナ
○長南亮 vs ホアン・"ジュカオン"・カルネイロ×
(3R終了 判定2-1)

[08.10.18 UFC89 Bisping vs. Leben]
英国ウェストミッドランド州バーミンガム、ナショナル・インドア・アリーナ
×郷野聡寛 vs ダン・ハーディー○
(3R終了 判定1-2)

[08.12.10 UFC Fight Night 16]
米国ノースカロライナ州フェイエットビル、クラウン・コロシアム
×吉田善行 vs ジョシュ・コスチェック○
(1R 2分15秒 KO)

[08.12.27 UFC92 The Ultimate 2008]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
○岡見勇信 vs ディーン・リスター×
(3R終了 判定3-0)

[08.12.27 UFC92 The Ultimate 2008]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
×長南亮 vs ブラッド・ブラックバーン○
(3R終了 判定0-3)

[09.01.31 UFC94 St-Pierre vs. Penn 2]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
×郷野聡寛 vs ジョン・フィッチ○
(3R終了 判定0-3)

[09.04.18 UFC97 Redemption]
カナダ・ケベック州モントリオール、ベル・センター
×長南亮 vs TJグラント○
(3R終了 判定1-2)

[09.05.23 UFC98 Evans vs. Machida]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデン・アリーナ
○吉田善行 vs ブランドン・ウルフ×
(1R 2分24秒 フロントチョーク)

[09.06.13 UFC99 The Comeback]
ドイツ・ケルン、ランクセス・アレーナ
×宇野薫 vs スペンサー・フィッシャー○
(3R終了 判定0-3)

[09.07.11 UFC100]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
○秋山成勲 vs アラン・ベルチャー×
(3R終了 判定2-1)

[09.10.24 UFC104 Machida vs. Shogun]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス、ステイプルズ・センター
×岡見勇信 vs チェール・ソネン○
(3R終了 判定0-3)

[09.10.24 UFC104 Machida vs. Shogun]
米国カリフォルニア州ロサンゼルス、ステイプルズ・センター
×吉田善行 vs アンソニー・ジョンソン○
(1R 0分41秒 TKO)

[09.11.21 UFC106 Ortiz vs. Griffin 2]
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
△宇野薫 vs ファブリシオ・カモエス△
(3R終了 判定1-0)

王者ギルバート・メレンデスとの対決をどう見る!?

選手&関係者に聞く

青木真也はアメリカで通用するのか!?

かねてから待望されていた青木真也の全米進出がついに決まった。
そんな青木の新たな挑戦を選手&関係者はどう見ているのか!?
応援メッセージからプロとしての緻密な分析まで、さまざまなコメントが集まった。

聞き手／編集部、細田大志

朝日昇

いや、いま青木がアメリカで通用しなかったら、日本ってキツくないですか？　去年の『Dynamite!!』を観てて思いましたけど、青木がズバ抜けてるじゃないですか？　彼は日本の最高作品ですよ！

それは世界の格闘技関係者の多くが思ってるんじゃないですかね？　彼がマッハと試合するとき、僕はマッハのセコンドについたんですね。そのときにも「こいつは一回ハリ倒したら、もっととんでもないヤツになるな」って思ってましたから。

彼は頭がよくて発想力が素晴らしいから、僕の十歩も二十歩も先を考えられると思うし、彼みたいな人間が時代を作るんですよ。

ただ、相手は青木のことをもの凄く研究してるはずで、「アゴに一発当てれば」とか思われてるかもしれないですね。まぁ、とにかく青木にはあの〝変態〟のまま行ってほしいです。色白で細長くて、アメリカ人から見ても「なんじゃ、こりゃ！」でしょ（笑）。

また、青木みたいなのっていないから、ウケるんじゃないですか？　アメリカでいないですよ、あんな生き物。だから、勝ったら向こうのMMA界に革命起こせるんじゃないかな～？　日本人最後の砦、彼が負けたら日本は

陥落ですよ。ただ、向こうでは中指だけはやめたほうがいいけど（笑）。

石田光洋

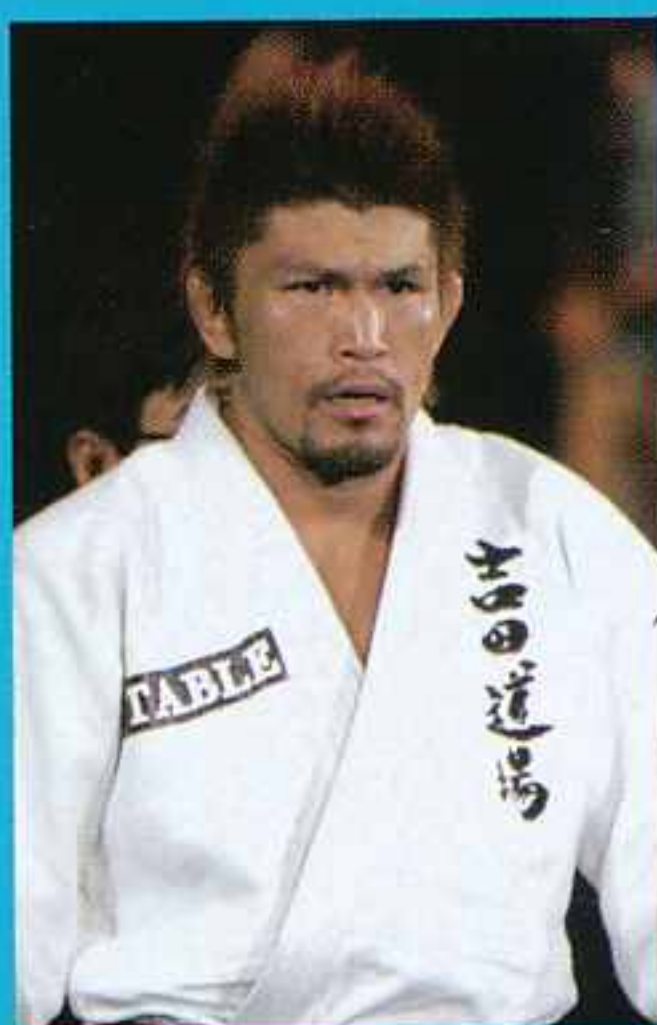
凄く楽しみなカードですね。メレンデスは殴って、青木くんは極めにいく。お互い試合でやることは決まってるので、自分のペースにどうやって引き込むかっていう主導権の奪い合いになると思います。実際に僕はメレンデスと対戦してますけど、打撃を見せてのタックルとか、いわゆる"総合"をやる選手なので、どの局面でも全体的に強い選手だなっていう印象です。

今回は金網ですけど、たぶん青木くんにやりにくさはないと思いますよ。むしろ組んだときに金網に押し込めるぶん、有利に働くんじゃないですかね。青木くんは相手を凄く研究する選手ですから、僕の中では一本勝ちでチャンピオンになる確率が高いと思ってます。DREAMのベルトと合わせて二冠王になれば、それが格闘技界の起爆剤になると思いますし。

今成正和

青木くんの参戦についてですか？　……いや、「凄いなぁ」って（ボソッと）。

メレンデスの印象？　うーん……ゴチャゴチャ。確かに強いだろうけど、そこまで強いかなぁって。最強ではないし、青木くんはもっと強い選手とやってきてるんだし。まぁ、べつにどの局面になっても青木くんのほうが強いでしょ。試合でロングスパッツが穿けなくたって、練習のときはいつも短パンなんだし問題ないと思います。5ラウンド制とか細かいルールの違いも大丈夫だろうし、金網の闘い自体、いつもそれを意識して練習してるんで。

リングと金網の違い？　う～ん、自分もケージで試合したけどすぐ終わっちゃったんで……よくわからないです。まぁ、押し込まれると痛いです、とりあえず。（今成も今回の青木と同じように海外のケージ初参戦でタイトルマッチだったが？）僕の場合はべつにプレッシャーはなかったし「あぁ、遠くで試合するんだなぁ」ぐらいの感じだったんですよ。単なるワンマッチという感じ。自分は仕事もあるんで当日はセコンドとして一緒に行けないけど、いつもどおりやってくれたらいいかなって。アドバイスは……頑張れ、ただそれだけ（ボソッと）。

小見川道大

いや～、凄いおもしろそうなカードですよね。青木vsメレンデス戦ってDREAMとストライクフォースのチャンピオン同士だし。自分もUFCとか海外で何試合かしてますけど、やっぱりアウェーっていうのは多少は影響ありますよ。ただ最終的には、あの金網の中に入っちゃえば、その選手の実力が出ると思うんで、そんなに気にしなくてもいいかなって。まあ、青木選手なら大丈夫じゃないですか。

勝敗ですか？　いい勝負になるとは思いますけど、青木選手が勝つんじゃないかなって気はしますね。まあ、青木選手に関して言えば、大晦日にやったことはよくないですけど、やっぱりファイターとしては強いし、間違いなくライト級でトップクラスの選手だと思うんで。自分はフェザー級の世界最強を目指すんで、青木選手にはライト級の世界最強になってもらいたいッスね。

金原正徳

この試合を聞いたときは「やった！」っていうのが率直な感想ですね。青木くんは日本で終わる器じゃないっていうか、世界的に見ても70キロのトップだと思うので、個人的にも「早く海外に出てもらいたい」って思ってました。メレンデスも世界レベルの一人で、寝技がうまいというよりはそれを凌ぐタイプの選手なので、そこを青木くんがどう仕留めるかっていうのが試合のポイントだと思います。

メレンデスはレスリングも強いから簡単にはテイクダウンできないでしょうけど、グラウンドのヒジは持ってないので、青木くんもいつもどおりの動きというか、下からの寝技で対応できると思います。青木くんは「最近はヒジの練習もしてる」っていう話も聞いているので、離れ際にだけ気をつければスタンドでのヒジも問題ないでしょう。

金網とリングの違いや、ロングスパッツが穿けないこと、日本とアメリカの判定基準の違いなんかは、勝敗を分けるポイントにはならないはずです。とにかく青木くんにはどんなかたちでもいいから勝ってきてほしい。70キロで青木真也が一番だっていうのを、世界のファンが認めるような試合を期待してます！

北岡 悟

もっと近くでやってくれればいいのにって思いますよね（苦笑）。なんでアメリカ？　って。セコンドをやることになりそうです。僕もしっかりメレンデスの映像を見直さないと。

アメリカでやるってことは、ネガティブな要素になりかねないことですから、一緒に行く僕としては普段どおりの彼のいい部分を引き出すお手伝いができたらと思いますね。僕は青木の普通の試合としか意識していないですよ。ルールとか環境とか違う部分はあるけど、青木自身もいままでどおりですしね。それがいいんだと思うんです。むしろ、いつもと違ったらセーブするのが僕の役目かな、と。

たぶんメレンデスはボクシング主体でくると思いますよ。でも、いまの青木は"本当のテイクダウン"をやってるんですよ。確実に相手を寝かすんです。一緒に練習してるとこちらも倒されないように上達してくるんですけど、それでも青木は寝かせてきますからね。どんどん伸びていると思います。打撃の練習はずっと前から飯村（健一・大道塾吉祥寺支部支部長）さんのところでヒジの対策含めやってると思いますし、大丈夫でしょう。青木がやってきたことができれば結果もついてくると思います。

青木真也はアメリカで通用するのか？

予想？　青木の一本勝ちですね。「俺が負けたら日本が終わる」って青木が言うのは彼しか言えないことだし言っていいと思います。でも、たぶん装飾ですよ（笑）。本当はそこまで自分を追い詰めている感じじゃなくて、ほどよい感じでやってますよ。へんな思い詰め方はしてませんね。青木の場合はそういう発言も自分の肥やしにしてるんです。年末の中指も、あれだけ騒動になりましたけど、しっかり肥やしにしてますからね。

高阪剛

青木はアメリカで試合をするの初めてですよね？　だから勝敗はもちろんですけど、あの青木のスタイルが、アメリカのファイターや観客に響くか、そこに一番興味がありますね。

アメリカにはいろんなタイプの選手がいるんだけど、青木みたいなにグラップリングで観ている人を惹きつける試合ができる選手ってなかなかいないですからね。

逆にメレンデスなんかは、殴ってテイクダウンを奪いにきてパウンドっていう、いわゆるアメリカンMMAの選手だから。そういうアメリカンMMAのトップファイターと青木が闘うというのは、これはどうなるのか。きっと青木は、メレンデスの真逆の試合をしようとすると思うんですよね。ミドル蹴って距離とったりとか、逆に向ってくるところでカウンターのタックルを取ったりとか。異質な試合のスタイルが、どれだけアメリカにインパクトを与えるか、かなり興味がありますね。

そしてこの試合は極めるか、KOするかっていう二極の試合だから、青木の技の仕掛けとタイミングが重要になってくると思いますね。あと、青木にとっては初めてのケージですけど、これはあまり影響しないと思うし、青木自身もそこまで気にしてないと思うんですよ。というのも、日本の練習環境っていうのは、いかんせん狭いので、壁に押しつけたり押しつけられたりっていう展開は腐るほどやってるんですよ。だから、金網際の攻防については、そんなに気にしてないと思うんです。

でも、ケージは広いし円の動きをされるので、そのときのちょっとしたズレみたいなものが出てくると思うんで、それをどう修正するかっていうのが、青木の器量にかかってくると思いますね。

相手のメレンデスは、かなり強いですね。強いしタフだし。一昔前までは、あそこまでアグレッシブで根性とスタミナがある選手ってあんまりいなかったんですけど、メレンデスはその走りとなる選手ですよね。最後まで攻め続けることができるし、そういう試合をやりたい相手なんで、そこに乗ってしまうと負けてしまうと思うんですよね。

青木は自分の闘いを貫いて勝って、向こうの連中をうならせてほしいですね。アメリカ人に「なんだかわかんねえけど、すげえヤツだな」って思わせるような試合をしてほしい、そう思いますね。

國保尊弘
ジェイロック代表

可能性はゼロではない。

佐伯繁
DEEP代表

青木は去年からストライクフォースに出るっていう噂があったんで、とりあえずは正式に決まってコッチとしてもひと安心。今回は彼にしてみてもタイミングよかったと思うよ。彼にとってはDREAMが一番で、「UFCが一番じゃない」って発言したあとにそれを証明する機会が与えられたわけだからさ。

本当は僕も行きたかったけど、同じ日に興行なんだよ。まぁ、彼は一番海外に合う選手だと思うよ。いい意味で自分を持ってる人間だから、ほかの選手の遠征に比べたらそんなに心配してないね。DREAM側の人間もけっこう行くはずだから、周りのサポートも完璧だと思うしね。まぁ、アウェーっちゅうのは青木にしてみれば得意分野なんだけどね（笑）。

とりあえず、本人には「日本食をたくさん持っていけよ」って言っておいた。向こうだと食事面だけは本当に怖いからさ。あのね、彼は僕にとっては親子とかそういうのを通り越した、へんな人間関係なんだよね。

まぁ、青木は世界に通用する選手だと思ってるし、勝ってあたりまえだよ。向こうでDREAMのライト級のレベルは高いんだぞっていうのを示すしかないっしょ！

桜井〝マッハ〟速人

え、青木くんがアメリカで試合するんですか？　相手は？　メレンデス？　へ〜、そうなんだ……。まぁ、頑張ってください。え、これだけじゃダメ？（笑）。

個人的に青木くんはあの階級じゃ世界クラスだと思ってますよ。いまのMMAはレスリングからボクシングからいろんなことができなきゃ厳しいけど、彼はそういうものを寝技で打破できる選手だと思うし。素直に頑張ってほしいと思いますね。もう俺とやることも二度とないだろうしさ（笑）。

自分もストライクフォースだかなんだかわかんないけど、機会があれば海外で試合したいって思ってますよ。ニック・ディアスとかね。

試合予想？　う〜ん、おもしろい試合になるんであればメレンデスが勝つだろうし、つまらない試合であれば青木くんかな。要は打ち合いだとメレンデスだけど、逆に青木くんが寝技で翻弄するかもしれないし。

でもメレンデスだからなぁ、今回はどうなんだろうなぁ。まぁ、彼ならいけるだろうと俺は思ってますよ。初めての金網っていうのもポイントになってくるけど、青木くんにはチームジャパンの底力を見せてほしいね。

笹原圭一
DREAMイベントプロデューサー

青木選手のストライクフォース参戦ですか？　まあ、闘うのはボクじゃないんで、ボクが緊張しても始まらないですし（笑）。で、これは会見では言わなかったんですけど、じつは野球選手以外で全米地上波で放送される日本人プロスポーツ選手って、たぶん青木真也が初めてなんですよね。それがどのくらいの偉業か

通用するのか!?

わかりますか!? のんきにコメント集めなんかしてる場合じゃないんですよ！

とは言っても本人は、そういうことってまったく気にしてないと思いますけどね。まあ、『kamipro』さんなんかは常々「青木はUFCに行け」とか「しがらみのないアメリカで闘え」という無責任ことを言ってるみたいですけど(笑)、アメリカで闘うということはDREAMのチャンピオンとして、日本を背負って闘うということですからね。むしろこっちのほうが背負う荷物は重たい。

でも、青木真也は、そういうときこそとんでもない力を発揮するんで。「オレが日本を救う！」と坂本龍馬ばりの意気込みで闘ってきてほしいです。

中村和裕

いまの青木くんは日本の希望だと思うし、世界で通用するかどうかって言ったら、通用するんですよ、絶対。通用するのがわかってるから、メレンデス戦は凄く観たいです。だって、打撃全盛のいまのMMAの世界で、あれだけ色を出して闘えるのは青木くんくらいなんじゃないかと思ってるし。海外だからとか、金網だからっていうのは、あんまり関係ないと思いますよ。本人がどうかっていうだけで、海外でも勝つ人は勝つし、勝てない人は勝てないんで。まあ、青木くんぐらいしっかりしてれば大丈夫でしょ。

まあ、メレンデスも日本で観てた頃よりも強くなってると思うし、いまはUFCもストライクフォースもそうだと思うんですけど、日本でトップの選手が即通用するかって言ったら正直難しいと思うんですよ。このあいだ、ひさびさにUFCのオーストラリア大会を観たら、シウバやミルコは勝ったけど、ノゲイラがブッ倒されたのはショックだったし。「こんな強いヤツがいんのか」って思いましたからね。なんとかヴェラスケス(笑)。

ホントにレベルも上がってるなって感じたけど、青木くんなら大丈夫だと思うし、確かに大晦日にやったことはよくないと思うんですけど、まあ、まだ若いんで、いろんな意味で尖ってるんでしょうね(笑)。僕は好きですよ、青木くん。日本の希望だと思うんで、絶対に勝ってほしいです。

長谷川匡紀
公武道社長

いきなりタイトルマッチを用意されたことは、最大級の評価を受けたということですので、スコット・コーカーさんにたいへん感謝しています。

いまの青木にとってストライクフォースは、海外では一番いいステージだとは思うんですよね。やっぱり、青木は日本のファンの前で試合をしたいわけですし、川尻達也選手とのタイトルマッチもやらなければいけない。DREAMと提携している信頼関係から生まれた話なんです。

たくさんの方から「日本代表として頑張ってくれ！」という声をいただいてます。もの凄く感慨深いですよねぇ。『PRIDE武士道』から始まって、途中で何回かポカしてるけど(笑)、そこまで感情を移入してくださるファンや関係者がいらっしゃるのは選手冥利につきると思いますよ。

気になる点は海外イベントの段取りの悪さです。試合になったらボクはもう何もできませんから、それまでは青木にストレスを感じさせないようにサポートしたいですね。

今回は完全アウェーですけど、「やれんのか！」やDREAMで青木はほかの選手にはない経験をさせてもらってるんですよね。だからこれまでの経験を活かして、新たな経験を積んで、青木はさらに強くなると思います。

八隅孝平

メレンデス戦の話を聞いたときは、また強敵だなと思いました。でも相手が誰であれ、いつもどおり練習をしてますし、テンションは変わってないですね。

前に別の選手のセコンドでアメリカに行ったときに、けっこうヒドイ扱いを受けたので、そこだけが心配ですね。選手の扱いが適当というか嫌がらせが凄い。

ウォーミングアップする場所を用意してもらえなかったり、グローブチェックを何回もさせられて集中できないまま、「はい、試合！」みたいな感じだったんですよ。

ただ、試合でやること自体はいつもと変わらないと思います。捕まえて倒すだけで。メレンデスとの相性ですか？ 二人ともトップファイターだから、相性うんぬんじゃないですよ。そういう次元で闘ってないと思います。そこを飛び越えて勝たないといけないですね。

横田一則

初めての金網で初めてのルール、相手も強いんで青木選手が不利だと思うんですよ。青木選手も強いと思うけど、俺はメレンデスも相当強いと思ってるんで。青木選手に勝ち目があるとしたらメレンデスの苦手なスタンド勝負でしょう。青木選手は過去にメレンデスみたいなフィジカルが強いタイプとは試合してないですよね。

ウェルター級ですけど桜井さんと試合したらやられちゃったし、同じ階級だと川尻くんともやってないし、そういう選手と試合するとどうなるのかなっていう感じですね。メレンデスはデカいから、時間が経てば青木選手が不利になっちゃうんじゃないかな、と。

大晦日の会見で青木選手が俺に「黙れよ」って言ったこと？ ああ、あれは全然かまわないっていうかなんとも思ってないです。俺はああいうので逆に盛り上がるタイプだから、全然気にしてないです。

それより大晦日の試合後に彼がやったことのほうが選手としてよくないなって。中指だけはね、あれだけは格闘家としてよくない。「格闘家ってこんなもんか」って、ほかの選手も一括りにされちゃうから。

まぁ、彼は凄く強くていい選手だから今回は日本代表として勝ってもらって、俺のケガが治ったときに倒してやろうと思ってますよ。

なぜツイッター特集なのか?

今号の特集は『ツイッター』です!! ……なんてこと書くと、「ツイッター? やってないし、今後もやりたくないから読まないよ! みんながみんなやってると思ってたら大間違いだ!」と罵詈雑言を吐かれる読者の方が大半だと思われますが、ちょっと待たれいっ!!

今回の特集はツイッター参加を奨励することが狙いじゃないんですよ。

前号No.145で掲載したサダハルンバ谷川さんとクマクマンボ熊久保さんの『さようなら格闘技通信』対談であきらかにされましたが、谷川さんはテレビ局からこんなことを伝えられたそうです。

「いまの時代であれだけの視聴率が獲れて大健闘されています。ただ、こんな時代なので放映権料は安くしてください」

この発言は非常に重いです。皆さんご存知のようにどのテレビ局も財政状況は相当厳しい。最低でも30パーセントの放映権料のカット、最悪半分にまで下げられてもおかしくない。本誌がテレビ局側なら絶対にそう判断します。

空前の大不況により、大手スポンサーは次々に撤退もしくはスポンサード額の減額を図っており、メディアをめぐる状況は大きく変化しています。莫大な放映権料によって支えられてきたテレビ格闘技が成立しない時代になってきた。

そうしたことに危機感を覚えたのか、FEGは動画サイトの『YouTube』や、今回取り上げているツイッターなど、ウェブメディアへの展開を急速に推し進め、メディア露出も減少している昨今、自前で情報発信できるような環境作りに取り組んでいます。

マット界は今後、どのようにしてメディア展開をしていくべきなのか。向かい合うべきなのか。そのとっかかりとして今回、ツイッターを取り上げるわけです。ツイッターに登録してもしなくとも、肯定しても否定しても、それは人それぞれの思想になりますが、本誌はツイッターを通して「プロレス格闘技とメディアのあり方」を考えたいと思います。なう。

twitter™ だいたいこんな感じガイド

ツイッターをやったことがないという人に、ツイッターの説明するのは難しい。
とはいえ、ツイッター自体はさほど難解なものではないです。どういうものかわかるには、体験するのがまず一番!!
とはいえ、今号ではツイッター特集なので、ツイッター知識がゼロだと読むのも難しい……。
というわけで最初に簡単な解説をつけておきます。
ツイッター未体験の人も、ここでなんとなくわかったような気になってから特集を読んでみてください。

Follow us on Twitter

タイムライン(TL)
自分のアカウントを作り、自己紹介などの設定を終えると自分のページが持てます。自分の書き込みとともに、フォローした人のつぶやきも表示されます。

リプライ(Reply)
誰かに話しかけたいときは「@ユーザー名」のあとに半角スペースを空けて、書き込みます。また、誰かの書き込みに返信したいときは、その発言の右下にある「返信」をクリックします。誰が自分に対して返信しているかを検索したい場合は、右にあるバーの「@ユーザー名」をクリックしてみましょう。

リツイート(RT)
誰かの書き込みを自分のフォロワーにも知らせたい! という場合は、その書き込みの右下にある「リツイート」をクリック。これはいわゆるオウム返し状態ですが、誰かの書き込みを引用して自分の発言をかぶせるというのもあります。そっちは各自調査!

フォロー
誰かのつぶやきを自分のTLで見たい場合は、その人のページに行き「フォローする」のボタンをクリックします。フォローしている人のつぶやきが自分のTLに表示されます。

フォロワー
自分のことをフォローしてくれている人のことをフォロワーといいます。誰かにフォローされたからといって、その人をフォローしなきゃいけないルールやマナーもありません。

ツイッターをすでに始めている人は「何をいまさら」と思うかもしれませんが、未体験の方にはこれを読んでおけばだいたい大丈夫、と言っておきます。言葉で説明するよりも自分でアカウントを作って体験してみるのが一番なんですけどね。パソコンだけじゃなく、携帯電話からでもアクセスできるので気楽につぶやくことが可能になってます。あのダナ・ホワイトUFC代表も「現在、これ以上強力なツールは存在しない」と断言してます(『kamipro Specail 2010 APRIL』掲載)。この新しいメディア、少しはわかったような気がしてきたところで次のページからの特集を読んでみてください!

寺子屋対談!!

ついに実現したサダハルンバと博士のツイッター対談！ そのきっかけは、しるこサンドの話題でタイムラインを埋めつくす谷川さんに、水道橋博士がツイッターの有効利用を説くため電話をかけたことだった。ツイッターの達人のレクチャーを受けて、サダハルンバのツイッターは生まれ変われるのか？

構成／ジャン斉藤 撮影／タイコウクニヨシ

谷川さんなら
日本人初の
100万人フォロアーを
達成できますよ！

日本の夜明けは近いぜよ!!

ツイッター

んあ～！

【筆子】

谷川貞治

ツイッターアカウント
k1_Tany

谷川　『kamipro』って、しるこサンドの工場に行ってきたんでしょ?

――行ってきました。いろいろとお話を聞いてきたんですが、谷川さんのツイッター効果なのか、1月度の売り上げが一割増しだって言ってました。

谷川　それは凄いじゃん!!

博士　でも、それはわかるなぁ。ボクもいままでしるこサンドを知らなかったけど、わざわざ買いに行って食べたのは、谷川さんのツイッターの影響ですよ。ツイッターって何回も繰り返されるからサブリミナル効果があるんです。

谷川　そういう人は多いよねぇ。

博士　でも、そのツイッターの影響力をしるこサンドに向けるんじゃなくて、K―1に向けるのが谷川さん本来の役目だってことをボクは言いたいんですよ(笑)

谷川　つまり、K―1の視聴率が10パーセント増しになったほうがいいってこと?

博士　それはあたりまえでしょう(笑)それと今回、ボクが前もって言っておきたいんだけど……。なぜボクがいま、雑誌とか単行本とか集中的にツイッター取材を受けてるかというと、ツイッターの取材をもう受けなくてもいいためなんですよ。

谷川　それってどういうこと?

博士　それくらい「ツイッターをやってることは流行でも特殊じゃないよ」って話なんです。道具で至便性が高いものはインフラ化するってことなんだけど。だっていまどき「ケータイ電話の話について聞かせてください」なんて誰にも言われないでしょ?

谷川　言われない、言われない。

博士　でも、ケータイ電話が世の中に出たときは「ケータイなんかやりたくないよ。自分の居場所がわかっちゃうし」「プライベートと仕事の区別がつかない」とか、いろいろ言われて、ケータイにカメラ機能がついたときは「ついに日本も盗撮社会になる」と言われたりして、いろんな議論があったじゃないですか。でも、ケータイ電話っていまや完全なインフラになった。持つのがあたりまえになったでしょ。ネットも同じ。ネットを使うのを不思議がる人っていないでしょ? だからツイッターも、この便利さからして、使うこと自体がもうあたりまえになるんです。

谷川　確かにそうかもね～。

博士　ツイッターをやることが普通になるし、逆に言えば「私はつぶやきません」って言うこと自体がヘンになるんですよ。で、これはいま、一番起こっている現象だけど、やってない人がツイッターを悪く言ったり、やらない理由を並べなきゃいけない。それは「やっていない」からこそ、これがかなりトンチンカンなものなのね。論理破綻してる。そういう誤解をなくすためにもボクはいま、ツイッターの取材を受けている。ボク以外にも、いとうせいこうさんや伊集院光がツイッターをやってても取材を受けないのは、なぜなら「ツイッターの話はツイッターの中でやる」と。つまりテレビの芸能人以外の顔でやってる部分なのに、そこを芸能人として取材されることは意味がないのよ。テレビで映ってる部分とは違う顔でやってるからこそ意味がある。そういう理由で彼らが取材を受けてないから、結局、ボクに回ってくるんだけど。ボク自身は要するに「家電芸人」みたいな感じで「ツイッター芸人」として「仕事が広がってるぞ」とかの意識は一切なくて、むしろ時流に乗っている「ツイッター芸人」とか思われるのが面倒くさくて嫌なのね。それで、とにかくこういうツイッターの取材を受けないためにいま、取材を受けてるわけ。

谷川　なるほどねぇ。そんなに流行るのかなぁ?

博士　いまのペースでいけば、2013年には全世界で10億人がツイッターをやるだろうっていう事業予測もあるわけですよ。

谷川　へぇ～、日本の人口より多いんだ。ところで博士っていつくらいにツイッターを始めたの?

博士　何を言ってるんですか! 谷川さんとほぼ同じ時期ですよ。

谷川　んあ～! そうだっけ?

博士　その頃、谷川さんに「ツイッターを始めましたね」っていう話をしてますよ。で、ボクがツイッターの仕組みも将来性もまったくわかってない段階に「ツイッター社会論」(津田大介・著)という本を読んで、「なるほど」と理解したんだけど、そのときにね、基本的に一般の人や誰かに強制させたい気持ちはサラサラないんだけど、それでもツイッターを絶対にやるべきだって頭に思い浮かべた人が3人いたのね。

谷川　へ～、ボクその3人の中にいたんだ。光栄だなぁ。ほかには誰?

博士　東国原知事、というより政治家は全般的に。それから上杉隆というジャーナリスト。そして、もう一人が谷川さんだったんですよ。

谷川　んあ～、ボクがあ? うれしいなぁ……。どうして、そこに選ばれたんだろう?

博士　まず上杉隆というジャーナリストがなぜツイッターをやるべきかというと、長く記者クラブ問題を一番真剣に取り組んでいるんですよ。記者クラブの問題というのは、新聞やテレビで取り上げられな

ツイッターの影響力を向けるのは、しるこサンドじゃないですよ!

あとは毛生え薬と安西さんのことしか取り上げてないもんなあ

い。なぜなら新聞やテレビの既得権だから。ということは、もう十数年も社会問題になってるにもかかわらず、ジャーナリズムを気にしてる人以外はあまり知られていないんです。でも、上杉隆がツイッターをやれば、上杉隆の記事を普段読まない人ですら、その問題の存在を知るんですね。

谷川　なるほど、要はボクのしるこサンドみたいなもんだねぇ。

博士　まさに、しるこサンドをしること。みたいな（笑）。ダジャレか！　そして政治家っていう存在は、本来、公人としてすべての言動を透明化すべきだから、そういう意味ではツイッターをやるべき人たちなのね。海外はオバマ大統領誕生の選挙戦だけでなく政治家が使う用例は数々あるんです。だから鳩山首相がツイッターをやってることにもじつは意義があるんです。使い方はいまのところ、もの凄いヘタですけど。で、野党の代表として逆に自民党の谷垣代表は対抗して「私はつぶやかない」って言ったんですよ。そのとき「これは歴史的な失言になるな」って感じたんです。政治家っていうのは民意を汲むためにも、自分の発信力を高めるためにも、コミュニケーションの道具は大切じゃないですか。これじゃあ「私は政治家だから自分の声は自分の声で伝えたい。そのためには拡声器を使いません」って言ってるのと同じなんです。谷垣さんは代表になったとき、「みんなでやろうぜ！」って標語を言っていたのに真逆でしょう（笑）そのとき、ボクも標語を思いついて、『私はつぶやかない』谷垣禎一・『私はつぶやきすぎる』谷川貞治、と書いたんですよ。

谷川　んあ～！

博士　ツイッターではそのボクの標語にリツイートが１００個ぐらいついてツイッターの名言として一部で話題になったんですけど。谷川さんは知らないですよネ？

谷川　全然知らないよ～。でも、やっぱりボクはやったほうがいい？

博士　それはそうでしょう。K－1という世界中が注目するメインのコンテンツをすでに築いてて、それをマニアックに囲い込むのではなく、もっと世界中に広げたいという希望を持ってるじゃないですか？

谷川　そうなんだよ。それなのに、しるこサンドと、毛生え薬と、安西（伸一）さんのことしかツイッターでは取り上げてないんだよなあ（笑）

サダハルンバのツイッターより火がついたしるこサンド。もうみんな食べたかな？ 65ページからしるこサンド工場に潜入取材しているからチェックだ!

博士　最初にツイッターを始められたときに、UFCのダナ・ホワイトが１００万人のフォローがあると聞いて、谷川さんは「そこを目指します」って書いたでしょ。まだ日本では１００万人突破してる人は、有名人でもいないんですよ。

谷川　ホリエモン（堀江貴文）さんってどのくらいなんですか？

博士　30万人超えてると思います。それは個人が発信するメディアとしては大きな力を持ってると思うし、それとツイッター有名人として象徴的に語られることも多い、勝間（和代）さんにもカツマーと呼ばれるファンがついているから20万以上フォローを超えてるんだけど……ボクはそれらを超える潜在的な可能性があるのは谷川さんだと思ってたんですよ。

水道橋博士×谷川貞治
ツイッター寺子屋対談!!

谷川　う～ん、そうなのかぁ。でも、フォローの増し方やがわかんないんですよね。いまだにわかんない。

博士　これは方法を考えれば絶対に増えますよ。なぜそう思うかというと、谷川さん個人への興味というよりも、K－1そのものに興味を持ってる人の絶対数が多いから。だってK－1は世界１３０カ国に放送してるわけでしょ。世界１３０カ国の人が、そのK－1を発信してる責任者、言わば張本人であるダナ・ホワイト的な人物に関心がないわけがないと思ったんですよ。

谷川　いま、ファンがダナ・ホワイトのツイッターに「ミスター谷川は髪の毛が生える薬の実験を始めた」とか教えてるんですよ（笑）。そんなことで交流しててもダメだよねぇ。

博士　それはそれでおもしろいからいいんだけど（笑）。あと、いま、谷川さんは一問一答形式で地獄の１０００本ノックぐらいの勢いで返信してるでしょ。あれも時間を食うわりにはフォローを広げるためには効率が悪いし、逆効果もあるんですよ。

谷川　ああ、そうなんですか。ボクね、メールみたいに次々とファンから質問が来るから、すべて答えなきゃいけないと思ってた。

博士　全然そんなことはなくて、もっと適当で迂闊で、アバウトな感じでやるんでいいんです。ま、充分、谷川さんが「適当」なのはわかるけど。ただ記者会見みたいにかしこまったことしかしゃべれないんだったら、ツイッターなんかやる意味ないわけだから、ツイッターの気軽さという意味では、谷川さんは確実に向いていると思ってたんですね。

谷川　なるほどねぇ。

博士　で、案の定、谷川さんのツイッターは凄くおもしろかったんですよ。いつまでやってるんだと思える、しるこサンドのネタにしても凄くおもしろいんだけど、ある日、谷川さんにフォローが順調に増えていかない事実にボクも気がついたのね。

谷川　そうなんだよねぇ。そこのところを教えてほしいよぉ。

博士　それは「なぜだろう？　こんなにおもしろいのに」ってボクも初心者として疑問に思っていたんだけど。要は、谷川さんがあまりにもツイートをしすぎて、フォローした人からすれば、谷川さんとファンのやりとりだけで自分のタイムラインが埋まってしまうんです。

谷川　んあ～、しるこサンドの話題だけで埋まってしまう、と。

博士　もともとK－1に興味があって谷川さんをフォローした人が、そこで自分にはまったく興味のないしるこサンドの話題や単純な一問一答が延々と続くわけでしょ。みんな「なんだ、この会話？」ってあきれ返って面倒くさくなってフォローを外してるんです。

谷川　そうそう、最近いなくなった人、けっこういるんですよ。「あの人、どうしたのかな～」と思ってさ。

博士　たとえばボクのフォロー数が万を超えてからわかったんですけど、フォローがそれだけ大きな数字になっていくと、要

するに自分の興味があることとないことの差が出てくるわけじゃないですか。だからボクのツイートを読めばわかりますけど、子育て話もラジオやテレビの話も、格闘技の話も、映画の感想もそうだし、あと週刊誌の先読み批評をするとか、あえて自分の中でコーナーを細かく作っている感じなんですよ。それらは、読者を想定していて大きく振り幅を持って自覚的にやってるんですよ。

谷川　はあ、なるほどねぇ博士は戦略的だねぇ。雑誌の編集者みたいだなぁ。

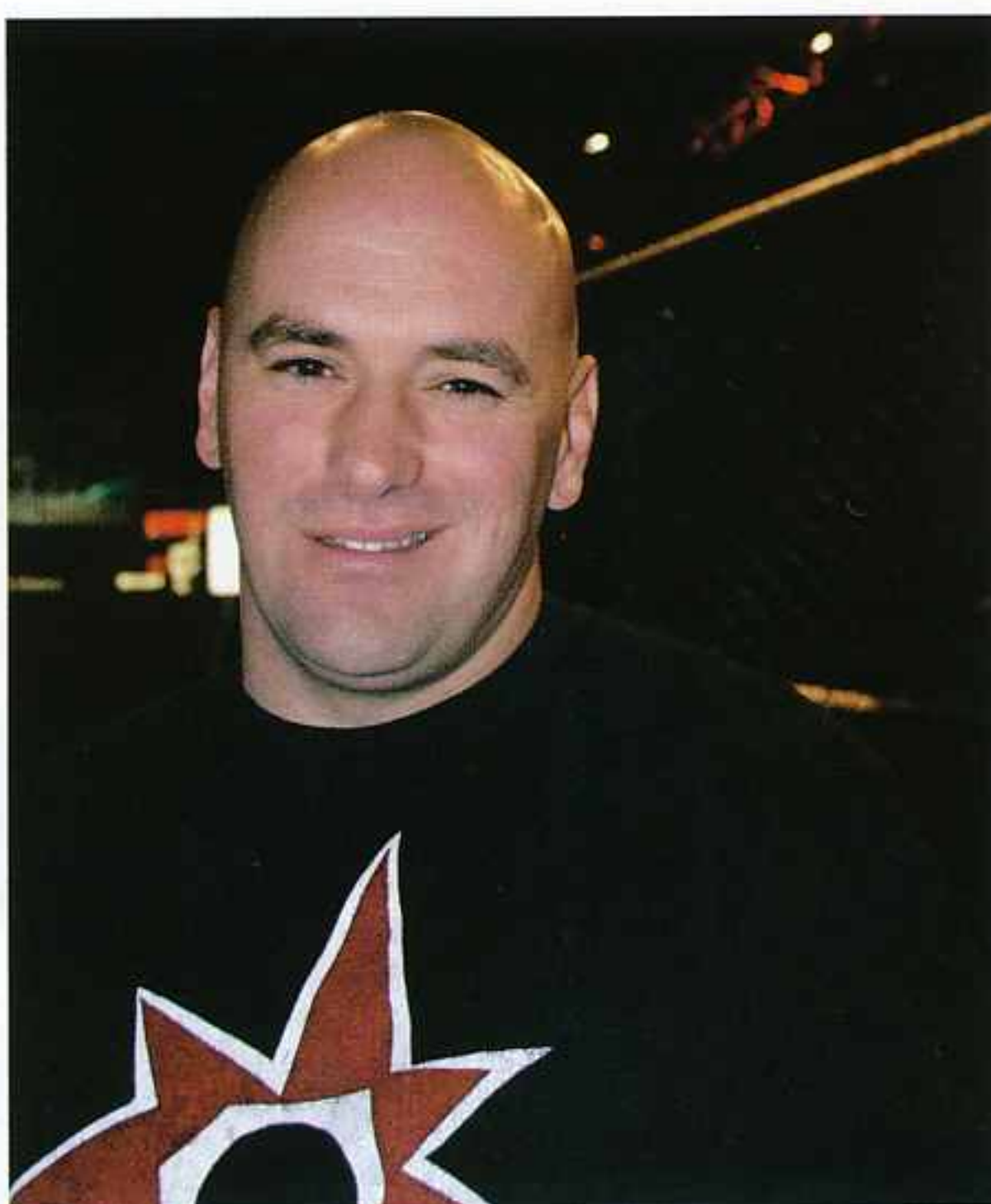
博士　谷川さん、もともとそうでしょ！（笑）。

谷川　博士はただ、つぶやいてるだけじゃないんだ。

博士　それは総合雑誌を作っているのと一緒ですよ。最初は上杉隆の記者クラブ問題や、後輩芸人のマキタスポーツがいかにおもしろいかっていうことを個人的には伝えたかったんですけど、ツイッターに新規参入するのは、老若男女いて、主婦なんかもいるわけじゃないですか。その層は上杉隆やマキタスポーツなんか基本的に興味ないですよ。それより子育て話のほうが反響が凄くあるわけですよ。結果、そういう人にも記者クラブ問題や、マキタスポーツも知らせることができる。そうやって広く話題を扱っていると、その総合雑誌の部数はそのまま支えられる。だから雑誌の編集長をやってることとまったく同じなんですよ、ツイッターをやってるっていうのは。

谷川　じゃあ安西さんとかターザン山本！はあまり取り上げないほうがいいの？

博士　それはワンコーナですよ。『kamipro』の中にターザンのコーナーがあったら目をとめる人もいる。でも巻頭カラーでやる必要はないでしょ。で、谷川さんは、いままで「K−1マガジン」とタイトルを打ちながら、しるこサンド専門誌をやってたということなんですよ（笑）。「日刊しるこサンド」を、毎回毎回、しかも強制的に送っている。K−1に興味を持ってフォローしたファンにとっては、これはえらい迷惑なんですよ（笑）。

谷川　ああ、いま気がついたよ。ホントにごめんなさ～い。でも、博士ってファンの質問に答えてないの？

な、な～んとフォロアー数が100万人を突破しているダナ・ホワイトUFC代表。はたしてサダハルンバはこの牙城を切り崩すことができんのか。どうでもいいが榊原さんのツイッターも見たかった。

水道橋博士×谷川貞治 ツイッター寺子屋対談!!

博士　ボクは自分でつぶやいてることのほうが多いけど、気になった質問には答えてます。

谷川　ボクは全部答えようするんだけど、あとからあとから質問が飛んでくるからたいへんなんですよ。気がついたら「もう深夜2時じゃん。もう帰んなきゃ」って

博士　繰り返しますけど、谷川さんがツイッターをやる目的は別でしょ。たとえばK−1の記者会見を中継しているU−streamに孫（正義）さんが出資して、5月に日本語化する動きがありますが、ということは、放送局を含めて2011年までにメディアの地殻変動が始まってるのはもう間違いなくて。そんなときにK−1というキラーコンテンツを持ってる谷川さんはいま踏んばりどきだと思うんですよ。ボク、そのことを直接電話で伝えたんですよ。

谷川　そうだねぇ。博士の助言どおり、ボクも孫さんにつぶやいたら、すぐに返事が返ってきたんですよ、孫さん本人から。

博士　それはなぜかというと、ソフトバンクの社員は全員がiPhoneを持たされてツイッターの登録を義務化されてるんですよ。もし孫さんが気がつかないにしても、すぐに社員が孫さんに報告するはずです。もちろん孫さんもツイッターをやっているから、いままで見えなかった民意の声がダイレクトに届いている。末端のユーザーの意見に孫さんが目を通しているんです。

谷川　凄いなあ。

博士　K−1も同じですけどね。いろんなファンの声が末端からトップまでフラットな条件で届くから、だからボクはツイッターを「目安箱」って言ってるんですけど。

谷川　なるほどね～。ええと、話を整理すると、しるこサンド以外にもいろいろテーマを持つことと、孫さんみたいに偉い人にもアプローチをする、と。孫さん以外には誰か偉い人はいるんですか？

博士　それは世界中にいくらでもいる（笑）。むしろ、日本に少ないくらいです。オバマ大統領もやってるし、ダライ・ラマもやってますよ。

谷川　ハマコーさん（浜田幸一）のツイッターはおもしろいらしいですね。

博士　最高におもしろいです。ホリエモンにビル・ゲイツのアドレスを聞いたんですから。「ビル・ゲイツの連絡先教えてください」って（笑）。で、ビル・ゲイツとスティーブ・ジョブスのことをわかったら、「ビルが親分でスティーブが子分か！」って。あれを読むだけでも「ツイッターやってよかったなあ」っていう多幸感に包まれるね。

谷川　博士は一日何回ぐらいつぶやいてるんですか？

博士　谷川さんほどじゃないですよ。一日平均で20回くらいじゃない。

谷川　そうかあ。ボクはただ質問に返事してるだけですもん。

博士　たぶん谷川さんはボクの倍ぐらいツイートしてますよ。でも、それはファンとともに民主的な会議をやってるわけだから、凄くほほえましいし、悪いことじゃないんですよ。悪いことじゃないけど、タイムラインがそれに支配されてしまうから、フォローを外される。それに谷川さんは、K−1を知らしめることが目的で、しるこサンドを売るのが目的じゃないじゃないですか。

谷川　しるこサンドは、ボクにまだなんのメリットもついてないですから。

博士　で、ボクがこうして谷川さんに意見することによって、「博士の介入が凄く不愉快だ」って人もいるんです。「なぜこういうファンとの交流の牧歌的な空間をあなたは壊していくんだ」と。それはオレも「たいへん申し訳ない。しるこサンド自体は愛せるし、ボク自身も読んで楽しいと思うけれど、谷川さん本来の役割はそれじゃないから」って説明したんですけどね。

谷川　しるこサンド、あんなにウケると思わなかったなあ。

博士　でも、谷川さんはツイッター有名人としてハブ空港になれば、K−1ファイタ

ーとの橋渡しだってできるんですよ。それはファンがツイッターを通して、格闘家たちの日常を垣間見るだけでも、ただ闘ってるのじゃなく、その日常までを想いを馳せるのは、言わば、煽りVみたいなものなんですよ。

谷川 なるほどね〜。あとは思ったのは、ツイッターって荒れないですよね。

博士 荒れないですよ。仕組み上、荒れにくいんです。ツイッターって面倒くさい人はブロックできるんですよね。「イヤ事言い」は読めないようにできる。荒れない理由の一つがそれ。

谷川 ふう〜ん、イヤなヤツはブロックできるんだ。

博士 でも、これが10億人がツイッターをやるようになったときに荒れる可能性はありますね。でも、いまの時点でもまだ荒れないんです。

谷川 ふ〜ん、ボク、たまにムカつくやつがいるけど、ホントに荒れないんですよね。

博士 それが何に似てるかっていうとテレビの連続性なんですよ。たとえば映画なら批評っていうのは累積して残っていくじゃないですか。2ちゃんねるなんかもそうだけど、語ることが累積しながら語りが語りを呼んでいくけど、テレビ評って要するに24時間、分単位で続々と新しいものが生まれてきてるわけだから、「さっきのドラマがどうだ」って話を永遠にしてられないんですよ。新しく供給されて以前のものは流れていく。ツイッターもタイムラインの流れの中にあるので、たとえば「谷川、気に入らないよな！」みたいな話があったとしても次の話題に消されていくんです。もちろん、ツイログみたいな方法もあって、さかのぼっていくやり方はあるんだけど、それ自体を2ちゃんねるの炎上みたいなかたちで問題視していくってふうにはツイッター自体の機能ができてないんです。だから逆に言えば、反省的ではなく将来的であり建設的なんですよ。

ツイッターって世の中が優しくなるような気がする

ツイッターって、人の属性、人柄が表われるんです

谷川 ボクさ、〝インターネット＝2ちゃんねる〟っていうイメージがあったんです。ああいうふうに荒れるもんだと思ってたんだけど、ツイッターって世の中が優しくなるような気がする。メチャメチャ優しくなる気がするよ。

博士 それはツイッターって、人の属性、人柄が表われるからでしょうね。ツイッターをより多く楽しむためには「自分が何者であるのか？」っていうことを示したほうが良いって法則があって。基本的にネットの掲示板って匿名じゃないですか。自分が何者であるかってことがわからないから発言できるんだけど、ツイッターっていうのは自分のツイートは残るわけじゃないですか。そこでネガティブなクレーマーっていうのは、そのツイートを見れば誰でもわかるようになってるんですよ。だからそういうクレーマーたちってやはり排除される傾向が高いんですね。だって常にケチをつける人って面倒くさいから。だからそういう部分で人柄、属性が見えていくから本人自身が悪ぶれないんですよ。悪ぶれないというより、いまのネットっていうのは匿名の中でいかに偽悪ぶるかってことを強いられるっていうか、感情的には煽られるものだったのが、ツイッターは匿名をやめてなるべく自分の実名で、ポジティブなことを言うほうが、より楽しいというかたちになっている。言葉を選べば、偽悪ぶるより優しさなり親切のほうが先に出ていってるんです。

谷川 そこはいいよね。善意を感じてみんな温かいし。しかし、博士は勉強してるなあ〜。

博士 でもね、やっぱ谷川さんはもともと雑誌編集者だったわけだから、この感覚がわからないとボクも困るんですよ。

谷川 わかりますよ。専門的なことはわからないですけど、感覚がわかるんですよ、ボク。

博士 その感覚がわかるから、いまある時間を延々と1000本ノックに費やすんじゃなくて、もう一回メディア戦略を見直したほうが、より良いと思うんですよ。

谷川 でも、ボク、博士ほどマジメにつぶやいてる人、あまり見たことないんだけど。

博士 そんなことはないですよ。谷川さんが、ほかの人のツイートを見ないからです。

谷川 みんな博士みたいにいろいろと意見を言ってるの？

博士 それは言っている人は言ってます。

谷川 みんな、「起きた、なう」とかそんなやつばっかりじゃないの？

博士 違う違う。初期のボクを含めて、ツイッターが「おもしろくない」って言う人は、みんなそれを口にするんですよ。ボクも始めて4ヵ月近く放置していたんだけど、その理由は「ラーメン食べてる、なう」「赤坂なう」とか、つぶやくことのどこがおもしろいんだってことだった。だけど、そうじゃないってのがわかってからおもしろくなった。

谷川 じゃあ、どんどんと意見を言ったほうがいいんだ。

博士 そりゃあそうですよ。谷川さん、麻雀やります？

谷川 やるやる。

博士 じゃあ、そのたとえで。「○○○な

う」って意味もなくツイートするのは、言わばノーテンであがってるようなもんですよ。一役もついてないんですよ。だから編集者だったら14牌を140文字と見立てて、その中でネタを作って、つまり役をつけて上がらないといけないとか思えばいいんですよ。だからボクもできるだけ役なしであがらないんですよ。

谷川 なるほど。役をつけるのか。

博士 質問に対して、「そう」だとか。「違う」とか一言答えるとか役なしの典型ですよ。じゃあ、高い役とは何か？　その役の評価ってのは、フォロワーの反響をハカリにするんです。リツイートが何個つくかなんです。たとえば50個のリツイートがついたら自然とツイッターのほうから「50個つきました」って報告が来るんですよ。

谷川 50個もリツイートされるの？

博士 めったにないですよ。だから50個リツイートされるのは、オレルールの中でいうと役満なんですよ。「今日は役満あがったよ」っていう感覚なんですよ。140文字の中でネタを組み合わせて、リツイートされやすい高い役を作る。それは自分の中での編集者ごっこなんですよ。逆に「今日は時間がないから役がなくてもあがっとこ」というときもある。ちょっと場を流した感じでね。

谷川 じゃあ、ボクの場合はあがらないで、ただ振り込んでるだけですね（笑）

博士 それはそれでまた「この人の麻雀スタイルなんだな」と思って楽しいけど。「あ、この人、振り込んでるだけで一回もあがらないな」とか。でも言わせてもらえると、「なんのためにこの雀荘来てるんだろ」って（笑）

谷川 ボクね、自分から率先してつぶやいたのは朝青龍が引退したときだけだから。

ボクは、
つぶやけないことが多い
かもしれないなあ〜。
んあ〜！

自分の
趣味嗜好が
一人じゃないって思える
楽しさはもの凄くある

水道橋博士×谷川貞治
ツイッター寺子屋対談!!

たにかわ・さだはる■1961年9月27日、愛知県出身。FEG代表取締役。『格闘技通信』編集長、サムライTVの運営を経て、K-1などの格闘技イベントのプロデュースを行なう。愛称はサダハルンバ、黒魔術師。口癖は「んあ〜!」。どんなに大爆笑しても目が笑わないことで知られている。

すいどうばし・はかせ■1962年8月18日、岡山県出身。お笑いコンビ浅草キッドのメンバー。漫才だけではなく、コラム連載などを多数手がけ、ライターとしての評価も高い。著作には『博士の異常な健康』、『筋肉バカの壁』などがある。相方の玉袋筋太郎は本誌変態座談会の名誉顧問でもある。

朝青龍が引退させられたのは、ホントにかわいそうだと思って。あとはみんなのツイートをリツイートするかわりに一言入れてるだけだからさ。

博士 ボクも12年間毎日ブログやってるけど、いままでコメントをつけたことないんですよ。要するに一方通行だけだったんです。もちろん、それは荒れるっていう側面もあるし、面倒くさいことに巻き込まれる恐れもあったから。昔からパソコン通信をやっていたからネットのリテラシーはあるんだけど、2ちゃんねる誕生以来、ネットっていうのはそういう悪意が充満してる空間だってずっと思ってたんですよ。だけど、ツイッターをやってわかったのは、オレと同じ趣味の人に出会えるってこと。いままで芸能界の中で『週刊文春』や『週刊新潮』を水曜日、前日に買ってきて読んで、「〜のコラムがおもしろい」みたいなことを話す人に一度も会ったことがない。だけどツイッターの中にならいっくらでもいるから。それは自分の趣味嗜好が一人じゃないって思える楽しさはもの凄くあるよ。

谷川 たくさんいるんだ。

博士 います、います。だからいろんな「変態」がいるわけじゃない。「自分しかいないや」って思ってることって。それは、たとえば、堀江ガンツ的に言えば、プロレスファンが昔、『週刊プロレス』を早売りで買って、プレッシャーって欄外の一行情報の常連投稿している、そういう仲間と同じでしょう（笑）

谷川 そうか、そういうふうにコミュニケーションをとらなきゃダメなんだなあ。ボクもやりとりしてるのが楽しいだけなんですよ。

博士 うん。もちろん、それでも楽しいでしょ？

谷川 それだけが楽しいんですよ。ファンとやりとりしてるだけが。

博士 それはボク、ほほえましくて素晴らしいと思いますよ。決して悪い印象をボクは抱いてはないです。むしろ「ファンに対し素直で凄く民意を汲む人だなあ」と思って高感度が増します。でも、それで新規のフォローを外されるのなら、K−1を知らしめる、本来のやるべきこととは逆行してしまうのが残念なんです。

谷川 なるほど。あんまりK−1のネタ、ないんだよな。ちょっと考えないと。つぶやけないことが多いかもしれないなあ。

博士 谷川さんなら日本人初の100万人を達成できますよ！

谷川 がんばりま〜す！

【10年3月4日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

ニューメディアに及び腰な人必見!
“つぶやき”の達人に学べ!!

プロフェッショナル ツイッターの流儀

いまや一般ユーザーはもちろん、有名人や政治家ユーザーも急増し、
一般企業が宣伝媒体として活用する事例も少なくないツイッター。
しかし、まだまだ「使い方がよくわからん!」という人もいるのでは?
ここでは“つぶやき”の達人たちのツイッター活用方法をご紹介!

手前味噌ですが
85点の活用術だと思います
(向井徹ワールドビクトリーロード社長調)

――津田さんはプロレスや格闘技はご覧になりますか？
津田　まぁ、たしなむ程度くらいですね。アントニオ猪木の引退試合はドームまで観に行きましたけど。
――なるほど（笑）。さて、今日はツイッターについてお話を聞かせていただきたいんですが、多くの読者はツイッターとミクシィやほかのコミュニケーションツールとの違いがわかってないと思うんです。
津田　まず一番明白なのは、ツイッターは会員制じゃなく誰でも参加できるツールなので、オープンであるという点ですね。
――閉じられたものではない、と。
津田　そうです。ミクシィというのは結局クローズドの世界で、そこである程度の信頼が置ける人たちと相互承認することによって、質の高いコミュニケーションをしましょう、と。それがSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）としての最初のあり方だったんですね。でも、そうなるとミクシィは会員制なので、その日記はGoogleには引っかからないんですよ。その点、ツイッターの場合は全部オープンなんで、誰が誰をフォローしているとか、こういうやりとりが行なわれているというのが一目でわかる。違いでいえばそこが一番大きいですね。
――情報を共有できるわけですね。
津田　あとはこの本（『ツイッター社会論』洋泉社刊）でも書きましたが、ツイッターはリアルタイム性という意味で、現実と結びつきが凄く強いんですね。たとえばミクシィでも、日記を書いて早ければ数分でコメントがつきますけど、ツイッターの場合は本当に秒単位で返事が返ってくる。その速度感がいままでのコミュニケーションツールと違うというのも特徴として挙げられますね。
――谷川さんなんかはツイッターでうまくファンと交流できてると思うんですけど、ツイッターでへんな人が絡んでくる恐れというのはどうなんでしょう？
津田　そういうことはツイッターの構造的には起こりにくいと思いますよ。たとえばブログだといわゆる炎上っていうものがありますよね。そのブログに300の批判的なコメントがつくと、それは固定化されて誰でもアクセスすれば見ることが可能になる。そのことによってブログを書いた本人はもちろん嫌な気持ちになるし、見る側の中にもそういう気持ちになる人もいるでしょう。
――確かに。
津田　でも、ツイッターの場合はそういったことがないんですよ。というのはツイッターの構造上、谷川さんのページは谷川さん本人の発言しか見れないようになっているので。もちろん谷川さんのうっかりした失言があったとして、それに対する批判的なコメントを谷川さん本人がリプライすれば僕たちも見ることはできるんですけど、ブログのコメント欄ほど固定化されているものではない。それはツイッターのコメントが更新されれば古いものからどんどん下に流れていくからなんですけど。もちろん、データ上は消えてないし、検索すれば引っかかりますが、炎上が固定化されないというのは相当大きなことだと思いますね。
――なるほど。
津田　あともう一つ、やっぱり「所詮は140字」っていうのもあるんじゃないですかね。それは書く側にとっても「140

“つぶやき”の第一人者がその魅力を語る！

「ツイッターをやると飲み会が5倍楽しくなります」

ツイッターの基礎用語「TSUDAる」（意味は各自調査）の語源でもある津田大介氏。ここでは津田氏にツイッターがいかにコミュニケーションツールとして優れモノであるか、実体験をもとにその魅力を語ってもらいました！

聞き手／ジャン斉藤、坂井ノブ　撮影／細田大志

サルでもわかる ツイッター 入門講座!?

字だから深いことは書けないや。ちょっと誤解を生むかもしれないけど、まぁいいか」っていう部分もあるし、受け取る側も失言だと思っても「140字だから言葉足らずなのかな」っていうふうにそんたくしてあげる部分があるというか。そういうユルい共犯関係みたいなコミュニケーションが成立するのも、炎上を起こりにくくしてる要因かな、と。

――ツイッターはそういう耐性のあるツールなんですね。

津田　そうですね。へんな人が入ってきてものさばることがないというか。たとえば2ちゃんねるでスレッドを炎上させてる人って、話題によっては3〜4人なんてこともある。極論ですが、1000個の発言のうち、一人200個ずつ炎上コメントを書けば800個になるわけで。

――確かにそうなりますね。

津田　でも、それは匿名だからできることなんですよね。オープンなツイッターで他人に対してネガティブなことを書いてる人は見向きもされないし、フォロワーも増えにくい。

――単純にヤなやつというレッテルを貼られるというか。

津田　そうそう。要するにツイッターでのフォロワーの数が、ある種の人気の指標になっちゃっているという。それにツイッターの場合はへんな絡み方をする人がいても、それをブロックして自分のタイムラインに出さない機能もあるので、言われた側の精神の安定も守ることができる。だから構造的に炎上に強いっていうのはあると思います。

――2ちゃんならまだしも、ツイッターに一人で200回も書き込んだら危険人物ですものね（笑）。

津田　それにそこまでいったらスパム報告されてアカウントが凍結される可能性もありますから。

――以前はクリエイターの人が2ちゃんの自分の書き込みを見て、自我崩壊に陥るみたいなこともあったと思うんですけど、ツイッターだとそういう部分で温かい感じになってる気がするんですよね。

津田　だから、僕なんかがツイッターを見ていて「いいなぁ」と思うのは、いままでだとネット上では〝善意〟というものがなかなか表面化しづらかった。でも、ツイッターだと凄く簡単に有名人とフラットにつながれて、「よかったですよ」というたわいないコメントであっても、〝善意〟を伝えることができる。賛否の賛がちゃんと浮き出るような構造になってるのは、大きなことだと思うんですよ。たとえ2割批判のコメントがあっても、8割は喜んでくれてるというのが可視化されることで、クリエイターもそれにすがって生きていけるというか。

ツイッターはネット上で表面化しづらかった〝善意〟を伝えられる

――ツイッターだと善意が見えやすい、と。

津田　僕もネットであらゆるサービスに触れてきましたけど、そういう面ではツイッターが一番充実してると思います。

――確かにミクシィにしろ、最近は悪意が表面化するようになってきてる気はしますね。

津田　最初はミクシィも実名推奨だったんですけど、結局は犯罪自慢だったり個人情報が漏れることで荒れていってしまい、2ちゃんねらーのおもちゃになっちゃった部分がありますからね。だから、ミクシィ自体が方針を180度変えて、「実名はやめましょう」というふうになっちゃいましたし。

――その点、ツイッターだと最初から実名の人が多いですよね。

津田　結局、いままでだとネットで実名や所属を出すとき、とくに普通のサラリーマンの人にとってはリスクのほうが大きかったわけですよ。だからみんなハンドルネームなんかを利用してたんですけど、「どうもツイッターは違うんじゃないか」ということを、みんな思い始めてるんじゃないですかね。実名を出して他人とフラットにかかわることによって、「どうやらメリットのほうが大きそうだ」っていうのに気づいている人が増えてきているというか。

――なるほど。

津田　それはツイッターがオープンであることで、事例としてもわかりやすいですしね。要するに、なんで一般の無名な人が有名人とこんなに対等にやりとりしてるんだろうとか。あとは、やっぱりフォロワーの数字が絶妙な仕組みなんですよ。メディアとしての影響力を持ちたいという個人の意識が、フォロワーの数を減らしたくないということにつながって、発言にリミッターをかける部分が出てくる。それによって殺伐さのないコミュニケーションが成立するというか。

――あの、よく「ツイッターは気軽にチャレンジするもの」みたいに言われてますけど、及び腰の人はあんまり深く考えないほうがいいんですかね？

津田　そうですね。結局、これが正しい使

まずは100人フォローしてコメントを流すのがツイッターを続けるコツ

い方っていうのはないですから。べつにフォロワーがゼロでひたすら自分の言いたいことだけをつぶやくっていうのでもいいし、逆に自分では一切つぶやかないで何千人とフォローするっていうのも楽しみ方の一つですし。ただ、せっかくアカウントを取ってもツイッターのおもしろさがわかる前にやめちゃう人も多いので、それはもったいないなって思いますけど。

――続けるためにはどうすればいいんでしょう？

津田　僕がおすすめしてるのは、とりあえず100人ぐらいフォローしろ、と。やっぱり見るたびに発言が流れてないと、リアルタイムなものにコミットするおもしろさみたいなものがわからないと思うんですよ。だから、まずは100人フォローしてコメントを流しましょう、と。有名人と友だちで100人フォローするのがきついのであれば、とりあえず同業者の人とかね。格闘技好きであれば格闘家の名前で検索をかければ、だいたい自分と価値観が近い同好の人なんかが見つかるから、それでフォローしていけば次第に増えていきますし。

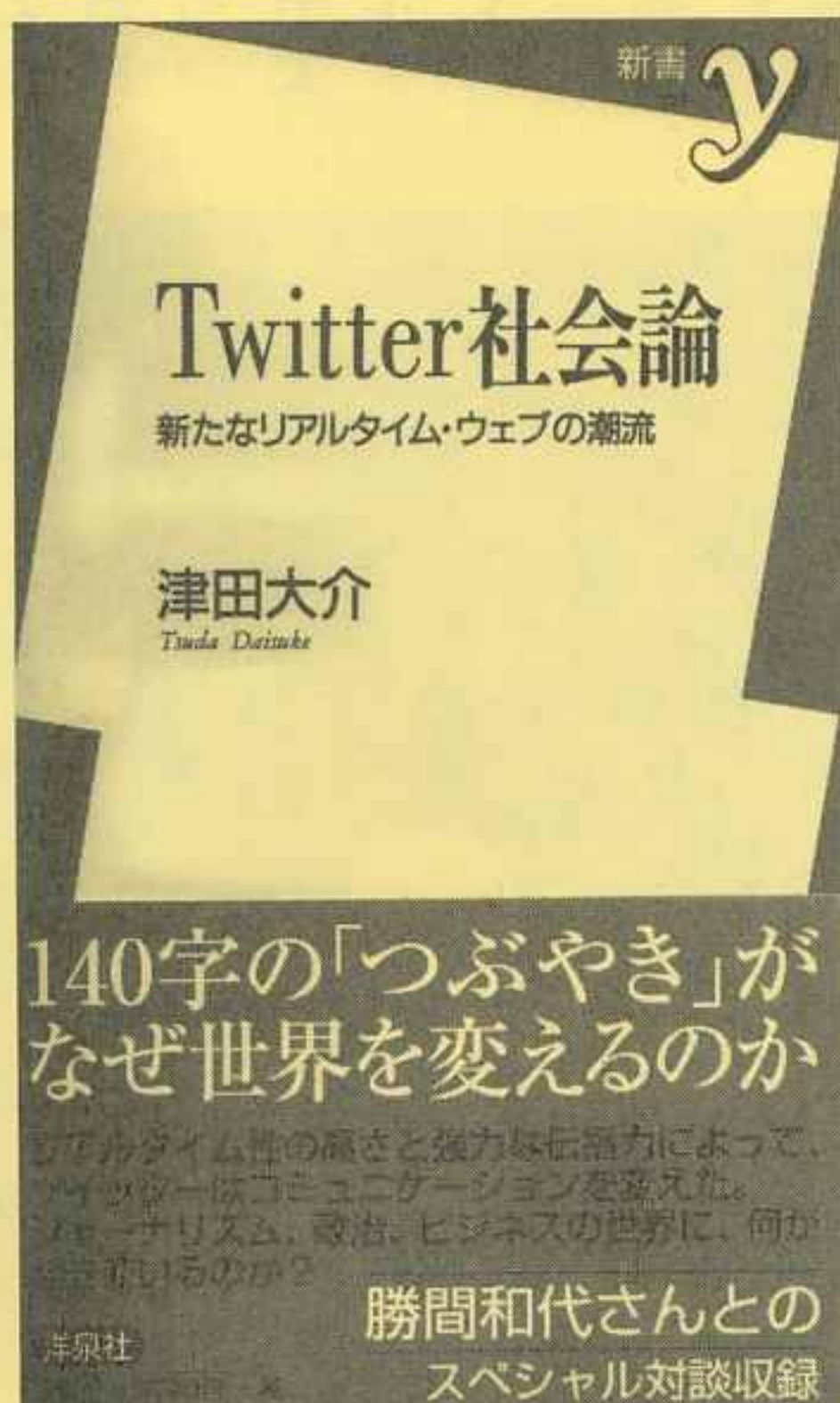
――なるほど。あの、じつは『kamipro』のアカウントで最近フォローする、しないで某団体のスタッフとひと揉めしたんですね。「なんで『Kamipro』は俺のアカウントをフォローしないんだ」っていうことを、罵詈雑言まじりにブログに書かれて（笑）。

津田　あぁ、それはミクシィっぽいですね。超ミクシィっぽい（笑）。

――ダハハハ！　ミクシィっぽい（笑）。で、しばらく放置してたら、向こうから「うちの団体も取材してくださいよ」っていうふうに、シレッとコンタクトを取ってきたんですよ。それで「じゃあ、あなたが出てきてください」というかたちでポッドキャストに呼んで、「なんでああいうことを書いたのか？」っていうことを延々と問い詰めたんですけど。

津田　それは凄いというかひどいですね（笑）。まぁ、そもそもプロレスや格闘技というのは、ジャンルとして2ちゃんなんかでも凄く荒れてますもんね。

――そういう環境にある中で、ようやくK-1や新日本プロレスもツイッターをうまく利用しようという動きが出てきたなって感じがしてるんです。ちなみに他ジャンルで、ツイッターを利用してビジネス的に成功した例はあるんでしょうか？

新書y
Twitter社会論
新たなリアルタイム・ウェブの潮流
津田大介
Tsuda Daisuke
140字の「つぶやき」がなぜ世界を変えるのか
勝間和代さんとのスペシャル対談収録
洋泉社

昨年11月に発行された津田氏の著書『Twitter社会論』。ツイッターを通じていま社会にどんな変化が起きようとしているか、ジャーナリズムやビジネスなどさまざまな観点から語られている一冊なのである。

津田　企業レベルでもずいぶん成功例が出てきてますよ。一番わかりやすいのは冷凍食品メーカーの「加ト吉」ですね。あとはスポーツショップの「XEBIO」。ほかには牛丼の「すき家」や、サンドウィッチの「SUBWAY」だったり。企業アカウントの中の人の〝顔〟が見えるようなかたちで消費者とコミュニケーションすることが、結果的にブランディングにつながっているというケースが多いですよね。

――ツイッターによって消費者との結びつきが密接になるというか。

津田　あ、あと忘れちゃいけないのがあれですね、ソフトバンク。代表取締役社長の孫正義さんがアカウントを持ってるので。ほら、ソフトバンクってぶっちゃけた話、イメージはよくはないじゃないですか？

――まぁ、そうですね（笑）。

津田　Yahoo！BBの件や、ソフトバンクの携帯電話にしても「安かろう、悪かろう」の代名詞みたいなイメージもありましたし。でも、ソフトバンクがユーストリーム（ネット上の動画中継サービス）への出資を発表した際に、ツイッターでユーザーが孫さんに「専用スタジオを作ってください」ってつぶやいたら、「OK、わかった」みたいなやりとりをしたとか（笑）。

――即決ですね（笑）。

津田　あの人のツイッターを見てると、壮大なことばっかりつぶやいてて、それこそ猪木みたいなことばっかり言ってるわけですよ（笑）。でも、そうして孫さんがツイッターを活用していくことで、実際にユーザーのソフトバンクに対するイメージはグンと上がってますからね。だからこれから孫さんがますます注目を集めれば、おそらく通信業界の「安かろう、悪かろう」みたいなイメージもちょっとずつ変わっていく可能性はありますよね。

――谷川さんのつぶやきもまだ規模は小さいですけど、これからなんらかの可能性が生まれるかもしれないですね。

津田　そうそう。だから水道橋博士はもうちょっと谷川さんには孫さんっぽいことをつぶやいてほしいって言ってましたね。しるこサンドが好きなのはわかるけど、そんなにしるこサンドの話だけしなくてもいいだろっていう（笑）。

――でも、コマーシャル効果はけっこう大きいですよね。

津田　大きいと思いますよ。だから僕も最近、『ツイッターノミクス』（タラ・ハント著、文藝春秋刊）っていう本の解説を書いたんで、「オススメですよ」みたいなかたちでつぶやいたんですけど、それだけでアマゾンでは200冊売れてるらしいですから。

――凄いですね～。

津田　だからそれぐらいの影響力がツイッターにあるってことですよね。

――ただでさえいまは不況で企業広告が出しにくい状況なのに、そういったツイッターでの宣伝の効用が広まっていけば、さらに減っていきそうですね。

津田　やっぱり情報の流通経路が変わってきてる感じはしますよ。だからもう、メディア企業というか情報で商売するような仕事であれば、ツイッターをやらない理由はないっていうのが僕の考えなんです。それはなんでかといえば、ひとえにコストが安いからであって。結局、オフィシ

ャルサイトを作ろうとしたらどんなに安くても10万とか、ちょっといいの作ろうと思ったら100万とかかかるのに、ツイッターの場合はゼロですからね。

――アカウントを作ればいいだけっていう。

津田　そう。あとは専任の担当者を一人つければいい。それで成功すれば、さらにいろんな商売につなげやすいわけですし。もちろん、リスクはゼロじゃないというか、ツイッターのふとしたつぶやきでいろいろ叩かれたりするようなこともあるかもしれないですけど、いま成功してる企業のツイッターを見ていれば、「こんなふうに運営すればいいのかな」っていう基本的なやり方もなんとなく固まりつつありますしね。そのうえでさらにどれだけおもしろいことができるか、チャレンジもできるっていう意味で僕は絶対にやるべきだと思いますね。

――べつにつきっきりじゃなくてもいいわけですしね。

津田　やっぱりツイッターのおもしろいのは、企業アカウントでも担当者の顔が凄く見えやすいってことなんですよ。そのやりとりも可視化されるから、粘着質なクレーマーもつきにくい。そういうやりとりはいままでは閉じられてたわけですよね。たとえばお客様相談室で6時間くらい話をして、「で、結局なんなんですか?」って話をまとめると、140字くらいで済む用件だったりすることも珍しくはなかったと思うんですよ（笑）。

――なるほど（笑）。

津田　ツイッターの場合は最初から質問する側も140字に収めなきゃいけないし、回答する側も140字で答えればいい。しかもオープンになってるという意味では、粘着質な相手に対してもちゃんと丁寧に答えていると、受け手側の評価が上がるっていう現象も起こってますからね。最近だとNHKの広報担当者の評判がいいのもそういうことですし。やっぱりオープンであるということは相当「重要なんだなぁ」と思いますね。

――そのオープンという部分でいうと、我々の業界って凄く閉鎖的なんですよね。

津田　うん、でしょうね（笑）。

――ダハハハ！　ちなみにそれはどういうところに感じますか?

津田　いや、情報の経路がそんなに複数ないですものね。

――それと同時に書いちゃいけないことも多いというか。団体によっては独自のサイトを持っているので、試合結果の速報に関しても解禁時間を設定されてたりするんですよね。

文中にあるようにいまやイベント側の正式発表がある前に、カード情報などが瞬く間にネットで広まってしまうという無法状態。団体側もマスコミもこのあとどのように向き合っていくかが問われる時代だ。ちなみに写真の人物はワールドビクトリーロード新社長の向井徹氏。サダハルンバのようにツイッターに登場する日も近い?

津田　規制があるわけですね。でも、お客さんは普通にツイッターでつぶやいたり2ちゃんに書いたりするわけだから、あんまり意味がないんじゃないですか?

――そこの部分で葛藤までいかないまでも、おかしいなって思うところはありますね。たとえば格闘技業界だと、カード発表の際に我々メディアの人間は事前に知っていたとしても、それをフライングでしゃべっちゃいけないという暗黙の了解があるんですよ。でも、外国になると当の選手本人が勝手に公表しちゃってるっていう（笑）。それによってファンも事前に情報を知ってるのに、メディアだけが言えないという状況にあるというか。たぶん、このあり方で雑誌を続けていくの凄く苦しいんだろうなとは感じますね。

津田　メディアという立場で続ける以上、ある程度は業界の統制を受けなきゃいけないということですよね。それこそ、禁を破ったりすれば取材拒否みたいな話になっちゃいますもんね。でも、そういう状況が続くと、ファンも雑誌を買う意義が薄れていくんじゃないですか?

――だから自分でもだんだん「何をやってるんだろうな」って思ってます（笑）。そこでメディアの姿勢を問われちゃうというか。で、うちがツイッターを始めてから全部は明かさないまでも、情報を小出しにするようにして、ちょっと団体との距離を測ってるんですよね。このあいだも噂に聞いてたカードが流れたとか、今度参戦する選手はこれだっていうのを実名は明かさないまでもサラっと書いたんですけど、とくに団体側からクレームもこなくて。

津田　そういうことを実験するにはいいツールですよね。まぁ、たぶん団体側もそんなにチェックもしきれてないんだと思いますけど。

――それはあるかもしれないです（笑）。いま、政界なんかじゃ、もう記者会見もオープン化みたいな感じになってますよね。

津田　そうそう、民主党政権になってオープンになりましたね。それにもやっぱりツイッターがリンクしてる部分は大きいですし。

――そういう時代の流れを、我々の業界もどう理解するかっていう話になってきてると思うんですよ。

津田　端から見ていても、プロレスや格闘技業界自体もあきらかに一時的なバブルの状況から縮小して、これからはどう生き残っていくかみたいなところですからね。その方法を探るツールとして、ツイッターは可能性を持ってると思いますよ。情報を共有して、誰とでもすぐにつながれるというものを凄くコンパクトに可能性として示してくれたのが、ツイッターだと僕は思っているので。まぁそうは言っても、結局のところは共有した楽しみの中でも、本当に重要な情報っていうのは140字じゃ語れないじゃないですか?

――確かに足りないかもしれないですね。

津田　だから、僕はむしろツイッターっていうのは、リアルの価値を高めるツールだと思ってるんですよ。140字でやりとりをしていて、「あぁ、もどかしいや。直接会って話そうよ、飲もうよ」みたいな話につながりやすいというか（笑）。オープンにしていい情報はできるだけオープンにする一方で、逆に実際に会って話さなきゃいけないクローズドみたいな情報

津田大介

の価値がより高まっていく。ツイッターを通してそういう二極分化が起きてる感じが凄くしますね。

――二極分化、ですか。

津田　はい。それは僕にとってみると健全なことというか、「いいなぁ」って思いますけどね。あの、ツイッターがあると飲み会が楽しくなるんですよ（笑）。

――なるほど（笑）。あれですね、そう考えると140字っていうのは絶妙な数字なんですね。全部は書けないというか。

津田　そうですね。だから本にも書きましたけど、なんで140字かというと、87年ぐらいにドイツの学者がGSMの携帯の規格を決めるときに、どのくらいの文字数があればいいのかを調べた結果なんですね。調査対象としていろんなポストカードを何千通って調べた結果、そこに書いてある文字数の90何パーセントが150字以下だった、と。つまり人間がメッセージを最小単位で伝えるには150字くらいあればオッケーということで設定されたわけで。

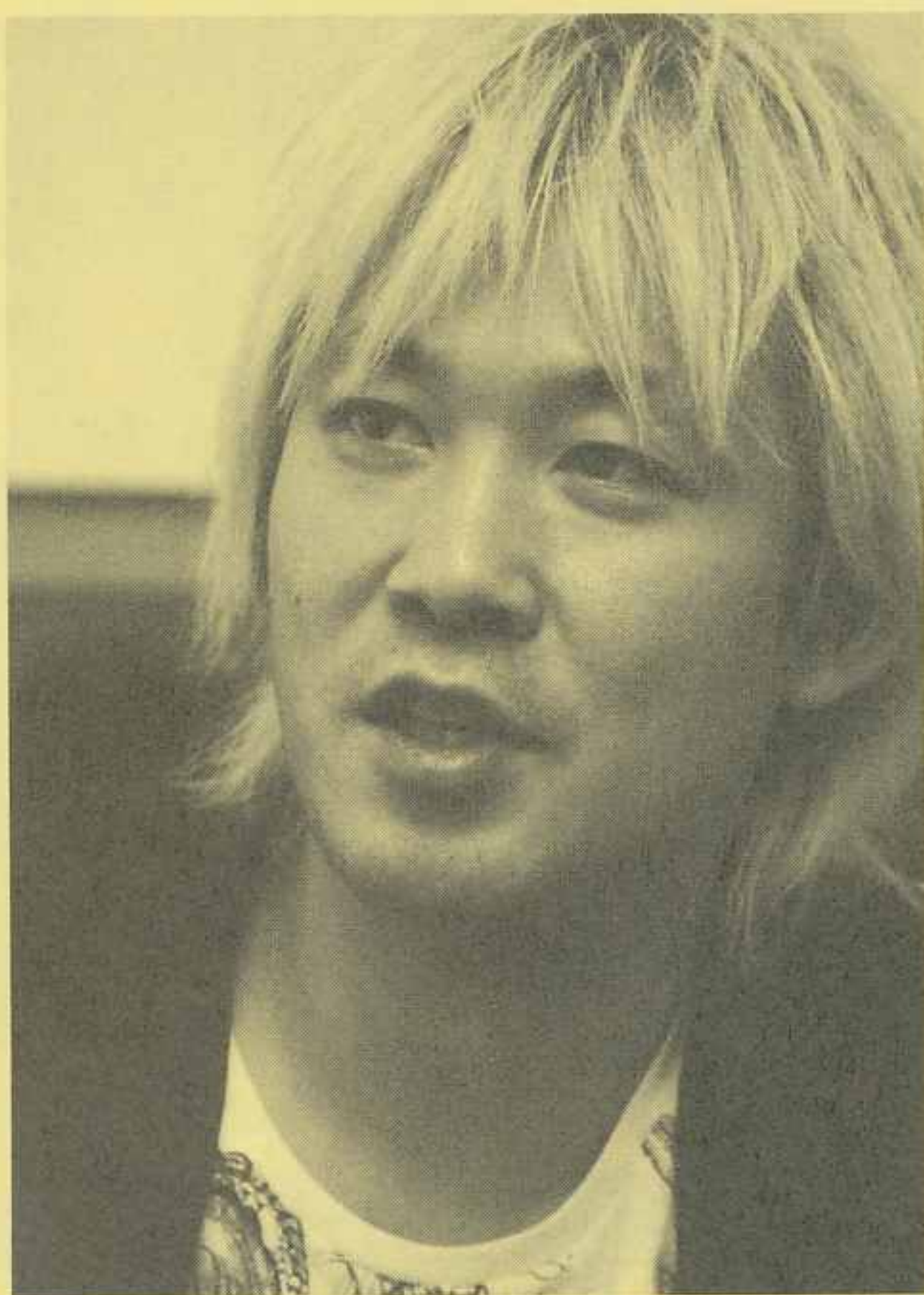
――それがツイッターにも活きてきてるわけですね。

津田　そうですね。メッセージの最小単位でコミュニケーションをするというのがじつは凄く理にかなってるというか。あの、ツイッターを読むことに関連性があるかどうかはべつとして、いまって間違いなく人間が一番文字を読んでる時代だと思うんですね。たぶん10年前、20年前とかに比べれば人が格段に文字情報に触れている時代というか。

140字では足りないものがある。その先の入り口になるのがツイッター

――情報があふれているだけに、読み手側がどう整理していくかっていうことですよね。

津田　僕のこの本もツイッターを利用して宣伝したことで、いま4万2000部売れてるんですけど、そういう文字情報をリアルなものにつなげやすいのがこのツールのよさだと思いますね。140字では足りないものがある、その先の入り口になるツールというか。その先がもしかしたら雑誌なのかもしれないし、携帯の有料サイトなのかもしれない。あらゆるところにつなげるためのハブみたいな存在というか。

――津田さんは本の中でも「ツイッターは既存のメディアを駆逐するようなものではない」って書かれてました。

つだ・だいすけ■1973年11月15日、東京都出身。2002年に個人運営のブログ「音楽配信メモ」を立ち上げ、ジャーナリスト活動を開始。07年にインターネット先進ユーザーの会（MIAU、現・インターネットユーザー協会）を設立。主な著書は『だれが「音楽」を殺すのか?』、『仕事で差がつくすごいグーグル術』など。

津田　そうですね。むしろ補完するものだと思います。

――でも、たとえば谷川さんがマスコミを介さずに直接ファンとツイッターでやりとりすることによって、うちの業界でも「マスコミはもう必要ないんじゃないか？」みたいな心配をする声も一部では出てきてるんですよね。

津田　まぁ、でもあの谷川さんのつぶやきでは、谷川さんの考えていることや戦略なんかが、べつにまとまったかたちでわかるわけじゃないですから。谷川さん個人のパーソナリティを知る手助けにはなるけれども、それも全部を知ることができるわけじゃないと思いますし。ただ、読者に何かを届けるときに、こういう雑誌という形態がビジネスモデルとして、はたしていま理にかなってるのかっていう話ですよね。

――そうですね。

津田　単純に紙はコストがかかっちゃうんですよね。流通手段の問題もあるし。

――ツイッターは本当にかからないですもんね。

津田　だから、やっぱりメディアが何かの実験をするときにツイッターを中心軸に置く。そうすることで自分たちのやりたいことの展開につなぎやすくなるっていう感じはしますね。あの、最近僕もやっぱりこういう取材を受けることが増えてきて、「ツイッターの魅力を一言でいうと？」みたいな質問が凄く多いんですね。

――ちなみになんて答えてるんですか？

津田　最近は「話が早い」って答えてるんです。あとは「飲み会が5倍楽しくなる」っていう（笑）。

――やっぱり飲み会が楽しくなる（笑）。

津田　でも、本当にそうなんですよ。やっぱりツイッターってコメントがどんどん流れていっちゃう危機感みたいなものがあるから、話が盛り上がったときに「じゃあ飲もうか」ってなりやすいですし、それを見ていたほかの人が「俺も参加していい？」「あぁ、いいよいいよ」みたいな感じで広がりが生まれやすい。このスピード感っていうのが「凄くいいな」って思いますよね。それが僕にとってツイッターの一番楽しいところかなぁ、と。

――社交辞令じゃ終わらないわけですね。

津田　そうそうそう。「飲みましょう」「じゃあいつにします？　僕、〇日空いてますけど」っていう、それが言いやすい雰囲気もツイッターにはありますしね。

――そうか～。なんかこういう話を聞いてると、ツイッターがこれから人の生活に欠かせないものになってくる気がしますね。

津田　もう、本当にそうだと思いますよ。たとえツイッターがなくなっても、またべつにこういうツイッターっぽいリアルタイムを共有するサービスというのは、たぶんなくならないと思いますし。だから「ツイッターに依存してどうするんだ」みたいな風潮もあるとは思うんですが、そんな次元の話じゃなく、単純に人々のコミュニケーションの回路が変わりつつあるということなんじゃないかな、と。やっぱり時代はオープンなんだってことだと思いますよ。

［10年3月1日／都内・某所にて収録］

——今号でツイッター特集をやらせてい

はけっこうあるんで。だから案外ネット

を感じる人も多かったと思うんですよ。

す。

プロレス界にIT革命!?

待ち画はAKB48の
篠田麻里子なう

元2ちゃんねらーにして日本人レスラーで最初にミクシィを始めた男のツイッター活用術

DDTプロレスリング社長
高木三四郎

日本プロレス界で一番最初にツイッターを始めたプロレスラーがDDT社長の高木三四郎だ（※黒歴史除く）。早くからブログ、ミクシィ、YouTubeなどネット系メディアを有効活用してきた高木社長率いるDDT。プロレス界はネット系メディアとどう向き合うべきか？

聞き手／ジャン斉藤　撮影／阿修羅チョロ

——今号でツイッター特集をやらせていただいていまして、各方面のいろんな方々にお話を聞いているんですが、今日は日本のプロレス界で初めてツイッターをやられたという高木社長にもお話を聞かせていただければと思っています。

高木　厳密に言えば一番最初はプロレスラーかどうかは置いておいて、『マッスル』に出てる酒井一圭くんが一番で、二番が誰かで、三番が内田（祥一）くんですね。ブロガーの「ブラックアイ2」情報だと（笑）。とりあえずボクは、そのへんの黒歴史を抜きで考えると事実上の一番ですね。

——見出しにもなりやすいんで一番ということにしておきましょう（笑）。

高木　全然問題ないと思います（笑）。

——でも、いまだにプロレス界ではインターネットなどに抵抗がある人が多いと思いますし、ツイッターをやってる選手もそんなに多くないですよね。

高木　でも、けっこう陰で見てるという人は多いですよ。誰とは言えないですけど、ネットに書き込んだりしてるレスラーや関係者も知ってるんで（笑）。

——まあ、いるでしょうね（笑）。

高木　ボクは2ちゃんねるに関して言えば、一時期、名前を出して書いていたんです。それってボクとTAKAみちのくと、菊澤光信（菊タロー）ぐらいだと思うんですけど。でも、ボクらは名前つけて書いていただけマシなほうで、「この人とこの人しか知らないはずの情報がなんでアップされてるんだろう？」みたいな自作自演はけっこうあるんで。だから案外ネットを知らないとか、わからないって言っても、やってる人は多いですよ。

——そういった中でも、高木さんはミクシィも含めて始めるのが早いですよね？

高木　そうですね。ミクシィは日本人レスラーでは一番ですね、間違いなく。

——ミクシィは確実に一番ですか（笑）。

高木　ボクはIT系の会社の人に紹介してもらって始めたんですけど、まだミクシィが流行る前からなんで。ホントはもっと前に勧められてて、すぐにやってればアカウントも何百番台だったはずで。

——若い選手はそうではないかもしれないですけど、プロレスラーや格闘家がそういったツールを使ってファンとのコミュニケーションをはかるというのは抵抗を感じる人も多かったと思うんですよ。高木さんは抵抗はありませんでした？

屋台村プロレス時代、ファンの評価が知りたくてパソコン通信を始めたんです

「ダッチワイフのプロレスがあるらしい」と自身のラジオ番組で発言した伊集院光。自身もツイッターをやっていることもあり、それがヨシヒコと判明。高木社長とのやりとりもあって実際に伊集院はDDTを観戦。凄い！

高木　自分はあまりなかったですね。生まれが、屋台村プロレスという、わりと卑しい出だったんで（笑）。

——そういうのも関係するんですかね（笑）。

高木　屋台村プロレスって、当時メディアはどこも追いかけてくれなかったんで。まあ、ボクがメディアだったら、「あんなところ絶対に取材なんか行かないよ」というぐらいアマチュアプロレスとプロレスの境目だったというか（笑）。高野（拳磁）さんがやってた頃はまだプロとして扱われていたんですけど、ボクが入ったのは高野さんが抜けて、抜けた連中でやってた時期だったんで。当然、メディアも来なかったし、ファンにどう評価されているのか正直わかんなかったんですよ。

——マスコミが来なかったらそうでしょうね。

高木　高岩（竜一）選手が2〜3回観に来てたりとか、成瀬（昌由）選手や坂田（亘）選手もリングスの道場がわりと近くにあったんで観に来てたっていのはありましたけど（笑）、結局ファンにどう評価されているかがわからなくて。で、屋台村に来てるようなコアなお客さんと仲よくなったら、当時パソコン通信というのがあったんですけど、富士通さんが主導でやっていたニフティ・サーブのパソコン通信のサービスの中に「FBATL」というフォーラムがあったんです。

——あ〜、なんかありましたねぇ。

高木　そのプロレス・格闘技のフォーラムの14番会議室がインディー関係の会議室で、そこに「屋台村のこと書いてますよ」ってファンが言ってて。「なんですか？それ」って聞いたんですよ。当時はネットとかも全然疎くて、プリントアウトしてきてもらったんです。それを見たらファンの人がいろいろ観戦記を書いていて、そこで初めて、「あっ、オレたちのことを評価している人がいるんだ」っていうのが最初で（笑）。

——屋台村プロレスにとって唯一のメディアがパソコン通信だったと？

高木　そこが出発点なんですよ。当時はパソコン通信での評価がすべてで、『週プロ』、『ゴング』、『ファイト』、『東スポ』、たぶん『紙のプロレス』はまだなかったと思いますが、いくつかの同人誌系もあったんですけど、そこからもボクたちは黙殺されてましたからね（苦笑）。

——同人誌からも黙殺（笑）。

高木　だからうれしくて、すぐにモデムとか買ってパソコン通信を始めて。で、やっぱり凄くうれしかったんで思わず書き込んじゃったんですよ！（笑）。

——もしかしたらパソコン通信にも初めて書き込んだプロレスラーとか？

高木　かもしれないです。そのうち、だんだんとパソコン通信からインターネットに移行してきて、ホームページとかみんな持ちだしたりして。だから、そういった時代の流れに沿ってる感じで。だいたい、80年代後半から90年代の頭ってパソコン通信なんです。で、90年代の半ばぐらいからインターネットに切り替わってきて、ホームページとかを持ちだして、観戦記

や掲示板を作るようになった。まだ2ちゃんねるはあるかないかわからないぐらいのときで。2000年に入るぐらいにブログができた感じですね。

——団体や高木さん個人としてメディアを使って戦略的に宣伝してきたわけではなく、自然と使うようになった感じで？

高木　そうですね。最初はそういった戦略とかは一切なかったんで。ただ単に、当時評価してもらえるということが凄くうれしくてやりだしたっていう感じで。

——当時は『週プロ』だったり『ゴング』といった既存のマスコミに対してはどう思ってました？

高木　もちろん、既存のマスコミさんからお話が来たら、それはそれでうれしいんですよ。ただ、あまり大っぴらには言えないですけど（笑）、自分の中では専門誌にプッシュされて伸びてきたっていうのはないんです。『週プロ』や『東スポ』にプッシュされたというのもないし、失礼な言い方かもしれないですけど『kamipro』にも……（苦笑）。

——すみません、プッシュした記憶はないです（笑）。

高木　でも、専門誌の中にはよくしていただいた方々もいますし、その中には「オレがここまでDDTを大きくした」という方もいらっしゃるかもしれないですけどね（笑）。

——担当者はみんなそう思っているかもしれない（笑）。

高木　そういうのも多少はあると思うんですけど、そこまで強くは思ってなくて。そんな中から来てるんで、インターネットもそうだし、ファンの声をダイレクトに拾えたり、やろうと思えばダイレクトにやりとりできるという環境や体制自体っていうのは、ボク自身はツールとしていまのプロレス界には必要だし、効果もあると思っていて。そういうのに対して拒絶反応を示すプロレスラーっていうのは、「プライベートを見られるのが怖い」とか、「へんなこと書いちゃいそう」ってことだと思うんですよ。実際、へんなこと書いている人もいますし（笑）。

プロレス界初のツイッター上での抗争劇を繰り広げているのが新日本とDDT。といっても、ほとんどが新日本公式ツイッターの広報的存在のガオと高木社長のやりとり。きっかけは高木社長が手にするディーノ。詳細は各自調査ガオ!

——中にはいますよね（笑）。

高木　あとは「叩かれるのが怖い」っていう人もいるんでしょうけど、自分なんかは初期の段階で叩かれ慣れてるんで免疫がかなりついてるんです。

——具体的にどういったことで叩かれたりしたんですか？

高木　ボクとTAKAみちのくでインターネットを通じてアメリカと日本でやり合った抗争があったんですよ。要はTAKAが『週刊プロレス』でDDTを批判して、ボクらがそれに対して噛みついてっていうのがあって。TAKAは当時WWEだったんで、ネットを通じてのやりとりだったんですけど、そのときに作った掲示板上でボロカス叩かれたんです。

——もちろん、応援してくれたファンもいたわけですよね。

高木　ウチのコアなファンも後押ししてくれたんですけど、結局そういう人は良識ある人が多いんで、ある程度言ったら引いちゃうんですよ。でも叩き慣れているような、ネットごろ、みたいな連中がよってたかって来たりして、ボクらもかなりまいっちゃった部分があって。

——見るのも嫌なぐらいのバッシングだったんですか？

高木　そうですね。で、当時はIPが取れる掲示板だったんで、IPチェックしたら文章変えて叩いているヤツは同じだったみたいな（笑）。

——いまでも多いって言いますよね。でも、そういった新しいメディアに対して団体として戦略的に取り込もうと思ったのはいつぐらいからですか？

高木　かなり初期からですね。やっぱりそこは単純にうれしいという感情はあったんですけど、メディアは載せてくれなかったんで、告知はパソコン通信やインターネットだったり、ブログやミクシィだったりで、しなくちゃいけないなというところでは初期の頃からやってたんで。

——で、ここ最近、ツイッターを利用するプロレス関係者も増えてきましたけど、これまでのメディアと違う点というのはどのへんですか？

高木　やっぱりストレスなくできるというのが一番ですね。ブログとミクシィというのは非常に似てるんですよ。書ける文章の長さはほぼ無制限ですし、画像も何枚もアップできますし、やろうと思えばかなり表現は自由自在なわけです。でもその反面、全部見なくちゃいけないような、そういう感にとらわれたりだとか、見られているという側からすると長い文章を書かないといけないのかなとか、そういうのがストレスになるんですよ。

——ツイッターと違って一行で終わらせられないとか？

高木　そうそう。それに、観戦記みたいなものとか、高木三四郎という社長の立場として見た興行論とかは書くのは苦手なんです。実際、見たものをすぐに忘れちゃうというのもあるんですけど（笑）。

——立場的に書きづらいというのもあるでしょうし。

高木　正直それもありますね。そういう意味ではツイッターというのは140文字以内なんで気楽に書けるというか。

——新日本の公式ツイッターで広報的な役割をしているガオともツイッター上で抗争したりもしてますよね。

高木　一連の新日本さんのガオとの抗争なんかは毎回が詰め将棋みたいなもんですから。自分としても「テメー、コノヤロー」みたいなことは書きたくないんで。

——いわゆる、ありきたりのプロレスラー言語は使いたくはない、と。

高木　そうですね。ボクのプライドとか、これまでのネット人生からすると、そういった安易なやりとりはしたくないというか（笑）。正直、格好悪いと思うし、いかにスマートな文章で相手にダメージを与えられるかということを考えてますね。もちろん、向こうも業界大手っていうプライドもあるでしょうし、そういうのを前面に押し出すようなことはしてこない

人間的におもしろくない人はプロレスもツイッターもつまんないと思います

と思うんで、お互い、どう切り返そうかっていう部分では凄く頭は使いますね。

――しかも向こうは一人じゃないみたいですし。

高木 6人いるらしいですからね（笑）。まあでも、あれで新日本プロレスさんに対しての見方は変わりましたね。こういう人たちがやってるんだ、と。

――ガオの登場でだいぶイメージは変わりましたね。ほかにも政治家だったり、谷川（貞治）さん、ソフトバンクの孫（正義）さんなどツイッターによってイメージが変わった人も多いですよね。

高木 そうですよね。自分なんかは昔からやっていたから、やってあたりまえって見てる人たちも多いと思いますけど、新日本の人たちがあいうことをするっていうのは4～5年前までは考えられなかったですからね。だから、イメージ戦略としては成功ですよね。だって、いままでのメジャーファン、新日本ファン、一般のライト層のファンにプラス、インディーのコアなファンとかをツイッターで取り込めたわけですから。

――少なからずプラスになってますよね。今後のプロレス界でツイッターが及ぼす影響についてはどうお考えですか？

高木 ツイッターを始めて「これは凄い」と思ったのは情報の拡散の速さなんですよ。それはブログやミクシィよりも全然速いと思うんで、そこは団体とかは有効活用するべきじゃないですかね。

――団体だけじゃなく、選手もやったほうがいいと思います？

高木 やり方次第になっちゃいますけど、ボクはやったほうがいいと思いますね。誰とは言わないですけど「なんでやらないんですか？」と聞いたら、やっぱり「日常が見えちゃうのが怖い」という人が多いですし。結局、「リング上以外は見せたくない」と。とくにプロレスというジャンルはそうなのかもしれないですけどね。

――それこそ、ブログやツイッターの内容で評価を落とす人もいますからね。

高木 いますよね。でもだいたい、そういう人は人間的にも本当におもしろくない人だと思うんです（笑）。

――ブログやツイッターがおもしろくない人は人間的にもおもしろくない、と（笑）。

たかぎ・さんしろう■本名＝高木規。1970年1月13日、大阪府出身。DDTの社長兼レスラーとしてリング上はもちろん、『ドロップキック』や『フレンチカレー・ミツボシ』、『エビスコ酒場』など飲食業でも大活躍。写真はDDT公式ツイッターで広報的な役割をはたしているメカマミー（口癖はマミ）。メカマミーの正体が高木社長というわけではありません。175cm、95kg。

高木三四郎

高木 日常もおもしろくて、プロレスもおもしろい人がやれば絶対におもしろくなると思うんで。そこは比例すると思います。逆に日常が全然おもしろくない人って、たぶんプロレスもそんなにおもしろくないと思うんですよ。

――それはいいキャッチになるなぁ。

高木 へんなところで常識人だったり、日常がつまんない人はプロレスもつまんないっていうのが持論なんで。だから、ウチでも新人を見るときに一通り反射神経や運動神経を見るテストはするんですけど、最後の決め手は一芸なんです。その一芸がホントにおもしろかったら、どんなに体力審査がダメでも合格させるし、体力審査がよくてもホントにつまんないヤツは取らないですね。

――徹底してますね。

高木 そんなヤツはリングでも表現できないと思うし、逆におかしな人ってプロレスをやってもおもしろいし、ツイッターやっても絶対おもしろいと思いますよ。

――それはあるかもしれませんね。ファンの導入という意味では、いまはツイッターやブログなどの役割は大きいと思いますけど、10年前だったら入り口としては新日本のような地上波がついているメジャー団体が一番大きかったわけじゃないですか。それがいまは逆にDDTのほうがいろんな導入方法があるというか。

高木 ウチなんかは小回りを利かせてやらないとアウトですからね。ネット上でちょっとでも悪い興行ってレッテルを貼られちゃうと、すぐ観客動員に直結するんで、絶対に外す興行はできないですし。

――そこの部分では新日本のガオとかは、それほどプレッシャーはかかってないかもしれませんね。

高木 でしょうね。新日本さんまでになるとウェブとかやっていないファンの割合も多いと思うんですけど、ウチみたいなウェブ主体の層だと、いっぺんそっぽを向かれちゃうとガクッと落ちるんで。だから新規でやる企画って、なかなか怖いところはありますよ。

――言葉は悪いですけど、以前は失敗した興行とかでも多少はマスコミがごまかしてた部分ってあったじゃないですか？

高木 正直、そうなんですよね。ターザン（山本）さんが編集長のときの『週プロ』は叩くときは叩いたりしてましたけど。

――雑誌媒体では中間者がいいように解釈してくれるという部分もありましたけど、ウェブ関係はダイレクトですからね。

高木 そうですね。いまはDDTファンとか新日本ファンとか特定の団体のファンというのは少なくなってきてると思うんで。「おもしろそうだったら、なんでも観る」というのが一番多くて、その次が選手のファン。だから、一回手のひらを返されちゃったらアウトなんですよ。そういう意味では、ツイッターもそうですけど、表現には凄く気を使うし、常におもしろいこと、興味を持ってもらえそうなことを仕掛けていかないとダメだと思いますね。……その作業は凄くしんどいんですけどね（苦笑）。

――今後もガオに負けないよう、リング上もウェブ上でも頑張ってください！

高木 ホントそうですよね。あれだけメジャーで、ある程度の批判もあるだろうけど、ああいう草の根的なことまでやられちゃうと、ウチらみたいなインディー団体にとっては商売上がったりですよ！

――ガオ！

【10年3月3日／都内・某所にて収録】

新日本プロレスはどうしてガオ!!とつぶやくか?

プロレス団体でツイッターをうまく駆使しているのは、新日本プロレスだろう。
語尾に「ガオ!」をつけるガオなるキャラクターが大会宣伝や選手の日常を紹介したり、
ときには他団体の選手に絡みまくる! おまえらいったい何者なんだガオ!?

聞き手/ジャン斉藤

プライベートでやっていて「新日本でもやったらおもしろいかな」と思ったガオよ

キミは新日本のガオを知っているか？　プロレスファンのツイッター者なら、すでに説明は不要かもしれないが、ガオとは新日本プロレスがツイッター上で展開する公式アカウントで広報的な役割を務めるマスクマンなのだ（もちろんロゴはライオンマーク）。

主なつぶやきは大会告知、会見速報、グッズ紹介などで、語尾に〝ガオ〟とつけるのがお約束。

ここ数年のプロレス界では、メジャーにかぎらず、ホームページやブログを開設している団体や選手は多いが、これがツイッターとなると、あまり制約もないインディー関係のほうが圧倒的に多いのが現実。

そんな中、現在の日本プロレス界において、メジャーと言われる団体の中で、いち早くツイッター上で公式アカウントを立ち上げたのが新日本である。

これには、前のページで登場したDDT社長の高木三四郎も「新日本のようなメジャー団体にツイッターのような草の根活動的なことをやられるとインディー団体にとっては商売上がったり」と、ぼやいているほど。

ゴールデンタイム時代のメジャー団体なら「なんだよ、ツイッターって？　そんなもん必要ねえ。宣伝なんてテレビと専門誌と『東スポ』がありゃあいいんだよ！」と、永島のオヤジチックなカ、カテェ反応が関の山。新日本にかぎらず、テレビは深夜枠に追いやられ、専門誌は『週プロ』のみになってしまった現在、やり方次第では、告知や宣伝等でかなりの効果が期待できるツイッターに目をつけたのは、ここ最近の新日本のリング内外でのフットワークの軽さや柔軟性も無縁ではないだろう。実際、新日本では社長の菅林直樹氏もアカウントを持っていたり、ガオの妹分の〝ニャオミ〟までツイッター上で、さっくばらんにつぶやきまくっている。

K−1ツイッターのクマは、キャラクターを守るためか取材を断られたので当然ガオも……とは杞憂。新日本のガオがノコノコ出てきてくださった。この迂闊さがツイッターの相性とマッチしてるとも言えるガオ。左が1号、右が2号だ。

そんなメジャー団体（というかガオ）にライバル心を剥き出しにしているのが先に紹介した日本人レスラーで初めてツイッターを取り入れた高木三四郎だ。ツイッターだけではなく、ブログやミクシィ、さらには『YouTube』など、DDT関連の告知等で早くからウェブ関連のツールを有効活用してきた三四郎にとって目障りと映ったのか、ガオと三四郎はツイッター上で抗争を展開。

きっかけはDDT所属の男色ディーノの新日本のスーパーJカップ参戦。それ以降、ガオはDDTが経営するエビスコ酒場に「またくる、ゆるさん」と、どっかで聞いたことがあるような貼り紙を貼りつけたり、逆に三四郎は新日本事務所のライオンマークにディーノの写真を貼ってみたりと、ゆる〜いながらもガチな抗争をツイッター上と連動してやり合っているのだ。

そんな流れで、三四郎がツイッターを題材にしたトークショーに乱入したのが今回登場してくれた新日本のマシンマスクのガオ1号とサムライマスクのガオ2号。ガオは6号までいるらしいのですが、とりあえず、主力と思われる1号&2号に新日本のツイッター戦略を直撃！　おまえは平田ガオ!?（適当）。

――今回はツイッター特集なんですよ。そこで新日本プロレス公式アカウントのキャラクターであるガオさんに話を聞きに来ました。

ガオ1号（以下1号）　その特集、楽しみにしてるガオよ。ほかにはいったい誰を取材してるガオか？

――水道橋博士と谷川さんの対談がありました。

1号　博士と谷川さん？　1号は玉（袋筋太郎）ちゃん派だガオ。

ガオ2号（以下2号）　2号は菊地成孔さん派だガオ！

――なんなんだ、コイツらは（笑）。キャラクターにそんな趣味嗜好が出ていいもんなんですか？

2号　そういうパーソナルが見えるメディアだからこそ、ツイッターはおもしろいガオ。

――そうガオか。そもそもガオって二人いるんですね。

2号　ん？　悪いガオか？

――問題ありませんが、さっきからどうして喧嘩腰なんですか（笑）。でも、ツイッターってプロレス界だとやってる人がまだ少ないですよね。

1号　プロレス団体でやってるところもあるけど、ガオと違って地味にやってるガオな。クックックックッ。

――ずいぶん偉そうだなあ。そもそも新日本はどうしてツイッターを始めたんですか？

1号　1号は個人的にやってたガオ。

――あ、ガオ1号はプライベートアカウントを持ってた（笑）。

1号　もうかれこれ半年ぐらい前の話ですよ。やっぱり海外セレブとか海外レスラーの情報を仕入れたいがためにやり始めて。でも、開始当初はおもしろさがちっともわからなかったんですよ。

――どうでもいいけど、語尾が「ガオ！」じゃなくなってる。そこは徹底してほしいガオ。

1号　編集で適当に「ガオ！」をつけといてくださいよ。こちとら、さすがにプライベートでも「ガオ！」をつけてるわけじゃないし（タバコをふかしながら）。

――う〜ん、清純派アイドルの裏側を見てしまった感じだ。

2号　話を戻すと、ツイッターを始めたばかりの人は「これ、何がおもしろいんだ？」って思いがちガオね。

——2号は「ガオ！」をつけるんだ（笑）。

1号 （無視して）ボクも最初は全然つぶやかなかったし、つぶやいたとしても「今日はこんなもん食いました」「寝る」とか、ホントの独り言だったんです。完全に虚空につぶやいてる感じで（笑）。でも、いろんな人のフォローを始めて、レスを返し始めてから徐々にフォロワーが増えていって、ボクのつぶやいたことにも反応してくれるようになった。だから、ツイッターって積極的にいじらないとダメなツールだってことがようやくわかったんです。で、「これは新日本でも公式にやったらおもしろいかな」って思ったんですよね。

2号 新日本ってほかの団体と比べてもリリースがメチャクチャ多いし、会見の開催頻度も多いんガオよ。ウェブサイトと携帯サイトもやってるガオけど、それとは別に、いわゆる速報性の高い媒体として使ってるガオよ。

1号 で、「ツイッターやりたいんですけど」って会議にあげたときに誰も反応してくれなかったんですよ。「なんだ、それ？　ブログか？」みたいな。

——そこでも虚空になりそうだった（笑）。

1号 会議でもつぶやいてただけ（笑）。周りも「やりたきゃやりゃあいいじゃん」みたいな感じだったんで、アカウントを取って一人でスタートしたんですよ。そうしたら2号が入社してきて。

——あ、2号は途中入社なんですか。う～ん、どこかで会った気がする……。

2号 そこはあんまりいじらないでほしいガオ……。

1号 で、2号が「じつはボクもツイッターをやってるんですよ」と。

2号 ボクが始めたのは、去年の9月か10月ぐらいガオね。

——2号がツイッターを始めたときはどうでした？

2号 ボクも最初はおもしろさが全然わかんなくて、ただ友だちに誘われてやってたんガオが、あるとき吉田豪さんがツイッターをやってるのを見つけたんガオ。で、吉田さんがコアな文化人や有名人をフォローしてて、その人たちとのやりとりがタイムライン上で交錯するのを見て、ようやくおもしろさに気づいたんガオよ。

——でも、新日本の公式アカウントとは、プライベートのものとはまた性質が違ってくるじゃないですか。

1号 新日本のアカウントでは、ウェブに載せる情報を先行して載せてるだけだったんです。でも、1～2週間経ってから「これはどうなのかな？」と。まあ、しっくりいってなかったんですよね。結局、ウェブに載せるんだったら、ツイッターに載せる意味ないなって。そもそもツイッターを始めた理由の一つには、「いまの新日本プロレスって昔とは全然違うことをやってるんだよ」っていうアピールもあったんです。一風変わった会見の実況や、選手が事務所に来たときのエピソードをアップしたり。

2号 永田（裕志）さんのヘン顔写真をアップし続けたりしてるガオ（笑）。

1号 そうやって、おもしろい使い方ができるんじゃないのかなあ、と。で、やっていくうちにわりと手ごたえがあったんですよね。

——そのうち語尾に「ガオ！」がついて、人格も持つようになりましたよね。

1号 最初は普通のしゃべり言葉だったんですよ。「ですます調」の非常にかしこまった感じで。

かつての新日本プロレスといえば、アントニオ猪木であり、ストロングスタイルのイメージが強いが、ツイッターにかぎらず新しい試みが次々に行なわれている。ニュー新日本プロレスだガオ!!

——最初は「ガオ！」とは吠えていなかった。

2号 全然言ってないガオ。

1号 昔にさかのぼってもらうと、ちょっと恥ずかしいですね。上京したての右も左もわからない、探り探りやってるような田舎の人間みたいで。

——ちょっと間抜けな感じがしていいですよね。

1号 ボクらも最初は「何がガオだよ」みたいな感じでやってたんですけど、いまでは必須になって。「つけた？　ガオ」「ガオつけなきゃダメだよ」とか確認してますからね（笑）。

2号 そういえば、『ｋａｍｉｐｒｏ』の表紙コピーにもついてたガオね。「黄金の昭和プロレスに学ぶガオ!!」（笑）。

——ああ、デザイン的に文字が足りなかったので適当につけたんですけど（笑）。新日本ってストロングスタイルの呪縛というか、猪木さんのイメージを良くも悪くも引きずらなきゃならない部分でもあったんですが、そのイメージをあの「ガオ！」の一言で覆しましたよね。

1号 そう言ってもらえるとうれしいなあ。まあ、そうしたいがためにつけてたって部分もあるんですけどね。だから「ガオ！」をつければ、いまはなんでもできちゃいますよね。

2号 そうそう、ガオがあればなんでもできるガオ!!

——でも、プロレス界ってインターネットに対して及び腰のときがあるじゃないですか。

1号 確かにありますね。新日本としては、ミクシィもブログも最初は視野に入ってたんですよ。だけど、ブログは自由度が高いんで、書きだしたら凝り始めて結局掲載に時間がかかりそうかな、と。ミクシィに関してはやっぱり招待制っていうのが障壁になっちゃって。いくらミクシィで情報をアップしても結局ミクシィの枠の中だけで、外に広がっていかないじゃないですか。そこにどうしても引っかかりを感じてて。でもツイッターは招待されなくてもできちゃうような環境じゃないですか。ましてやこれだけ世間的に話題になってるんで、個人が気軽にできちゃうところが魅力というか。それと〝140文字〟という制限がほかの業務と掛け持ちしててもまったく影響が出ないという（笑）。

——炎上することは不安視されなかったんですか？

自分たちからファンに向けて情報を発信できるような環境を作りたかったガオよ

1号　もちろん、しました。新日本って矢継ぎ早に叩かれる団体じゃないですか。だからその怖さはありましたよ。

2号　マット界が及び腰なのは、そこの怖さがあるガオね。インターネットの得体の知れなさってあるガオから。

1号　でも、ツイッターのいいところは、フォローしなければ叩いてるコメントは読めないじゃないですか。フォローしてる人だけのタイムラインを見るわけだから。だから書いたもん勝ちにならないというか。

2号　ツイッターの登場で、インターネットがヘルシーになってきてるんですかね。

――あ、2号も通常に戻った（笑）。

1号　（無視して）でも正直、叩かれてナンボだとも思ってるんです。「新日本がツイッターなんか始めやがって」って言ってる人いると思いますよ。だけど、そんなこと言ってたらなんにもできないし、始まらないじゃないですか。

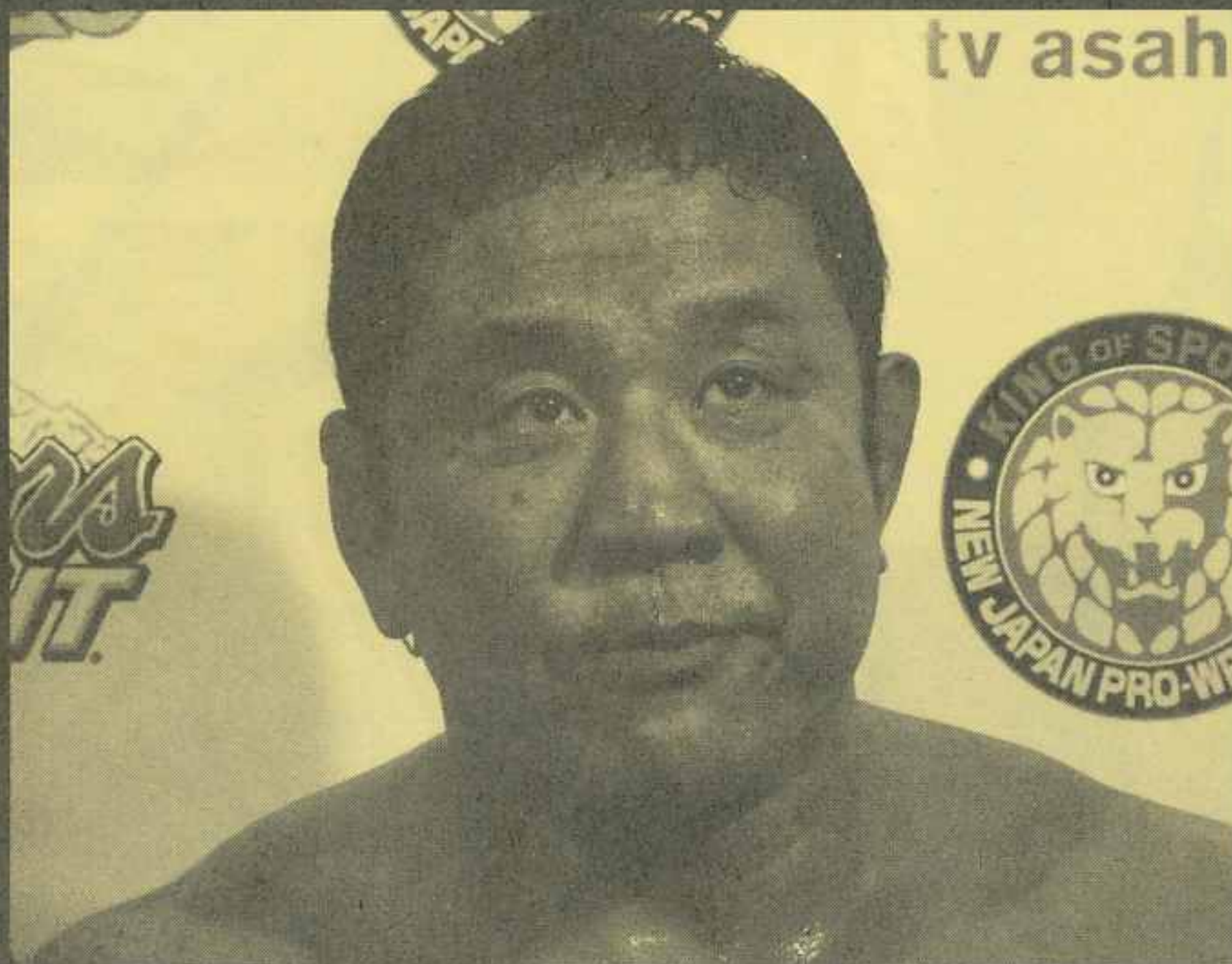
2号　そうだガオ!!　やる前に負けることを考えるバカはいないガオ！　手前味噌ですけど、「ガオのつぶやきはおもしろい！」っていう声も意外と聞こえてきますからね。

――「新日本っておもしろそうだな」って思わせることに成功してますよね。

1号　そこの成果が一番じゃないですか。もちろんホームページもケータイサイトもボクらの自社媒体としては重要なんですけど、ツイッターって140文字の世界観じゃないですか。表現できることはかぎられてくるし、厚みを見せる部分ではウェブとケータイサイトは必須ですけど、導入部としては最適なんですね。ツイッターを入り口にして新日本を知ってもらえる。

――お金もかからないですしね。

2号　そこがまず一番ガオ！（笑）。

1号　でも、ツイッターって、意外と世間に知られてないですもんね。新日本のお客さんにも、ビックリするぐらい知られてないですから。もっと短期間でフォロワー数が増えるのかなって目論んでたんだけど、そんなに甘くなかったですからね。

ボクらの永田さんネタをツイートすると反響が凄いとのこと。新日本の入り口は、永田さんとツイッターになるガオよ! 新日本プロレスに興味がない読者も(←失礼な言い方ですが)、ガオのツイートだけはチェックするガオ!

――まだまだ全然届いていないと？

1号　ええ。じつはツイッターも、"ガオ"って言葉も、新日本社内ではまだ100パーセント浸透しきれてないし（笑）。会場でファンと話したりして、「ツイッター見てますか？」って聞くと、「見てない」って人がまだ半数はいますからね。

2号　「ガオって何？」的な（笑）。

1号　新日本の情報を何で拾ってるのかといったら、『週刊プロレス』や新日本の携帯サイト。この前始まった棚橋弘至ブログ（アメブロ『棚橋弘至のHIGH-FLY』）のコメントを読むと、ポッドキャストやツイッターを触ったことのない人が相当いるんですよ。

2号　ツイッターをどんどん広めていきたいガオね！

1号　あとはボクたちが載っけてほしいものって、最近はメディアに載っけてもらえないじゃないですか。やっぱメディアもスペースもかぎられてるし。

――ウチの誌面なんか全然載せてないですね

1号　誌面というか、ホームページの『新日本プロレス通信』もいつの間にかなくなって。

――担当が阿修羅チョロですからねぇ。

2号　まさに阿修羅クオリティ……しょうがないガオね（笑）。

1号　週刊誌にしたって、会見をやってもその記事が載るのは1週間後。モバイルやウェブが発展してるけど、他社のネットメディアに載るのはやっぱり早くても6〜7時間はかかるわけですから。だからこそボクらが載せてほしいものは自社で即時発信するしかないっていう意識は去年あたりから芽生えてきてたんですよ。自分たちからファンに向けて情報を発信できるような環境を作りたい。ツイッターはその要素が強いですね。

――え〜、簡単にいうと、新日本のメディア批判ガオね。

2号　そんなこと言ってないガオ！（笑）。

――結局、週刊にしても月刊にしても、情報だけを流しても意味がない時代に入ってますよね。ボクらとしては情報を加工していくっていう作業をするしかないという。

1号　『kamipro』はそうしなきゃダメじゃないですか。スタンスは全然違ってないですよ。ただ、こちらとしては、何もしないと何も載らないっていう時代になりかねない。それがちょっと怖いなって去年ぐらいから思ったんです。

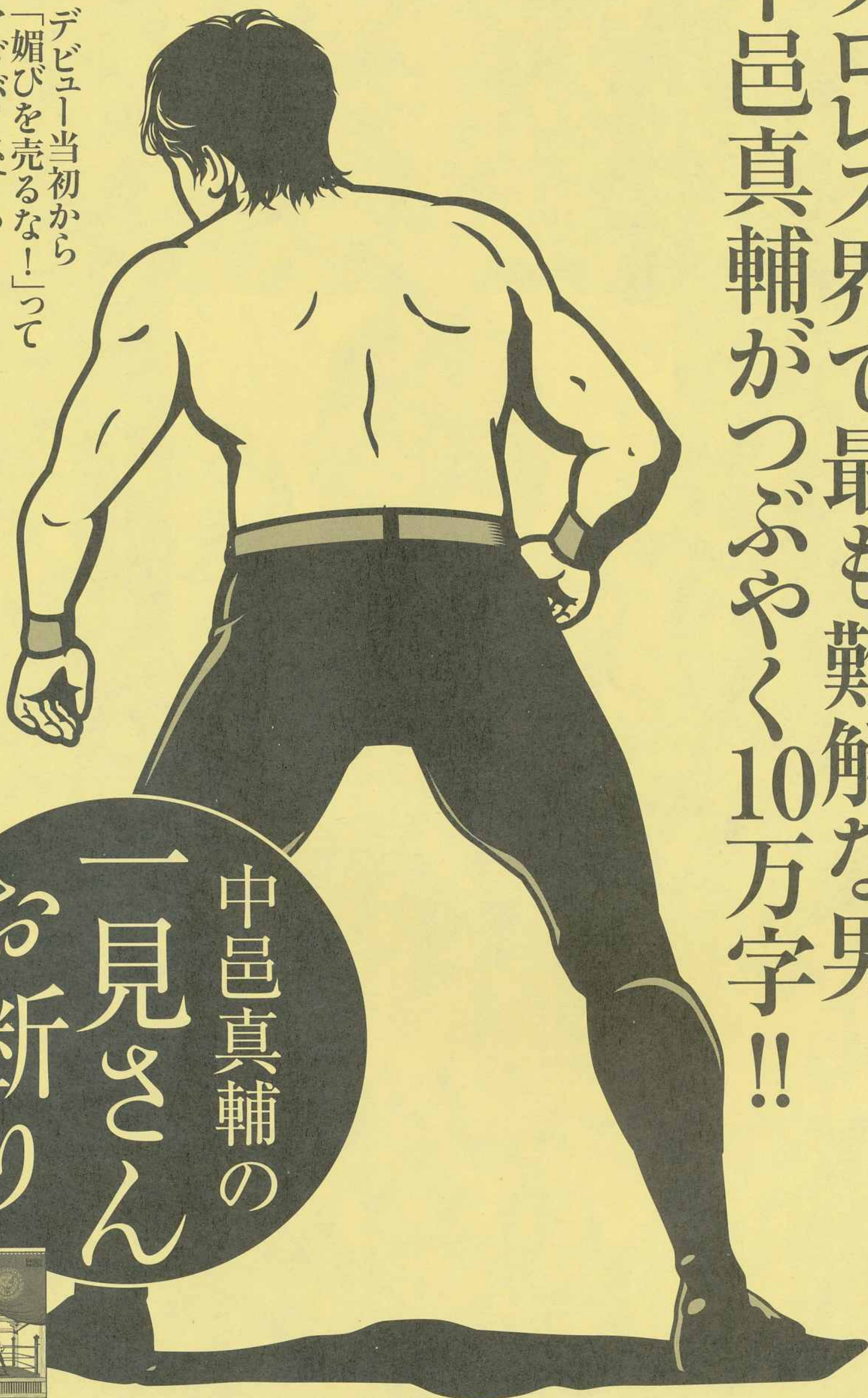
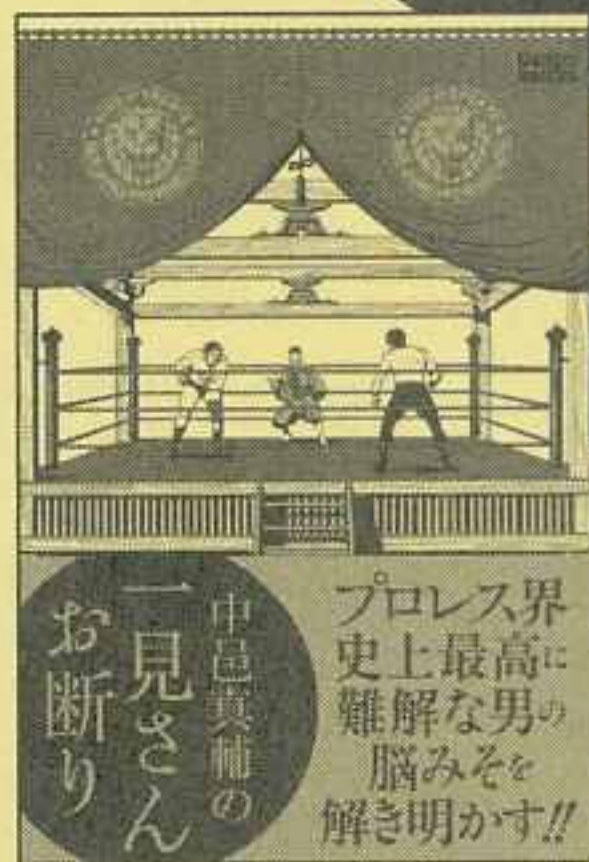
――メディアとどう向き合うかってことがツイッターを含めて問われてますね。

2号　ガオ的なことがいろんな面でやれるとおもしろいですね。DDTとの抗争だけで終わるわけにはいかないガオ！

1号　外に対してはくだらないことをバリバリ載せていきますよ。まったくプロレスに関係ないこともつぶやきますし（笑）。そこに新日本のおもしろさを感じてもらって興味を惹いてくれたら、と。そしてその内側では、どうやってこのツイッターでビジネスにつなげていくかっていうことをいろいろな企業さんのアカウントを拝見しながら模索したいです。というか、いくつかすでにアイデアはあるので、2010年はそれを実現できればと思ってます。

――よくわかったガオ!!　サンキューな！

【10年3月某日　都内・新日本プロレス事務所内ガオの穴にて収録】

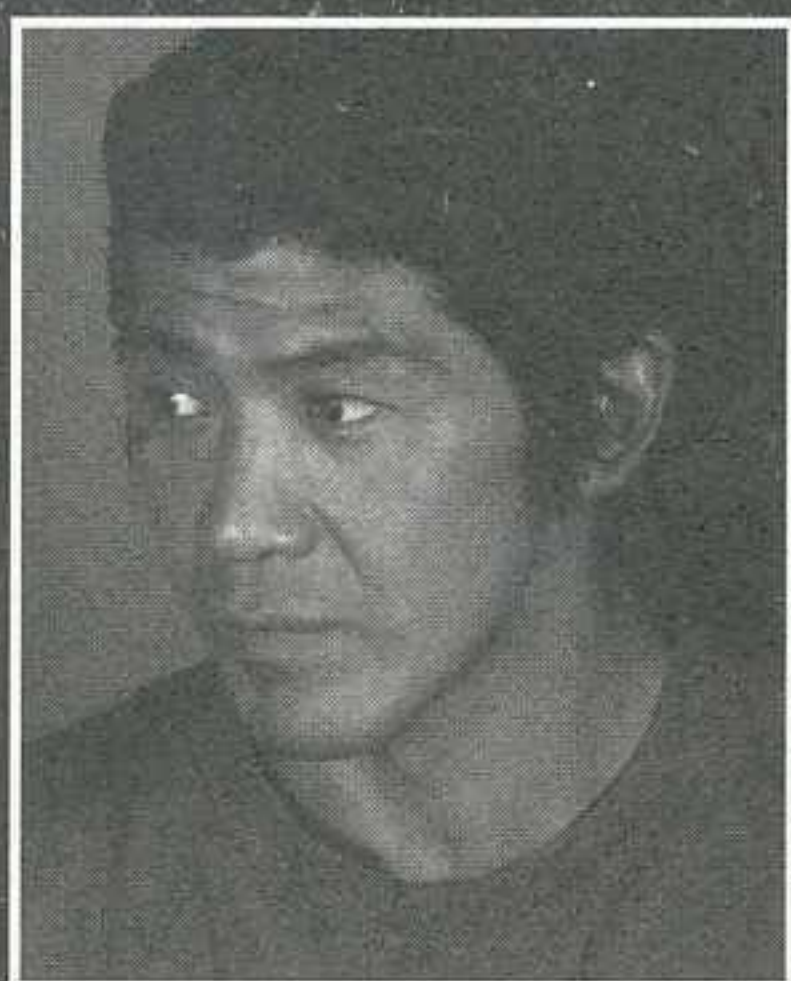
現IWGPヘビー級チャンピオンが初の単行本をリリース!!
プロレス界で最も難解な男
中邑真輔がつぶやく10万字!!
デビュー当初から
「媚びを売るな!」って
アドバイスする
アゴの長い人が
身近にいましたからね
中邑真輔の
一見さん
お断り
プロレス界
史上最高に
難解な男の
脳みそを
解き明かす!!
全国書店にて絶賛発売中!
B6変型判/定価=1,890円(本体1,800円+税)
発行/エンターブレイン　発売/角川グループパブリッシング
enterbrain 発行/株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

なぜこの男たちはニューメディアの波に乗らないのか!?

私たちがツイッターをやらない理由

アメリカで生まれ、いまや日本でも大流行しているツイッター。
しかし、ここ登場する4人は、本誌のお願いもむなしく、ツイッターをやっていただけないという。
うーん、残念!　しかし、新しいものになかなか手を出せないという人はじつは少なくないはず。
4人の言葉に「そうなんだよな!」と、うなずく人も多いのでは!?

衝撃!!

10年越しの
マッドネスな
トラウマを告白!

私がツイッターをできない理由は
ヒクソン・グレイシー戦のせいです

船木誠勝

「この人のツイッターが見たい!」企画第一弾は我らが船木誠勝。
豊かな発想とマッドネスな鋭い言葉を持ち合わせる船木にはツイッターという
ツールがピッタリではないか。ということで、インタビューというかたちで"交渉"に行ったのだが、
なんとも意外な理由で断られてしまった。ヒクソン戦が原因となるその理由とはいったい!?

聞き手／ジャン斉藤

パソコンは藤原組のときに買いました。とにかくお金がいっぱいあったんで

—じつは今号の本誌でツイッター特集をやるんですけど、船木さんはツイッターというサービスをご存知ですか？

船木　あの……、あのツイッターというのは、『kamipro』なんですか？（真顔で）。

—……ええっと、どこから話していいのかわからないんですけど、ウチではないことは確かです（笑）。

船木　そうなんですか……。谷川さんがやってるのは知ってますよ。でも、それがどういう仕組みなのかはまったくわからないんですよね。だから、見てるだけですね、谷川さんのツイッターを。

—あ、見てはいるんですね。

船木　でも、どの言葉が谷川さんの言葉なのかわからないんですよ。それで見なくなりました。

—あらら。じつは今日は船木さんにツイッターをやっていただけないかと交渉に来たんです。船木さんって新しいものにはけっこう敏感ですよね？

船木　そうですね。決してアナログ人間ではないと思います。興味がないとあっという間に離れますけどね。

—プロレス界ってとくに新弟子時代は文化から遮断されがちのように感じるんですけど、船木さんの場合はどうだったんですか？

船木　僕は新日本時代、寮に住んでましたから、確かに当時は先輩レスラーから情報を得るくらいしか手段がなかったですね。テレビにしてもチャンネル権がなかったですし。でも2～3年経つと、もうある程度自由になりました。

—けっこう早いですね。

船木　僕の場合は、UWFやらジャパンプロレスやらの離脱でごっそり先輩レスラーが抜けたんで。それに寮長の蝶野さんがほとんど不在だったこともあって、そのへんからチャンネル権は僕とライガーさんが仕切ってました。だからそれ以降は比較的自由にしてましたよ。

—パソコンはいつくらいから使い始めたんですか。

船木　パソコンは藤原組（91～93年）のときですね。

新日本プロレス時代は、ある時期から獣神サンダー・ライガーと船木が道場のテレビのチャンネル権を持っていたそう。このいたずら黄金コンビが仕切っていたのなら、彼らの後輩はちょっとかわいそうな気もする……？

—早いですねぇ。

船木　使い方はよくわからないんですけど、とにかくお金がいっぱいあったんで買ってみました。

—贅沢な話だ（笑）。

船木　あのときはいろんな人から「パソコンっていいよ」って言われたんですけど、実際に何がいいのかはわからなかったんです。でも、とりあえず見に行ったら作曲ができるソフトがあったんですね。で、そのソフトを使うにはパソコンがないとダメだということだったんで買ったんですよ。

—そのパソコンはおいくらだったんでしょう？

船木　たぶん20万円近くしたと思います。で、一応ドラムとベースだけは音を入れられるようになったんですけど、そもそも音符が読めないからメロディ部分が入れられなかったんですよ。

—それなのにどうして作曲を（笑）。

船木　音符が読めないのにそんなものを買っちゃって、「オレ……ちょっとヤバいな」って思いました。

—ダハハハハ！

船木　さらにキーボードを買ってきて、それで弾きながら「これはドかな？　ラかな？」とかやりながらやってたんですけど、ダメでしたね。ベースとドラムだけで終わりました。

—それがパソコンとの第一次接点ですか（笑）。

船木　その次がずいぶんあとになるんですけど、98年か99年頃にテレビを録画できるパソコンがあるって聞いたんですよ。それを買ってしまいました。

—船木さんの場合、パソコンが必要というよりも、他の機能ありきなんですね。

船木　そうなんです。だからパソコン本来の機能をよく理解してなかったんですよ。メールもできるし、インターネットというものがあることを知ったのはヒクソン戦の前くらいでしたから。

—そこから生活も変わってきました？

船木　ええ。ここ最近は一番安いものを調べられるようになりましたし、あとはなんでしょう。初めて会う人の過去とかも調べますね。全日本プロレスで試合をするときも一通り調べました。じゃないと名前と顔が一致しないんで。

—じゃあ、初対面の人とのコミュニケーションもけっこう円滑でした？

船木　いや、ほとんどしゃべんないです。もう調べているんで（キッパリ）。

—もう知ってるからしゃべる必要がない、と？（笑）。

船木　はい。「この人はこんな感じなんだろうな」ってわかっちゃうんで質問もする必要もないですし、40年も生きてればだいたい人の気性とかはわかるじゃないですか。だからしゃべらないんですよ。

—船木さんらしいですねぇ。ちなみにケータイ電話はいつ頃お持ちになったんですか？

船木　藤原組のときに一度持ったことがありましたね。

—それもお金があったからですか？

船木　そうです（キッパリ）。で、ケータイ電話を持ってるからわけもわからず「電話しなきゃ！」と思って使ってました。わざと車の中に移動してかけたりしてたんですけど、正直「あんまりいらないな」と思いましたね。

—ダハハハハ！

船木　それにいまだって普段は電源を切ってますから。で、だいたい用件がある人

はちゃんと留守電にメッセージを入れるじゃないですか。

―ということは、当然コールバックなどはしない、と。

船木　(突然笑いだして)　アッハッハッハ！　しないです(笑)。用件もメールがメインになってきましたしね。

―パソコンもケータイも使い始めは早いけど、そう駆使してないんですねぇ。船木さんはブログはやってますよね？

船木　ええ、やってくれって言われたんで。だからあんまり頻繁には更新してないです。(アクセスランキング)上位に行きたいとも思ってないですし、毎日同じような生活をしてるんで更新するような内容もないですし。「今日これ食べました」って言っても、「だから何？」って思っちゃいますしね。

―そこは冷めてるんですね。

船木　そうやってマメに更新してるブログは見ますよ。「またやってるよ」ってあきれながら見てますけどね(真顔で)。

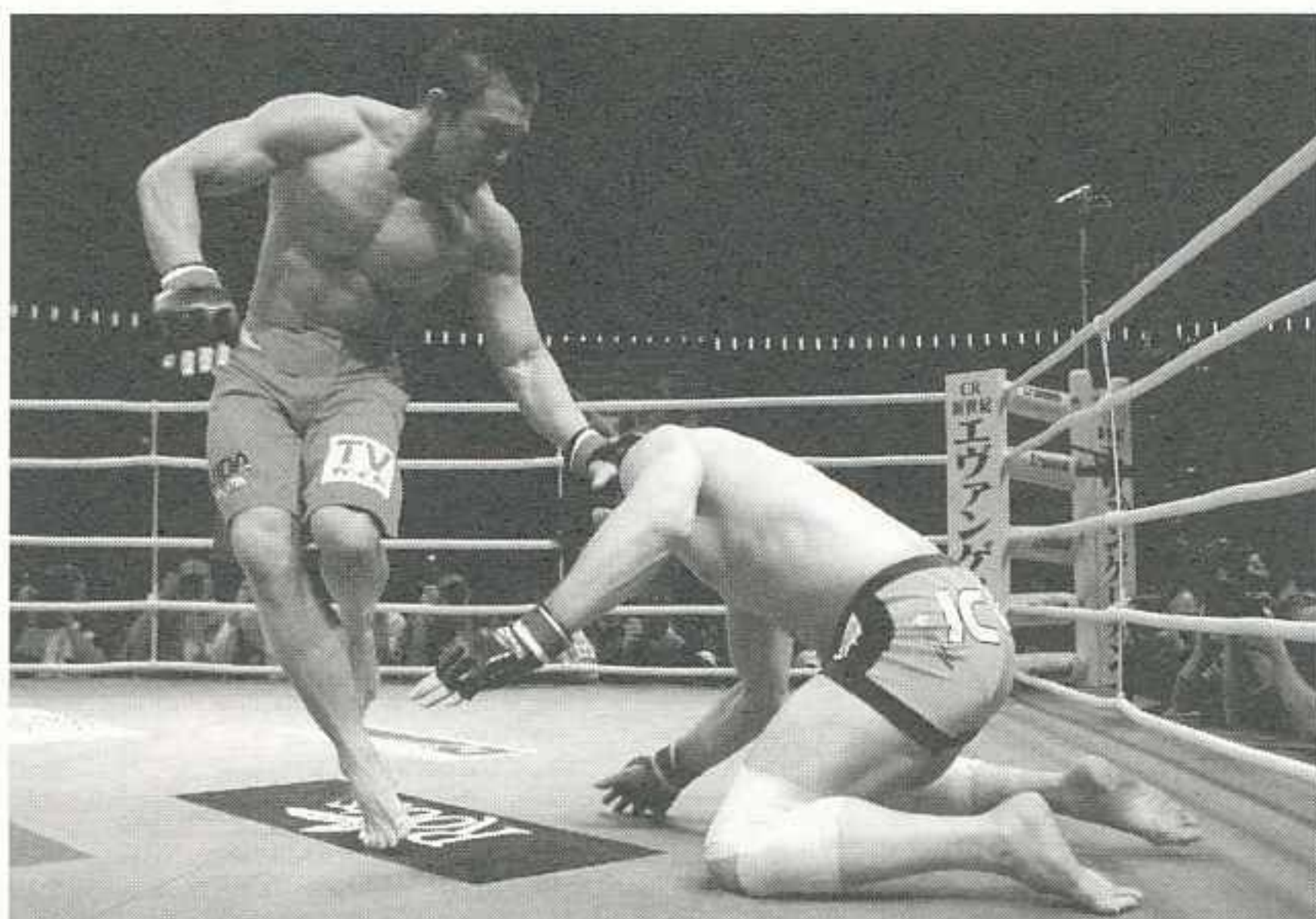
―なるほど(笑)。最近はレスラーの方もブログをやってる人は多いですよね。昔のプロレスラーはプライベートを見せないことで幻想を保ってる部分があったじゃないですか。いまは逆にレスラーがファンサービスというか自己表現を含めてブログなんかをやってることに対してどう思われますか？

船木　それでサービスをできるんだったらいいとは思いますけど、自分の場合はあまり発想が出てこないんですよ。

―そんな船木さんにはなかなかお勧めしづらいですが、ツイッターというのをぜひ始めていただきたいなと思ってるんですよ。

船木　それは面倒くさいですね。僕がやってもせいぜい一日1回か2回ですよ。

―それだけでもいいんで、ぜひやっていただきたいです。

船木　うーん、まあコミュニケーションとして一つやりたいと思うのは、たとえば地方巡業をするじゃないですか。それって一年に1回か2回しか行かない場所なので、会場に来てくれたお客さんとの交流はしてみたいなとは思いますけどね。

06年大晦日に勃発した秋山成勲のいわゆるヌルヌル事件では選手&関係者のブログが大荒れしたが、船木のブログも同じ被害に遭ったようだ。船木のように当時の激しい書き込みで顔の見えないコミュニケーションに疑問や不快感を持った人も多いはず。

それはケータイ上での交流とは違うじゃないですか。みんながみんなそれをやってるとはかぎらないですから。それに、ツイッターだと試合とかじゃなくて、ツイッター自体を楽しみにしてるというか。

―ああ、ケータイ上のやりとりのほうがメインになっちゃう、と。

船木　そういう気がします。それははたして「自分が生きるうえでのお荷物にならないかな？」というのもありますし。

ツイッター×船木誠勝

―谷川さんなんかはファンの質問に対してちゃんと返信してるんですけどね。

船木　あ、それは無理です。絶対にスルーすると思います。だって、聞かれたくないこととかありますよね。そのへん谷川さんはどうするんですか？

―まあ、ご存知だと思うんですけど、そのへん谷川さんは受け答えがうまいんですよね。

船木　僕はすべてマジメに答えたいんです。だから答えられないことを書かれると難しいですよね。それに危ないことも書かざるをえないじゃないですか。アッハッハッハ！(突然笑いだしながら)。

―どんな危ないことを書こうとしてるんですか(笑)。

船木　それに「質問に答えてくれない」って恨まれるのもイヤですし。昔、ブログやってたときに秋山(成勲)選手のヌルヌル事件があったじゃないですか。あのときに自分なりの見解を書いたら、わけわからない人がコメントをいっぱい書いてきてるんですよ。いままで30とか50ぐらいしかコメント数がなかったのに、もう何千とかなって。しかもアドレスを調べたら最初は僕をけなすコメントを書いてて、数時間後にそれに対するフォローを同じ人がやってるんですよ。だから「これ、なんなんだろう⁉」って思いました。

―要するに自作自演でやってるということですね。

船木　だからそういう人に対して「はたしてマジメに答えたほうがいいんだろうか？」ということは凄く〝はてなマーク〟でした。ちなみにツイッターは書いた人の住所はわかるんですか？

―ちゃんと調べれば特定はできるんでしょうけど、重大事件に絡んでるとか、そこまでいかないと警察も協力してくれないんじゃないでしょうか。

船木　そうでしょうね。住所、電話番号が出るんだったらまだいいですけど。

―住所や電話番号がわかるならツイッターを始めてもいい、と？

船木　……あ、でも、そうなると自分も明かさないといけないですね。それも困りますね。

―船木さんって、ファンからそういう文句を書き込まれたりするとけっこうカチンとくるほうですか？

船木　気分よくはないです。面と向かってだと「なんでそういうことを言うんですか？」って聞けますけど、ネット上だと言ったところで答えてくれないですよね。それにいざとなれば逃げられるじゃないですか。やっぱり闘えないというのはつらいですよ。

―ネットでも〝闘い〟を求めますか(笑)。

船木　だから谷川さんとかはよくやってると思いますよ。だから申し訳ないんですけど。やったとしても、どっかで「もうやめます‼」って言うと思います。だったら最初からやらないほうがいいと思いますよ。だって、僕のつぶやきなんて見たい人いるんですかね？

―凄くいると思います！

船木　うーん、でも僕、復帰してからしゃべるのが面倒くさいんですよ。昔パンクラスのときとかは常にマイクを持ったりしてたじゃないですか。それが「はたしてこれでいいんだろうか？」って凄く疑問に思うようになってるんですよ。いま頃なんですけどね。アッハッハッハ！(突然笑いだしながら)。

―確かにいま頃ですね(笑)。

船木　だからホントにマイクを渡される

ヒクソン戦後のマイクは衝動的でした。あれで引退しちゃいましたからね

と困ります。正直マイクを渡されるのが怖いです。

——そういえば、復帰後、リング上でマイクする姿は見ないですね。

船木　マイクを持つこと、しゃべることを凄く難しく考えるようになったんですよ。固まったものじゃないとしゃべりたくもないし、そういう年頃なんですかね。一番中途半端な40歳という年齢は。

——でも、90年代の船木さんって饒舌だったじゃないですか。

船木　当時はマイクを持つことがもうクセでした。お客さんもそれに慣れちゃってましたし。でも、ヒクソンに負けたあとに「15年間、ありがとうございました！」ってマイクしたじゃないですか。あれはいただけなかったなって思ってます。ホントに衝動的にやっちゃいましたし、それで引退しちゃいましたからね。

——思わず引退を口にしてしまった、ということですか？

船木　あれ、ノリなんですよ。だからそこでトラウマがあるのかもしれないです。

——引退発言はノリだった！（笑）。だからツイッターでも「お世話になりました」みたいなことを言いかねない、と。

船木　自分でも何を書くのかわかりません（キッパリ）。だからそういうトラウマがあるんでノリで書けないんですよね。言葉ってもっと大事なものだと思うし、言葉に責任持たないといけないなって、この10年で勉強しました。

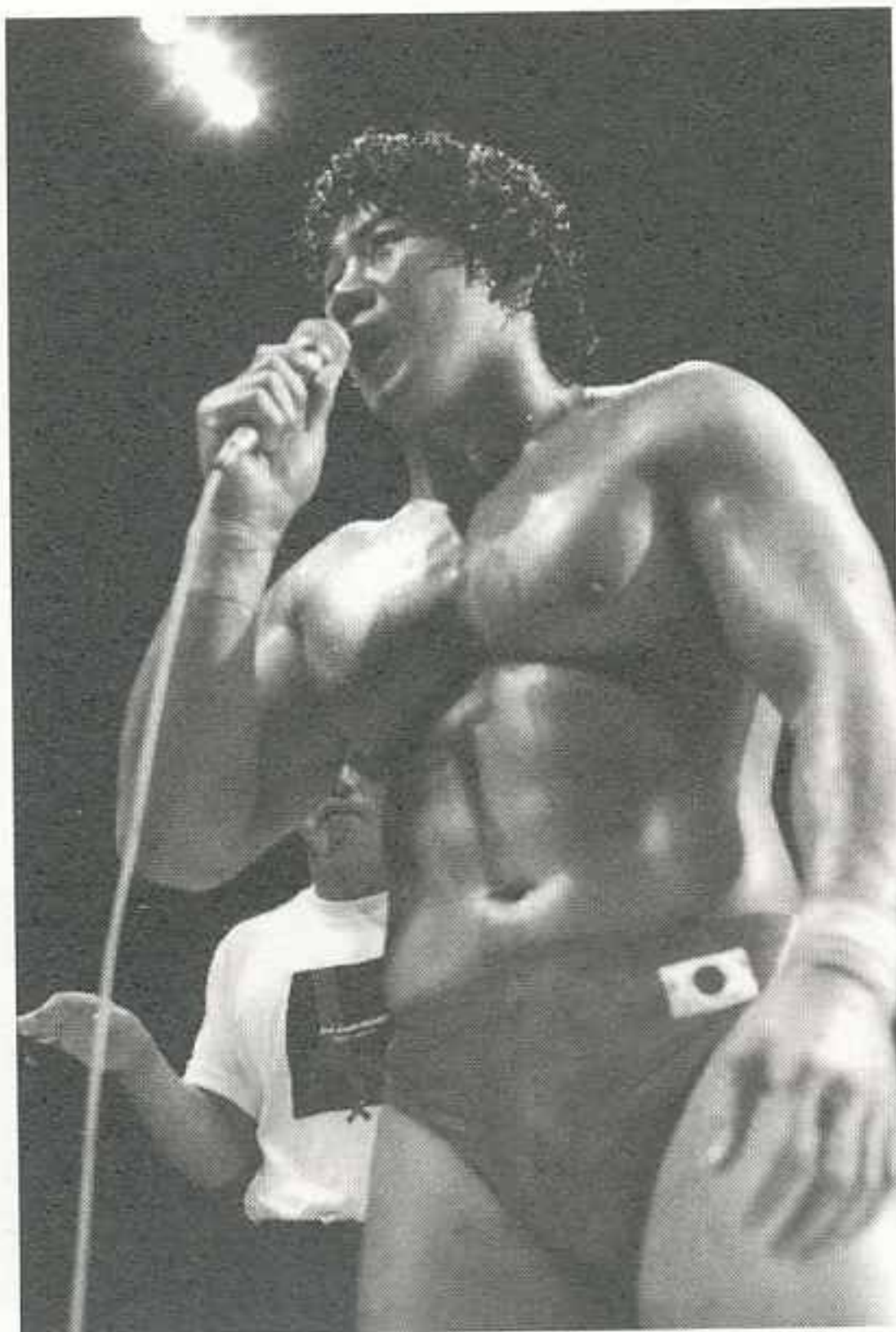
——それって10年経っても克服できないもんなんですね……。

船木　もう10年越しのトラウマなんです。僕も今日ここで言えてよかったです（笑）。もっと言うと、この業界を離れてたあいだは俳優だったんで、ずっとセリフばっかりしゃべってたじゃないですか。セリフをしゃべり続けると、自分の言葉がなかなか出てこなくなるんですよね。セリフを用意してもらうか自分で納得した言葉じゃないとしゃべりたくないんですよ。それも特殊な仕事だなと思いますけどね。

——となると、いまツイッターをやったとしても……。

船木　たぶん「これでいいんだろうか……………」って1時間近く悩むでしょうね。

——まったく「なう」じゃない（笑）。

船木　まあ、別の人格を作ってやればいいんでしょうけど、それじゃ意味ないですし。だからたまにやるこういうインタビューは凄く心地いいんですよ。『週プロ』もそうですけど、船木誠勝の言葉として凄くしゃべりやすいというか。ただ、試合に向けてのインタビューになるとすっごいイヤですね。とくに『東スポ』なんかの煽りは。なんか誘導されちゃうんですけど、でも、あれって嘘じゃないですか。ハッハッハッハ！（なぜか爆笑）。

ノリで言葉を発することができなくなったのは、ヒクソン戦後のマイクのせいで引退することになったからだという衝撃の告白をする船木。そんなとんでもない理由ならば、こちらも無理には勧められないぞ。

——まあ、デリケートな話になっちゃいますけど、プロレスの煽りってそういうもんですよね。

船木　でも、言われたんですよ。それが券売につながるかもしれないって。となるとやっぱり応えたいんですけど、あんまり大きなウソはつきたくないですし、それは悩みですね。いや、わかるんですけどね。でも、やっぱり考えますよね。

——確かに、自分も『東スポ』は好きですけど、はたしていまの『東スポ』的煽りで読者がどれくらいプロレスに興味を抱くのかは気になりますよね。

船木　それなんですよ！（身を乗りだして）。そういうものに対してツイッターで「あれは大げさな作りじゃないんですか？」とか質問されたときに、「じつは俺も悩んでるんです」とは言えないですからね。

——ダハハハハ！　それは逆におもしろいですよ！（笑）。

船木　「オレも悩んだうえでしゃべってるんだ」って言うんですか？　確かにおもしろいですね（笑）。

——船木さんはプロレスに冷めてるわけではないんですよね？　プロレスへのスタンスを考えているというか。

船木　冷めてないです。ゴールデンタイムの中継が復活してほしいくらい思ってますから。これだけ全国に回ってお客さんが一カ所に集まって大騒ぎするようなシステムというのは潰しちゃいけないなって思いますよ。でも、いざプロレスを言葉で伝えようとすると……。

——難しいですか。

船木　昔は口にしたほうがラクというのもあったと思うんですよね。だからセリフじゃないですけど、二次的に言葉を発して説明するというか。

——要するに、DREAMの煽りVみたいな感じですね。

船木　そう。煽りを試合後に言ってたんでしょうね。種明かしじゃないですけど。

——ああ、船木さんの試合ってそんな感じでしたよね。いまその行為が必要ないと思うのはどうしてですか？

船木　あの、感じてほしいというか……クックックック。

——なんで笑ってるんですか（笑）。

船木　でも、あきらめじゃないし面倒くさくもないんですけど、さっきの『東スポ』の話みたいに何パーセントのファンが信じてるんだろう？　という。そこだけですね。ただ、いまのところはほかにスターがいるし、自分の団体じゃないからというのがあるかもしれないです。いまは武藤さんの団体なんで、ヘタなことをやってイメージダウンしてもよくないし、そのへんはデリケートです。

——パンクラス時代とは違う、と。

船木　でも、いろいろ理由はありますけど、突き詰めるとさっきの一部分ですよ。やっぱり僕は何事も〝子ども騙し〟だと思われたくないんです。やってること自体はけっこうしんどいんで、そこはシリアスに伝えたいですよね。挑戦してみたい気持ちもあるんですけど、衝動的に何を書くかわからない。自分で自分が怖いんです……。

【10年2月22日／都内・たまプラーザにて収録】

絶賛リハビリ中の恐妻家が
本音をポロリ！

なぜツイッターをやらないかって？

女房が怖くてやってられるか!?

天山広吉

ツイッターをやったらおもしろそうなプロレスラー？　そうだ、天山がいた！　天山なら「オラッ、エー!」ばかり連発しても
それはそれでOK。恐妻家としても知られる天山が「夫婦ゲンカなう」なんて、つぶやいたら天山ファンから
励ましのツイートの嵐になるはず。というわけで、復帰に向け絶賛リハビリ中の天山に直撃なう!

聞き手&撮影／阿修羅チョロ

ツイッター？ 興味はあるんですけど 自分は面倒くさがり屋なんで（苦笑）

天山 （テーブルに置かれた『SPA!』を見て）あれ、今日って『SPA!』の取材でしたっけ？

――いや、たまたまツイッター特集をしてたので参考までに持ってきたんですが、『kamipro』の取材です（笑）。

天山 あ、そうですよね。

――ちなみに今回の取材はどのような内容か聞いてます？

天山 なんか、インターネットとかツイッターに関しての話が来てるってだけ言われて。それについて「知ってることを話してくれれば」みたいな感じで。

――だいたいそんな感じでかまいません（笑）。ツイッターについてはどれぐらい知ってますか？

天山 ツイッター自体はここ1～2ヵ月で、そういうのができたっていうのはチラッと聞いてるんですけど、べつに自分でやろうかなとか、そこまでは思ってなくて。何かきっかけがあればって思ってるんですけどね。

――今回の取材の主旨は、それこそ、天山さんがツイッターを始めるきっかけになればと思ってまして。

天山 そうなんですか。でも、なんで自分なんですか？

――単純に天山さんがツイッターをやったらおもしろいんじゃないかと思って。「嫁と夫婦ゲンカなう」とか（笑）。

天山 ガハハハハ！ でもねぇ、けっこう自分はマメじゃないんですよ。

――なんとなくそんな気はします（笑）。

天山 自分で携帯とかいじるのは好きなんですよ。いろんな人のブログとかも見るんですけど、べつにコメントを書き込んだりはしないし。で、その中で「ツイッターがどうした」っていうのが書かれていて気にはなってたんですよ。

――新日本の選手でもブログをやられている方はいますけど、天山さんはブログとかはやられてないですよね？

天山 僕はやってないですね。ちょっと前までは契約選手はブログ禁止だったんですよ。

――へぇ～、新日本はブログ禁止だったんですね。

リング復帰はまだ時間がかかりそうな天山だが、趣味でもあるパチンコ連載の復帰が決定。パチンコ屋で天山を見かけても、つぶやかないであげてくださ～い。

天山 個人的にやりたかったりとか、そういうので許可をもらってやってる人はいましたけどね。

――新日本さんではホームページや携帯サイトもやられてますけど、コラムとか日記も書かれたりしたことは？

天山 いまはケガしてちょっと休んでるんですけど、前は隔週で回ってくる日替わり日記の担当はやってましたね。

――そういったのは苦にならず書けるタイプですか？

天山 いや～、けっこう面倒くさがり屋なんで（苦笑）。ホントにやりたかったらやると思うんですけど、途中で「もういいや」ってなっちゃう性格なんで。だから、ツイッターもどうかなぁって。

――ちなみにブログはどんな人のをチェックしてるんですか？

天山 プロレス関係が多いですけど、あとは趣味でパチンコが好きなんで、パチンコ関係のブログやらサイトとかを覗いたり。けっこう、ブックマークは多くて、もういっぱいいっぱいなんですよ（笑）。

――天山さんのブックマークはぜひチェックしてみたいですね（笑）。

天山 まあ、いまはなんでも携帯で情報を見ちゃうみたいな感じで。パソコンも持ってるんで、一応インターネットもやることはやるんですけど、家ではあんまり開かないっていうか。

――家で開かないでどこで開くんですか？（笑）。

天山 いやいや、だから、ほとんどパソコンはやらないんですよ。

――携帯とかパソコンとか新しいものが出てきたときって、すぐに買っちゃうほうですか？

天山 そうですね。けっこう機種も変えたりとかしましたけど、最近はちょっと落ちついてきて、壊れるまで使う、みたいな（笑）。

――そうなんですか（笑）。

天山 前に一回、携帯の機種で凄い気に入ってるのがあって、同じのをもう一回買い替えたりもして。それはその携帯にしかついてないゲームが好きだったんですけどね（笑）。

――ゲームありきで選んでいた、と。

天山 そうなんですよ。やっぱり、基本はドコモが一番かな、みたいな（笑）。まあ、最近は高いっていうのもあるんですけど、基本、自分はモノを大事にしないタイプなんで。

――どんなタイプですか、それ！（笑）。

天山 なんでもボロボロにしちゃうんで。よく言われるんですよ。「モノを大事にしない」って。

――ムシャクシャして携帯を投げつけて壊したりっていうのもあるんですか？

天山 前はけっこうありましたねぇ……（しみじみと）。壊した瞬間「やべぇ！」みたいな感じになるんですけど（苦笑）。

――でも、壊すときっていうのは、当然なんかしらの理由はあるわけですよね。

天山 そうですね。けっこう、携帯絡みではあるじゃないですか？（笑）。

――天山さんは恐妻家としても知られてますけど、たとえば奥さんに見られたくないメールが見つかったり？

天山 そういうのもしょっちゅうでしたね（笑）。

――しょっちゅうはまずいんじゃないですか（笑）。

天山 まだシークレットモードとかわかんない時代だったんで。まあ、いまはそんなにへんなことはしてないんで。

――「そんなに」はしてない（笑）。

天山 いやいや、まったくしてないですけどね（笑）。まあ、昔はもう見つかってばっかりで。基本はお互い携帯は見ないようにはしてるんですけど、ちょっと見つかってしまって問題になったりとか。

――天山さん的には隠してるつもりだっ

メールはけっこうやりますよ。男同士

たのに、見つけられてしまうんですか？

天山　そうですね。あんまり干渉されないと思ってたら、そんなことはなかったみたいで（苦笑）。

——バッチリ干渉されていた、と（笑）。

天山　ちょっと油断してたら、「なんなのよ、これ!?」みたいな感じで（苦笑）。まあでも、薄々悪さしてんのはわかってたとは思うんですけどね。

——女の勘は鋭いって言いますからね。

天山　ですよね。さすがに壊されたりはないですけど、そんなことされたら逆ギレですよ（笑）。ガハハハハ！

——壊されたら逆ギレ（笑）。ツイッターの話に戻りますけど、現在、天山さんはリハビリ中ってことでファンも「いまどうしてるんだろう？」って心配してると思うんですよ。そういう人のためにも「リハビリなう」とかつぶやいたらファンの人も励ましてくれるだろうし。

天山　あ～、そういうのはうれしいですよね。まあ、実際にリハビリは大変ですからねぇ……（しみじみと）。

——息抜きになってたと思われるパチンコ連載もタイガーマスクさんに取られちゃったんですよね（笑）。

天山　そうなんですよ（苦笑）。

——リハビリ中は奥さんからパチンコ禁止令も出たりしてるんですか。

天山　う～ん、そのへんはノーコメントっちゅうか（笑）。

——ノーコメントということはやってるわけですね（笑）。

天山　いや、でもね、ずっと月イチでパチンコ連載をやってたんですけど、それも2月ぐらいから復活できるような話になったんですよ。ホントは今日の予定だったんですけど、ちょっとずれちゃって（残念そうに）。

——プロレスより早くパチンコでの復活が決まった、と（笑）。

天山　そうですね。試合への復帰はまだ時間がかかりそうなんですけど。

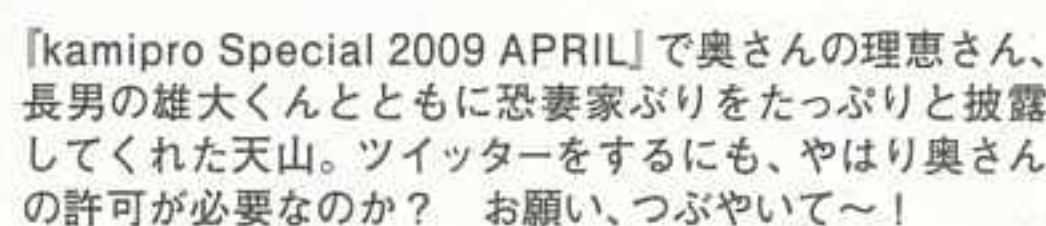
——奥さんからは「リハビリ中にギャンブルなんて」とか言われてるんじゃないですか？

天山　『スポーツ報知』の連載は仕事なんで、「やればいいじゃん」みたいな感じで。ただまあ、実際プライベートでやっていいかといったら、なかなか難しいところで（苦笑）。こんな状態なのに「何やってんの？」って見られるし。だから、やるときは、こっそりみたいな（笑）。たまにはやらないとストレスも溜まるんで。

——でも天山さんの風貌でこっそりパチンコはできないんじゃないですか？　それこそツイッターで「天山がパチンコ屋で3箱積んでる、なう」とかつぶやかれますよ（笑）。

『kamipro Special 2009 APRIL』で奥さんの理恵さん、長男の雄大くんとともに恐妻家ぶりをたっぷりと披露してくれた天山。ツイッターをするにも、やはり奥さんの許可が必要なのか？　お願い、つぶやいて～！

ツイッター×天山広吉

天山　そうそう、それが嫌なんですよ！

——「そうそう」って、もしかして、実際にそういうことがあったんですか？

天山　ツイッターもそうだと思うんですけど、インターネットとかって、いろんな情報が出てるじゃないですか。2ちゃんねるとかも気になって見たりすると、「天山がパチンコやってた」とかホントに書かれてたりするんですよ。

——そうなんですか（笑）。でも、それってネタじゃなくてホントにやってたってことですよね？

天山　そうです（苦笑）。店の名前とかも書いてあったりして、「あ、俺じゃねえか、コノヤロー！」と思って。「べつに書くことないじゃん！」って思うんですけどね。

——でも、パチンコ屋で天山さんを見かけたら書きたくなる気持ちもわかりますけどね（笑）。

天山　そうなんですかねぇ。

——昔はパチンコの台を叩いて破壊してしまったこともあるみたいですし、そんなところを目撃したら間違いなく書き込みますよ（笑）。

天山　まあ、台を壊したのは昔の話ですけどね（笑）。ただねぇ、いまはリハビリを頑張ってるんですけど、思ったよりも時間もかかりそうなんで、ウチの嫁とのいざこざも絶えないっていうか（苦笑）。

——試合をしているときよりも顔を合わせることも多いでしょうからね。

天山　そうなんですよねぇ。ウチは子どもも一人いるんですけど、リハビリが終わったら基本的に家にいるんで、「パパは仕事もしない」みたいな感じで見られますからね。

——子どもからも永田さんばりの白い目で見られている、と（笑）。

天山　そうなんですよ（苦笑）。

——家にいるときは家事を手伝ったりもするんですか？

天山　そうですね。いまは練習もそんなにガンガンできないんで、家にいるといきは洗濯したりとか。

——食事も作ったりするんですか？

天山　食事はあんまり作らないんで、後かたづけとかですよね。食器洗ったりとか、部屋を掃除するぐらいで。自分でも気を使ってるほうなんですけど……。

——いざこざが絶えない、と（笑）。そういうときに「嫁に怒られた、なう」とか、つぶやいたら日本中の天山ファンが「頑張れ！」って励ましてくれますよ！

天山　そうですかね？　でも実際、けっこう自分って秘密主義なんですよ。

——今度は秘密主義（笑）。

天山　だから、知ってる選手のブログとかを見ると、今日はこういうことがあってとか、何を食べたとか毎日のように書いてるじゃないですか。でも自分はそういうのは出したくないっていうか。実際、自分がブログとかツイッターをやんなきゃいけないとなると、「どうしよう？」っていうのはありますけどね。

——プロ意識として、あまりプライベートを明かすのはよくないんじゃないかっていう意識もあったりします？

天山　それもありますねぇ。自分の私生活とかを覗かれるのはどうかなって。前に日記の連載を書いてたときは、けっこうプライベートの家族の話とかも書いてたんですよ。それはそれで凄く喜んでもらったん

ね？

いうのもあるんでしょうね。犯罪とかもあ

メールはけっこうやりますよ。男同士なのにハートとかガンガン入れたり

ですけど、プロレスラーとしての顔とのギャップみたいなのもあるみたいで、「どうなんかな？」って思ったりもしたり。

――リング上は「エ～、オラッ！」みたいな感じですけど、普段の天山さんはいい人だっていうのも、だいぶ浸透してきてるとは思うんですけどね。

天山 中には「イメージが壊れた」って人もいたみたいで。でも、やっぱり書くんだったら、おもしろいものを書かなきゃいけないとかあるじゃないですか。

――どうせ書くんだったら「おもしろい」って言われたいですよね。

天山 ですよね。まあ、ツイッターとかブログも自分や団体の宣伝のためにはいいんでしょうけど。

――ちなみに天山さんって、顔文字とか絵文字とかって使ったりするんですか？

天山 けっこう使いますよ。男同士なのにハートとかガンガン入れたり（笑）。

――ガンガン、ハートを入れる！（笑）。

天山 けっこう遊び感覚で入れますね。真剣に字だけ書いても味気ない感じがするし、プラスアルファみたいな感じで。ビックリされますけどね（笑）。

――いきなり天山さんからハートがたくさん入ったメールが送られてきたら驚きますよ（笑）。

天山 へんな意味で勘違いしないでほしいですけどね（笑）。

――じゃあ、文字を書いたりするってことには、それほど抵抗はない？

天山 そうですね。自分で思ったことを書いたりするぶんには大丈夫ですけど。ただ、はまっちゃうとヤバイだろうなっていうのは思うんですよね。基本的には携帯からやってる人が多いんですよね？

――そうですね。最近はiPhoneでやってる人が多いみたいですけど。

天山 へぇ～。ウチの嫁なんかも家の中でずっと携帯を見てるんですよ。

――天山家は夫婦揃って携帯依存症なんですね（笑）。

天山 そうなんですよ。出かけるときに「早く行こう」って言ってるのに携帯をずっといじってたり。そういうのでしょっちゅうケンカになって。

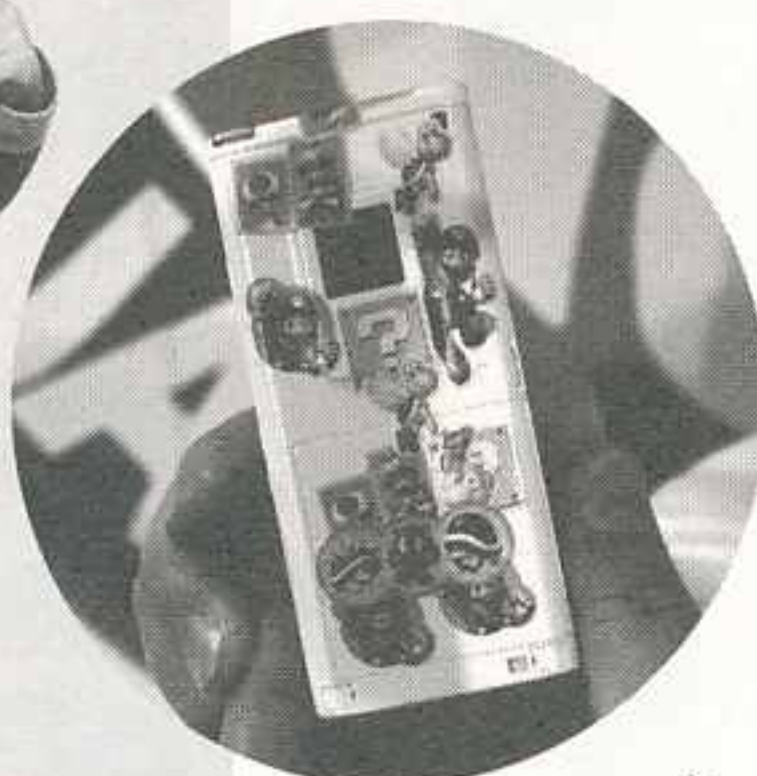
――携帯が原因でケンカが絶えない？

天山 だから、ツイッターとか始めちゃうと、さらに携帯離さなくなるんじゃないかなぁ、みたいな（苦笑）。

――その可能性は高いでしょうね。

天山 「またパパ携帯いじってる！」とか子どもにまで言われたりしますからね（笑）。

――目に浮かびますねぇ（笑）。

天山 そういうのもあるんでツイッターはちょっと難しいかなぁ。……でも今回の企画的にはやったほうがいいんですよね？

――できればやってもらいたいところですけど、無理にやらせるわけにもいかないですし。

天山 あんまりツイッターのシステムはわかってないんですけど、聞かれたくないようなことを聞かれることもあるんですよね。そういう質問にも答えなきゃいけないんでしょうけど、答えたくないことは答えたくないじゃないですか？

――確かに（笑）。バッシング的な書き込みもあるでしょうからね。

天山 ですよね。そうなると「なんで俺の質問に答えないんだ」とか言われて、炎上みたいになったりとかよくブログでありますよね。ツイッターとかもそういうのはあるんですか？

――ツイッターは基本的にある程度は身元がわかってしまうので、炎上とか荒らしはいまのところそんなにはないみたいですけどね。

天山 そうなんですか。ブログとかは不特定多数っていうのもあるんでしょうね。犯罪とかもあるわけだし。そういうのを考えると、ツイッターも正直見てるだけで充分かなって。

――なかなか「天山広吉ツイッターデビュー」は難しいそうですね。

天山 直接本人に向かってつぶやけたり、それに対して答えが返ってきたら、それはうれしいだろうなっていうのは、なんとなくわかるんですよ。ただ、自分がそれをやれるかどうかっていったら、なかなか難しいところで。

――ツイッターは難しそうですけど、こういったインタビューとかで話をするのは問題ない感じなんですか？

天山 まあ、インタビューならべつに聞かれたことは普通に答えられるんで。

――それこそ答えたくない話は「それは答えられない」って直接言えますもんね。

天山 そうなんですよ。まあ、プライベートな話とかも「ここまでなら大丈夫だろう」っていうのは自分なりにはあるんですけど、ただ、よくウチの嫁にダメ出しされたりするんですよ（苦笑）。一回、『kamipro』で家族3人で出させてもらったことがあったじゃないですか？

――かなり好評でしたけど、もしかして、そのときもダメ出しされたんですか？

天山 されましたね（苦笑）。「よけいなことまでベラベラしゃべって！」って、かなり怒られました。

――ガハハハハ！ 天山さんのツイッターデビューはあきらめましたが、本業での一日も早い復帰を期待してますので、リハビリと息抜きのパチンコ、頑張ってください！（笑）。

天山 嫁に見つからない程度にこそこそ頑張ります（笑）。

【10年2月26日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

無残! これが天山の携帯だ!

てんざん・ひろよし■本名＝山本広吉。1971年3月23日、京都府出身。新日本プロレス学校を経て91年1月の松田納戦でデビュー。その後は新日本のトップレスラーとして長きにわたり活躍するも、昨年秋に右反復性肩関節脱臼と右肩腱板断裂の手術を行ない、現在復帰に向けてリハビリ中。右は息子にシールをベタベタ貼られまくった天山の携帯。ガッデム。183cm、115kg。

マット界とニューメディアはどう付き合っていくべきか!?

ツイッターは谷川さんにすべてお任せします!

んあ～

谷川さん

DREAMイベントプロデューサー 笹原圭一

ツイッターといえば、サダハルンバが水を得た魚のように自由につぶやきまくっているが、
そういえば、DREAMイベントプロデューサーである笹原氏はつぶやかないの?
というわけで、ツイッター特集を機にそのへんのことを聞きに行ってみた。
また、団体とニューメディアの付き合い方についても語っていただいた。

聞き手／ジャン斉藤

――笹原さんはツイッターをご存知でし

もしろいと思われるのはどういうところ

――確かにマット界にはそういう歴史は

はまだまだですけど、最初からいきなり影

――笹原さんはツイッターをご存知でしょうか？

笹原　さすがに知ってますよ！（笑）。谷川さんのツイッターがこれだけ話題沸騰してるんですから。

――そんなツイッターで、ぜひ笹原さんにもつぶやいていただけないかと思って取材にうかがったんですよ。

笹原　じつはボクね、ツイッター自体は登録してるんですよ。

――じゃあ、話は早いですね。

笹原　"ブッカーK"こと川崎浩市さんからお誘いいただいたんで、登録だけしたんです。「笹原」という名前じゃなくて「GMです」って名前で登録してるのですけど。でも、登録したまま放置してるんですよ。

――まったくツイートしてないんですか？

笹原　一回もないですね。でも、べつにいいでしょう、そんなボクのつぶやきなんて。

――いやいや、そんなことないですよ。

笹原　いや、ツイッター自体は可能性がある媒体だし、おもしろいと思うんですけど、でもねぇ……。

――煮え切らないですね。ちなみに、ツイッターがおもしろいと思われるのはどういうところですか？

笹原　要は、格闘技やプロレスっていつの時代も新しいメディアのキラーコンテンツになってきたじゃないですか。たとえば力道山がテレビを広めたりとか、総合格闘技がPPVを広めたりして、何かのニューメディアを切り開いていく際の重要なコンテンツになってたと思うんですよ。だからツイッター自体にもそういう可能性があるんじゃないか、と。そういう意味ですね。

格闘技やプロレスはどの時代も新しいメディアのキラーコンテンツになってきた

現在、ほとんどのプロレス&格闘技団体がオフィシャルサイトを運営しているのが現状で、DREAMのサイトでは選手の独占インタビューや日々の会見が更新されている。この中でぜひ笹原氏のツイッターを始めてみてほしいものだが今回は説得失敗か!?

――確かにマット界にはそういう歴史はありますね。いまのDREAMやK―1も『YouTube』に独自にチャンネルを作って、積極的に煽りVなどの映像を配信してますけど。

笹原　そうなんです。たとえばK―1チャンネルでKOシーンをバンバン流してるじゃないですか。ボクらからするとピーター・アーツvsステファン・レコのKOシーンなんか「何万回も観てるよ！」っていう話なんですけど、海外からのアクセスがもの凄いらしいんですよね。だからK―1チャンネルなんかも徐々に媒体力を持っていくと思ってます。

――これは勝手な想像ですけど、そういった新しいメディアを模索しているのは、スポーツ新聞や地上派放送の環境が芳しくないという理由もあるんですよね。

笹原　確かにスポーツ紙で紙面が割かれないというのは事実で、DREAMチャンネルやツイッターもそうかもしれないですけど、要は自分たちの媒体をいかに持つかということが、この先大切になってくると思うんですよ。それはPRIDEのときもよく「オフィシャルサイトを充実させよう」という話をしてたんですけど、オフィシャルサイトって自分たち発信で世界に情報を提供できるツールですから。で、いままで格闘技を扱っていた媒体がなくなったり、紙面が狭くなったりしている混迷の時代の中で、だからこそ自分たちで媒体を持つことが重要だとも思ってます。だってお金を払って宣伝してもらわなくてもいいんですもん。ボクらにとっては一石二鳥ですよ。

――そうなると、オフィシャルサイトのアクセス数とかは気になります？

笹原　それは気になりますね。DREAMはまだまだですけど、最初からいきなり影響力を持つというのは難しいと思いますし、結局媒体力を持つと言っても、そもそもDREAM自体に力を持ってないと、媒体も力を持ちようがないですからね。

――卵が先か、ニワトリが先かという話ですもんね。最近では『Ustream』で会見を配信したりしてますね。

笹原　ボク自身、あまり詳しくないんですけど、試みとしてはおもしろいですよね。

――でも、『Ustream』をやっちゃうと、もう記者を集める会見を開く必要はないんじゃないかなって気もします。

笹原　うーん、そもそも記者会見って会見という劇場型の演出は必要でしょうけども。記者も映像を見て記事を書けばいいじゃないですか。

――ホテルの大広間を借りるお金だってバカにならないですよね。

笹原　だから『Ustream』で会見を配信してお知らせするというかたちはいまの時代には合ってるのかもしれないですけど、その一方で、メジャー団体の責任として会見を開くという理由があると思うんですよ。

――責任といいますと？

笹原　やっぱりメジャー団体って、ファンも選手も憧れる舞台じゃないといけないと思うんですよ。言ってしまえば、会見を事務所で開いても、できないことはないじゃないですか。経費もかからないですし。でも、それだと選手のモチベーションは上がらないでしょうし、やっぱりホテルでTBSのアナウンサーの方に司会を務めていただいて、金屏風があって、記者が集まれば選手だって「ああ、DREA

ツイッター×笹原圭一

Mという大舞台に上がるんだな」って気分が高揚すると思うんですよね。

――プロとしての自覚も芽生えてくるでしょうね。

笹原　だから映像配信するのもバランスが問題になってくると思います。

――ツイッターの話に戻りますけど、谷川さんは有効利用されてるじゃないですか。

笹原　まあ、谷川さんはあれでストレスを発散してるんでしょう（笑）。それにファンからすれば、谷川さんに聞きたいことがあっても普通だったらなかなか答えてくれる場はないわけですけど、それがダイレクトに谷川さんに答えてもらえるというのはうれしいんじゃないですか？　見てると、ファンの方々も谷川さんに振り向いてもらうために知恵を絞っておもしろいことを考えたりしてますもん。

――谷川さんはツイッターという武器を手に入れて、好感度が凄まじくアップしましたよね。

笹原　いつも思うんですけど、業界の中で谷川さんを悪く言う人って、ほとんどいないじゃないですか。でも、ファンからすれば〝黒魔術〟のイメージが……って、それはPRIDEがそう煽ってきたこともあるんですけど（笑）。ツイッターでやりとりすることによって「自分はいままで谷川さんを誤解していた！」というファンは増えてると思いますね。まぁ、それはそれで騙されてるんですけど（笑）。

――というわけで、笹原さんも誤解を解きましょうか。

笹原　ボクは誤解も何もないですよ！　やったほうがいいと思う部分もあるんですけど、谷川さんのツイッターを見ていると、とてもできないと思いますねぇ。

――どうしてですか？

笹原　だって、たいへんじゃないですか。自分が一方通行で勝手につぶやいてるのは、まだできなくもないですけどねぇ。

――だったら、ファンの質問にはそこまで丁寧に答えなくてもいいですから。

笹原　いやいや、そこは谷川さんのツイッターを見ているファンからすれば「質問すれば答えてくれるんだ」って思いますもん。そこでボクが答えないと「なんで谷川さんは答えてくれるのに、笹原は答えないんだ！　偉そうにしやがって!!」ってなりますよ。

――そのときは『kamipro』が責任を取りますから。

笹原　『kamipro』は他人の責任を負ってる場合じゃないでしょ!!

――でも、笹原さんはいま「媒体力を持つ」とか「ファンとの交流が大事」とおっしゃってたわけですから。

笹原　いやいや、媒体力やファンとの交流はすでに谷川さんにやっていただいてるんで、ボクとしてはつぶやく必要はないかなって。最大の責任者である主催者の谷川さんの言葉なわけですからね。

――そういえばそうですよね。……って、逃げますねぇ。

笹原　ツイッターは責任のある人や有名人がやるのは意味があると思うんですけど、ボクみたいなどうでもいい人間がやってもしょうがないですよ。ボクがファンなら、ボクのつぶやきなんて見向きもしませんよ！

――まあ、これはツイッターにかぎった話じゃないですけど、最近はオフィシャル発表前に情報が漏れがちになってますよね。アメリカで報道されたりして、ファンのあいだでは普通に知ってる情報を、団体や発表しなかったり、マスコミが気

メジャー団体ではほとんどの会見をホテルの大広間を借りて行なっているのが現状だが、じつは思っている以上にこういった会見には費用がかかっているのだ。しかし、豪華な会見もメジャー団体であるがゆえの責任の一つだと笹原氏。

「朝青龍が参戦します」とツイッターでつぶやかれてもしょうがないですよね

を使って載せなかったりすることがあるじゃないですか。

笹原　そうですね。今回のジョシュ・バーネットのDREAM参戦にしても、「ジョシュがツイッターでDREAM参戦について言及」ってありましたよね。だから、いずれそこの壁は溶解していくと思います。こっちがどうコントロールしようとしても、もう規制はできないですもん。

――情報を規制する理由は、発表時の衝撃を与えたいという狙いが大きいわけですよね。

笹原　そうですね。だから、ボクらが情報をどう使い分けるかですよ。そういう情報が漏れるという前提の中で、ときにはそれを利用する方法もありますけど、たとえば「朝青龍が参戦します！」というときにツイッターでつぶやかれてもしょうがないじゃないですか（笑）。そこは派手に発表しないといけないと思いますし。ポイントは使い分けですよね。

――その件で思ったのが、五味隆典が参戦する3月31日のUFNをテレビ東京のプライムタイムで放送するということをネットマスコミが報道したんですよね。

笹原　『kamipro』が最初にツイッターで書いたんじゃないですか（笑）。

――まあ、そうなんですけど、ウチの場合は核心部分をボカして書いたんですよ。だって実現するかはまだ流動的だし、ファンにあれこれ想像してもらいたいし、なにより全部書くことでご破算になってもしょうがないですから。でも、これから

の時代、その壁をマスコミは突破したほうがいいと思いますか？

笹原　……難しいですよねぇ。一つだけ言えるのは、どこまでいっても暴露本的な手法ってなくならないとは思いますし、どれだけ規制してもモグラ叩きのようにどんどん出てくる。「これは暴露じゃない！　報道だ」というマスコミの姿勢は理解できますけど、その線引きって難しいですからね。

――たとえばいまって、試合報道に関して、大手団体はどこも情報解禁時刻を設定してますが、マスコミは規制できても、ファンは先にブログで書いちゃってますよね。

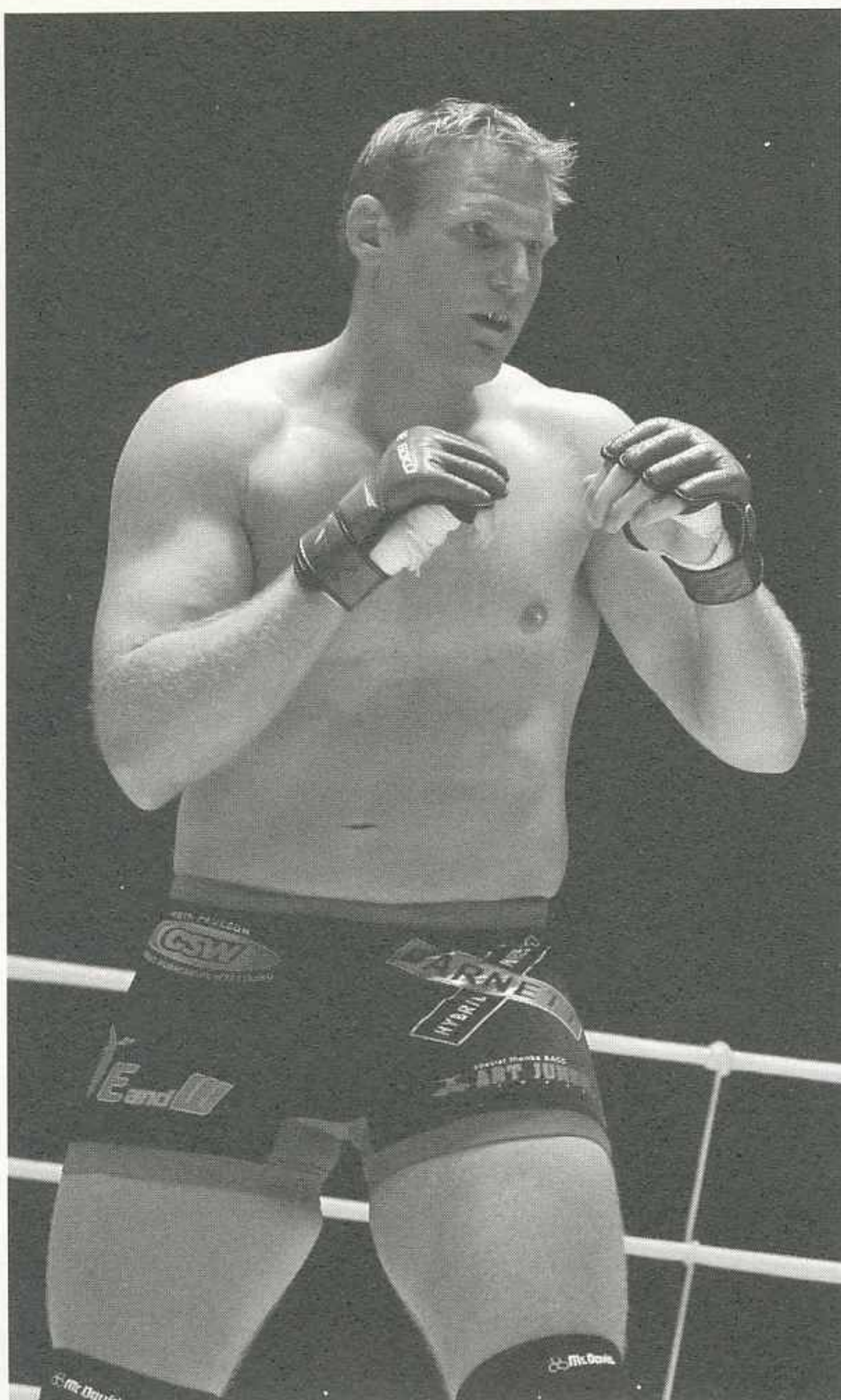
笹原　それはボクらも積極的に規制してるわけじゃなくて、マスコミの方々にはお願いしてるって感じですからね。

――お願いされてましたか（笑）。

笹原　そこはPPVでの放送やオフィシャルサイトの会員をより増やしたいという戦略があるということですね。ただ、それって団体にお金が入るという意味では、めぐりめぐってファンやマスコミに還元できるということにもなると思うんですよ。とはいえ、ツイッターなんかが出てきたら情報規制はますます難しくなってくるとは思ってます。

――そこでいきなり団体側が規制するのもへんですしね。

笹原　だからそのへんは緩やかに変わってくるんじゃないですか？　そういう壁

ツイッターなんかが出てくると情報を規制するのはますます難しくなります

会見で『DREAM.13』には「ヘビー級の大物が参戦する」と話した笹原氏だが、その後『kamipro』がツイッターでつぶやいたところ、あっという間に"大物"がジョシュ・バーネットであるという情報が広がった。ツイッターのような手軽な情報ツールができてしまうと、団体側の規制が事実上利かなくなるのは時間の問題なのだろうか。

って一番最初は『ＹｏｕＴｕｂｅ』での映像だったんですよね。原権利者の意向を無視して、どんどん映像がアップされていったじゃないですか。最初はそれに対してボクらも「いいかげんにしろ！」って感じだったんですけど、いまは逆に積極的に出しちゃおうとしてますからね。『ＹｏｕＴｕｂｅ』をオフィシャルのメディアとして使うようにしてるんで、ツイッターも同様に活用することをもっと考えていかなくてはならないでしょう。

――なるほど。逆に、選手がツイッターやブログをやることへの心配ってありますか？

笹原　まあ、それは多少なりともありますけど、それは自己責任の世界なんで、自分の言動は自分で責任を取るしかないですよね。そこまで自覚してやってる選手というのも少なくないとは思うんですけど。

――そこで団体側が管理することはないんですか？

笹原　ボクらはしないですね。

――というわけで、誌面の都合もあるので、なんとか笹原さんにツイッターをやっていただけないでしょうか？

笹原　唐突すぎますよ！（笑）。まあでも、ボクも一応スポナビさんでブログを書かせてもらってるじゃないですか。スポナビさんだと『ｋａｍｉｐｒｏ』と違って凄く媒体力があるんで（笑）、そこを間口にＤＲＥＡＭが広がっていくことは可能だなと思ってやってるんですけど。

――いやあ、ページビューだけ取り上げて広がってることになるなら、高瀬大樹はもっと認知されてますよ。それにツイッターのほうがより笹原さんのパーソナリティが出るんじゃないかと思うんですけどねぇ。

笹原　うーん。でも、ホントに顔をさらして意見を言うのはしんどいですよねぇ。

――『ハッスル』でケイ・ササハラ（各自調査）までやったお方が何をいまさら。

笹原　（無視して）顔をさらして偉そうな意見を開陳している人たちに対して「ああいうふうに自分もなってみたいな」って思ってる人って多いと思うんですけど、ボクはそんな欲求はないですから。

――イベントプロデューサーが何を言ってるんですか（笑）。

笹原　それにボクの立場と谷川さんの立場も違うし、谷川さんはどんなことをつぶやいても自分で責任を取ればいいですからね。ボクはただ制作している側なだけですから。

――とことん逃げるなあ。

笹原　あと思うのは、たとえばカード発表が遅れたり、いろんな問題が起こったりしているときって、ブログを更新するのもやっぱりためらわれるわけですよ。「そんなこと書いてるヒマがあったらカード発表を早くしろ！」って、ボクがファンだったら思いますしね。だいたいですね、みんながみんなツイッターを絶賛するから、何か背中を向けたくなってくるんですよ！

――ダハハハハ！　「ツイッターをやれ！」と連呼されると、引き気味になるのも人間の性ですしね。

笹原　もうボクの思いは谷川さんに託してるんで！

――やってほしいんだけどなあ。ブッカーKのフォロアーから笹原さんを探してツイッター上でプッシュし続けたいと思います！

笹原　……そっとしておいてください。

【10年3月2日／都内・リアルエンターテインメントにて収録】

元引きこもりのコミュニケーション論!!

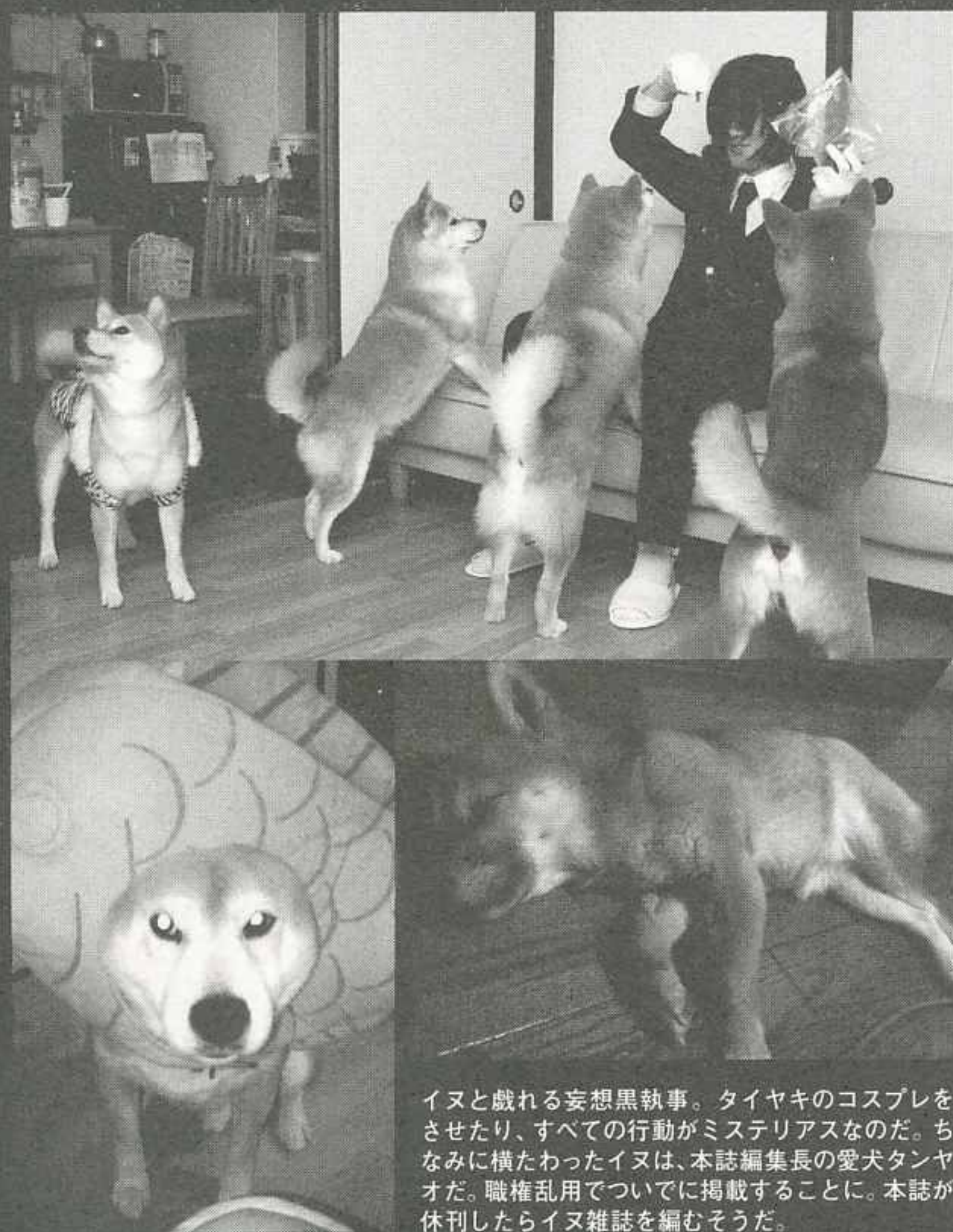
ツイッターをやると逆に孤独になるような気がする

妄想黒執事 DJ.taiki

本誌No.136のインタビューが大反響！　鈍く尖った精神性、衝動的な暴力性、妄想的な自己言及——引きこもりにして喧嘩自慢、DJ.taikiはどうしてツイッターをやらないのか。そこには対人関係への恐怖があった!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／戸成嘉則

——もしも～し、タイで修業中のDJさんですか？
DJ　はい、そうです。
——今日は国際電話の取材ですが、よろしくお願いします！　どうですか、タイの住み心地のほうはいかがですか？
DJ　早く帰りたいですね。練習がつらいです。
——そうですか（笑）。今日は3・27K-1MAXのお話と、じつは今回ツイッター特集をやるので、そのお話も聞かせていただければ、と。
DJ　はい。どうぞ。
——まずはK-1MAXのほうからおうかがいしたいんですけども、DJさんが記者会見で披露したタイヤキのコスプレ姿はいったいなんだったんでしょうか？
DJ　ワタクシ、横浜中華街でタイヤキを焼いておりますので。
——……は、はあ。DJさんが実際に焼いてるんですか？
DJ　焼いておりますね。その模様はボクのブログを見ていただければわかりますが。
——あ～、スパイダーマンのカッコで焼いてましたねぇ。
DJ　はい。それでせっかくの記者会見ですのでアピールをしておかないと、と思いまして。
——タイヤキはいつ頃から焼かれてるんですか？
DJ　今年の1月ですね。
——つい最近ですね。なぜタイヤキなんでしょうか？
DJ　なぜなんですかねぇ。そこにタイヤキがあったからとしか言えません。
——タイヤキに深いこだわりがあるわけじゃないんですね。
DJ　なんとなくですね。
——自信はあったんですか？　「オレだったら日本一のタイヤキを焼けるぜ！」みたいな。
DJ　全然ありません。
——う～ん、あいかわらずミステリアスですねぇ。DJさんはタイヤキが好きなんですか？
DJ　イチゴ味が好きですね。
——イチゴ味のタイヤキなんてあるんですか。
DJ　はい。おいしいですよ。イチゴの味がします。
——まあ、イチゴ味ですからねぇ。
話があらぬ方向に転がってますが、次のK-1MAXでは、黒執事コスプレが期待されてるみたいですね。
DJ　あのコスプレで入場はできないんですよ。なぜならグローブが袖を通んないから。ボクだけグローブチェックを入場後するなら可能ですけど、そんなルールは認められないじゃないですか。
——でも、長島☆自演乙☆雄一郎さんなんかはコスプレで入場されてますよね。
DJ　あれは特殊な加工をしてるんでしょうね。ボクもコスプレ衣装とか買いますけど、グローブが袖を通るヤツって見たことないですよ。

不良は一人では何もできないですから。いつもオレ対大人数ですよ

イヌと戯れる妄想黒執事。タイヤキのコスプレをさせたり、すべての行動がミステリアスなのだ。ちなみに横たわったイヌは、本誌編集長の愛犬タンヤオだ。職権乱用でついでに掲載することに。本誌が休刊したらイヌ雑誌を編むそうだ。

——じゃあ、袖が通れば問題ないんですか？
DJ　袖が通ればできなくはない。それカツラだけ被ってもいいけど、それだけだったら何をやってるのかわかんなくなっちゃうじゃないですか。
——でも、入場ゲートで披露しているエア氷室京介もわかりづらくないですか？
DJ　あれはまだ音楽が流れてますから。それにエア氷室って言われてますけど、あれ、エア氷室じゃないんですよ。
——え、違うんですか？
DJ　あれ、プロモーションビデオのマネなんですけど。歌ってるわけじゃないんです。プロモードションビデオをマネてるだけなんですよ。
——エア氷室じゃなくて、プロモーションビデオをマネてるだけなんですか？
DJ　そうなんです。氷室京介のモノマネじゃないんです。プロモーションビデオをフィーチャーしてるだけなんですよ。間違えないでください。
——複雑な話だ。で、今回のK-1は注目の一戦ですね。
DJ　ああ、そうなんですか。
——K-1で闘ってみたい気持ちは以前からあったんですよね？
DJ　まあタイミングが合ったんですよね。総合の試合ができないときに谷川さんと話して、ちょうどいいタイミングだったという。
——相手の渡辺一久選手にはどんな印象を持ってますか？
DJ　油断しちゃダメですよね。得意なタイプだと思うんで、油断しないように。
——DJさんって不良がメチャクチャ嫌いじゃないですか？
DJ　そうですね。アイツら一人では何もできないですから。不良ってケンカを一人でやったことないですからね。それに相手を見てケンカする。強いヤツにはケンカは売らないし、売ったとしても大人数。いつもオレ対大人数ですよ。いつも1対7くらいでしたよ。
——対戦する渡辺選手はDJさんの嫌いな不良っぽい感じのファイターですけど。
DJ　DQN。不良というよりDQNです。
——ダハハハハ！　DQN vs DJの試合（笑）。
DJ　DQNに負けたらヤバイですね。「DQNに負けたら誰に勝てるの？」って話ですからね。
——DJさんって、他人とのイザコザ話に事欠かないですよね。
DJ　昔はコミュニケーションが取れなかったですからね。というか、周りが取ってくれなかったっていう。
——どうして取ってくれなかったんですかね。
DJ　子どものときって、何が悪くて何が良いって決められてるから、ボクは悪い子にされてたんですよね。中学のときなんて、ボクを攻撃するのが暗黙の了解だったというか。
——「あいつとしゃべったヤツはダメだよ」的な。
DJ　そうです。学校全体でボクを攻撃するんです。「アイツは悪い！　みんなで攻撃だ！」。学校全体がそういう感じになってましたね。
——修学旅行のときもひどい目に遭

ミクシィは「誰が見てないか」がわかるツールだと思うんです

ったんですよね?

DJ 学校のルールで集合場所に誰かと一緒に行かなきゃ旅行に行けないんだけど。それも凄いルールなんだけど、ボクとは誰も一緒に行ってくれなかったんですよね。

——でも、どうしても旅行に行きたいから、ほかの生徒を尾行したんですよね。

DJ でも、ボクの尾行をまこうとするんですよ。で、必死にあとをつけて。

——あとは暴走族とも抗争したじゃないですか。

DJ ブン殴ったら放火されそうになりましたからね。ボヤですみましたけど。

——……DJさんの場合、他人と比べてかなり特異なエピソードがちょっと多いですよね。他人とコミュニケーションを取るのって、やっぱり難しいですかね。

DJ 若いときはそうですよね。昔は孤独すぎましたけど、いまはあまり感じないですね

——そこでオススメなのがツイッターなんです。ご存知ですか?

DJ 1年前ぐらいに入会したんですけど、まったくおもしろくなくてそのまま放っておいたままです。

——絶対に復活させるべきですよ!

DJ えー、いいですよ。何がおもしろいのかわからない。

——でも、1年前に入会したってことはツイッターに興味はあったんですか?

DJ いや、まったく興味なかったですね。

——誰かに勧められたと?

DJ そうですね。やってはみたものの、やっぱりよくわかんないみたいな。

——積極的にフォローしたり、つぶやいたりすることで他人との結びつきを高めていけばおもしろくなるそうですよ。DJさんにとってのコミユニュケーションってどういうイメージがあります?

DJ やっぱ、「会って話せよ!」って思いますよね。

——ウェブにおけるコミュニュケーションはそんなに好きじゃないですか?

でぃーじぇい・たいき■1982年8月24日、東京都出身。キックボクシングでプロデビュー。その後、総合格闘技にも進出、パンクラスで活躍する。DREAMフェザー級GP開幕戦では所英男を撃破したが、負傷により2回戦進出を断念。今月の3.27K-1MAXに参戦する。172cm、63kg。

DJ あんまりいい思いしたことないんで。最悪ですね。

——いい思いしたことないっていうのは、ウェブ上でケンカになるとか?

DJ そうっすね。なんか性に合わないというか、きな臭いというか。まあ、現実でもいい思いはしてないですけどね。

——どっちもあまりいい思い出がない(笑)。

DJ ツイッターは全然ログインしてないですね。だって誰も見てくれなかったら、よけいに悲しい思いをすると思いますよ。

——な、なるほどぉ。

DJ たとえばミクシィって、「誰が見たか」じゃなくて「誰が見てないか」がわかるツールだと思うんですよ。

——ミクシィは読んだ人間の足跡が残りますもんね。

DJ 誰も見てくれてないのかってすぐわかるんですよね。あれは悲しい日記ですよ。書けば書くほど、よけいに悲しくなるわけですから。

——たとえば一人で部屋にこもってつぶやいたとしても、それはそれで自己完結するわけじゃないですか。でもミクシィだったら読んでくれなきゃ足跡でわかってしまう。

DJ 露骨に他人の無関心があきらかになってもねぇ。あとツイッターはなんて言うんですか、アホでも書けるというか、想像力がなくても書けるという。ブログと違って手軽じゃないですか。

——140文字の世界ですから。その気軽さがいいと思いますよ。

DJ みんな、そんなに他人のツイッターを読みたいんですかね? ボクはあんまり他人のツイッターを見たいと思わない。一般人が「いま何をやってるか」は凄くどうでもいい。芸能人はそういうのも仕事のうちかもしれないですけど。

——いまは一般人も孤独になりたくないんじゃないですかね。そういうツールで誰かとつながっていたいというか。

DJ だから、そういう作業をすることでよけいに孤独がにじみ出てますよ。ミクシィなんかはそう思いますね。「たぶんオレ、みんなにいろいろ文句を言われてるんだろうなあ」って。

——被害妄想気味ですね(笑)。でも、ツイッターは絶対に復活させたほうがいいですって。最初はみんな言うんですよ、「何がおもしろいのかわからない」って。

DJ どうなんですかね。ホントに見てくれるんですかね。

——見てくれますよ!

DJ そもそもあれはどうやってボクを見つけるんだろう。

——普通にプロフィールに「DJ・taikiです」って書けば自然と広まってくと思いますけど。ツイッターをやってることがわかっても無視されるんじゃないか、よけい孤独を感じるんじゃないか? って怖さはありますか?

DJ ありますね。結局、ボクのブログだって知り合いが全然見てくれないっすもん。これにブログに書いたことで怒られるケースが多いんです。「おまえ、こんなこと書いたらしいな」って。「らしいな」っていう言葉ですからね、必ず。見てるんでしょうけど、必ず「らしいな」って言われるんですよね。みんなそう言うんですよね、ボクに対しては。だから見なかったことにしておきたいんです。

——見なかったことにしておきたいブログ(笑)。

DJ 誰も見てないんじゃないですかね。とにかく知り合いは見てないですよ。ファンとかは見てますけど、知り合いは見てないですよ。けっこうむなしいですね。

——いやあ、もうちょっとやってみましょうよ! DJさんのツイッターなら、絶対にむなしいことになりませんよ。ちなみにアカウント名はなんですか?

DJ なんだったっけなあ……。今年に入って一回もログインしてないと思うから忘れちゃいました。やったほうがいいのかなあ……。

——ということで読者の皆さん、ツイッターでDJさんを発見しましょう!

【10年3月某日/国際電話にて収録】

ツイッター
やってません

本誌独占!

愛知県の工場（in松永製菓）にも本格潜入!!

ツイッターから生まれたマット界のヒット商品

しるこサンドとは何か?

あなたはしるこサンドをご存知だろうか？　そう、しるこサンドといえば、サダハルンバこと谷川貞治FEG代表がツイッター上でつぶやき、一躍マット界で大ブームを巻き起こしたお菓子である。今回、ツイッター特集ならばしるこサンドは外せないということで、はるばる愛知県まで取材に行ってまいりました。しるこサンド徹底解剖、スタート!

構成／松下ミワ

谷川さんのツイッターでのつぶやきは『懸賞なび』さんに教えていただいて

——今日は、いまマット界で話題騒然となっている「しるこサンド」の製造会社、松永製菓さんにお邪魔しております！

松永室長（以下、松永） このたびは、わざわざ愛知県小牧市までお越しいただいて本当にありがとうございます。

——とんでもございません！ 今日は話題の会社を取材できるということで凄く楽しみにしてまいりました。で、さっそくなんですが、今回しるこサンドを作っていらっしゃる松永製菓さんを取材するきっかけはK−1イベントプロデューサーの谷川貞治さんという方なんですけど、谷川さんはご存知でした？

松永 ご存知というか、一番最初のつぶやきがたしか1月6日だったんですかねえ、谷川さんが私どものしるこサンドを食べられて「しるこサンドおいしいよ」とツイッターでつぶやいてくださったんですよね。だからいろいろ検索してみたんですけど「しるこサンドのおいしい食べ方」という動画も上がってたじゃないですか。

——しるこサンドの模様に沿って3口に分けて食べると一番おいしいと解説してた動画ですね（笑）。

松永 そうです、そうです。それをやっておられるのを拝見してですね、なんか凄いな、と。それから私どももときどきツイッター上で「しるこサンド」を検索するようになったんですけど、そうすると谷川さんの書き込みがたいへんなことになってるんですよね。だから「谷川さんがずいぶん盛り上げてくださってるなあ」というのは認識してました。

山田営業担当次長（以下、営業） 若い社員の中にはそういう格闘技の雑誌を見たりK−1のファンが多いんですけどね。私もK−1はもちろん知ってますけど、谷川さんがやっておられるということまで存じ上げなかったもんですから、「そんな方がしるこサンドを応援してくださってるんだ」と思ってビックリしてましたね。それで、そもそも谷川さんがつぶやいているというのは、雑誌の『懸賞なび』さんに教えていただいたんですよ。

——ほう。なぜ『懸賞なび』さんに？

営業 それが、谷川さんのツイッターを見てぜひ『懸賞なび』さんに商品を提供してほしいというご連絡だったんですよ。そのときに「松永さん、谷川さんのツイッターでしるこサンドが盛り上がってるよ」と教えていただいたんです。それで「さっそく見てみます！」ということでチェックさせていただいたんですけど、それ以降、最近もちょいちょいチェックしてますよ（笑）。

——そんなところにまで反響があったとは。そもそも谷川さんは名古屋の方で、小さい頃によく召し上がってたっていうことだったんですけど、東京にいる人間としては初めて知る人たちもいたので「そんなにおいしいものがあるのか？」とい

駅から車で10分ほどのこのあたり

最寄りの駅「石仏（いしぼとけ）」を降りると、なんとものどかすぎる風景が目に飛び込んできた！ この駅から車で10分ほどのところに、日々しるこサンドを製造している松永製菓とその工場があるのだ。

松永安弘
コンプライアンス室　室長
今回、取材のお話を快諾していただいた室長の松永氏。先代社長のご子息であり、しるこサンド創生期から食していたことは間違いない。

石山和義
製造担当長（工場長）
先代社長とともに、しるこサンドの開発に関わった工場長の石山氏。今回はしるこサンドの並々ならぬ誕生秘話を存分に語っていただいた。

山田三由
営業担当次長
営業の山田次長にはサダハルンバのツイッター効果がしるこサンドの売り上げにどれだけ貢献したのかなど、松永製菓の活動や業績について教えていただいた。

うことでマット界でもブームになっていったんですよ。

営業　ツイッターの中でも「サークルKに行ったらあった！」とか書いてあったんで、サークルKさんの方からも「松永さん、これは谷川さんにお礼をしなきゃいかんよ」と言われたんですよね。だから「そうですね」なんて言ってお菓子をドンと谷川さんに送らせていただいたんですよ。

――あっ、そういえば谷川さんも「ダンボールにいっぱいもらったんだよお！」と得意顔だったような（笑）。

営業　それでわざわざ手書きのお礼状をお送りいただいたんですよね。それを社内で回覧したんですけど、若い社員は「谷川さんって、K－1の谷川さんですよね!?」って驚いてまして、「本当？　これ本物ですか!?」なんて言うもんですから、「それくらい影響力ある方なんだなぁ」と思いましたね。

――ちなみに、年明け以降は問い合わせが増えたりもしました？

営業　ええ、多いですよ。当社では通販やってますんで、こういったものが話題になると消費者の方の中には直接電話をかけてくる方もいるんですよ。それで「どこ行けば売ってるの？」とかそういう話は常時ありますね。で、我々ツイッター上からも声を拾うようになりましてね。検索機能を使って「しるこサンド」とか「松永製菓」というキーワードで検索するとだいたい出てきますんでね。それでプリントアウトすると、このくらいダダッと出ちゃうんですよ（と、かなり分厚い書類を見せて）。

――ええ!?　それ全部、しるこサンドへの反響が載ってるページだったということですか？

独占潜入!! しるこサンドができるまで

工場内に入る前に、まずはキャップを被り、全身のホコリなどをローラーで取る。食品を取り扱う工場というだけあって、衛生管理には万全を期しているのだ。

さっそく工場内に潜入すると、なんとしるこサンドの「しるこ」の部分を発見！ この段階で味見をさせてもらったのだが……やっぱりサンドにしたほうがおいしいぞ（あたりまえ）。

さらに、しるこサンドの金型を発見。この金型を使って生地をくり抜いていく。この金型はいろんな種類があり、しるこシリーズの種類ほ豊富さがうかがえる。しるこバンザイ！

松永　とりあえず「しるこサンド」で検索したものですね。これでも全部じゃないですけれどもね。

営業　実際、うちの役員で大手メーカーさんが話題になってるサイトを検索してみるんですけど、検索しても我々の5分の1か10分の1ぐらいしかないんですよ。だから「なんで松永製菓だけこんなに取り上げられて話題になってるの？」って不思議に思われてると思うんですけどね（笑）。まあ、ホントにありがたい話だから私もうれしいんですよ。

――それで、今年初めからいきなり話題になって、その効果がいかほどのものなのかというのが凄く気になってるところなんですよ。

営業　まあ、谷川さんのおかげで先ほどお話しした『懸賞なび』さんに載せたんですけど、そしたらほかの編集者の方からもいっぱい電話かかってきて「うちにも載せてください」と言う方がたくさんいらっしゃいましたね。で、詳しく分析するとですね、テレビなんかで宣伝していただくと、だいたい2割ぐらい急にバッと数字が伸びるんですよ。で、最近の数字ではやはりその1月の後半くらいにダダダッと数字が増えてるっていうのがあるんですよね。それがだいたい1割から1割5分ぐらいの増加なんですよね。

――ということは、谷川ツイッターとそれに付随する効果で1割増になったとも考えられるわけですね！

営業　1月の3週か4週目くらいにズズズッと増えていきいましたからね。まだ2月はチェックしてないんでわからないんですけど、だぶん1月の後半から2月の初めくらいまでは1割アップぐらいの売れ行きなんですよね。

――それはプロレスファンも凄く貢献してると思います（笑）。ところで、先ほど「テレビに出たときは2割増」と言われてましたけど、テレビの取材もあったんですか？

松永　あの『ケンミンSHOW』って番組はご存知ですか？

――ああ、各県のご当地グルメとか名産品なんかを紹介してる番組ですよね。

松永　ええ。その番組内でご紹介いただいたんですよ。あれは一昨年の11月ですね。

石山工場長（以下、工場長）　『ケンミンSHOW』では、たしか清水ミチコさんが紹介してくださったのかな。清水ミチコさんは以前うちのテレビコマーシャルに出てもらったことがありましたからね。

松永　もう10数年も前なんですけどね。でも番組の中で清水さんが「私、昔しるこサンドのCMに出たのよ」って言ったら、出演者の皆さんが「えー！」って驚いておられて。で、清水ミチコさんは岐阜県出身なんですけど、一緒に出ておられた愛知県出身の加藤晴彦さんが「俺も昔からしるこサンド食べてた。食べ方はこうだぞ」とか言うわけですよ。そしたら今度は三重県出身の磯野貴理さんが「私も知ってる、知ってる！」とか言って、番組内でもちょっと盛り上がったんですよね。

『ケンミンSHOW』で清水ミチコさんにもご紹介いただいたことがありました

——はー、そんなことがあったんですか。

松永　そこから火がつきましてね、もう次の日から問い合わせがけっこうあったんですよ。

営業　で、関東では神奈川県の戸塚市にあるユニーさんというスーパーに置かせてもらってるんですけど、翌日の午前中だけで52ケースくらい売れちゃって、みんな一斉に買いに来てくれたみたいなんですよね。

——テレビの効果はさすがですねえ。

営業　だから私も朝8時前に会社に来たんですけど、社員が「たいへんです！　電話がバンバン鳴ってますよ！」って言うんですよ。だから「なんの電話？」って聞いたら「しるこサンドをどこで売ってるか知りたいって、その問い合わせが絶えません！」ってあわててましてね（笑）。

工場長　それまであまり首都圏への進出はうまくいかないところがあったんですけど、『ケンミンSHOW』の放送があってから都内周辺のスーパーでもいろいろ扱ってもらえるところが増えてきましたね。

——じゃあ連鎖的にどんどんしるこサンドが首都圏のスーパーに置かれるようになったというわけですね。

営業　それが中部地区でも関東地区でも、さらに関西でも同じことが起きたんですよ。だから去年1年は4割～5割数字が伸びたんですよね。

——4割～5割！　それはもの凄い売り上げアップじゃないですか!!

営業　あとは通販も去年から100件ぐらい増えてるんですよ。その増加地域もやっぱり首都圏なんですよね。というのは、やっぱり首都圏の方のほうがインターネットをやってる人の人口が多いみたいで、ホームページ見て注文してくれる人も多いんですよね。

ベルトコンベアに乗って、しるこサンドの生地がどんどん送られてくる。こんなに真っ平らになるのは、途中、ローラーを使って生地を同じ厚さに揃えているからだ。

生地はしるこサンド型に揃えられ、オーブンへ。50メートルほど続くオーブンで、約5分ほど焼けばほぼ完成に近い状態に。温度管理も入念に行なわれている。

出てきた！　出てきた！　これがしるこサンドだ。焼いたあとに少々の油分を振りかけてツヤを出したら完成だ。しかし、横で見守っている人がいるのは割れたしるこサンドがないかどうかチェックしているところなのだ。

今回はノーマルなしるこサンドより一回り大きな型で作成。焼き上がりを持ってニッコリとほほえむ工場長の笑顔はステキだ。

しるこサンドが完成するまでに8カ月くらい試行錯誤したんですよ

松永　まあ、そんなわけで『ケンミンSHOW』で一昨年に大きな波が来て、今年初めに谷川さんにまた波を起こしていただいたことになりますね。

——なるほど、なるほど。ところで、しるこサンドについてもっと詳しくおうかがいしたいんですけど、そもそもしるこサンドはいつどんなふうに作られるようになったんですか？

松永　それは開発の張本人である石山さんにお話ししていただきましょう。彼はもうしるこサンドの開発当時からいる我が社でも貴重な人なんですよ。

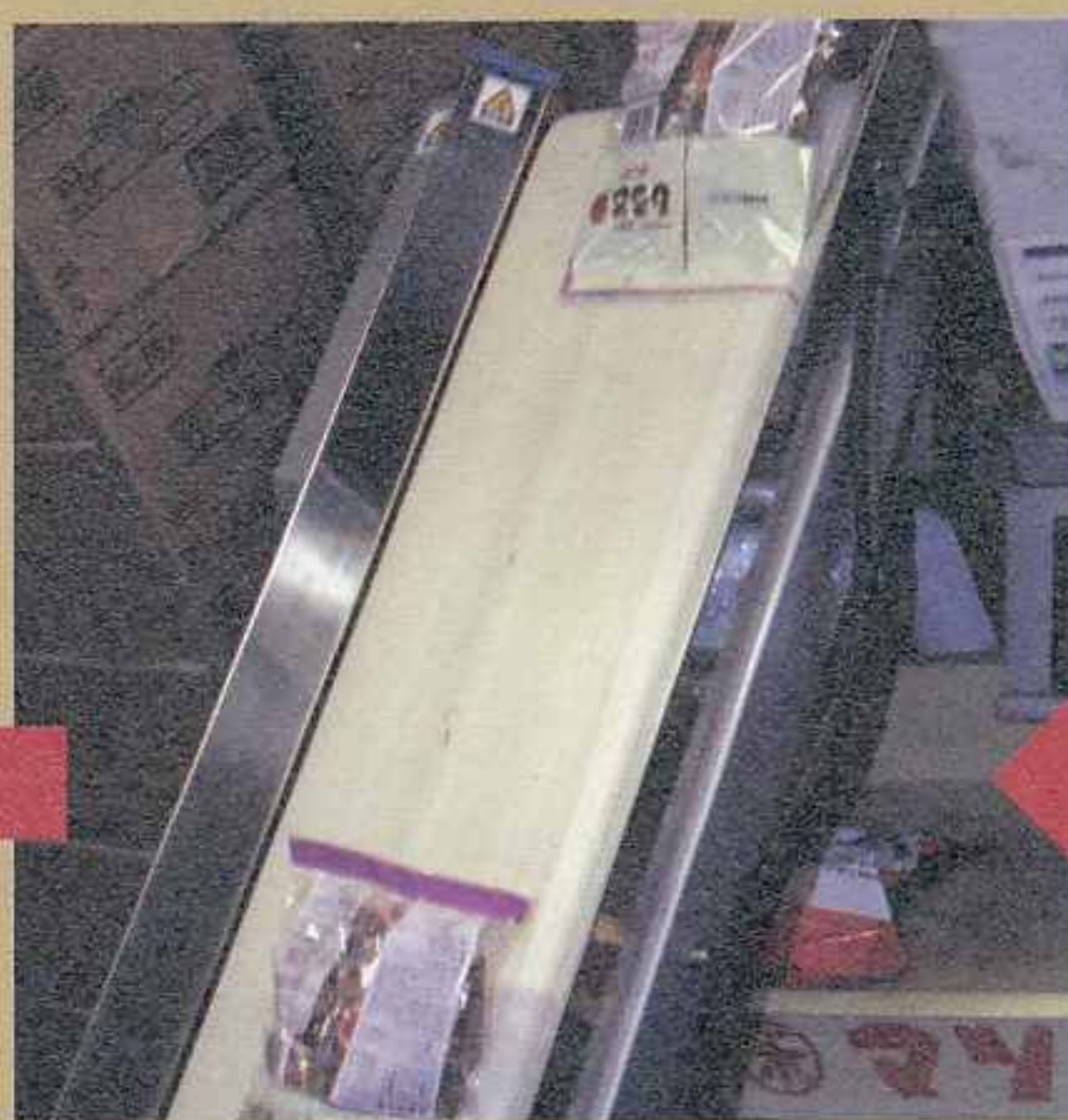
工場長　もう人間的には骨董品ですのでね（照）。まぁ、しるこサンドができてもう44年になりますかねえ。たまたまじゃないですけど、ウチにバンドオーブンというビスケットを焼く設備があって、ビスケットを焼いておったんですよ。ただ、ビスケットというとどちらかというと洋風なお菓子じゃないですか。だから「和の味と洋の味をドッキングさせることはできないだろうか」という話から始まったんですけれどもね。

松永　それは先代の社長がそういう提案をされたんですよ。

工場長　それで、「じゃあ、和の味はなん

だ？」といったら、「あんこだね」ということになりまして。で、ちょっとあんと取り合わせでなんとかできんだろうかという話から始まったんですよね。
――なかなか奇抜な発想ですよね。
工場長　で、いまウチもサンドものをけっこう作ってるんですけど、普通はビスケットの生地を焼いたあとにクリーム的なものをあいだに挟んでサンドするのが一般的ですよね。ところがあんはそうはいかないんですよ。生あんを挟むと水分があるからお菓子が湿気っちゃう、と。でも乾燥したものだと今度はくっつかない。それならもう焼く前に挟んじゃって焼いてみたらどうだという感じになったんですよね。
――先にくっつけて焼いたらうまくサンドされるだろう、と。
工場長　ところがこれもなかなかうまくいかずに、どうしても焼いたあとに上と下のビスケットがはがれちゃったり、うまくくっついたなと思うと今度は味がおいしくなかったりするんですよね。それで半年以上、８カ月くらい試行錯誤しましたねえ。
――は、８ヵ月！　そんなにかかったんですか。
工場長　で、ウチのオーブンは50メートルぐらいあって、その中をベルトコンベアで移動させながら焼くんですけど、一回流すともう２００キロくらいずつ失敗することになるんですよ……。これがホントにとんでもない量でして、やっぱりだんだん先代の社長が怒りだすんですよね。「クズばっかり出して、そんなもん止めてまえ！」って。でも、そんなことを言われながらも、なんとか格好がついたかなということで発売に至ったんですよ。

厳しいチェックを通して、見事に生き残ったしるこサンドは、どんどん次の工程へ。あら熱を取って、次はパッケージングの工程へと運ばれていく。

一つ一つのしるこサンドをパッケージングしたあとは、決まった量をすくい上げ、店頭に並ぶ袋に詰められていく。

ああ、見慣れたしるこサンドのパッケージがチラリ。こうしてベルトコンベアに乗って完成品がどんどん運ばれていく。こうして出荷用のボックスに入れられているのだ。

――そんな苦労があったんですね……。
工場長　それに、当時はいまみたいに材料もなんでも揃うわけじゃなかったですからね。かぎられたものでどう作ろうかというのが悩みの種でしたよね。それでも、あんこを挟んで焼き上げるときに、パカッとはがれちゃうとかそういうことがありましたんで、真ん中に挟んであるあんこの中に、たとえばジャムとかですね、ハチミツとかを加えたりしてるんですよ。パッケージの表示を見ていただくとわかるんですけどね。
――あ、ホントですね。いろんな材料が入ってます。
松永　そうやってやっと完成したんですよね。で、やっぱり社長はいまでも毎日出来具合を必ずチェックしてるんですよ。私どもも毎日しるこサンドを社長のところに持っていくんですけど、そんな中で「ちょっとこれ、油が少ないんじゃないか」とか細かい注文がやっぱりあるんですよね。
営業　最近も、しるこサンドの角が焦げてたことがあったんですよ。まあ、オーブンの火加減だったりいろんな要素があると思うんですけど、そしたら社長が「これはダメだ！」って言って出荷が止まったこともあったんですよ。
――それはそれでけっこうな損失になるんじゃないですか？
営業　でも結局社長にしてみれば、やっぱりしるこサンドは先代の社長からずっとそうやってチェックをしている商品ですし、不出来なものを出荷したときにやっぱり消費者の方々はちょっと焦げ目がついてても「最近しるこサンドは焦げてるよね」なんて言うんですよ。そういうことはやっぱり許されないんですよね。
――やはり苦労されただけあって、ネーミングなんかにもこだわりはありました？
工場長　しるこサンドっていう名前ね（笑）。まあ、普通に考えると「おしるこ」は液体ですからねえ。でも「あんこサンド」とは言いづらいし、まぁ「しるこサンド」でいいだろうと、そんな感じでしたよ。
――そこはけっこうアッサリ決まったんですね（笑）。しるこ関連の商品というのはほかにもあるんですか？
営業　ええ。けっこう愛知県というのは小豆文化があるんですよね。だから当社もけっこういろいろ商品を出してるんですけど、やっぱり「しるこ」と名のつく商品が目立つんですかね、だからついつい企画で僕らも「キャラメルを作ったらどうだ？」とか言って作ったりしてますよ。
――しるこキャラメル！　これまた凄いインパクトです。
営業　これもぼちぼち売れてますね。味は意外とね、手堅い味はしてるもんで食べるとおいしいねってみんな言ってくれるんですよ。これも北海道のほうで生キャラメルブームが起こったでしょ？　その流れに乗ってだんだん売れてくるようになってますね。それからしるこスティックですね。これがもう5、6年前からになるんですけどね、スティック状のタイプなんですよ。
松永　で、食べていただいたらわかるですけど、しるこサンドより軽い食感なんですよね。だから若い人たちなんかにはこっちのほうが人気があったりしますね。せっかくなのでちょっと食べてみてください。
――あ、ではお言葉に甘えて……。（ボリ

ボリボリ)。ホントだ。軽いですねえ。

営業　でしょ？　味はしるこサンドとそんなに変わらないんですけど、まぁポッキー感覚というんですかね。不思議なんですけど、ただ四角く抜いたか、長く抜いたかという型の問題だけで歯触りが変わってくるんですよ。

松永　それから、ほら、あのお土産用のもあるじゃない。

営業　そうそう。今度から小袋サイズのしるこサンドを6袋ほど箱に入れてお土産用にしようという話をしてるんですよ。

——ああ、よくご当地ポッキーとかみたいに箱に入ってるお菓子ですね。

営業　それをドライブインとか、お土産屋に置いてもらおうという話をしてるんですよ。これで600円くらいですからね。安いでしょ？　あとは、新商品として今年3月から「しるこサンドクラッカー」を一斉に売り出そうと思ってるんですよ。クラッカータイプの商品なんですけどね。

——おお！　先取り情報をありがとうございます。

工場長　これはクラッカー生地で作ったものなんですけどね、クラッカーはパンと一緒で発酵させて作るんですよ。だからミキサーで生地をミックスして寝かせるんです。それから焼くからほかのものよりサクサクしてるんですよね。

営業　しかも、ほかの製品と違ってなかなか量も多くてお得用サイズなんですけど、一つ一つは小さいサイズなんで、ポイッと口に入れやすいんですよ。

——なるほど、なるほど。しかし、いろいろ作られてるんですね。

営業　まあ、一昨年と昨年でウチはワーッと売り上げ伸びたけんですけど、今年はどう落ちないように維持するかということを考えてるんですよね。で、我々の業界もやっぱり景気は悪くてですね、ほかのメーカーさんは昨対比100パーセントいってるところ凄く少ないですよ。そんな中でウチはなんとか100パーセント超えを維持してますので、本当にありがたい話なんですけどね。

谷川さんの食べ方は、この道40年以上やっててまた新たな発見になりました

しるこサンド完成! こういった工程を経て、しるこサンドはなんと一日に6万袋も作られているというからビックリ! ここから全国各地のしるこサンドファンに届けられるのだから、なんだか感慨深いものがある。

今年3月から発売される新商品しるこサンドクラッカー。クラッカーという名のとおり、しるこサンドよりも軽いサクっとした仕上がりだ。

しるこサンド同様、しるこを中に閉じ込めて焼いたスティック状のお菓子。しるこサンドよりも歯触りが軽く、若者に人気だ。

もともとキャラメルを製造する機械を持っていたという松永製菓は、しるこサンドの成功を機に、しるこキャラメルも製造開始!

松永　でも何がきっかけでブームになるものか、想像もつかないですよねえ。

工場長　そうそう。よくほら、大学教授なんかがたとえば「バナナが身体にいい」と言えば急にバナナが売れたりするじゃないですか。でも、まさかマット界っていうんですか？　そういうようなところから出てくるっていうのはね、ちょっと考えられないですからね(笑)。

営業　本当にそうですよ。これは去年の暮れくらいですもんね。谷川さんもそうですけど、ツイッターのおかげでもありますもんねえ。ツイッターがなかったら谷川さんもおいしいと思っても発表する場がなかったでしょうから。

——本当に見事なタイミングでネットに広まったという感じになったということですね。

営業　ですから、最後に谷川さんにお礼を言わせていただいてもいいですか？

——あ、どうぞ、どうぞ！

営業　本当に今回は大ブレイクさせていただきまして谷川さん、ありがとうございます。私も今年になってから初めてツイッターという言葉を知りまして、こういったツイッターの中でつぶやいていただいたものがですね、いろんな消費者の方にお買い求めいただけるっていうのは本当に私どもにとってはありがたいかぎりです。

松永　とくに谷川さんの動画で、模様に沿って3回に分けて食べるという、あの食べ方を発見していただいたのは本当にうれしゅうございました。

工場長　僕らもそんな食べ方、いままでしたこともなかったですよ。逆にそこまでしるこサンドのことを考えてくださって本当に感謝しています。この道、40年以上やってて本当に新たな発見をさせてもらいました！

営業　しかし、谷川さんという方は本当におちゃめな方ですよね。あれを見たらみんなファンになるんじゃないですか？

——え、ええ。たぶんそうだと思います(笑)。

営業　ホントに素晴らしい方にご紹介いただいて、本当によかったです。

【10年2月27日／愛知・松永製菓にて収録】

選手&関係者のアカウント一覧

(2010年3月10日現在)

twitter™で あの人もつぶやいている

プロレス&格闘技界にもどんどん波及するツイッター効果。選手や関係者でもつぶやいている人はこんなにいるんです。「まだツイッターをやったことがない」という人も、ここに紹介している方々のつぶやきなら読んでみたい!! という人も多いのでは? 「やり方がわからない」という人はアカウント登録したら、まずはこのページを参考にフォローしてみるのがオススメです。(順不同)

構成／坂井ノブ

Follow us on Twitter

選手の皆様

アイスリボン選手代表
さくらえみ
sakuraemi

ファンとのコミュニケーションを大切にするさくらはmixi退会を宣言してツイッターをフル活用。

KAIENTAI DOJO代表
TAKAみちのく
takam777

K-DOJOのこと、自身の試合や身体の調子なども。ファンへの問いかけも多い。

K-1ヘビー級王者
京太郎

K1_Kyotaro

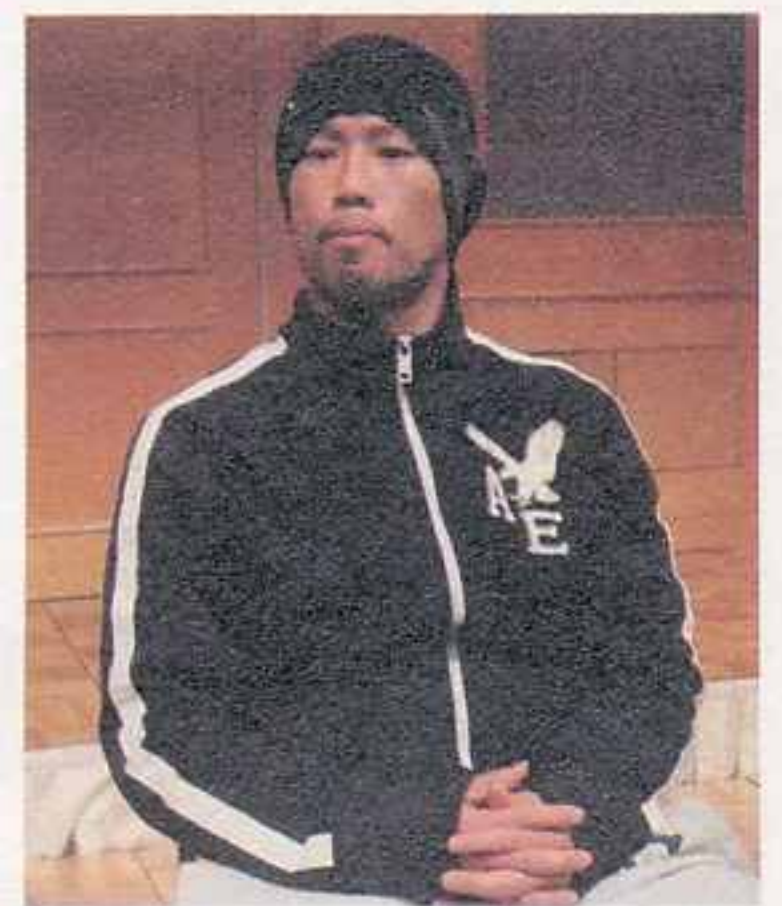
日々の食事や生活、トレーニングなど、ファンのつぶやきに対するリプライも。

戦極フェザー級王者
金原正徳
cheskinchan

練習や試合への意気込み、選手同士との会話など、ファイターのリアルな心情が書かれる。

ゲイレスラー
男色ディーノ
dandieno

唯一フォローしている新日本・菅林社長のつぶやきに男色ネタで絡み続けるという粘着質のつぶやき。

堅実・健全
郷野聡寛

gonodesu17

不純異性行為や夜遊びからは遠ざかっているという郷野の堅実・健全な毎日が赤裸々に。

コスプレファイター
長島☆自演乙☆雄一郎

jienotsu

アニメ布教を目指す自演乙。日常の何気ないつぶやきがほとんどですがフォロワー数は多い。

『ヴァルキリー』プロデューサー
茂木康子

mogyu_

『mimipro』にも出演のモギュ。何気ない日常のつぶやきから、怒りのつぶやきまで。

オフィス華名
華 名
k_a_n_a_

女子プロレス界に一石も二石も投じる華名。ゲームのつぶやきも多い。

ロータスパラエストラ世田谷代表
八隅孝平
lotusyasumi

千歳烏山でジムを運営するかたわら、青木、北岡らと練習でしのぎを削る日々を綴る。

おもしろレスラー
菊タロー
kikutarochan

プロレスのことから日常生活、テレビゲーム、携帯電話、パソコンなどの話題も。

※アカウント登録しなくても「http://twitter.com/アカウント名/」で見られます

DDT大社長

高木三四郎

t346fire

あの作家・柳美里さんとも接点が生まれるなど精力的にツイッターを使いこなしている。

意外に下ネタも飛び出す

佐藤嘉洋

yoshiHEROsato

「愛を知る県、愛知県から来ました」でおなじみの佐藤嘉洋選手、硬軟入り混じったつぶやきは大好評!!

極太あやや

高橋奈苗

nanaracka

日常のこと、プロレスのことなどを中心に。アイスリボン・さくらえみとのやりとりも盛ん。

飛・打・極

日高郁人

hidacatch

日々の生活や試合、指導のスケジュールなどもつぶやいてます。

超新星

KUSHIDA

KUSHIDA_CANADA

カナダ遠征の模様など。スマッシュ酒井代表への違和感をツイッターでファンに問うたことも。

元KG

朱里

agadagad

ハッスルでデビュー後、SB、ジュエルス、スマッシュで活躍中。まだ使いこなしてはいない模様。

元ベイスターズ

古木克明

smashfurukiktak

元プロ野球選手でスマッシュ総合格闘技部門へ入団したルーキーがデビュー目指して奮闘中。

サッカー川柳

R G

rgizubuchi

ワールドカップに便乗してか、ほぼサッカー川柳のつぶやきに終始。お笑い芸人ですが選手枠で。

初代戦極ライト級王者

北岡悟

PancrasesatoruK

日々の練習内容や体調、ときには「○○ムカつく」などリアルな心情がむき出しに。

DREAMライト級王者

青木真也

waoki

格闘技界の話題にいち早く反応。本誌編集長や北岡、八隅など選手間でのやりとりも楽しい。

DEEPライト級王者

菊野克紀

kikunokatsunori

日々の練習内容やその感想、たまに好きな格言、言葉などもつぶやいている。

バトラーツ

澤宗紀

SAWA_MUNENORI

ランジェリー武藤としても活躍する澤。ボンクラ感あふれる日常からバトラーツ情報まで。

関係者の皆様

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

K1_Tany

いま格闘技界で最もツイッターを使いこなす男。ファンとのやりとりをマッチメイク会議と呼ぶ。

新日本プロレス社長

菅林直樹

NJPWSUGABAYASHI

選手の情報や社内の情報など。毎月の上旬にはその月の社訓も発表している。

メタルLOVE

富松恵美

tommyemi666

女子プロレスJd'でデビュー、現在はグラップリングなどで活躍。メタル好きなつぶやきも。

どうなる結婚!?

光岡映二

eijimitsuoka

よく北岡から練習参加の呼びかけがかかっている光岡。気になる次戦は……?

『ジュエルス』のエース

石岡沙織

i_saorin

日々の練習や指導の模様をつぶやいています。自分撮りの写真もたまにアップ!

シュートボクシング統括本部長
森谷吉博
sbmoriya

日常的なつぶやきも多いが、シュートボクシングのディープな情報も飛び出す。

ブッカーK
川崎浩市
booker_k

UWFでキャリアをスタートして世界を股にかけて活躍するエージェントの縦横無尽のつぶやきが読める。

DEEP代表
佐伯繁
sigeru_saeki

佐伯代表の食生活が一目瞭然。と同時に病状もわかったりします。写真がイカス!

GCMコミュニケーション代表
久保豊喜
kubotoyoki

和術慧舟會を束ね、ケージフォース&ヴァルキリーの主催をする親分の含蓄のあるつぶやき多数。

実況アナウンサー
清野茂樹
kiyoana

本誌143号にも登場していただいた清野アナ。プロレス、NBA、音楽と話題は多岐にわたる。

山崎バランス治療院
山崎一夫
yamazakikazuo

神奈川県綾瀬市で開業中の「山崎バランス治療院」情報など。mixiを中心に展開中なのでチェック!!

NEO女子プロレス代表
甲田哲也
neokoda

NEOの営業活動や大会告知など、日々奮闘している様をダイレクトにツイート。ブログ更新情報も。

女子格闘技ジュエルス代表
尾薗勇一
ozonoyuichi

プライベートな内容が中心ながら『DEEP X』などで試合もこなすだけに練習報告なども。

サムライTVキャスター
三田佐代子
345m

プロレスはもちろんヨーロッパサッカーのことまでつぶやいています。壁紙のネコが超かわいい。

空手道禅道会
西川享助
dojocho

空手道禅道会小金井、六本木、大久保の道場長。選手のマネージメントも行なう。

『キン肉マン』作者
ゆでたまご嶋田隆司
yude_shimada

『キン肉マン』『キン肉マン二世』などを中心に、ファンのつぶやきにも友情パワー全開で熱く応えている。

団体オフィシャル

こっちはオフィシャル
K-1
k1_jp

公式発表などの情報のほかにも、会見場の写真を撮ってその場でアップするなどプチ情報も充実。

K-1宣伝熊
くまタロー
K1_Kuma

FEG関連の情報をつぶやいているほか、会見時にはUstreamなども駆使する。語尾に「クマ」がつく。

世界最大のプロレス団体
WWE
wwe

UFCが約10万4000人、こちらWWEは約7万4000人のフォロワーがいる。さすが!

ニュース中心
DEEP
deep_official

佐伯代表率いるDEEPの対戦カード情報やチケット情報などオフィシャルサイトへのリンクが貼られる。

メカマミー
DDT
ddtpro

DDTにはツイッターを使いこなす選手が多いが、団体の公式アカウントはメカマミーが担当。

ニャオミ
新日本プロレスリング株式会社営業部
njpw_nyao

ガオに続いて誕生した営業部のアカウントはニャオミ。語尾は「ニャオ」。チケット情報などをつぶやく。

ガオ
新日本プロレスリング株式会社
njpw1972

新日本の象徴・ライオンマークがしゃべった!? 記者会見情報や試合速報などをつぶやく。語尾は「ガオ」。

3.26旗揚げ
スマッシュ
SMASH_2010

TAJIRI率いるプロレス部門と小路晃率いる格闘技部門を持つ新団体。つぶやきの語尾は「ッシュ」だ。

女子金網MMA
ヴァルキリー
valkyrie_cf

大会情報だけでなく、大会チケットプレゼントなど気前のいい企画もやったりするので見逃せない。

日本語版
UFC
UFC_JP_Official

アメリカ版も充実していますが、日本語版も充実。貴重な情報がポロっと出てたりするので必見。

熱い!
ZERO1
zero1_fos

大会情報、試合結果、ニュースや選手のブログ更新情報などZERO1情報はここを見ればバッチリ。

本誌でおなじみの皆様

カメラマン
タイコウクニヨシ
gumbokuni

今号でも水道橋博士&谷川貞治対談を撮影してもらってます。博士もほめたツイッター使い。

男の墓場プロダクション
杉作J太郎
OTOKONOHAKABA

本誌でもたびたびお世話になっている杉作先生が、東京に浮かび上がる男の情景をつぶやく。

本誌で絶賛連載中
花くまゆうさく
hanakumafactory

格闘技のみならず映画、テレビ、音楽などの話題を中心にボンクラ男子にグッとくるつぶやきが炸裂。

イナズマ★K
土屋恵介
inazzma

デスマッチ系ライターとして本誌でも連載していたイナズマさん。本業の音楽系のつぶやきが多い。

フリーライター
橋本欽也
KinyaBJJ

本誌でもおなじみ。ライターであり柔術家。音楽とアイドルと女子プロレスにも造詣が深い。

フリーライター
田中太陽
tanakataiyou

単行本『魔王』の著者で、秋山成勲を"魔王"と命名したのも、じつは田中さんなんです。

フリーライター
橋本宗洋
Hassy0924

本誌携帯サイトやNumber WEBの更新情報だけでなく幅広く本音トークでつぶやき中。

ライター
大川義之
okavva

kamiproドットコム『韓流MMAニュース』を連載中。韓国情報が強いです。

カメラマン
菊池茂夫
shigeojones

おなじみの入れ墨カメラマン・菊池さん。パンク系の話題も多いです今号は村上&大塚対談を撮影。

菊地成孔マネージャー
ながぬまひろゆき
H_Naganuma

菊地さんご本人はつぶやかないですが、マネージャーさんが出演情報やスケジュールをつぶやき中。

映画評論家
町山智浩
TomoMachi

「格闘技のこと書いてないですけど」とおっしゃってましたが、本誌読者にはおなじみですね!

本誌デザイナー
金井さん
ka_nai

本誌をはじめ『kamipro books』、『MMA Legend』、DREAM大会パンフレットなどをデザイン中。

カリスマ司会者
原タコヤキ君
harataco

大好評ポッドキャスト『mimipro』のカリスマ司会者。『mimipro』の感想をリプライしよう!

フリーライター
高橋ターヤン
aohoshi

本誌携帯サイト『kamiproムーブ』、『映画秘宝』で連載中。海外MMAと映画情報が強いです。

カメラマン
吉場正和
yoshibeck

本誌はもちろん、雑誌やCDジャケットなど幅広く撮影する日々のお仕事をつぶやいている。映画の話題も。

kamipro

ここで掲載しきれなかった選手や関係者を見つけて自分でフォローしてみよう

ここでご紹介させていただいた選手、関係者、団体のアカウントはあくまでもごく一部です。やってみればわかると思いますが、選手、関係者、ファンが渾然一体となって、フラットでオープンなコミュニケーションをゆるく行なっています。「ツイッターを始めたはいいけど、誰をフォローすればいいのかわからない」「何がおもしろいのか、よくわからない」という人は、まずここに載っている方々をフォローしてみることをおススメしたいと思います。最後になりますが、kamiproのアカウントもあります。ウェブサイト『kamiproドットコム』や携帯サイト『kamiproムーブ』の更新情報、さらに編集部のちょっとしたネタなんかもご紹介しているので、ぜひフォローしてみてください。「@kamipro」です。

本誌デザイナー
マツさん
MA2_0321

本誌だけでなく『ぴあ』や越中詩郎Tシャツのデザインなども手がけてます！ 酒！ チャリンコ!

本誌編集長
ジャン斉藤
kamipro_saitou

本誌編集長が独立したアカウントを開設。本誌の感想や旬の話題をレッツ・リプライ!

ダナ・ホワイトのジャイアン節ツイート集

MMA界でダントツのフォロワー数を誇る男といえばダナ・ホワイト! ファンと積極的に交流を図ったりUFCのプロモーションに用いたりと、UFC帝国の君主はこのニューメディアをフル活用している。ここではそんなダナの印象的なツイートを徹底紹介!

構成 編集部 協力 高橋ターヤン 写真 Josh Hedge（UFC）

ツイッターでも大暴れ? フォロワー数は軽く100万超え!

センОリでもこいてろ。

go fuck yourself

▲ズッファ社の悪口を言うファンに対して強烈すぎる一言! 巨大帝国の主でありながら品のないところもダナの魅力だったりする?

ビクトーが欠場するのは本当だ。

Vitor is out its true

▲「UFC112」でミドル級タイトルマッチを行なうビクトー・ベウフォートが欠場するという噂を受け、ツイッターでそれが事実であることを発表。

今夜チャックがファースト・ステージに挑戦するんでテレビをつけて彼に投票してくれ

Chuck is on 1st tonight so please tune in and vote for him.

▲人気リアリティショー「ダンシング・ウィズ・ア・スター」に出演中のチャック・リデルを熱血応援!

なーんてこったー!!

Holllllllly shiiiiiiiiiiiiit!!!!!!!!!!

◀ボール・デイリーがダスティン・ヘイスレットをKOした瞬間。とにかくダナが度肝を抜かれたことが伝わってくるツイートだ。

スウィート・ホーム・アラバマでMMAが解禁されたぜ!

Sweet home alabama just passed mma!!! One more down 4 more to go!!!

▲アラバマ州でMMAが解禁されたことを受けて、レイナードスキナードの名曲を引用しながら思わず喜びの咆哮!

プレスカンファレンスで、この二人が罵り合ってるぜ!

Lots of shit talk between these two at the press conf!!!

▲「UFC110」のプレスカンファレンスでヴァンダレイ・シウバとマイケル・ビスピンのトラッシュトークを見ながら煽るように実況中継。

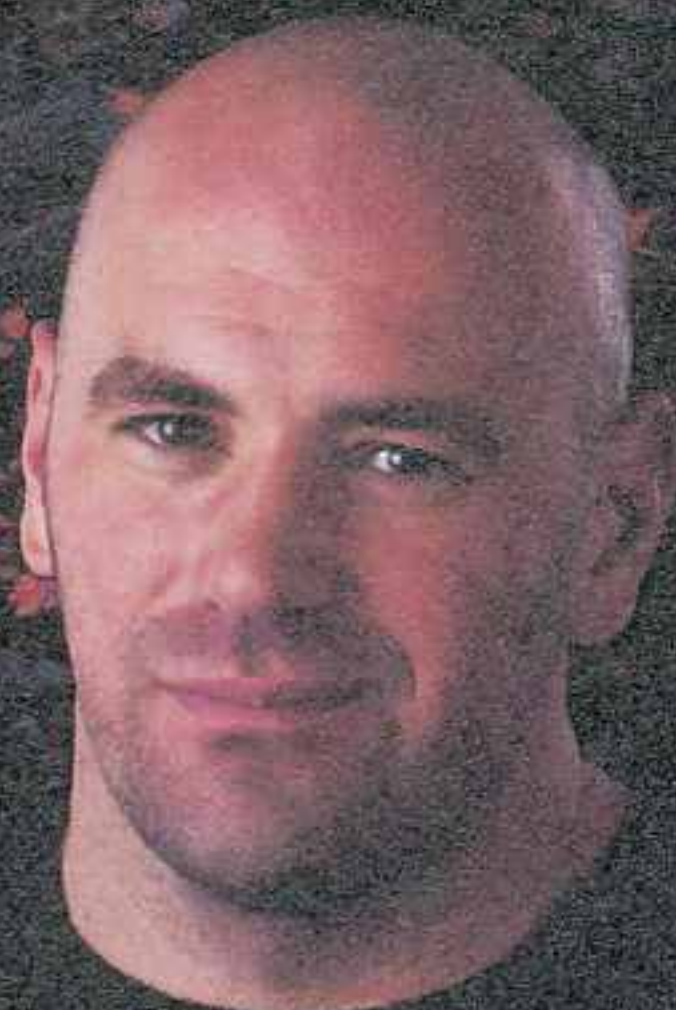
スポーツブックで出会ったチャーリーという女の子に(『TUF10』ファイナルの)チケットをあげたよ!

meet a girl named charl at sportsbook and get tix!

▲運よくダナを発見できた女の子に、チケットをプレゼントしたことを報告。

『ターミネーター4』を観たけどこりゃクソみたいな映画だな!!

Just saw terminator and it sucks ass!!!!!!

▲もちろんMMA以外のこともつぶやくダナ。下品な表現でバッサリ斬るところはまさにジャイアン節!

用意はいいか!? 明日のUFCのチケットを50枚配るぞ。場所は10分後に告知するからな。

Get ready!!! Tix to UFC ortiz vs griffin in las vegas at mandalay bay 2 morrow nite then watch for the location in the next ten mins! 50 tix

▲これが噂のダナのチケットばらまき大作戦! アメリカのMMAファンはチケット獲得を目指してダナのツイッターに大注目なのだ。

よーしいくぞー! オレはいま北の公園のモールにいるぞ。これが今夜のチケットをゲットするラストチャンスだ。ここに来い!

Ok here we go!! I am at the north park mall. Last chance to get tickets for tonights fight. Get over here!!!!

▲ファンにチケットを無料でプレゼントする場所をツイッターで発表するダナ。これまでに指定場所に大勢の人が詰めかけてパニックになったこともあったとか。

9月15日までに215パウンドに減量できるか1万ドルの賭けをするぜ! 金はオレのもんだぜ、アイスマン!!

Bet is that he would weigh 215 by sept 15th for 10K!!! I want my money iceman!!!!!!

◀チャック・リデルが減量できるか、本人と1万ドルの賭けをしていたダナ。結果、リデルは減量に成功して1万ドルをゲット! ダナのツイッターではこんな選手とのやりとりを見ることも可能。

PRIDEが帰ってくるぜ!

PRIDE IS BACK!!!

▲スパイクTVで「THE BEST OF PRIDE FIGHTING CHAMPIONSHIP」の放送が決定した際のツイート。「帰ってくるも何も、消滅させたのはそっちじゃ……」というツッコミはなし!

みんなの声は聞こえてる。両者ともにリマッチに合意しているよ

I hear you all. They have both agreed to a rematch. (lyoto vs shogun)

▲「UFC104」のリョートvsショーグンの疑惑の判定を受けて。ただつぶやいてるだけでなく、ファンのツイートもダナはちゃんとチェックしているのだ。

みんな、今日は来てくれてありがとう。とても楽しかった。UFCのファンこそがベストだ!

Thanks for coming out 2 nite everyone. That was fun, UFC FANS ARE THE BEST!!!!!

▲「UFC109」前日軽量イベント後にツイート。ファンに対してはちゃんと感謝の念を忘れないダナ。

マスク、安らかに眠れ!

MASK, May You Rest In Peace!!

▲格闘技用品ブランド、TAP OUT社の創業者の一人であるマスクが亡くなったことを受けて、追悼の意を表明するダナ。

ヤツは史上最悪だ

he is the worst ever

◀ダナが常々そのレフェリングを批判しているスティーブ・マザガッティについて、これ以上ない表現でバッサリ!

番号案内でネバダ州アスレチック・コミッションの電話番号を聞いてキース・カイザー(コミッショナー)に聞けよ。

Call information and ask for the number to the nevada state athletic comm and ask for keith kizer.

▲判定問題に関するツイートが多いことを受けて、アントンばりに「オレは触ってねぇですから」と言わんばかりのダナ。

ヘンゾ・グレイシーから「ガイ・リッチーの新作『シャーロック・ホームズ』は素晴らしい、いままででベストのMMAシーンもあるぞ』」とメールが来たよ。

Renzo gracie just text me and said guy richies new movie sherlock holmes is awesome and has the best mma fight scenes EVER done.

▲フラッシュ・エンターテインメントによるズッファ株買収直前のツイート。アブダビ王子とUFCの橋渡しをしたヘンゾとの仲の良さがうかがえる。

オレとロレンゾ、そしてシーク・タハヌーン! ハンティングに出かけるところだよ。

Me lorenzo and sheik tahnoon! Heading in now for the hunt.

▲UFCのVIP二人とアブダビ王子でハンティング。出発時のごきげんな写真とともにツイート。

グイダvsサンチェズ、なんて試合だ!

Guida/sanchez HOLY FUKN SHIT!

◀2009年のベストバウトと呼ばれたクレイ・グイダvsディエゴ・サンチェスを観ておおいにエキサイト!

頭を剃るにはこの剃刀だけでいいんだよ。シェービングクリームなんかいらないんだ。試してみてよ

You don't need shave cream or any gimmick shit. This is the only razor to shave your head with. Try it.

▲お気に入りのカミソリの写真とともに。こんなお茶目なダナのプライベートを知ることができるのもツイッターだけ?

デヴァル・パトリック州知事がマサチューセッツ州のMMA解禁書類にサインしたぞ! オレは言葉にならないくらい興奮してる! ボストンに行くぜ! 次はニューヨークだ!!

Gov Deval patrick just signed the MMA bill in Mass!!! I am so exsited words can not decribe! Here we come Boston!! NY is next!!

▲UFCといえば反対勢力との闘争の歴史。念願のニューヨーク州のMMA解禁に向けてとにかく大興奮!

フィル・バローニがこの写真を送ってきて「UFCにおかえり」だってさ。フィルはタフなヤツだぜ。

Phil baroni sent me this and said "welcome back to the ufc" phil is tough as nails!

▲UFC復帰戦を終えたバローニからボコボコになった顔写真の写メが送られてきたことを受けて、ダナはリング外の選手の素顔もたびたびつぶやくのだ。

オレはAKAを嫌ってないよ。AKAはグレートなジムだけど、ただちょっと意見の相違があっただけさ。

I don't hate aka. They are a great camp we just had a disagreement. It happens

▲ダナがAKAの選手に対し、肖像権を譲らなければUFCを解雇すると通告したことに関して。これもダナにとっては"ちょっと"したこと。まさにジャイアニズムだ?

アップデートできなくてごめん! 月曜日には凄まじくビッグでクレイジーなニュースを発表するぜ!

Sorry I havent updated! I will have tons of great crazy news for u on monday

▲そして月曜日、ダナは「TUF10」にキンボ・スライスが電撃参加することを発表! ダナはファン心理を煽るツールとしてもツイッターをフル活用。

オレじゃなくてパリス・ヒルトンでもフォローしろよ。

hey leo go follow paris hilton

▲「UFCのマッチメイクはクソだ」というMMAファンの過激なツイートに対して、小馬鹿にするように嫌みったらしく返答。

アキヤマって言える?

Can you say Akiyama?

▲秋山成勲と契約した際のツイート。「アキヤマ」はアメリカ人には発音しにくいということのか、これを受けてニックネームがセクシーヤマに……?

アブダビは素晴らしい! オレたちがここで大会を開くまで金を貯めとけよ! 死ぬまでにこの景色を見といたほうがいいぜ!

Abu dhabi is amazing. Save your money to come when we do a fight here. U have to c this place b4 u die!!!

▲飛行機からアブダビの光景を眺め、最大の賛辞をつぶやくダナ。そして4月11日、アブダビでのUFC開催が決定!

カロ・パリシャンはまたUFCとファンと対戦相手を騙しやがった! ヤツは二度とUFCで闘うことはない!

Karo Parisyan has fucked over the UFC, the fans and his opponent again!!! He will not be fighting saturday or ever again in the UFC!!

◀パリシャンが鎮痛剤依存で試合をキャンセルしたことを受けて大激怒! いつなんどきでもダナの感情表現はフルスロットルなのだ。

総勢128名! 文字が小さくても
大きな気持ちで見てください! なう!!

ツイッター名鑑USA

「ヘロウ! アッメ〜リカ!!」(本部長調)ということで、ツイッター発祥の国アメリカで
活躍するMMAファイター&関係者を調べたところ、驚くような数に!
MMA大国、そしてツイッター大国アメリカでは何がつぶやかれてるのか要チェック!!(順不同)

構成/編集部　協力/高橋ターヤン　写真/Josh Hedge(UFC)

選手	アカウント	選手	アカウント	選手	アカウント
UFC【ミドル級】 ジェイク・ロショルト	jakerosholt	UFC【ライトヘビー級】 シリル・ディアバテ	CyrilleDiabate	UFC【ミドル級】 アーロン・シンプソン	aaronsimpson
UFC【ウェルター級】 ジェイソン・ハイ DREAM GP準優勝	Kcbandit	UFC【ライト級】 デイル・ハート	Dalehartt	UFC【ミドル級】 アラン・ベルチャー 秋山成勲のUFCデビュー戦の相手	aaronsimpson
UFC【ライト級】 ジョー・ローゾン	JoeLauzon	UFC【ウェルター級】 ダン・ハーディー 次期UFCウェルター級挑戦者	danhardymma	UFC【ウェルター級】 アミール・サダロー 『TUF7』優勝	amirMMA
UFC【ライト級】 ジョー・スティーブンソン	joestevenson	UFC【ミドル級】 ダン・ミラー 元IFL王者	DanMiller185	UFC【ライト級】 アンドレ・ウィナー 『TUF9』出場	AndreWinner
UFC【ウェルター級】 ジョン・フィッチ	FitchFighter	UFC【ライト級】 ダニー・ローゾン	DanyLauzon	UFC【ウェルター級】 アンソニー・ジョンソン	RumbleJohnson
UFC【ライトヘビー級】 ジョン・ジョーンズ	jonnybones	UFC【ミドル級】 デビッド・ロワゾー	DavidLoiseau	UFC【ヘビー級】 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ 元PRIDE王者、元UFC王者	AntonioNogueira
UFC【ウェルター級】 ジョシュ・コスチェック 『TUF1』出身	JoshKoscheck	UFC【ミドル級】 デミアン・マイア 次期UFCミドル級挑戦者	demianmaia	UFC【ライト級】 BJ ペン UFC王者	bjpenndotcom
UFC【ライトヘビー級】 キース・ジャーディン	KeithJardine205	UFC【ライト級】 ディエゴ・サンチェス 『TUF1』優勝	DiegoNightmare	UFC【ウェルター級】 ブラッド・ブラックバーン	bradblackburnjr
UFC【ライト級】 ケニー・フロリアン 『TUF1』準優勝	Kenny_Florian	UFC【ミドル級】 エド・ハーマン 『TUF3』準優勝	shortfusepdx	UFC【ライトヘビー級】 ブランドン・ヴェラ	Verafied
UFC【ライトヘビー級】 キンボ・スライス 『TUF10』出身	kimboslice	UFC【ライトヘビー級】 エリオット・マーシャル 『TUF8』出身	FireMarshallUFC	UFC【ヘビー級】 ブレンダン・ショーブ 元NFL選手、『TUF10』準優勝	BrendanSchaub
UFC【ライト級】 カート・ペレグリーノ	kurtpellegrino	UFC【ライトヘビー級】 エルビス・シノシック	ElvisSinosic	UFC【ライトヘビー級】 ブライアン・スタン 元WEC王者	BrianStann
UFC【ライトヘビー級】 リョート・マチダ UFC王者	lyotomachidafw	UFC【ライト級】 エヴァン・ダナム	evandunham155	UFC【ヘビー級】 ブロック・レスナー 元WWE王者、元IWGP王者、UFC王者	DCBROCKLESNAR
UFC【ウェルター級】 マーカス・デイビス	irishgrenade	UFC【ライトヘビー級】 フォレスト・グリフィン 元UFC王者	ForrestGriffin	UFC【ウェルター級】 カーロス・コンディット 元WEC王者	CarlosCondit
UFC【ヘビー級】 マーカス・ジョーンズ 元NFL選手、『TUF10』出身	MarcusJonesmma	UFC【ライト級】 フランキー・エドガー	FrankieEdgar	UFC【ミドル級】 CB ダラウェイ 『TUF7』準優勝	cbdollaway
UFC【ミドル級】 マーク・ムニョス	mark_munoz	UFC【ヘビー級】 フランク・ミア 元UFC王者	ufcmir	UFC【ミドル級】 チェール・ソネン 次期UFCミドル級挑戦者	sonnench
UFC【ライトヘビー級】 マット・ミトリオン 『TUF10』出身	mattmitrione	UFC【ヘビー級】 ガブリエル・ゴンザガ	gonzagabjj	UFC【ヘビー級】 チーク・コンゴ	iamcheickkongo
UFC【ウェルター級】 マット・セラ 元UFC王者	MattSerraUFC	UFC【ウェルター級】 ジョルジュ・サンピエール UFC王者	Georgesstpierre	UFC【ミドル級】 クリス・レーベン 『TUF1』出身	cripplerufc
UFC【ライトヘビー級】 マウリシオ・ショーグン PRIDE GP優勝	_ShogunRua	UFC【ライト級】 グレイ・メイナード	GrayMaynard	UFC【ライトヘビー級】 チャック・リデル 元UFC王者	chuckLiddel
UFC【ミドル級】 マイケル・ビスピン 『TUF3』優勝、元ケージレイジ王者	bisping	UFC【ライトヘビー級】 ヒューストン・アレクサンダー	scrib1972		

※色枠内はツイッターアカウント名。情報は3月11日現在のものなので、その後アカウント名や所属が変更されていてもご了承ください。あしからず。

OTHERS/FREE-LANCER

WEC

STRIKEFORCE

所属【階級】	名前	備考	アカウント
ストライクフォース【ミドル級】	ジェイソン"メイヘム"ミラー	元ICON王者	mayhemmiller
ストライクフォース【ウェルター級】	ジェイ・ヒエロン	元IFL王者	Jayhieron
ストライクフォース【ライト級】	ジョルジ・グージェウ		jorgegurgel
ストライクフォース【ライト級】	ジョシュ・トムソン	元ストライクフォース王者	THEREALPUNK
ストライクフォース【ライトヘビー級】	マイク・ホワイトヘッド	『TUF2』出身	mmaironmike
ストライクフォース【ライトヘビー級】	キング・モー		KingMO_GDP
ストライクフォース【社長】	スコット・コーカー		cokersf
ベラトール【フェザー級】	ジョー・ウォーレン		TheJoeWarren
MFC【ライト級】	アントニオ・マッキー	MFC王者	ELNegro01
フリー【ミドル級】	デニス・カーン	PRIDE GP準優勝	DenisKang
フリー【ウェルター級】	フランク・トリッグ		FRANKTRIGG
フリー【ヘビー級】	ジョシュ・バーネット	キング・オブ・パンクラシスト、元UFC王者、PRIDE GP準優勝	JoshLBarnett
フリー【ヘビー級】	ペドロ・ヒーゾ		pedrorizzo1
フリー【ヘビー級】	リコ・ロドリゲス	元UFC王者	riccorodriguez
フリー【ミドル級】	ホイス・グレイシー		roycegraciemma
フリー【ヘビー級】	セス・ペトルゼリ	現在、ジョシュとツイッター上で舌戦を展開中	silverbackseth
フリー【ミドル級】	トラヴィス・ルター	『TUF4』優勝	travislutter
フリー【ウェルター級】	ウォーマシーン		WarMachineXXX
フリー【ライト級】	イーブス・エドワーズ		thugjitsumaster
フリー【ヘビー級】	バス・ルッテン	元UFC王者、元キング・オブ・パンクラシスト	BasRuttenMMA
フリー【ライトヘビー級】	ガイ・メッツァー	元キング・オブ・パンクラシスト	Gmezger
フリー【ライト級】	エルメス・フランカ		hermesbtt
フリー【ヘビー級】	マルコ・ファス		marcoruas
フリー【ウェルター級】	パット・ミレティッチ	元UFC王者	patmiletich

所属【階級】	名前	備考	アカウント
UFC【ライトヘビー級】	ウラジミール・マティシェンコ	元IFL王者	vladthejanitor
UFC【社長】	ダナ・ホワイト		danawhite
UFC【オーナー】	ロレンゾ・フェティータ		lorenzofertitta
UFC【オクタゴンガール】	アリアニー・セレステ		ariannyceleste
WEC【ライト級】	ベン・ヘンダーソン	WEC王者	SMOOTHone155
WEC【バンタム級】	ブライアン・ボウルズ	元WEC王者	Brian_Bowles
WEC【フェザー級】	ブライアン・キャラウェイ		BryanCaraway
WEC【ライト級】	ドナルド・セローニ		Cowboycerrone
WEC【ライト級】	ジェイミー・ヴァーナー	元WEC王者	jamievarner
WEC【フェザー級】	ジェンス・パルヴァー	元UFC王者	Jens_Pulver
WEC【フェザー級】	レオナルド・ガルシア		badboygarcia
WEC【フェザー級】	マーク・ホーミニック	元TKO王者	MarkHominick
WEC【バンタム級】	ミゲール・トーレス	元WEC王者	MiguelTorresMMA
WEC【フェザー級】	ユライア・フェイバー	元WEC王者	urijahfaber
ストライクフォース【ヘビー級】	アンドレイ・アルロフスキー	元UFC王者	AndreiArlovski
ストライクフォース【ミドル級】	ベンジー・ラダック		benjiradach
ストライクフォース【ヘビー級】	ボビー・ラシュリー	元ECW王者	fightbobby
ストライクフォース【ヘビー級】	ブレット・ロジャース	ヒョードルのストライクフォースデビュー戦の相手	thegrimrogers
ストライクフォース【ミドル級】	ダン・ヘンダーソン	元PRIDE王者	danhendo
ストライクフォース【ヘビー級】	ファブリシオ・ヴェウドゥム		werdumcombatt
ストライクフォース【ミドル級】	フランク・シャムロック	元UFC王者、元ストライクフォース王者、元WEC王者	frankshamrock
ストライクフォース【ライト級】	ギルバート・メレンデス	ストライクフォース王者	GilbertMelendez
ストライクフォース【フェザー級】	ジーナ・カラーノ		ginacarano
ストライクフォース【ミドル級】	ジェイク・シールズ	ストライクフォース王者、元エリートXC王者	jakeshieldsajj

所属【階級】	名前	備考	アカウント
UFC【ウェルター級】	マイク・スウィック	『TUF1』出身	officialswick
UFC【ヘビー級】	ミルコ・クロコップ	PRIDE GP優勝	Crocop13
UFC【ミドル級】	ネイト・クォーリー	『TUF1』出身	NateRockQuarry
UFC【ライト級】	ネイト・ディアス	『TUF5』優勝	NateDiaz209
UFC【ミドル級】	ネイサン・マーコート	元キング・オブ・パンクラシスト	NathanMarquardt
UFC【ヘビー級】	パット・バリー	元K-1ファイター	HypeOrDie
UFC【ミドル級】	パトリック・コーテ	『TUF4』準優勝	patrickcoteufc
UFC【ヘビー級】	ポール・ブエンテロ		paulbuentello
UFC【ウェルター級】	フィル・バローニ		philbaroni
UFC【ウェルター級】	フィリップ・ノヴァー	『TUF8』準優勝	PhillipeNover
UFC【ライトヘビー級】	クイントン"ランペイジ"ジャクソン	元UFC王者	Rampage4real
UFC【ライトヘビー級】	ランディ・クートゥアー	元UFC王者	Randy_Couture
UFC【ライトヘビー級】	ラシャド・エバンス	元UFC王者	SugaRashadEvans
UFC【ウェルター級】	ヒカルド・アルメイダ	元キング・オブ・パンクラシスト	AlmeidaBJJ
UFC【ライトヘビー級】	リッチ・フランクリン	元UFC王者	FollowACE
UFC【ライト級】	ロジャー・フエルタ		RogerHuerta
UFC【ライト級】	ロス・ピアソン	『TUF9』優勝	RossTheRealDeal
UFC【ヘビー級】	ロイ・ネルソン	『TUF10』優勝、元IFL王者	roynelsonmma
UFC【ミドル級】	ライアン・ベイダー	『TUF8』優勝	ryanbader
UFC【ライト級】	ショーン・シャーク	元UFC王者	SeanSherkUFC
UFC【ヘビー級】	シェーン・カーウィン		ShaneCarwin
UFC【ライトヘビー級】	チアゴ・シウバ		thiagosilvacr
UFC【ライトヘビー級】	ティト・オーティズ	元UFC王者	titoortiz
UFC【ミドル級】	ヴァンダレイ・シウバ	元PRIDE王者	wandfc

サラブレ
15周年
サラブレ
種牡馬トレンド
最前線
今年はこの種牡馬に乗れ！
絶賛発売中!!
4月号
2010 April
特別定価 740円
ついに産駒デビュー！ 種牡馬ディープインパクト
社台グループの種牡馬戦略
産駒デビュー新種牡馬&スタッドイン種牡馬2010
サイアーライン盛衰眺望20年マップ
2010リーディングサイアー予想
etc.
付録小冊子
重賞アプローチ的血統活用ブック
重賞アプローチ的血統活用BOOK
ウオッカ、レッドディザイア、
ドバイ前哨戦レポート&本番展望
春のジーワン予想コンテスト2010
名馬物語「マツリダゴッホ」
お待たせしました！
ついに単行本化!!
絶賛発売中!!
A5版 定価1260円(税込)
うまんまんが日記
荒川耕
登場頭数36頭
全50話完全カラー掲載!!
【おもな収録馬】 アグネスタキオン、アグネスワールド、アドマイヤグルーヴ、アブクマポーロ、エアグルーヴ、エアメサイア、エリモエクセル、エルコンドルパサー、キングカメハメハ、グラスワンダー、クロフネ、ゴーカイ、サイレンススズカ、シーザリオ、ジャングルポケット、スイープトウショウ、ステイゴールド、スティルインラブ、スペシャルウィーク、セイウンスカイ、ゼンノロブロイ、タイキシャトル、ダイワスカーレット、ダンスインザムード、デアリングハート、ディープインパクト、テイエムオペラオー、トールポピー、ネオユニヴァース、ハーツクライ、ビリーヴ、ブルーメンブラット、ホッカイルソー、ミスタートウジン、ラインクラフト など
うまんまんが日記
UMAMANGA NIKKI
荒川耕
名馬たちの活躍が漫画で甦る!!
enterbrain 発行元：株式会社エンターブレイン 電話 0570-060-555(代表) URL http://www.enterbrain.co.jp/ 発売元：角川グループパブリッシング

20世紀最強 最後のドラッグ

インターネットの快感と後遺症

音楽家にして文筆家

菊地成孔

マット界のさまざまな事象を鋭く分析・評論しれくれる菊地氏にも
ツイッターについて言及していただいた。
インターネットへのアクセスは最低限の菊地氏。
自身の体験をもとに語られる「快感と後遺症」とは？　今号も必読です！

聞き手／ジャン斉藤

――今日は菊地さんにツイッターを勧めるインタビューなんです。

菊地　えぇー！『kamipro』までがなぜ！「ツイッターをやりませんか？」、または「なんでやらないんですか？」というインタビューはこれまでに2本受けてます。「〇×についてのコメントを、ツイッターふうでお願いします」というのもあったから、『kamipro』で5本目です（笑）。

――なるほど。どこも考えることは一緒なんですね（笑）。菊地さんはツイッターどころか、あまりインターネットにアクセスしませんよね。

菊地　いまも最低限はしますけどね、昔は中毒でしたよ。ワタシはインターネットには97年に接続です。95年はウインドウズ95によってインターネットが爆発的に定着した年ですから、ちょっと遅れてのスタートですね。それでホームページにものを書くようになって。あの頃はインターネットの世界もまだ牧歌的でねえ、ホームページといったら実際、山の中にトントンと家を作るみたいイメージがあって。

――そんな時代にテキストを書きまくっていたら目立つでしょうね。

菊地　でも、誰が読んでるのかわからない……というより、誰も読んでないと思ってたので、なんの制限もなく好き放題に思いついたことを書いてたんです。ワープロいじるのもそのときが初めてで、ハマっちゃったんですよね。それで2年くらいしたらある日、小学館の人がやってきて「本にしませんか？」と。当然「これ、新手の詐欺だ」と思いますよね。

――そんなにうまい話があるわけがない、と（笑）。

菊地　「ウソですよ、それ～（笑）」って言ってたんですけど、ウソではなくて、それがワタシの一冊目の著作になったんです。つまり、インターネットはワタシのデビューツールになってるんですよ。で、それが出るのが2003年なんですけど。ワタシ、不安神経症、いまでいうパニック障害みたいになって。その治療を2002年から2004年の2年間やっていました。それで2002年は一日も欠かさず日記を書いたんです。もの凄く内容が濃かったから熱狂的な読者がついて、だからまあ、最初の本の前にもうプロモーションができてたわけよね。

犯行直前の犯人につながれるというのは、単純に言ってつながりすぎです

――インターネット上で土台が作られたということですね。

菊地　そのときには格闘技批評もやってたんです。それが『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～』の出版につながってるんです。

――あの単行本がきっかけで『kamipro』にも出ていただいて。

菊地　だから、音楽家のほうは80年代からずっとやってますけど、少なくとも文筆家としては、きっかけはすべてネットなんですよね。2ちゃんねるがたいへんな騒ぎになる前夜。ネットに悪意があるということも知らずに、無邪気に天衣無縫に書いていた。それで当時の言葉ですが「ネットヒーロー」みたいなことになって、ライブにネットの日記を読んでる人がたくさん来たわけ。

――『kamipro』で菊地さんを知った人みたいなもんですね（笑）。

菊地　最近、そういう人がチラホラいてうれしいわけですが（笑）。そこで「インターネットって、こんなに力があるメディアなんだ。これはちょっとヤバイな」と感じて、だんだんネットに書くことを減らしていったんですよ。リング外の乱闘になりますが、ご存知かもしれないですけど、インリン（・オブ・ジョイトイ）と揉めたりしてですね（笑）。

――あのトラブルも凄かったですよねぇ。

菊地　もっとありましたよ。雑誌でファッション批評をやってたんだけど、それが気に食わないって、あるデザイナーが「パーティがあるから、ぜひ先生をお呼びしたい」と。それで指定された会場に行ったら、そいつらが待ってて囲まれたときあった。

――なんですか？それ（笑）。

菊地　そのときは「おまえら騙したな」ってテーブルひっくり返して暴れて、「一部始終書かせてもらうぞ、これ。サイトに」って捨てゼリフを残して帰ってきたんですが（笑）、向こうは「サイトって何？」みたいな感じで。んでいざ書いたら、その事務所に抗議の電話が殺到しちゃって、直接関係ないと思うんですが、そのメゾンは潰れちゃって（笑）。

――ダハハハハハハハハ！

菊地　だから、そういう扇動力も含めてヤバイなっていう。やっぱりネットは人々の暴力性を引き出します。いまではそれに文句を言ってもしょうがない状況になってますけど、2000年代が始まった頃は「ネチケット」なんて言葉さえあってね。懐かしいなあ。

――いまは誰も気にしてないですよね。

菊地　こんな危険なモンないですよ。だって自殺する人間の前日の日記が読めるんだから。感染度が強いわけ。きれいな女性アナウンサーが自殺したじゃない。

――川田亜子さんですね。秋葉原の無差別大量殺人だって、容疑者は直前までネットに犯行予告を書き込んでたわけですもんね。

菊地　大量殺人なんてべつに昔からあるんだけど、犯行直前の犯人につながれるというのは、単純に言ってつながりすぎですよね（笑）。たとえばワタシと斉藤さんはまあ普通にビジネスライクな関係ですよね。取材のときしか会わないわけだから、まあね。でも、ツイッターをやり始めて相互フォローが始まれば「あ、いま斉藤さんがメシ食ってんな。マーボー豆腐を作ろうとして豆腐を床に落とした」とかさ（笑）、そんなんだったら楽しいけれども、相互監視

的な関係になるじゃないですか。

——うーん、マーボー豆腐くらいのネタならいいですけどねぇ。

菊地　けっこうなレベルの相互監視社会ができ上がるまで10年くらいしかかってない。ワタシはそこに危機感が生まれて、ネットに触るのは最低限にしています。2ちゃんねるを見たことは一度もないですし、あと、はてなダイアリーってのもまだ残ってるんですか？

——まだ残ってますね。

菊地　昔、はてなダイアリーで自分の名前を検索したら、ワタシの悪口を書いてるヤツがいたんですよ。頭にきて「出てこい！　バカヤロー」とコメントを書いたら、おもしろがられて大騒ぎになっちゃったことがありましたね（笑）。

ニューメディアが人間を狂わすのはありふれた光景とも言えます

——ダハハハハ！

菊地　そんなことにかまけてると止まらないわけよ。時間は食われるわ、相互監視だわ。ロクでもない（笑）。パソコンができる前までは「人間同士のリレーションが失なわれてる」って言われたけど、ところがパソコンができたら今度は激烈にリレーションが始まって。いまや他人の日記を読んで、自分の日記を書いてという繰り返しの毎日じゃないですか。そのインターネットの一種の発達および定着状態に対して、一貫してワタシはノー派です。しかし、それ言うと絶対に「おまえ、インターネットでデビューしたじゃないか。世話になってるものにツバを吐くんじゃねえよ」と言われますね。コレ、仕方がない。

——菊地さんはどういう返答をしてるんですか？

菊地　「麻薬で一度死にかけたから、減らしたんだ」と（笑）。

——ダハハハハハハ！

菊地　「オマエらもせいぜい気をつけることったな」と。ドラッグなんて最初からやったこともないPTAの人とかがさ、「大麻はいけません！」って言っても迫力ないじゃない。ワタシはネットをやりすぎて身体壊しかけたんだ、と（笑）。

——死にかけているんだ、と（笑）。

菊地　ですから「ホームページ」止まりの人間ですよ。ミクシィもやらないし、ブログもやらないし、ツイッターもやらない。amazonのユーザーレビューも見ない（笑）。

——あ〜、amazonにもひどいことを書かれるときがありますよね（笑）。

菊地　昔はどんなにひどいレビューでも削除されなかったんだけど、いまは依頼すれば即削除になる。クリエイターはみんな言うんだけど、あれを読むと眠れなくなんだよね（笑）。とくに物書きとかってデリケートな人が多いから。

——たいへんだ（笑）。

菊地　昔はレビューなんて音楽誌の評論家が書いてたから、気に食わなければ書き手に電話してケンカすればよかったんだよね。

——そこは素性がわかるから反撃できますもんね。

菊地　昔は音楽界も揉めごとが凄くてさ、評論家が夜襲されたりとかしてたんですよ（笑）。

——夜襲まで！（笑）。最近は文壇の争いごとってあるんですかね。

菊地　ないない。昔は文壇バーの名物だったらしいですけどね。グラスが割れたりするのが（笑）。ワタシの兄貴でさえやってましたよ。

——あ、秀行さんも。

菊池　争いはもうネットに移行している。でも、ネットだけが危険なものかといえば、テレビもできた頃にはたくさんの狂人を生みましたし。「テレビの中から誰かが監視している」っていう人間はいっぱいいたから。

——「電波系」という言葉もあるくらいですから。

菊地　ラジオもヤバイわけ。あれを神様からの声だと思った人たちがいっぱいいたんだから。いずれもニューメディアが人間を狂わすのはありふれた光景とも言えるし、メディアは人間を狂っていくふうに導く。シャブみたいなもんだよね。

——メディア＝シャブですか。

菊地　あまりにシンプルすぎる図式ですけどね（笑）。最初は凄く気持ちいいわけ。で、そのうちに狂っていくっていう。メディアというより、これ、拡大すれば近代総体なんちゃって、文明それ自体をくりかねないから、極端な二つの派閥を生むでしょ。電気も使うな派と、毒を食らわば皿まで派の。吉田豪さんみたいなね。

——全部やっちゃうっていう。

菊地　そう。ミクシィができたらミクシィを、ポッドキャストが始まったらポッドキャストを、ツイッターが生まれたらさっそく始めて。そのどちらかですよね。ワタシはあまり深く考えずに、とにかくやめたほうです。追及したら電気もやめなきゃいけないんだけど（笑）。

——反テクノロジーで山の中に逃げる人はいっぱいいますけど。

菊地　アメリカなんかへ行くとアーミッシュという17世紀の暮らしをしてる集団がいたりして、ハードコアな人はハードコアなわけよ。それは環境保護の点だったり、いろんな大儀があるし、もっと個人的な思想を持ってる人間もいるだろうけど。いずれにせよ、ワタシは精神状態を守るために〝逃げる〟ことに決めたんです。そこで考えないといけないのは、メディアをどこまで自分のなかで正当化して取り入れることを許すか、と。テレビはいいだろう、と。テレビは生まれたときからあったんで（笑）。

——あたりまえのものとして（笑）。

菊地　それにテレビの危険性っていうのはだいぶ薄れてますからね。で、ラジオも出演してるし、むしろラジオは癒しだろう、と（笑）。インターネットも自分のホームページを作って、そこから自分の情

万能感が得られるのがホントの目的で便利だというのは〝釣り〟ですね

報を一方的に流す、と。それ以外はネットにアクセスしないんです。その離脱の根拠はさっきも言ったように最初の頃に怖い目に遭った。確かに気持ちいいし、素晴らしいこともありましたよ。ドラッグが100パーセント悪いわけじゃないからね。ある意味、創造性の源だったりとか、だいぶ心が助けられたこともあるわけですよ。

——そのリターンを捨ててまで回避したくなったんですね。

菊地　一番クールなのは、適度にやりながら怖い目にも遭わずにいいとこ取りで、たまに痛い目に遭っても「まあまあ」って適度に続けることなんですよね。でも、音楽家はみんなそういうところがあるんですけど、なんでもやりすぎちゃうんですよ（笑）。

——とことんやってしまう、と。

菊地　「うまい、うまい‼」って食いすぎちゃって。「気持ちいい、気持ちいい」ってやりすぎて死にかけて、そんでピッタリやめるっていう。

——しかし、そこでピタッとやめられる人は少ないでしょう

菊地　まあソフト・ランディングというか。適度なところに（笑）。でも強いドラッグですよ。インターネットによって誰もが活字を入力する時代になって、まずみんな何をするようになったかっていったら、詩を書くわけじゃないね。小説を連載するわけでもない。一斉にみんなが始めたのは日記と批評なのよ。で、日記は自己顕示欲、批評は攻撃力、まあ人間の二大欲求を満たすっていうかさ。

——その二つに集約されるんですか。

菊地　あと安心感。このスリーカードでかなり万能感に近づく。よく人間の三大欲求とかって、「睡眠、食事、セックス」と言うじゃない。それをあえて身体の欲求だとした場合、自我の三大欲求みたいなのもあるとする。自己愛が満たされて、攻撃性が満たされて、安心感が満たされる。日記と批評と相互監視システムで一丁あがりですよ。

——逆にストレスになるケースも出てきますよね。

菊地　結局ね、ドラッグはあっという間に苦しくなるんだよね（笑）。最初だけなんですよ、気持ちがいいのは。

——なによりも便利さが……

菊地　確かにその利便性は、じつのところは方便もしくはいわゆる〝釣り〟だと思いますよ。人間は単にドラッグが好きなのよ。万能感が得られるのがホントの目的で、便利だというのは〝釣り〟ですね。「シャブは仕事がはかどるよ」って言いますよ、みんな。うれしそうに（笑）。

——ネットによって誰かと出会えたとか、仕事に結びついたというのは〝釣り〟ですか？

菊地　もちろんさっきも言ったとおり、いい出会いも仕事のきっかけもありましたよ。だから適度にやるしかない。ただ、ほかのドラッグと比べたとき、インターネットが一番ヤバイのは合法であって制限がないことですよね。たとえばお酒を飲み続けたらヤバイじゃないですか。

——あきらかにおかしいですよね（笑）。ネットにつながってるようにずっと

菊地　適度ならいいわけですよね。ツイッターやってる人も「適度に、クールに楽しんでる」という自意識の人がほとんどだと思います。「自分は適度か、ジャンキーか？」っていうのは人類の最大の難問なんですよ。とにかく安価で、合法で、依存性が高く、半永久的にできるインターネットが、20世紀最後に人間が生んだ最強のドラッグだということは誰もがわかっていることだと思います。ワタシはツイッターが唾棄すべきくだらないモンだとはちっとも思わないですよ。なかなかおもしろそうだし、なんかいろんなクリエイトにつながってんじゃないですかね。でも、ワタシはとにかくシャブは抜いてるんで（笑）。

——なるべく近寄らない、と。

菊地　そうそう。「文句は言わないよ」っていう。マリファナなんかでも「オレはいらないけど、みんな遠慮なくやって」っていう人いるわけ。酒なんかでもそうでしょう。「オレは下戸だけど、みんな飲んでると楽しいから」って。やることを否定は

プロレス・格闘技界インターネット醜聞史

秋山成勲ヌルヌル騒動

06年大晦日『Dynamite‼』の桜庭和志vs秋山成勲戦で「ヌルヌル疑惑」が持ち上がると、疑惑が疑惑を呼んで関係者やマスコミのブログが一斉に炎上！　まずヤリ玉に挙がったのが、試合を裁いた梅木良則（現・千葉義則）レフェリー。大会数日前の記事を削除していたことなども絡んで、コメントが殺到した。試合後、ブログは更新されずコメント欄もずっと放置されたままだったが、プライバシー侵害や犯罪まがいにあたるような書き込みが出現するに至って、ブログは閉鎖された。また、『格闘技通信』で「秋山はシロ」という試合直後の主催者発表を元に試合の記事を書いた布施鋼治氏、同誌編集長（当時）の三次敏之氏のブログにも批判の声や説明を求めるコメントが爆発的な数におよんだ。両氏ともやがてコメント欄を閉鎖、まもなくブログ自体も閉鎖してしまった。会見などがあるたびに波紋が広がり続け、その余波は結局数ヵ月にわたって続いた。試合そのものだけでなく、ネット上の騒ぎでも日本格闘技史上、最大の〝事件〟となった。この事件のときにツイッターが存在していたら谷川EPはどんなことになっていたか……と考えると、ゾッとしてしまう。

ドラゲーサル虐待問題

軽い気持ちでのブログの書き込みが所属団体を揺るがすほどの大問題にまで発展してしまったのが、この事件。09年3月〜5月頃にかけて、ドラゴンゲートの若手選手が個人的に作っていたブログに、道場で飼っていたニホンザルについての写真と文章を掲載。サル自身の目線で書かれていたのは「選手に殴られた」「尖った棒が腹に突き刺さり、心臓が見えてしまったことがある」「熱湯をかけられた」「エアーガンの弾が目ン玉に入った」などという内容で、サルが首を絞められて宙吊りにされた写真などもあったことで「動物虐待なのではないか？」と話題になり始め、真相究明を

インターネットの快感と後遺症

しません。飲み会で頻繁に携帯見る人ばかりになるのにもすっかり慣れた（笑）。でも、何人かはハラハラしてしまうような人もいるわけよ。目が真っ白になってたりして（笑）。

——あきらかに向いてない人もいますよね。脊髄反射的に怒りをぶちまけたり。

菊地　だから怒るっていうことは、その怒らせた人間との強烈な関係を作るんで。さっき言ったようにインターネットっていうのは、ともすれば人間同士の関係が希薄になってた時代にネットというシャブによって環境を強烈に作っていくという。ほめたり、救ったり、怒らせたり、けっこう沸点の高い関係を手軽に結べるようにさせた側面があると思うんですよね。ある意味、それは長いスパンになってみないとわかんないけど、人類を救ってるのかもしれない。ただ、怒るっていうこと自体は精神衛生上、さほど悪くないと思う。怒りは押し殺してるほうが悪いんで。

——ストレスになりますよね。

菊地　結局、プロレスラーのヒールって、実際の大衆には向かせられない怒りの感情を全部引き受けて浄化する役割なんだよね。だからこそ崇高な仕事であって。そういうかたちで怒りをうまく浄化されるシステムができてればいいんだけど、いまはホントにストレートに怒りをぶつける、怒り返すっていうかたちになっちゃってるから。『動物化するポストモダン』の東浩紀が最近、「ネット同一性障害」と言いだして、ネットに書いてる自分の自我と普段の自我が分離している、と。要するに解離性人格障害、多重人格。ネットによってけっこう手軽に解離性人格障害が生じるようになった、と。

——そういう人間は多いのかもしれませんね。

菊地　ただ、「京都人はニッコリ笑って心のなかで毒づいてる」とか言うじゃない？　そういった乖離は誰にでもあったんだけど、それがネットの世界で育まれて別個に育っちゃうんだよね。もともと人間は分離を抱えてる生き物で、文明はそれを煽ったり抑止したり、ドライブしているんで、長い目で見ると、ず～っと人類史は同じとも言えるんですよね。

——ネットやツイッターがあろうとなかろうと。

菊地　単に新鮮さだけだとも言えますよね。実生活はネットと切り離されても成り立ちますし。「ミクシィをやんなかったおかげでたいへんな被害に遭った」という事例があったらさすがに考えたと思うんですが、一度も入らないあいだにミクシイのほうが遅れてきちゃったから。

——ミクシィはこのまま廃れていく感じはありますね。

菊地　ただ、携帯がメインツールになり、鬱的から躁的に逆転したツイッターは、ミクシィに比べて「なぜやらないんだ」という、ちょっと怖い圧力があるよね。あれがなければ、真性のクールと認めるけど、あれがあるかぎりジャンキー感が払拭できない（笑）。今日これから、小説家の金原ひとみさんに会うんですが、金原さんは何もやってないの。あの人、ワタシよりハードコアでメール以外は何もやんない。ホームページも持たないし、ブログもやんない。ツイッターも数人フォローしてるだけで、自分ではつぶやかない。いま日本の女流小説家でブログを持ってない唯一の人だから。あとは全員持ってる。山崎ナオよしもとばななも持ってるし、コーラも持ってる。金原さんだけ持ってないから、昔の文学者の香りがするっていうか、要するに「自分は紙に、金をもらえるものしか書かないんだ」っていうことに徹してるわけね。その金原さんが「最近、どこに行っても『ツイッターをやれ』って言われるのが怖くて、外に出るのが嫌だ」って言ってるわけ。だからツイッターとミクシイの違いがあるとすれば、ツイッターはけっこうファシズム的っていうか。「やんなきゃダメでしょ。やんなよ」って。

——ツールがパソコンじゃなくてモバイルに移ったっていうこともあるんでしょうね。あと、炎上しにくい。

菊地　「2ちゃんねるは精神的に汚れてる。でもミクシィはもっと上品できれいに楽しくやるんだ」ってイメージだったでしょ。でも、あっという間に2ちゃんねる化したじゃないですか。

——ツイッターもそのうち荒れますか？

菊地　やがて始まるでしょ。やはり合法のドラッグである酒と同じですよ。喧嘩したり、カラんだりする人が出てくる。ただやっぱりね、仕事柄というか、ワタシは人間の生々しく、エゲつない悪意や危険を常に感じていたいからここ（新宿歌舞伎町）にいるんだけど、いまは監視カメラが増えちゃって、どれだけの悪が路上にあるかってことが隠蔽されてきてしまうのね。で、インターネットに監視カメラはないから。

——悪意があらわになりやすいですよね。

菊地　こないだファンからメールがきてね、ワタシをもう凄くほめてあるわけ。メッチャクチャほめてあって、こっちの喜びそうなことがもうわかってる人なわけ。

求める声がネット上で広がると動物愛護団体まで巻き込む騒ぎになった。当初、団体側は「虐待の疑い」としていたが、「虐待の事実はなかった」として新聞報道されるなど、騒動は逆にどんどんと拡大。最終的に、9月頭に所属レスラーら4人が動物愛護法違反などの疑いで書類送検され、うち3名には11月に罰金処分が下された。なお、被害に遭ったサルは現在、里親のところで適切に飼育されているとのことで、団体のサイトには時折、写真とともに現状報告が掲載されている。

メモ8筆禍事件

08年11月、女子総合イベント、ヴァルキリーのスーパーバイザーという立場にあった長尾メモ8氏が、個人ブログに寄せられた旗揚げ大会への批判・苦情に対して「馬鹿は、ほんといますぐ死んでほしいと思います」などと返答、投稿者のIPアドレスをさらすなどの対処に出たことで、投稿者が激怒。騒ぎが拡大したことにより、GCMコミュニケーション・久保豊喜代表、ヴァルキリー・茂木康子プロデューサーの連名で長尾氏のスーパーバイザー解任、1ヵ月の謹慎という処分が下された。投稿者がネットの一部では有名な人物だったことなどから長尾氏も感情的になったようで、擁護の声も上がっていたが、長尾氏があくまで「主催者側の人間」だったこと、一連のやりとりがブログという公開の場で行なわれたことなどを考えると、やはりイベントにとってはマイナスイメージしかなく、処分も仕方ないところだった。当該のエントリーは現在削除されているが、その後も同氏は同じブログ上でツイッターのフォローをめぐって本誌を罵倒する（本人いわく〝プロレス〟だったらしいが）エントリーを展開していたりする。

高瀬のマッハ挑戦

こちらは、ネットでのやりとりが逆にリング上の闘いにつながったという珍しいパターン。09年、自身のブログで突如「PRIDEの光と影」という連載を始めて、一躍話題を集めた高瀬大樹。話の中心は元のマネージメント関係のことだったが、やがて03年大晦日の『P

ミクシィとツイッターの違いがあるとすれば、ツイッターはファシズム的

で、「ボクも音楽をやってるんで、ボクのマイスペースを見てください」と。で、当然見るよね。でも開けたらスナッフフィルムが入ってて（笑）。

――うわっ!! そこまで菊地さんが喜びそうなことを書いといて……。

菊地 「うわっ、ヤラれた（笑）」って、急いで閉じたからいいけど、殺人の動画を見せて傷を与えようっていう。かなりの悪意ですよね（笑）。

――とんでもない悪意ですよねぇ。

菊地 凄く悪い。でも、たまにはそういった人間の悪意にも触れないと、精神がボケ～ッとしちゃうじゃないですか（笑）。爽快だったもん、あのとき（笑）。悪もたくさん触れてないと善には触れられない。ところで山口（日昇）さんはツイッターをやってないんですか？

――やってないですね。

菊地 ブログもやってないの？

――やってないですね。それどころじゃないのかもしれませんが（笑）。

菊地 そうですね（笑）。というか、やってる感ないもんね。あの人ね、2ちゃんねるを読むくらいまでやってたと思うんですよ。

――ああ、『ハッスル』のリアクションを知るために見ていたみたいですね。

菊地 『ハッスル』はブログもミクシィもツイッターもガンガンにやってないとダメな感じの団体じゃないですか、イメージ的に。ほかの団体はやらなくても『ハッスル』にはやっててほしかったし、やってないところが山口さんの古くなっちゃったところなのかなっていう。「ツイッターやブログをやってないヤツが古い」って言い方自体が古いんだけどさ（笑）。どうしてもそういうものが出ちゃうんだよね。最近、人を読む感じが「あいつはブログやってる人、やってない人」っていうかさ。

――「2ちゃんねるだけ見てるヤツだろ」とか（笑）。

菊地 うん。いままでは「○○大学出身」とか「金持ちそう」とかでしたけど、今後は「いままでしばらくネットやってなかったけど、ツイッターからまた始めた人っぽいな」とか、「ミクシィの日記だけのヤツっぽい」とか、きめの細かい読みがあたりまえになると思いますよ。っていうか、今日のコレって「レスラーや格闘家の誰それって、ツイッターやってそうだよね」とかいう話じゃなくてよかったの？（笑）。

【10年2月某日／都内・新宿歌舞伎町・菊地氏の事務所にて収録】

きくち・なるよし■1963年6月14日、千葉県出身。音楽家、文筆家。著作や音楽作品を多数リリース。格闘技関連書籍には『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍 ～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～』がある。

RIDE男祭り」における桜井"マッハ"速人戦に触れると、自分が負傷を抱えていながらやらざるをえなかったこと、マッハがコインを握っていたという"疑惑"があることに言及。ブログ上でマッハに再戦を迫った。当然のようにマッハからの反応は芳しくなかったが、意外なところから反応が返ってきた。ガッツマン修斗道場時代、マッハの後輩だったキックボクサーの寒川直喜が「なら自分と闘え」とアピールしてきたのである。当初は「100万円出すなら」と対戦を渋っていた高瀬だったが、紆余曲折を経て09年12月、キックルールでの対戦が実現。発表会見では両者ともに「相手をリスペクトしている」と言いつつも乱闘に発展したりと、緊張感があるんだかないんだかわからない展開だったが、試合は寒川が判定勝ちに終わった。ただし、高瀬にとって肝心なはずのマッハ戦のほうは、実現のめどがいまだに立っていない。

小ネタ集

そのほかにも、ネット上での"ちょっとした"トラブルはいくつもある。たとえば某有名格闘家の○○○映像が流出してしまったり、某女子プロレスラーがブログにワケありそうな私信メールを誤爆してしまったり……と、あとを絶たない。ほかにも、元女子格闘家の身内が、その元選手の状況を憂えてブログを開設したり……まぁ、詳細は各自調査としか言いようがないが。一方で、「火のないところに煙が立ってしまった」例もある。昨年9月、チーム黒船の山田武士トレーナーのブログで高谷裕之に宛て書いた内容が話題になった。字面だけを見ると二人が衝突したかのような文章だったのだが、じつは両者がよくやっているというおふざけの範疇だったことが判明。きな臭いことは何もなかったというわけだ。そうかと思えば、ケガで欠場と発表されたはずの選手の元気そうな写真が、その選手のヨメのブログに載ってしまったり、その夫婦は結局別れてしまって、選手はヨメに切実なラブコールを送っていたり……と、ホントにいろんなことがあるネット上。あ、そういえばトークイベントを「急な発熱」でキャンセルしたはずの選手が、元気に練習している写真がほかの選手のブログに載ってたこともありましたっけ。

プロレス&格闘技の人気ブロガーが語る

ファンはツイッターをこんなふうに楽しんでます！

▶プロレス専門ブログ
『ブラックアイ2』
杉さん

▶格闘技専門ブログ
『MMA IRONMAN』
ジーニアスさん

いまやプロレス&格闘技ファンにとっても、情報収集やコミュニケーションツールとして欠かせないものになりつつあるツイッター。ここではプロレス&格闘技の人気ブロガーである、『ブラックアイ2』の杉さんと、『MMA IRONMAN』のジーニアスさんに、ファンはどんなふうにツイッターを楽しんでいるか、話してもらった。

聞き手／堀江ガンツ

—今日はプロレス&格闘技ファンはどのようにしてツイッターを楽しんでいるのか、ということをプロレスと格闘技の人気ブロガーであるお二人にうかがいたいんですよ。

ブラックアイ2（以下＝杉） 僕はまだ去年の夏ぐらいに始めただけだから、そんなに偉そうに語れませんけど。

MMA IRONMAN（以下＝ジニ） 僕はもうちょっと早かったですね。夏前にアカウント自体は作っていたんですけど、最初はおもしろさがわからなかったので、自分でつぶやいたりもせず、そのまま放置している感じでしたね。

—お二人がツイッターを始めたきっかけはなんだったんですか？

杉 僕の場合は、ネットでプロレスラーや格闘家のブログを見ていると、とくに海外でツイッターをやってる選手が多かったんですよ。しかも、日本のネット系のメディアから「おもしろい」っていう声が増えてきたんで、それでやってみたら、つまんなかったんですけど（笑）。

—あ、杉さんもつまんなかったんですか。

杉 だいたいやり始めは「おもしろくない」ってみんな言いますよ。

—どうしておもしろくなかったんだと思いますか？

ジニ 基本、大半の人はたいしたことつぶやいてないんですよ。たまに重要な情報が混じってるだけで。たとえば、ジョシュ・バーネットが朝「グッド・モーニング」ってつぶやいたり、「いまコーヒー飲んでます」とか、そんなのが大半で、だから「あんまりおもしろくないな」って思ったんですよね。

—情報量のわりには有益な情報があまりにも少なく感じた、と。

杉 それとフォロワー（自分をフォローしてる人）が少ないうちは、自分が何をつぶやいても反応がないので、何をやったらいいかわからないんですよね。ツイッターってヘルプ機能があるにはあるんですけど、不親切というか、わかりづらいんですよ。返信のやり方とか。

ジニ あとは半角空けないと、色が反転しないとかですよね。リツイートと非公式リツイートの違いとか。

—それがおもしろくなってきたのは、どんなことからですか？

杉 僕は最初、DDTの高木三四郎さんだけをフォローして、ずっと見てたんですけど。そこから少しずつ、プロレスラーのアカウントをフォローしていって、自分のブログでもツイッターを表示したら、フォロワーが多くなったんですね。そこからおもしろくなりました。

—自分のつぶやきに反響が出てきて、おもしろくなってきた、と。

杉 そうですね。何かつぶやくと、誰かが返信してくれる。ウチのブログはアクセス数のわりにコメントが来ないブログなんですけど（苦笑）、ツイッターを始めたら感想とか返信が凄く来るようになりましたからね。

—そういう知らない人たちとの交流によっておもしろくなってきたわけですか。

杉 あとは、ツイッターをやる人が増えてきて、フォローの数を増やしたら情報がバンバン入ってくるよう

になったので。いま、僕がツイッターをやってる理由は、ネットの中で一番情報が早いですね。2ちゃんねる、ブログより早いと思います。一般の人が、ニュースを見つけてすぐにアップするんですよ。「こんなことがありましたよ」って。

杉　でも、普通ならそれを知るために、いろんなサイトを巡回してみないといけないじゃないですか。でも、ツイッターだとタイムラインだけを見ていれば、誰かがニュースをつぶやいたり、貼ったりしてるんですよね。

――ジーニアスさんも楽しくなってきたのは、杉さんと同じような理由ですか？

ジニ　僕もそうですけど、格闘技ファンがツイッターにハマり始めた最大のきっかけは、やっぱり谷川さんだと思います。

――なんか、頻繁につぶやいてるらしいですね。

ジニ　谷川さんは昨年の秋ぐらいから始められたと思うんですけど、律儀というか、ファンからのツイッター上の質問にいちいち答えてくれるんですよ。それが、単なるQ&Aじゃなくて、いまや〝ツイッター芸〟のようになってるんですけど、それを読んで「おもしろいな」って思うようになりましたね。

――谷川さんの功績は大きいんだなあ。

ジニ　そのほかにも、いろんな選手のアカウントをフォロワーの人が教えてくれて、また選手のアカウントを新たにフォローする。そうすると別の選手のつぶやきが見れるようになる、またその選手に返信したりするコメントも見られる、相乗効果でおもしろくなっていきましたね。

――よく「ツイッターをやり始めてミクシィをやらなくなった」っていう声も聞きますが、ツイッターは〝マイミク〟がたくさん生まれるみたいな感じなんですか？

杉　ミクシィのマイミクにあたるのが、フォロワーだと思うんですけど、ツイッターはその敷居が凄く低いんですよ。

ジニ　そうなんですよね。面識のない人に「マイミクお願いします」って言いづらいけど、ツイッターは簡単にフォローできちゃいますから。

格闘技ファンがツイッターを「楽しい」と思い始めたきっかけは、谷川さん

――では、楽しさをまとめてみると、いろんな人とリアルタイムの会話が成立して、有名人とも共有できるのが楽しい、というわけですか。

杉　それもそうなんですけど、まだみんなツイッターで何ができるか探ってる状態で、その探ってること自体がおもしろいっていうのもありますね。たとえばプロレス団体の中には、ツイッター上でプロレスっぽいことをやり始めてたりするんですよ。

――「ツイッター上でプロレスっぽいこと」って、どういうことですか!?

杉　ストーリー展開だったり、抗争がツイッターで起こったりしてるんですよ。たとえば、最近では新日本プロレスとDDTの抗争がツイッター上であったんですよね。

――ツイッター上で団体抗争！　永島のオヤジがやってた頃の新日本では考えられないですね（笑）。

ジニ　永島のオヤジは『別冊宝島』の漫画で、「あの人、一生パソコン覚えないだろうな」とか書かれてましたもんね（笑）。

――ま、そんなことはいいとして、ツイッター上の新日本vsDDTってどんな感じだったんですか？

杉　新日本がツイッターの公式アカウントを持ってるのは知ってますか？

――あの「～ガオ」ってつぶやくやつですよね。

ジニ　そうです。いま「～ニャオ」もいますけどね（笑）。

――ニャオ？　そんなのもいるんですか（笑）。

杉　その「ガオ」さんが、DDTの直営居酒屋である『エビスコ酒場』に乗り込んできて、店に落書きして帰ったというのをツイッターで実況してたんですよ。

――はあ。「ガオ」が落書きですか。

杉　それをツイッターで見た高木三四郎が激怒して、逆に新日本プロレス事務所に行って、事務所前にある大きなライオンマークに男色ディーノの写真を貼って帰ってくるという抗争をこれまたツイッターでやってたんですよね。

――ちなみに、その「ガオ」が来店って、誰が来店したんですか？　ライオンが居酒屋に来たわけじゃないですよね？

杉　〝中の人〟ですね。

――ああ、新日本のツイッターを書いてる人ですか。

杉　それで、お互いがやり合って、最終的には高木三四郎のトークショーに「ガオ」、つまり新日本のアカウントで書いている人が実際に来るっていうところまでやってました。

――〝ガオ〟の正体が三四郎のトークショーに登場ですか。

杉　だから、ツイッターでのやりとりがWWEで言うところの『RAW』で、トークショーがPPVみたいな感じですよね。ツイッターのやりとりの結末が見たかったら、トークショーに来いっていう。

――ちなみに〝中の人〟って誰が来たんですか？

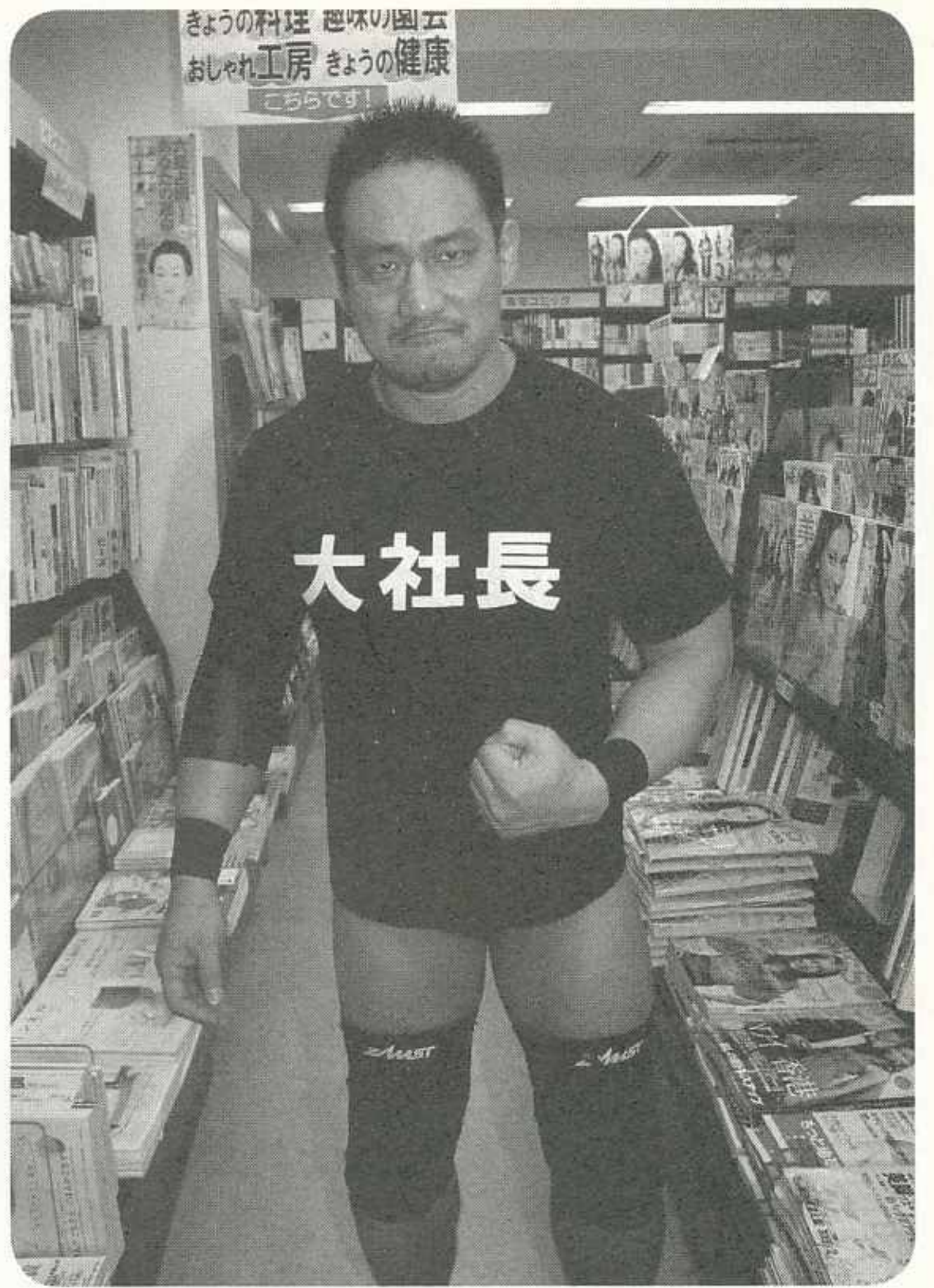
杉　まあ、新日本プロレスのスタッフなんですけど、その人だけじゃなくて、〝中の人〟は6人いるっていう衝撃的な事実が判明しました（笑）。

――へえ、そんなことが起こってましたか。では、DDTではツイッターを見てないとわからないようなストーリーも始まってるわけですか？

杉　まだ、実際のプロレス興行では、そこまでいってませんけどね。

――ツイッターをやってたほうが、興行だけじゃなく、よりいろんなDDTが楽しめるって感じですか。

杉　そうですね。でも、そんなことをやってるのは、あらゆる業界中でDDTだけのような気がするんですよね。つぶやき同士のかけ合いで、物事が動いていく、という。

――ジーニアスさんは、格闘技のほ

DDTではすでにツイッター上で〝プロレス〟が始まってるんです

うでのツイッターの楽しさってなんでしたか？

ジニ 最初は谷川さんに質問することが楽しかったですね。それで、やってるうちに、谷川さんが好きになるというか応援したくなってくるんですよ。

——要は自分の〝知人〟になる、ということですか？

ジニ そうですね。何度も質問に返答していただいてますしね。ほかにも僕は佐藤嘉洋選手と相互フォローしているんですけど、ツイッターでフォローするまでは、失礼ながら佐藤選手の特別なファンではなかったんですよ。でも、佐藤選手のツイッターがおもしろくて、すっかりファンになりましたね。

——どうおもしろいんですか？

ジニ 「名古屋のクラブで『おまえ、ミスター・ストイックだろ？』って言われた」とか（笑）。

——小比類巻選手と間違われた自虐ギャグ（笑）。

ジニ あと最近は下ネタを連呼したりして、「ホントはこういうキャラの人だったのか」っていうことがわかって、急に親近感が湧いてきて。郷野選手なんかもツイッター上で話すことでよりファンになりました。

——選手の知られざる一面を知ることもできる、と。でも、ネットでは炎上があったり、トラブルがつきものですけど、何かトラブルの経験はありませんか？

杉 いまのところないですね。昨日、ツイッター上でサバイバル飛田さんに怒られましたけど（笑）。

——なんで怒られたんですか？

杉 夜中にブログをアップしたら「何時だと思ってるんだ」っていう返信が返ってきて。もちろん冗談なんですけど（笑）。

——要はツッコミですね。ご自身じゃなくても、大変なことになっちゃってる人っていないんですか？

ジニ 北岡悟選手がこのあいだちょっとそういうことがありませいたね。

——どういうことがあったんですか？

ジニ 僕もリアルタイムで見ていたわけじゃないんですけど、あるファンのコメントというか質問に、北岡選手がちょっとキレて「うるさい」って返信したことがあったんですよ。そしたら、そのファンが「ファンに対してうるさいとは何事ですか」みたいに返して、ケンカみたいになってまして。

——そんなことが。

ジニ そのファンがさらに自分のブログに「北岡にこんなことを言われました。マナーができてない」みたいに書いたりして、そのツイッターに青木真也選手がちょっとからかったようなコメントをしたら、また「青木と北岡は許せない」みたいに書いたりして。さらにその人は、ほかのファンから「あなたの姿勢がなってない」みたいに言われたり、そういうことがありましたね。

——要はどんな人とでも簡単につながれるけれど、やはり人間同士ですから最低限の礼儀は必要だ、ということですね。

ファンはツイッターをこんなふうに楽しんでます！

ジニ そうですね。昔でいえば、プロレスラーや格闘家にサインを断られたりするのって、よくある話じゃないですか。それで、周りの友人に「あいつ冷たい選手だったよ」って言ったりはしてたかもしれませんけど、いまはツイッターを通じて、世界に向けて愚痴ったり、非難したりっていうことができたりする。でも、「それってちょっと違うんじゃない？」って思いますけどね。

——そうやって、揉めちゃったときってどうするんですか？

ジニ 一般の人だったら、その人のアカウントを外してしまえばいいんですけどね。リムーブっていうんですけど。

——まあ、有名人とツイッターでつながったら、有名人と友だちなんだと錯覚することがあるんでしょうね。「自分の質問や問いかけに、なんで返信がないんだ」とか。

ジニ あとは、「俺がフォローしてるのに、なんで向こうはフォローしないんだ」とか、そういう人もいますよね。

——べつに勝手にフォローされただけで、友だちでもなんでもないわけですよね？

杉 それなのに、「フォローすべきだ」みたいな人も実際たまにいます（笑）。

——どこの世界にも厄介な人はいるんですね〜。

杉 ただ、ほとんどのユーザーは多くの人にフォローしてもらいたいわけで、そういうケンカみたいなことをしたり、不快なつぶやきをするとフォローを外されちゃうので、そんなに炎上みたいなことは起こりにくいという感じはありますけどね。

——へんな人は、ツイッター上でハブられる場合が多い、と。

杉 ただ、問題は捨てアカウントで悪口をいう人が増えたら、おかしなことになるんじゃないか、とは思いますけどね。

ジニ 捨てアカウントといえば、谷川さんに質問するためだけのアカウントの人がいたりしますからね。だから人によっては、かなりなれなれしい人もいて、「こんな失礼なヤツによく谷川さんも返信するな〜」って感心したりしたこともありました。

杉 あと、ツイッターでネガティブなことをつぶやいてる人はフォロー外したくなりますよね。それがなんとなくみんなわかってるからポジティブなことを書く人が多い。「○○嫌い」じゃなくて「○○好き」っていうことを書く人のほうがずっと多いですから。2ちゃんねるとは逆です。

ジニ 確かに2ちゃんでは、冷めてるほうが正しい的なムードがありますからね。

——では、ツイッターの楽しさを簡単にまとめますと、自分が話したい相手と仮想空間で話せる、自分が出会わない人ともつながれる、さらに情報が早い。

ジニ 早いし共有できるし。

杉 自分が発信者になったときも、それが広まるのが早い。

ジニ 早さっていう意味では、僕がブログに「シーザー・グレイシーが『おそらくギルバート・メレンデスは4月に青木と闘う』っていうコメントをした」という記事を書いたんですよ。そしたら、そのブログを読んだファ

ンが、ツイッター上で青木選手本人に「ホントですか?」って聞いて、青木選手は「自分は聞いてない」って答えたりとか。

——ある種、記者会見や雑誌発売を待つまでもなく、ファンがプチインタビューできてしまうというか。

ジニ みんなが直撃できる、プチ梨元になれる、みたいな(笑)。

——ツイッターからリアルな友だちができたりとかもするんですか?

ジニ いまのところ、実際に面識がなかった人と会ったりはしてないんですけど、ツイッター上で再会というのは、たくさんありましたね。

杉 自分もそれはあるんですけど、ただ、自分はツイッターで本名は出してないんですよ。それなのに、なぜ僕だってわかったかというと、もともと自分のブログを知っていたわけです。で、自分のブログにはコメント欄もメールアドレスも載せてるのに、全然連絡来なかったのに、ツイッターではコメントが来るんですよね。そういう人いっぱいいますよ(笑)。

ジニ だから、その敷居の低さがツイッターのいいところだと思うんですよ。あらためてメールを出して「ひさしぶり」って言うのは、用事がないかぎりなかなかやろうと思わないけど、ツイッター上だったら気楽にフォローして「ひさしぶり」ってコメントできるという。

——たとえば用もないのに、電話はかけづらいけど、そのへんで会えば「よう、ひさしぶり!」って言えるのと同じような感じですか?

ジニ まさにそんな感じですね。

——でも、お二人はブログもやっててツイッターもやって、時間なくならないですか?

ジニ 正直言って、ツイッター始めてから睡眠時間が減ってます(苦笑)。

杉 だから、いまはいかにフォロー数を減らすか、とか考えてますよね。ちっとも読みきれないですから。それにちょっと関連することだと思うんですけど、谷川さんって、思ったほどフォローが増えないじゃないですか。

——確かに、あれだけ熱心にやってるわりには増えてないかもしれませんね。

杉 その理由って、熱心さが裏目というか、つぶやきすぎだと思うんですよ。

——つぶやきすぎるとダメなんですか!?

杉 だと思います。谷川さんって、たくさんつぶやくからタイムラインの大半が谷川さんで埋まっちゃったりするんですよ。

——なるほど。画面のほとんどが谷川さんのつぶやきになったり(笑)。

杉 コアなファンだったら、いろんな情報が入ってくるのはいいんですけど、「テレビでK—1観るからその解説者の人のアカウントをフォローしてみよう」ぐらいのライトなファンにとったら、しつこく感じるんじゃないかなあ。しかも、マニアックなファンとのやりとりが続くと、意味がわからないから、フォロー外しちゃったりとか、そういうのって多いと思うんですよね。

ジニ となると本来、浅いファンを取り込もうと思っているっていうことを考えると、逆効果なのかもしれませんね。

杉 だから自分が誰を外すかって考えると、つぶやきが多くてあんまり興味がない人を外せば、タイムラインが埋まることもなくなるんで、外しますからね。

——なるほど。

ジニ そういえば、僕も有名人、文化人とかフォローしてますけど、つぶやきすぎだし、そこまでファンじゃないから、外そうかなって思っちゃう人もいますからね。で、逆に考えると、ダナ・ホワイトってあんまりつぶやきが多くないんですよ。

——そうなんですか!

杉 あとフォロワー数が多いことで世界的に知られるブリトニー・スピアーズってあんまりつぶやかないですからね。あれなんて、逆につぶやかないから外さないんじゃないかなって。それに気がついてない人が多い気がします。

——ツイッターを一生懸命やることは、必ずしもフォロワーの増加にはつながらない、と。では、いまは提供する側も使う側も、どうやって楽しむかを模索してる状況でもあるわけですね。

ジニ そういう感じはありますね。

——じゃあ、最終的に今日のお話をまとめると、まだやってない人は簡単に始められるから、やってみろって感じですかね?

ジニ そんなこと言ってませんけど(笑)。

杉 やってみなきゃ、おもしろさはわからないっていうことは確かですけどね。

——ま、ボクもとにかくやってみます。では、そろそろDEEP後楽園大会も始まるんで、今日はこのへんで(笑)。ありがとうございました。

【10年2月28日/都内・ルノアール水道橋店にて収録】

正直言って、ツイッターを始めてから睡眠時間が減ってますね(苦笑)

『ブラックアイ2』杉が選ぶ ツイッターベスト5

高木三四郎●t346fire
DDTの社長兼プロレスラー

▶プロレスラー・ツイッターの第一人者。ガオたんとの抗争だけでなく、他分野との意外な交流も多い。ツイッター上でメカマミー(ddtprp)をカプセル怪獣のように操る。

さくらえみ●sakuraemi
アイスリボン代表兼プロレスラー

▶さくら選手の誘いでツイッターを始めたプロレスラー多数。さまざまなレスラー・関係者とのやりとりが楽しい。mixiから生まれたアイスリボン、いまやファンとの交流はツイッター。

KUSHIDA●KUSHIDA_CANADA
元ハッスル、現在フリーのプロレスラー

▶現在はカナダを拠点に活躍中のため、思わぬ選手の名前が出てきたりで驚く。1月にはツイッターで「スマッシュをどう思うか?」と呼びかけ、ファンの返答を会見で記者に公開した。

ヌンチャクアーティスト宏樹●nunchaku_artist
北海道在住のヌンチャクアーティスト

▶"ヌンチャクアーティスト"なる謎すぎる職業(?)の日常があきらかに。意外と言っては失礼だが、セミナー、取材と忙しい。仕事の合間を縫ってヌンチャクゴルフ・野球の稽古も。

プチ鹿島●pkashima
お笑い芸人さん

▶「小沢一郎=長州力」説を主張する芸人さん。プロレスネタを混じえたつぶやきが多い。ピン芸人としてアニマル浜口を考察した投稿は最高でした。プネタ以外も笑えます。

『MMA IRONMAN』ジーニアスが選ぶ ツイッターベスト5

佐藤嘉洋●yoshiHEROsato
K-1ファイター

▶ギャグや下ネタが多い。とくに青木真也(@waoki)との下ネタのかけ合いは秀逸。ファンからの質問にも気さくに回答しており、現在日本最強のツイッター格闘家と言える。

浜田幸一●555hamako
政治評論家

▶「政界の暴れん坊」の異名どおりつぶやきも過激だが、ユーモラスなので笑える。ビル・ゲイツに話しかけるなど数々の伝説を残す。主に「なう」の代わりに「だう!」を使用。

嘉門達夫●kamontatsuo
歌手

▶フォロワーに「あったら怖い」ネタや「法則」ネタなどを募っており、おもしろい作品を紹介するという深夜ラジオさながらのツイートをしている。日常についてもたまにつぶやく。

町山智浩●TomoMachi
映画評論家

▶アメリカの映画、文化、政治などさまざまな情報をツイートている。最近ではバンクーバーオリンピックの現地情報やアカデミー賞にまつわる情報などをつぶやいた。

太田光代●ota324
タイタン社長

▶爆笑問題・太田光の奥さん。夫のことを「アーリン」と呼び、仕事以外では夫への愛情、酒への愛情についてつぶやくことが多い。そのツイートには「鬼嫁」のイメージは皆無。

――先生、いきなりですけどツイッ

堀辺　いや、自分が使おうとは思い

感ですから「若い」と言えるんじゃ

よね。何やら相手に思わぬ誤解を与

が運転するなんていうのは

文明の利器に背を向けた
現代の侍がツイッターを斬る！

ツイッターによって古代ギリシャ時代の都市国家のようになる可能性がある！

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

おなじみ骨法の堀辺師範が今回はツイッターを斬る！
とはいえ堀辺師範といえば、現代の侍というだけあり、
文明の利器とはきわめて無縁な生活をしていることで知られ、
パソコンなど触ったこともないという。ツイッターから最も
遠い位置にいる人物。はたして堀辺流のツイッター論とは？

聞き手／堀江ガンツ

私はツイッターどころか、携帯電話を持ったのも3カ月前ですから

—先生、いきなりですけどツイッターってご存知ですか？

堀辺　名前だけはちょっと知ってますね。

—あ、それは意外ですね（笑）。

堀辺　なぜかというと、オバマ大統領が、そのツイッターというものをうまく利用して、大統領選を有利に闘ったというのを新聞か何かで読んでましたんで。

—なるほど。それはツイッターが広く知られるようになったきっかけの一つでもありますよね。

堀辺　あと、最近は鳩山さんが同じようなことをやったというのも聞いてますね。以上が私のツイッターに関する知識のほぼ全部です（笑）。

—そんな先生にじつはツイッターを勧めに来たんですよ（笑）。

堀辺　私がツイッター？　それは難しいんじゃないかな〜（笑）。

—とりあえずセールスポイントを簡単にお話ししますと、ツイッターというのは新しいツールとして、メールよりはるかに多くの人に瞬時に伝わり、その伝播力も凄くあるというものなんですけどね。

堀辺　だから鳩山さんと、普段は話すことがまずないような一般の人たちが、そのツイッター上で意見を言ったりとかできるらしいですよね。

—よくご存知じゃないですか。ホントはツイッターに興味があるんじゃないですか？（笑）。

堀辺　いや、自分が使おうとは思いませんけど、そういったものが出てくると、政治のあり方というのも、ガラリと変わる可能性がある。たとえばギリシャ時代のポリス（都市国家）では、地域が狭かったので、市民みんなが政治に参加するという直接民主主義が行なわれていたんですよ。でも、それが広大な土地になるとできないから、議院内閣制が生まれたという背景もあるわけですね。

—ああ、なるほど。範囲が広くなると、全員参加というわけにいかなくなる、と。

堀辺　ただ、こういったツイッターのようなものが出てきたことによって、また直接民主主義に近いようなことが、今後起こってくるかもしれませんね。革命的なものが発明されるということは、世の中のいろんなものが変わってくるということですから。電話ができたときに、世の中が変わったみたいなものですよ。

—で、こういった世の中の変化に対応していくということは重要なことですよね？

堀辺　はい、重要ではありますね。人間にとって「若さ」というのは、単に生物学上で何歳だというだけじゃなく、若さの本質というのは、環境が変わったときにいち早く適応できる、それが若さですよ。

—先生なんか、世の中の変化に敏感ですから「若い」と言えるんじゃないですか？

堀辺　私ももう67歳なんですけどね。

—あ、67歳なんですか！　全然そんな感じはしませんね。

堀辺　そういう年齢のわりに、世の中の変化に敏感であり柔軟な面はありますけど、私の場合、機械とかそういう方面への適応力というのは、まるでないんです。

—ありませんか（笑）。

堀辺　とくに、こういう通信革命みたいなものには、一切適応できません（キッパリ）。というか抵抗感がある。だって携帯電話を初めて持ったのが3カ月前ですからね。

—3カ月前にケータイデビューですか！（笑）。

堀辺　それも嫌々持ったぐらいですからね。ケータイを持っているというだけで、どこにいても追われるような気がして、非常に不愉快（笑）。やっぱり自分だけの時間や空間がほしいじゃないですか。ケータイを持っていると、それが破壊される。これは本当の自由を求める自分としては迷惑なことですからね。

—それでも持たざるをえなくなったわけですか？

堀辺　そうなんですよ。やっぱり急用があったりするときに連絡がつかないと、問題だということなんですよね。で、昔だったら一日や二日連絡がつかなくても言い訳がついたんですよ。ケータイみたいなものがない時代は。でも、いまはケータイさえあれば連絡が可能なのに使えないとなると、相手が不審がるわけですよね。何やら相手に思わぬ誤解を与える恐れがある。だから「しょうがないな、持つしかないかな」という結論に至り、野蛮人が生存のために文明の利器を手にしたんです。

—生存のために（笑）。

堀辺　だからね、ツイッターなんてものを聞くと、ケータイなんかのさらにその上をいってるわけでしょ？　これは弓矢で闘ってた侍が、急に信長軍の鉄砲隊に遭遇したようなもんですから。そのくらいの落差があるね。

—先生はもともと、そういった"文明の利器"とは、なるべく無縁な生活を送っていたわけですか？

堀辺　いまでもそれが願望なんです。できれば、なるべく文明に依存しないで生きていきたいという気持ちはありますね。ただ、それはあくまでも願望であって、現実はやはり私も文明の恩恵を受けているし、それを利用もしているわけですね。だから、そこの矛盾があるわけだけど、心情的にはあまり進みすぎた文明というのは、好きじゃない。なぜかというと、心が荒らされるから。

—あと、単純に機械が苦手というのはありませんか？

堀辺　あ、もう一つはそれがあるね（笑）。機械とか、モノに対して興味がないんですよ。これは子どもの頃からそうですね。

—先生って車も運転されませんもんね。

堀辺　車も嫌いだから。

—嫌いですか（笑）。

堀辺　他人に運転されて、それに乗っていくのは許せるけれども、自分が運転するなんていうのはとんでもないことです。

—とんでもない（笑）。

堀辺　だからファックスなんかも、道場や自宅にはありますけど、どのボタンを押したら送信できるとか、そういうことは一切知りません。だからかなり時代とずれていますね。

—いまどき珍しいですよね。

堀辺　ただ、これは私の主張であり、言い訳かもしれないけれども、時代とズレていることで、いまの若い人たちが失なってしまった、人間の原始的な感覚みたいなものは、俺のほうがあるぞという自負はありますよ。おまえら文明人は、そういう機械を使うのはうまいかもしれないけど、意外と基礎的な感覚を消失してるんじゃないの？っていうね。そして、自分もそれが消失するのが嫌なんですよ。

—野生の感覚を鈍らせたくない、と。

堀辺　そういう文明というのは、知ってしまったら最後だから。でも、それは避けられない。いつの時代でも抵抗する人はいるんですよ。産業革命のときも打ち壊し運動というのがあって、「あの機械があるから俺たちは失業したんだ」と、職からあぶれた労働者が機械をぶち壊しに行ったんですね。ただ、あとになって「あの打ち壊しというのは、気持ちはわかるけど無理だった」という反省が残るわけです。だから自分なんかも携帯電話ができたり、IT革命なんかが起こったとき、ハッキリ言ってぶち壊したくなったんですね。

——ドコモショップをぶち壊しに行きますか（笑）。

堀辺 それかケータイ工場で大暴れしてやりたくなったんですけど、やっぱり私も歴史から学んでいるから。それをやってしまったら、ヤバいなという理性があるんで、じゃあ自分だけは主体的にやらないでおこう、となったんですね。で、この考え方はね、もの凄く重要なんですよ。

——どういった考えですか？

堀辺 携帯電話なんかでも、悪影響というのは少なからずあるわけですよね。たとえば中学生、小学生がケータイを持っている。それがどんな時間でもできるということによって、子どもの時代のある大切なものを失なっていくわけですね。現にある中学校では、学校にケータイを持ってくることを禁止したら、生徒の学力が上がりだしたということがあるんです。

——そんな例がありますか。

堀辺 ケータイのサイトなんかで、友だちが何を言ってるかとか、そういうことが気になってしょうがないっていうような状態に子どもたちが陥っていたんですよ。そんな噂の坩堝のような状態から解放されることによって、みんなが明るくなって、学力が向上したという例があるんですね。だからケータイが悪いんじゃなくて、ケータイをどう使うかが大事。このツイッターっていうのもね、人間の進歩した道具、機械を主体的にどのように使うべきなのか、そこに人間の知恵があると思う。だから私みたいなのは極端な例なんでしょうけど、いかに人間が不幸にならない使い方をするかどうかが大事なんじゃないですかね。

——でも、先生ご自身は、そもそもツイッターを使う気はまったくない、と（笑）。

堀辺 まったくないです（笑）。そういったものは、なるべく遠ざけます。私はこの資本主義社会自体にも「支配されてたまるか！」って思ってるくらいですから。

——そういえば以前、先生は「財布は必ず落とします」とか言われましたよね（笑）。

堀辺 よく落とします ね。というのはお金って便利だし、もちろん私も使うんですけど、私は自分でお金を管理するというのが嫌いなんです。

——お金の管理が嫌い（笑）。

堀辺 それと人間の価値観までも金額に換算されてしまうような、資本主義社会というのが自分には合わない。だから、できたらお金が関係ない生活でいたいということで、自分ではなるべく触らないようにしているんですよ。

——意識しないようにしているので、財布を落としても全然気にならない（笑）。

堀辺 そう、財布は落としちゃうし、女房からは「金銭感覚がない」と言われてしまう。私は税務署からいくら取られてるか何もわからないし、電気、ガス、水道代がいくらかかってるかもわからない。お金に関することを何も知らないから、逆に言えばお金に悩むことがまったくないんですよ。だから女房からも「あんたは幸せね」って言われるんですよ。金銭的な苦労をまったく知らないから。

——そのお金のストレスがないというのは、非常にいいですねえ。

ほりべ・せいし■1941年、茨城県出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。最近はヨルダン国王護衛の近衛団にも武道を指導するなど、多方面で活躍中。格闘技・武道評論の第一人者でもある。

堀辺 これは大事なことなんですよ。日常のあたりまえのことにエネルギーを割かずにすむので、自分のやりたいことにすべてのエネルギーを注ぎ込むことができる。人間のエネルギーというのは限られていますからね。

——時間も限られてますよね。

堀辺 だから、自分が一番知りたいこと、やりたいことにすべてのエネルギーを注ぎ込むためには、ある程度、日常的なことは捨ててもいいんですよ。こんなことを言うと「日常的なこともできないようじゃ、生活ができないじゃないか」っていう声が上がると思うんですよ。

ツイッターに支配されそうになったら堀辺的生き方を思い出すのもいい

——確かに金銭感覚がまったくなしで、生活を送るのは難しいですよね。

堀辺 でもね、社会というのは分業で成り立ってるんですよ。文明の基本は分業なんですね。だから私は自分の好きなことをとことんやって、その分野で自分の才能があれば、そしてそれを提供すれば生きていけるんですよ。「自分の好きなことを追求することによって、この分業体制の中で生きていけるなら、こんなに幸せなことはない」というのが自分の生き方だから。

——金銭的な面や、日常生活のことについては自分ではなく奥さんがやってくれる、というのも分業なわけですね（笑）。

堀辺 そういうことです（笑）。人それぞれが、その分業の中で何を選ぶかというのは、自分の才能と好みに相談して、カッコよく言えば志と相談して、やることを決める。そして「ほかのことは全部ダメだけど、これをやるためにはあいつが必要だ」というものを持っていれば生きていけるわけですね。そして、私はそうやって生きてきましたから。そういう生き方こそが根本的な個性というんですよ。

——それこそ「オンリーワン」というやつですね。

堀辺 そうなんです。そして、どうやらそういう生き方でも生きていけるんですよ。私がそのいい証拠ですから。自分のやりたいことだけをやるというのは、いいことなんですよ。苦しくないんです。やりたくてやりたくてしょうがないことを絞ってやるわけだから。私も「なんでそんなに元気なんですか」とか「なんでそんなに意欲的なんですか」って聞かれたりするんだけど、もともと意欲が湧くことしかやってないんだから。あたりまえなんですよね。

——やりたいことをとことんやっている、と。

堀辺 というわけで、私は自分のやりたいことだけをとことんやりたいので、ツイッターはやりません（キッパリ）。

——わかりました（笑）。

堀辺 だからツイッターというのも、使いたい人はとことん使えばいいし、非常に大事なツールなんだと思いますよ。ただ、ツイッターに逆に使われてしまって、人間の主体性は失なわれないでほしいね。そんなときは、堀辺的な生き方もあるということを思い出してもらえたらいいんじゃないかな。

【10年3月2日／都内・骨法武術館にて収録】

kamipro books 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

PRIDEはもう忘れろ!

フジテレビショックから始まった日本マット界激動の歴史を追う!

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判　336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男

秋山成勲なのか チュ・ソンフンなのか――。

2006年12月31日大晦日『Dynamite!!』秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションである。

B6変型判　264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判　320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!! PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年――世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判　296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!

え、ターザンが死んだ!? 90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判　304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年…… "呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判　296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる "変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本隊1,600円+税)

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇

プロレス狂がシビれる 凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫★三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本

井上義啓とは底が丸見えの底なし沼である――!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録!

B6変型判　312ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

enterbrain 発行／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売／株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

堀江ガンツ
当変態座談会の主宰者。ちっちゃい頃から変態的プロレスファンとして鳴らすカリスマ的変態。かつて本誌の連載「紙の新聞」でさんざんドラゴンネタを書き、ドラゴンのイメージを変えてしまった張本人。

椎名基樹
本誌の好評長寿コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。変態座談会癒しの重鎮。一時はドラゴン研究家としても知られ、ドラゴン関係のコラムも多数。

唯一無二の"ドラゴン芸人"ユリオカ超特Qがついに変態座談会に雪崩式リングイン!

井上崇宏
いろんなお仕事をやっているペールワンズの総帥。今回は本物のモノマネ芸人を前に自粛したが、プロレスマスコミ界のモノマネ王でもある。「ちょちょちょ、古舘さん!」の口癖とともに"井上小鉄"とも呼ばれる。

ユリオカ超特Q
ご存知『アメトーーク』でおなじみの"昭和プロレス芸人"であり、唯一無二の"ドラゴン芸人"。我らがドラゴンのモノマネはとにかく絶品。このほか天龍源一郎や金本浩二といったモノマネレパートリーもある。

原タコヤキ君
元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。本誌公式サイトkamipro.comのポッドキャスト『mimipro』でもカリスマ司会者として活躍。最近はiphoneを購入し、ツイッターにハマってる模様。

語ろう! ドラゴン伝説

俺だけの藤波辰巳 変態座談会

先日、某老舗プロレス週刊誌で『アメトーーク』に便乗したドラゴン特集という、どっかで見たことがある特集をやっていたのだが、その内容に唖然。ドラゴンという抜群の素材を使っていながら、そのトンチンカンな魅力がちっとも伝わってこないものだったのだ。ハンチクなことやりやがって! というわけで、『アメトーーク』便乗の"先輩"である本誌が、あらためて本物のドラゴン特集をやらせていただきます。「やるぞーっ!」(ドラゴン調)

構成/堀江ガンツ

ガンツ　今日はひさびさにオリジナルメンバーでの変態座談会なんですけど、素敵なゲストに来ていただいております。ユリオカ超特Qさんです！（拍手）。

ユリオカ　（ドラゴン呼吸法で）フンフン、フンフン。藤波辰爾です。

タコ　いきなりモノマネを披露していただき、うれしいですよね（笑）。でも、ガンツ。ドラゴン座談会って、前にもやらへんかったっけ？

椎名　全然忘れてたけど、やった気がする。

井上　椎名さんが「ドラゴンの呪い」の話とかしてましたよね（笑）。

ガンツ　おっしゃるとおり、じつは一度やってるんですけど、もう一度やらなきゃいけない事態になってるんですよ。

タコ　何があったん？

ガンツ　先日、『週刊プロレス』を手に取ったら「『アメトーーク』公認企画『アメ週プロ』」っていう特集をやってたんですよ。

ユリオカ　『アメ週プロ』って、あんまり語呂が良くないですよね（笑）。

ガンツ　その語呂の悪い企画内で、我らがドラゴンを大フィーチャーしてるんですけど……、『アメトーク』で「ドラゴン」といえば、皆さん誰ですか？

タコ　そりゃ、もちろんユリオカさんですよ！

ガンツ　ところがですね、『アメ週プロ』にはユリオカ超特Qの「ユ」の字も載ってないわけですよ！

椎名　ひでえ（笑）。

井上　プロレス道にもとる行為だね。

ユリオカ　いや僕もね、『週プロ』さんは創刊号から読ませてもらってますけど、創刊以来最大の「まさか！」でしたよねぇ。

井上　ドラゴンばりに「聞いてない」と（笑）。

ユリオカ　そう。藤波さんが社長時代にね、会社の決定事項を『東スポ』で知ったように、（藤波ボイスで）「えっ～⁉　本当なの？」っていうね。で、自分の名前を探しちゃいましたから。そしたらドラゴン特集じゃないところに名前がちょっと出てたんですけど、ユリオカ超特QのQが間違ってましたね。

一同　ダハハハハ！

ガンツ　ダブルで失礼だった、と。

ユリオカ　いやいや、全然いいんですけどね。

ガンツ　先日、ウチでは藤波辰爾×ユリオカ超特QのWドラゴン対談っていうのをやらせていただいたんですけど。

タコ　あれはいい写真やったね～。

ユリオカ　藤波さんが僕にドラゴンスープレックスをかけてる写真が、あまりにうれしそうなんで、周りに『タイタニック』みたいだ」って言われましたからね（笑）。それぐらい恍惚の表情でしたから。

椎名　あの体勢から投げられることは、まずない体勢だしね。必ず未遂に終わるドラゴンスープレックス（笑）。

ユリオカ　そうなんです。あの体勢は一番安全な体勢なんです。

一同　ダハハハハ！

ガンツ　で、おそらく『週プロ』はウチでやった企画に対抗意識を燃やして、ユリオカさん抜きのドラゴン特集にわざとしたんでしょうけどね。

井上　そのドラゴン特集っておもしろくないんだ？

ガンツ　ズバリ言って、おもしろくないんです！（笑）。

椎名　俺、『週プロ』をもう何年も読んでないから全然知らなかったよ。

井上　いま知ったから、怒るのに時間がかかりますよね（笑）。

ガンツ　というわけで、ユリオカさんをお招きして、本当のドラゴン特集をやらせていただきます！

本家『アメトーーク』では、アントンに扮した、くりぃむしちゅー有田とともに、あの飛龍革命in沖縄を完全再現! このネタがゴールデンタイムで堂々と放映されたのだから素晴らしい。

本誌143号で掲載されたWドラゴン対談でのバツグンのツーショット。いつも未遂に終わるドラゴンスープレックスの体勢に入られ、本当に恍惚の表情をしているユリQが最高だ!

『アメ週プロ』は創刊以来最大の「え～っ、本当なの？」でしたよ

タコ　では、さっそくユリオカさんにうかがいたいんですけど、なんで藤波さんのモノマネをやろうと思ったんですか？

ユリオカ　もともと藤波さんの大ファンだったんですよ。僕が中学時代にちょうど藤波vs長州の名勝負数え唄があって。で、当時はプロレスラーのモノマネといえば、猪木さんと馬場さんくらいだったじゃないですか。

ガンツ　「なんだコノヤロー」と「アッポー」ですよね。

ユリオカ　ただ、一部のファンは藤波さんの「フフン、フフンッ」っていう息使いはやってたような気がしたんですよね。

椎名　ドラゴン呼吸法。確かにやってた（笑）。

ユリオカ　それでも「フフン、フフンッ」で何年も進化が止まってたと思うんですよね。で、僕が芸人になって三又又三と、夜中に猪木・藤波の飛龍革命のビデオを朝まで繰り返し観てたことがあったんですよ。そのとき三又さんが猪木さんのモノマネで「藤波、やれんのか！」とか、いわゆる無茶振りで振ってきたんで、（藤波ボイスで）「やりますよ！　やりますよ！」って咄嗟に返したら「似てる。いけるんじゃないか」って話になって、そこが原点ですね。

ガンツ　飛龍革命の夜明けとともに、ドラゴンのモノマネも生まれた、と（笑）。

ユリオカ　それで10年ぐらい前に『爆笑オンエアバトル』で藤波だけのネタっていう無茶をやったんですよ。

井上　そのときはウケたんですか？

ユリオカ　10組中5組が合格するんですけど、6位だったんですよね。で、惜しいんで師匠の大竹まことさんに相談したら「藤波、おもしろい」と。

井上　大竹まことが「おもしろい」と（笑）。

ユリオカ　「やり続ければ伝わるから、おまえがおもしろいと思うんならやれ」って。で、次の回でお客さんが藤波さんを知らないっていう体で、「こういう人がいて、何を言ってるかわからなくて」みたいな話をやったらウケたんですね。そのときの周りの芸人から「藤波おめでとう」って言われましたよ。

一同　ダハハハハ！

ユリオカ　芸人同士なら、いかに難しいテーマに挑んだかっていうことがわかるじゃないですか。

井上　無難なネタじゃないから、“大怪我”する恐れがありますよね。

ユリオカ　だからNHKの『爆笑オンエアバトル』でやるネタとしては、もの凄く革命的なネタ。

井上　まさに飛龍革命だ（笑）。

ユリオカ　だからみんな喜んでくれ

俺だけの藤波辰巳 変態座談会

ましたね。で、この藤波さんのモノマネを初めてレスラーの前でやらせていただいたのが、三沢（光晴）さんなんですよ。

タコ へぇー。

ユリオカ 何年も前の話ですけど、三沢さんが若手お笑いライブにゲストに来られたことがあったんですよ。そのとき挨拶させていただいて、「じつは藤波さんのモノマネができるんです」って言ったんです。三沢さんも藤波さんも社長だった頃だから（藤波ボイスで）「まあお互いね、社長だからね、大変だよね」とか。

一同 ダハハハハ！

ガンツ 似すぎてて何を言ってるか聞き取れない（笑）。

ユリオカ そんなモノマネを三沢さんの前でやったら……「ぶっちゃけ似てるよね」って。

井上 「ぶっちゃけ似てるよね」、三沢語録だ。いいですねえ（笑）。

ユリオカ 「三沢さんのお墨つきをもらった、これは大丈夫だ」ってことで、GOサインですよ。

ガンツ 藤波ファンでもある三沢さんが認めたモノマネだ、と。

ユリオカ ただ、4～5年前トークライブに木村健悟さんを呼んだとき、同じように「藤波さんのモノマネができるんです」って言ったら、ライバル心があるんでしょうね、「あんな特徴のない人のモノマネなんでできるわけない」って、見る前から一刀両断されたんですよ！

一同 ダハハハハ！

井上 でもある意味、いい〝振り〟ですよね？

ユリオカ 実際、木村さんの前でやったら、お客さんは大爆笑なのに「似てないねー」って言い張るんですよ。

ガンツ モノマネであろうと、「藤波は認めない」と（笑）。

ユリオカ これは木村さんの藤波さんに対するライバル心ですよね。

椎名 あとは藤波に「引退試合の相手をやってくれ」って頼んだのに断られた恨みでしょうね（笑）。

ユリオカ 藤波さんって、金本浩二に対戦表明されたときも、家族サービスを優先して受けませんでしたからね（笑）。

椎名 でも、ドラゴンも猪木に「引退試合の相手をお願いします」って言って断られてるんですよね。

ユリオカ 藤波さんって、棚橋とか金本とか自分に対して慕ってくる人にはわりと冷たくしてましたよね。で、猪木さんには永遠に冷たくされてるのに好きなんで。これは藤波さんの「愛されるより愛したい」理論と言われてるんです。

椎名 そういえば、俺が「サインしてください」って言ったときも凄い冷たかったもん。

ユリオカ それ新日本の社長時代ですか？

ライバル心からか木村健悟さんは僕のモノマネを認めないんですよ

椎名 そうです。

ユリオカ やっぱり……。社長時代の藤波さんって大変なことが多かったんで、心が病んでたんでしょうね。藤波さんはレスラーとしては素晴らしいですけど、正直、社長は向いてなかったと思うんですよ。でも、性格的に真面目だから向いてないことを一生懸命やろうとして、当時は藤波さんが笑顔でいても、僕は「ああ、藤波さん調子悪いな」ってわかりましたから。

ガンツ そんなことまでわかるんですか（笑）。

ユリオカ 僕はすべてわかりますから（キッパリ）。うしろ姿のタイツからはみ出るお尻の肉で、もういろいろわかりますから。

タコ 凄いなあ（笑）。

ユリオカ だから、たぶん椎名さんに冷たくしたのも、そういう時期だと思うんで、あのときはすいませんでした（と頭を下げる）。

タコ なぜかユリオカさんが、代わりに頭を下げる（笑）。

ユリオカ でも、本当に大変な時期だったと思うんですよ。それで真面目だから苦しんだ部分もあったんじゃないんですかね。

ガンツ 社長時代はルックスがひどかったですもんね。

椎名 へんなパーマかけてね。

ユリオカ パーマの可能性を広げましたもんね。あの頃、体型もダメでしたもん。本人も一番納得いってない時期だったんじゃないですか。

ガンツ 一番いじられてた時期でしたもんね。僕が『kamipro』でいじってたんですけど（笑）。

ユリオカ だからあの頃は僕も毎日大変でしたよ。プロレスファンから「なんであんなに意見がコロコロ変わるんですか」とか僕が責められるんですから。

井上 藤波代理人として（笑）。

ユリオカ だから僕も自分のことのように受け止めて、じっと耐えてましたね。

タコ 藤波さんとともにユリオカさんも調子悪かった、と。

ユリオカ そうですね。芸人として一番迷ってた時期かもしれない。

一同 ダハハハハ！

ユリオカ でも、あの当時の藤波さんは数々の名勝負を我々から忘れさせようとしてるんじゃないか、ファンをやめさせようとしてるんじゃないかって思うくらい、ちょっと迷走してたのは確かですよね。

椎名 「愛されるより愛したい」理論だ（笑）。

ユリオカ だから2003年でしたか、猪木さんが藤波さんに対して無理矢理「引退しろ」って迫ったときがあったじゃないですか。

ガンツ 「イノキボンバイエ2003」の前ぐらいですよね。

ユリオカ そのとき僕ら藤波ファン有志で、後楽園ホールの前で署名活動したんですよ。「藤波さんを引退させないための署名お願いします！」って。

タコ 凄いなあ。

ユリオカ あのときは僕らと藤波さんにとって、猪木さんは共通の敵ですから。裁判でいえば、僕らは藤波弁護団みたいなもんですよ。で、試合前に署名活動して、そのあと新日本の興行を観たら猪木さんが出てきて「藤波、神戸に招待してやるぞ」とか言ってるんですよ。

ガンツ 大晦日、神戸ウイングスタジアムに来い、と。

ユリオカ そこで引退試合の相手をしてやるぞってことですよね。でも、僕らは「冗談じゃない。そんな引退させられる場に行かせないぞ！」って思ってたら、猪木さんから神戸行きの航空券を手渡された当の藤波さんが近年稀に見る満面の笑みなんですよ！

タコ ダハハハハ！ なぜか当人は喜んじゃって（笑）。

ユリオカ それを見たとき、我々は足から崩れ落ちましたよ！ だって裁判で闘ってるはずなのに、当人同士で和解してたら、僕らがやってることはなんなんですかって！ もう、猪木さんの前に立ったらファンに戻っちゃって満面の笑みなんですから。

ガンツ しかも、あのとき神戸にわざわざ行ったのに、休憩明けの猪木劇場に付き合わされただけで、「なんちゃって引退試合」みたいなことしかやらせてもらえなかったんですよね（笑）。

ユリオカ そうなんです。（藤波ボイスで）「猪木さん、1・4ではタイツとリングシューズで待ってます」とか言って。実際、その4日後の新日ドーム大会で藤波さんは猪木さんとの引退試合のために、タイツとリングシューズ、そしてガウンを着た正装で登場したんですよ。そしたら猪木さんがビジョンに映し出されて「今日はそっちには行かない

よ。それよりおまえ、胆石治せ」とか言いだして、藤波さんは呆然。その顔がアップでビジョンに映し出されて5万人が大爆笑ですよ！

一同 ダハハハハ！

椎名 どこまでコケにされてるんだって（笑）。

ユリオカ あのあと、ドームのダグアウトに戻ってくる藤波さんのあとを追って、僕は夢遊病者のようにフラフラ駆け寄ったんですけど、係員に止められましたよ！

井上 ほっとけない、って（笑）

ユリオカ 自分でもありえない事態で、藤波さんに駆け寄るまでの途中の記憶が抜けてますからね。5万人に大爆笑された直後ですから。

タコ そんなドラゴンをユリオカさんは、子どもの頃からファンだったんですか？

ユリオカ もちろんですよ。藤波さんのファンは多かったですよ。女性ファンも多かったし。当時の藤波さんの身体は美しかったですから。

井上 パンクラスが出てきたときよりも、もっと鋼のような身体で格好よかったですよね。

ユリオカ 衝撃的でしたよね、あんな身体してるの藤波さんだけでしたよ。

ガンツ いまはドラゴンゲートを中心に、ボディビル系のいい身体のレスラーはけっこういますけど、それとは違ってドラゴンは闘う肉体でしたよね。

ユリオカ そうなんですよ！ ボディビルのカッコよさとは違うんですよ！

井上 ドラゴンがほめられると、ユリオカさんうれしそう（笑）。

ユリオカ あんまりほめられることがないんで（笑）。

椎名 でも、プロレスラーで女の子の黄色い声援が飛んだのって、藤波が初めてですよね。

ユリオカ だからいま、50代ぐらいの女性に「昔、藤波好きだったわよ」なんて言われるときがありますもん。

タコ プロレスに興味がない人が見ても、普通にカッコいいって感じでしたもんね。だから30年前のプロレス界に現われた〝魔裟斗〟でしたよ。

ユリオカ 普通にバラエティ番組にも出てね。ドラマ『毎度お騒がせします』なんて、主人公たちのお母様方が行くエクササイズのプロレス教室の講師でしたからね。

タコ よう覚えとるな～（笑）。

ユリオカ 奥様方に「うちの主人と違ってカッコいいわね～」なんて言われる役ですよ！ そんな役ができる人っていま、います？

井上 ホントに魔裟斗ですね。

ガンツ 大根ぶりも含めて（笑）。

ユリオカ だから僕も普通に藤波さんに憧れましたよね。だって「辰巳」っていう字なんてもう何度書いたことか！

タコ 書いたな～（笑）。

椎名 俺も「藤波辰巳」って、なんてカッコいい名前だって思ってたから、なんで名前変えちゃったんだろって思うけど。

ユリオカ あれは腰を痛めて、それを機に90年代入った頃に変えちゃったんですよ。

椎名 腰に男性ファンの霊が憑いたんですよね（笑）。

ユリオカ 本当のことを言えば、ベイダーのせいなんでしょうけどね。

ガンツ ベイダーがムチャしたせいで、腰ぶっ壊されて（笑）。

ユリオカ となると、やっぱりスポーツ選手ってケガをすると、もう二度とケガをしなくなるために改名したりするんですよね。ただ「爾」がまた変換しづらいんですよ。

タコ 読めへんよね。

ユリオカ 「爾」ってなんか雨が降ってるみたいな感じの字で、逆に腰に悪いんじゃないかって思ったりするんですけど（笑）。

ガンツ だから「藤波辰巳」と「藤波辰爾」じゃ、イメージが全然違いますもんね。

椎名 藤波辰巳＝カッコいい、藤波辰爾＝カッコ悪い、だもんね（笑）。

ユリオカ そんなことないですよ！ いまもカッコいいですよ。でも、「藤波辰巳」っていうとジュニア時代、長州との名勝負数え唄時代、前田日明戦、飛龍革命なんかがあって、そのあとの「藤波辰爾」時代とは、ちょっとイメージは違うかもしれませんね。

タコ 「藤波辰爾」になった瞬間、「コンニャク社長」やもんなあ（笑）。

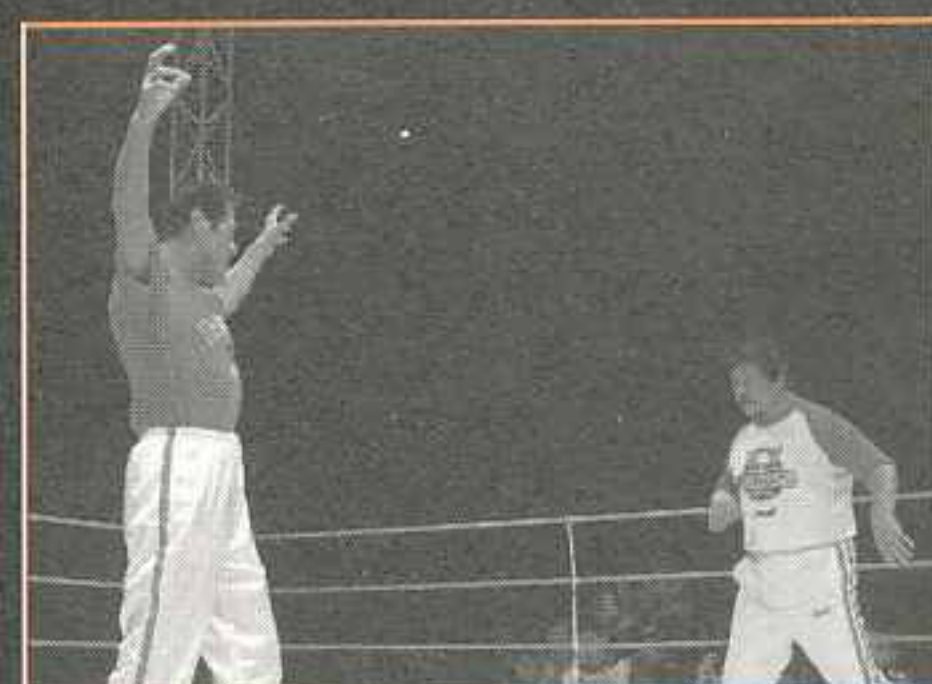
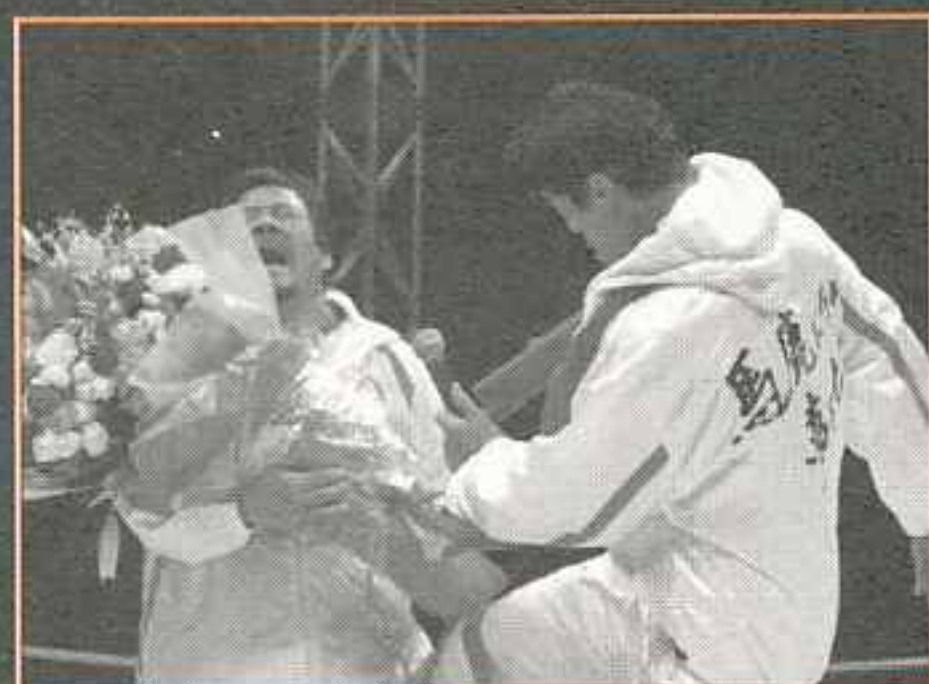
ユリオカ そんなに急に変わりませんよ！ あと、藤波さんは入場テーマ曲を変えすぎっていう問題もありますよね。

タコ それはあるな～。

椎名 『ドラゴンスープレックス』は、入場時に「ド～ラ～ゴン！ ド～ラ

端正なマスク、そして贅肉のない鍛え抜かれた肉体。70年代後半にジュニアヘビー級ブームを起こしたドラゴンは、怪物的なプロレスラーのイメージを一新したのだ。しかし、この20年後にドラゴンのカッコいいイメージも完全に一新されてしまったのだが。

2003.12.31
『イノキボンバイエ2003』
幻のドラゴン引退試合 アントン劇場

歴史に残るズンドコ興行だった『猪木祭り2003』において、じつは幻のドラゴン引退試合が行なわれていた。すでに引退していたアントンとの最後の対戦を熱望するドラゴンを神戸に呼び寄せた猪木。はたして、そこでは何が行なわれたのか？

アリキックを合図に、ジャージ姿ながら急きょ実現した師弟対決。ドラゴンは手を叩いて観客にアピール。藤波よ、猪木を愛で殺せ！

でも、ただ花束を渡して終わるアントンではない。なんと突然、ドラゴンに対してアリキック！ それを受けるドラゴンの表情も最高だ！

1.4ドームで猪木戦を実現させたいドラゴンは、神戸に乗り込み直談判。しかし、アントンから花束を渡されると、満面の笑み。

～ゴン！」ってコールしやすいのがいいんですよ。

ユリオカ　ニックネームでコールが起きるって凄いことですよね。雨上がりの宮迫さんも「子どもながらに『ドラゴン』っていう響きに格好よさを感じた」って言ってましたから。だから技の名前にも一番なってますもんね。ドラゴンスープレックス、ドラゴンロケットとか。ドラゴンリングインなんてのもありますけど（笑）。

ガンツ　あのリングインネタはすっかり定着しましたね。

ユリオカ　あれについては「正式名称は『雪崩式リングイン』だ」なんて言う人もいますけど、そんなどっちでもいい論争が起こるほど定着しちゃいましたね。

タコ　あと笑われることで言うと、雪崩式リングイン以外に、ディック・マードックとのお尻ぺろんがあるじゃないですか。

ユリオカ　あれはギャグでもなんでもないですよ。藤波さんって、普段は冗談も言いますけど、リング上では試合が終わるまで決して笑顔は見せない人ですから。だから、藤波さんに狙いはなかったと思いますよ。ただ、目の前にタイツがあったから引っぱった、というだけでね。

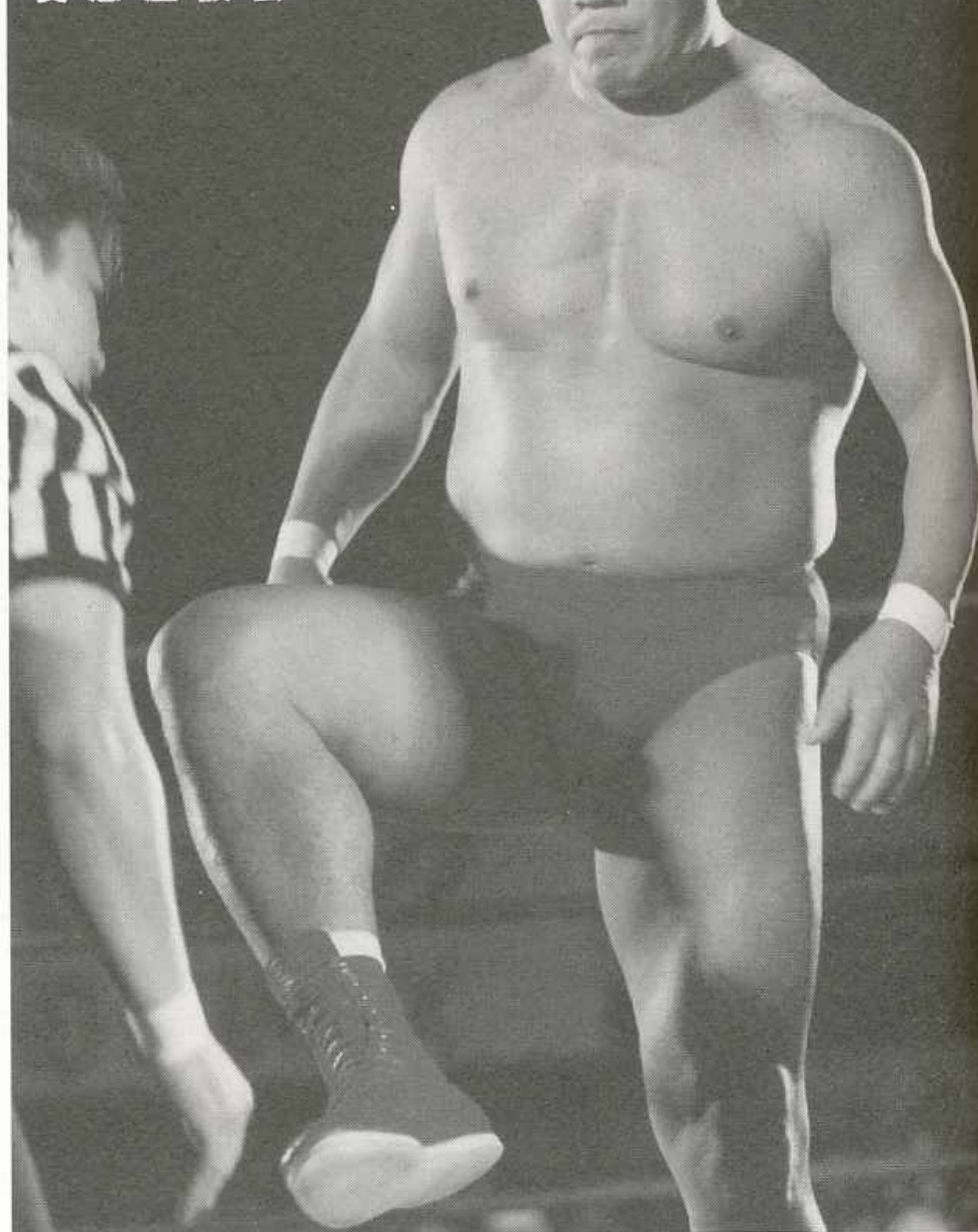
椎名　マードックにやられたらやりかえす、みたいな（笑）。

ユリオカ　目には目をっていうね。

ガンツ　マードックって不思議と、ドラゴン以外はほとんどお尻ぺろんやらないんですよね。

タコ　確かに猪木さんがお尻ぺろんされたところって記憶にないわ。

ガンツ　だから、あれはマードックが「ドラゴンなら何をやっても怒らないだろ」と思ってやってるんじゃないかって（笑）。

藤波さんと藤波ファンはどちらも怒りが持続しないんですよ！

いまや伝説となっているパーマ頭で、見るからに重そうな肉体。そしてなぜかストロングスタイルの象徴である黒のショートタイツ、黒のリングシューズから、似合わない赤に変えていた新日末期のドラゴン。かつてのカッコよさはどこに……。

ユリオカ　藤波さんに対してはNG事項がないっていうのはあるかもしれないですね。「藤波ならすべてを受けとめてくれる」っていう暗黙の信頼感で。

ガンツ　前田とか破壊王、あと天龍なんかも、ドラゴンとの試合になると、一線を越えるぐらい厳しい攻めをするじゃないですか。それはドラゴンが受けとめてくれるからだと思うんですけど。

タコ　同じようにマードックのお尻ぺろんも受けとめて、という（笑）。

ユリオカ　マードックも藤波さんもプロレスの達人同士じゃないですか。だから闘っててもお互い気持ちよかったんじゃないですかね。藤波さん自身も「一番印象に残るレスラーはマードックだ」って言ってましたから。

タコ　へえ、そうなんや～。

ユリオカ　だから藤波vsマードックって、タッグも含めて数えきれないほどやってますよね。

タコ　子どもの頃、メチャメチャ観ましたよ！

井上　逆にマードックを思い出すと、必ず藤波も一緒に出てきますよね。マードック単体より藤波とセットのほうがしっくりくる。

椎名　毎週のようにセミファイナルで闘って、お尻出してた印象があるよ（笑）。

ユリオカ　だからね、プロレスの達人同士がやることですから。我々がどうこう言うレベルじゃないんですよ。お尻を出す出さないとか、そういうレベルじゃないと思いますよ。でも、こういうことを言ってもなかなか納得してもらえないんですよね。だいたい世の中に藤波信者ってあんまりいないんですよ。

タコ　そういえばそうやなあ。

ユリオカ　猪木信者、前田信者はたくさんいるし、長州さんもそういう信者的なファンが多かったと思うんですよ。でも、なぜ藤波信者がいないかっていうと、やっぱり藤波さんは他人の言い分聞いちゃうから。人を圧倒する強引さがないんですよね。

タコ　強引さがカリスマ性を生むっていう部分はありますよね。

ユリオカ　それで我が強い人たちに言いたい放題言われたりするんですよ。

井上　こうして接していても、ユリオカさんに対してなら何を言ってもいいような気がしますもん（笑）。

タコ　ホンマや。芸人さんに対して、失礼なこと言ってるわ（笑）。

ユリオカ　だからテレビに出て、後

まさにストロングスタイルという手四つの攻防から、グラウンドに持ち込みスリーパーに捕らえるドラゴン。すると猪木の力が抜けていき……。

なんとスリーパーで落ちてしまったアントン。これを見たドラゴンは、"舌出し事件"でのホーガンのように、ただオロオロするばかり。

心配したドラゴンが顔をのぞきこむと……！　俺は死なねえぞー！　というわけで、長いあいだありがとう」。アントンのどっきりだった！　ぎゃふん。

騙されたドラゴンは「人間不信」と書き置きすることなく、笑顔で1.4での再戦をアピール。しかし4日後、さらにコケにされるのだった……。

輩のゆってぃに頭叩かれたりしてるんですよ。「後輩に慕われるユリオカ」とか言われますけど、やっぱりそこも受けちゃうんですよね。ドラゴンイズムで。

タコ　ユリオカさんは、こうやってドラゴンは突っ込みどころが多いって気づいたのは、大人になってからなんですか？

ユリオカ　っていうか、藤波さんに対して率先して突っ込んでたのは『kamipro』さんじゃないですか！（笑）。当時から僕は『kamipro』買ってましたから言わせてもらいますけど、藤波さんの記事を読みながらだいぶムカつきましたよ！

一同　ダハハハハ！

ガンツ　すいません（笑）。

ユリオカ　でも「藤波語録」とか、ムカつくけどおもしろいのは事実じゃないですか。だから藤波ファンとしては、『kamipro』読みながら、おもしろいけどムカつく、ムカつくけどおもしろいって感じで、どう処理していいかわからなかったんですよ。それがしばらく経って、素晴らしいレスラーなのも藤波だし、おもしろいのも藤波なんだって、両方を受け入れるようになったんですよ。だいたい藤波ファンはすぐに受け入れちゃいますから。

井上　本家ドラゴン同様に（笑）。

ユリオカ　だから藤波さんと藤波ファン、共通の特徴は「怒りが持続しない」っていうところですね。だって長州さんにどれだけひどいこと言われたか。長州さんが新日本を辞めてWJを作るとき「あんなに何もわかってない社長はいない」とまで言われてるのに、旗揚げ戦で花贈っちゃってるんですから。

一同　ダハハハハ！

ユリオカ　2カ月前まで激怒してたのに、うっかり贈っちゃうんですよ。それでいま、一緒にタッグ組んで、トークショーまでやってますからね。どんだけ仲がいいんだって。

じつは録音を止めたあとも、延々とドラゴン談義で盛り上がった今回の変態座談会だったが、さすがにタイムオーバーでドラゴンストップ。ドラゴンの魅力は1時間や2時間じゃ語りきれないのだ。

猪木さんや前田さんは怒りが持続してそれがエネルギーになりますけど、藤波さんは大きな怒りまで忘れちゃいますからね。

井上　『kamipro』にあれだけ書かれて出てこないですよね。

ユリオカ　そうですよ。どの面さげて取材に行けるんだって、普通は取材がドラゴンストップですよ！

一同　ダハハハハ！

ユリオカ　でも、そこは取材を受け入れて、終わったあとに「そういえば、へんなこと書かれたことなかったかな」って気づくんですけど「まあ、いいか」ですよ！　どんだけ人間として大きいんですか！　そういう藤波さんの器の大きさってなかなか気づかれないんですよね。だから藤波ファンは「俺だけの藤波」になるんですよ！

タコ　周りは気づかへんから。

ユリオカ　藤波ファンは、藤波さんを独り占めできるんですよ！　たとえば、引退カウントダウンを半ば無理矢理やらされて、引退したくないのがバレバレだったことがあったじゃないですか。

ガンツ　引退カウントダウン中に、「引退撤回もある」「生涯現役」とか言ってましたからね（笑）。

ユリオカ　そのカウントダウン中に、僕らは引退撤回の署名活動をしてたんですけど、12月の寒いなか、藤波さんが会場入りするとき、僕を見て「署名やってくれてるの？　ありがとうね、頑張ってね」って言ってくれたんですけど、あなたが「引退撤回します」と言ってくれれば終わることなんですからって（笑）。

タコ　自分に対しての署名なのに、なぜか「頑張ってね」（笑）。

俺だけの藤波辰巳 変態座談会

藤波さんは器が大きすぎて なんだかよくわからなくなっちゃう

ユリオカ　でも、凄く優しいんですよ。「寒くない？」とか気づかってくれて。

井上　優しいけど、言うことはトンチンカン（笑）。

ユリオカ　でも、凄いですよ。だって昔、大阪で「無我」の大会があって、僕は自腹で行ってリング上で花束を渡したんですよ。で、普通花束渡しても「ありがとう」くらいしか話さないもんじゃないですか。

タコ　リング上ですからね。

ユリオカ　それなのに藤波さんは、（藤波ボイスで）「えっ、今日来たの？　どこ泊まるの？」って、リング上で泊まるところの心配までしてくれてるんですよ！

一同　ダハハハハ！

井上　まああれですよね、飛龍革命後に沖縄のホテルを飛び出してはみたものの、飛行機が飛ばずに同じホテルにまたチェックインし直した経験がありますからね（笑）。

ユリオカ　ドラゴンチェックインですね。

一同　ダハハハハ！

井上　ドラゴンチェックイン（笑）。

ユリオカ　泊まるところが常に心配なんでしょうね。素晴らしい方ですよ。試合ももちろん素晴らしいし。最近は、ちょっと試合の素晴らしさと別のところでクローズアップされちゃって、僕がそれに一役買っちゃってるかもしれないですけど。

井上　そうですよ！（笑）。

ユリオカ　でも2010年のゴールデンタイムに「ドラゴン体操」が流れるなんて、誰が予想しました？

椎名　あの「ドラゴン体操」ってオンエアはされなかったけど、最後に周りの子どもがみんなでドラゴンのズボンを下ろすんだよね。子どもまでドラゴンに対しては、何をやってもいいと思ってるんだよ（笑）。

井上　マードックだけじゃなく、子どももやりたい放題（笑）。

ユリオカ　やっぱり、藤波さんはすべてを受けとめてくれるんですよ。

ガンツ　では、この変態座談会も言いたい放題でしたけど、ドラゴンだったらすべて受けとめてくれるってことで。

井上　でも今日、ドラゴンのいい話をたくさんうかがったんですけど、聞けば聞くほど、ドラゴンってバカ？って思っちゃうんですけど（笑）。

ユリオカ　「甘い！」。そうじゃなくて、器が大きすぎるんです。見たことないような大きさだから、なんだかよくわからないだけなんですよ。

井上　なるほど（笑）。

ユリオカ　それを藤波ファンだけは気づいている。だから「俺だけのドラゴン」なんですよ！

タコ　では、ドラゴンの器の大きさに甘えて、この座談会もお開きにしたいと思います。ほな、サイナラ～。

【10年3月2日／都内・リビングバー新宿にて収録】

発掘掲載

ドラゴンイズム大爆発!!

ドラゴンの『世界ウルルン滞在記』

〜ホントに来た 大再会スペシャル〜

本誌人気長寿連載コラム『サムライ三昧』が、『ザ・検証』というタイトルだった9年前、"ドラゴンライター"椎名さんが、ドラゴン出演の『ウルルン滞在記』を克明リポートしていた。この原稿が、ドラゴンイズム満載でじつに秀逸で、全篇ゴーゴードラゴン状態! 今回のドラゴン特集に欠かせないと思い、一部加筆修正のうえ、ここに再録させていただきます!

文／椎名基樹

ずいぶん前（2001年）のことになってしまうが、『ウルルン滞在記』の「ホントに来た　大再会スペシャル」なるものに出演した藤波社長が、これでもかというくらい、ドラゴンイズムを爆発させていたので、今回、検証してみたい。

まず、番組はこのときから6年前に、パプアニューギニアのオロパ族の元に、ドラゴンが訪れた模様から放映された。「大再会スペシャル」と名付けられたとおり、過去に訪れた土地に行き、再会を喜ぼうというのが、番組の趣旨だ。標高2100メートルに住む、オロパ族の村に徒歩で向かう、当時41歳のドラゴン。もちろん、まだ社長の座はゲットしていない。

「ダメ〜、ダメ〜。もう近いの？　もう近いだろ、これだけ歩いたら」

と、さっそくスタッフに泣き言を言うドラゴンから、映像はスタート。

やっと村に辿り着き、出迎えを受ける。村長のマルンバさん。世話になる家の家長バリさん。奥さんのパマンダさん。その孫のワタくんなどが紹介される。どいつもこいつも、まさに部族。泥だらけで痩せていて、目だけギラギラしている。人というより、半人半獣。当然、ビビる、ドラゴン。そして、家の中に通されて、三食同じという主食の芋を食わされる。

「さっぱりとした芋」

と、引きつりながら、ドラゴン一言。あまりのマズさにそれ以上のコメントなし。

翌朝。

「一睡もできなかった、ただ腹が減ってねえ」

と、青い顔色でつぶやくドラゴン。あんまりドラゴンが嘆くので、村人がご馳走を取りに連れていってくれる。しかし、それがまた険しい山道。ドラゴンまた音を上げる。そこに《毎日1キロのステーキをたいらげる、プロレスラー藤波。芋一個では力が出ない》と悪意に満ちたナレがかぶる。

そして、やっとの思いで辿り着いたご馳走は、カブトムシの幼虫大の芋虫。大好物だとパクつく孫のワタくん。ドラゴン一言「ダメ」。次はキリという果物。かぶりついて、ゲーゲーとえづくドラゴン。最後はサワガニ。生きたままバリバリ食う、現地の人たち。そして、ついにキレる、ドラゴン。

「今日から出てくる物を食わなきゃ。だってそうしないと、食うものがないんだもん（両手を広げてNOのポーズ）。普通は用意してるでしょう。藤波さんお疲れさまでした。それでは、食べ物は用意してますからって（一人芝居）。いつまで経っても出てこないから、待てよ、これは本気だぞと思って……」

と、テレビとは思えないシュートなことを言いだす、ドラゴン。

翌日。なぜか、バリさんと弓矢で対決するハメになる、ドラゴン。お互い至近距離で睨み合った状態で、弓を引いたまま、グルグル回る。《バリさんは村一番の戦士。かつて、敵に殺された弟の仇の首を噛みちぎった勇者》とまたもや、悪意のナレがかぶる。疲れてしゃがみこむドラゴンに「立て！」と言って蹴りを入れる、バリさん。「休憩！　休憩だって言ってんだろ！」と冗談半分、マジ半分で応える、ドラゴン。

そんな、ドラゴンの唯一の友だちは孫のワタくん。その夜、いっしょの寝床で戯れる二人。腹を指して「ストマック」。耳を指して「イヤー」と、なぜか英語を教えるドラゴン。

翌日。ドラゴンを見かねた村人が、ブタを料理してくれることになった。蒸し焼きされただけの素朴なブタ料理を食う、ドラゴン。

「一週間ぶりの肉〜！　うめ〜！　一週間ぶりのあの肉の感触……。見ている人は、あのブタ肉を食べたとき〝え〜、あれを口にするの？〟と思ったと思うんだよね（差別発言）。でも、俺から言わせれば、〝冗談じゃないよ！　あのブタ肉の味はあなたたちにはわからないよ〟っていうね……」

と、言って言葉を詰まらす、ドラゴン。そして、ついには、嗚咽し涙をこぼす、ドラゴン。誰も〝え〜、あれを口にするの？〟とは思わないが、〝え〜、おまえ泣くの？〟と思ったはずだ。その素っ頓狂な感情の高ぶりは、過去の「飛龍革命髪切り事件」「こんな会社辞めてやる事件」を思い起こさせる。

別れ際、やしの苗を植えてもらい、それを「藤波」と名付けてもらう、ドラゴン。そして、お土産にと、子豚を手渡されたとき、露骨に迷惑そうな顔をするドラゴン。最後に《子豚は村で育ててもらうこととなった》というナレで締められる。

あれから6年。ステーキハウスで大昔の携帯電話ぐらいある、肉の塊ステーキを食っているドラゴン。いくらなんでも、そんなに食わないだろう。悪ノリに乗せられるかたちで「あれから肉を食うと、あそこを思い出す」と、心にもないことを言わされ、また旅立つこととなったドラゴン。

《今度はヘリでやってきた》と嫌味なナレで村に到着する、ドラゴン。大騒ぎでドラゴンを出迎える、村人。「みんな俺を知ってるみたいだな、俺は全然わからないけど」と、ドラゴン。

みんなが藤波、藤波と連呼すると、気を良くして「なんか地元に帰ったみたいだな」と、部族に囲まれて喜ぶ、ドラゴン。

バリさんの家に行く。「バリ、あんたの息子が帰ってきたよ」と村人に呼ばれて出てきた、バリさん。杖がないと歩けないくらいヨボヨボになっている。バリさんは「帰ってきた、帰ってきた、藤波、我が子よ」と、ほとんど放心状態で感激。あまりの熱さに戸惑いながらも、まんざらじゃないドラゴン。「俺は歳を取った」というバリさんに対し「大丈夫、明日からボクが芋を掘りに行きます」と一週間しかいないくせに応える、ドラゴン。

村長のマルンバさんも大声を上げて飛んでくる。その姿はまるっきるエガちゃん。興奮してドラゴンの周りをグルグル回る。引きつり笑いのドラゴン。

翌日。

「滝の上まで行ってくれ。そこにはおいしいものが、たくさんある」

と、明らかにテレビスタッフに命じられたと思われるミッションを、ドラゴンに伝える、バリさん。また険しい道を行くこととなった、ドラゴン。途中「あなたは休んでばかりいる。バリが食べ物を待っている。だから頑張りなさい」と注意される、ドラゴン。「はい、頑張ります」と応えるものの、すぐに「こっちのすぐそこは、一山越えて向こうだもんね」と愚痴るドラゴン。さらに、滝登りの急斜面では「登れないよ」と言ったものの、結局登らされ《プロレスラー藤波は100キロの巨体。みんなで引っぱり上げる》とナレをかぶされてしまう。藤波式呼吸法を漏らしながら、なんとか登る。

「本当の強さはなんだろうと考えさせられたよ。俺は四角いジャングルは強いけど、本当のジャングルは弱いね」とは、ドラゴンの弁。

その夜、ドラゴンのプロレスビデオを村人全員で観ることに。感激した村人。一躍ヒーローになるドラゴン。みんなに担ぎ上げられ、満面の笑み。両手を広げるいつものポーズで歓声に応える。

翌朝。ドラゴンに挑戦してくる、子どもたちが続々と。本気で殴り、本気で蹴ってくる子どもたち。またもや引きつった笑いで応じるドラゴン。ビデオ「マッチョドラゴン」の中の「ドラゴン体操」で、悪ノリした子どもにズボンを下げられ、半ケツをさらすドラゴンを思い出す。

ここで番組はスタジオに。プロレスの試合を見せて、ヒーローになったことへの感想を求められて。「ビデオを観た夜、（村人が興奮して）寝ないんですよ。あれだけ興奮させて、あの夜ボクも一睡もしてないんです。（村人に）襲われたらどうしようと思って」と、感動を売る番組を一切無視したコメントに出演者全員、愛想笑いで凍る。

最後の日。「今度、おまえが帰ってきたときは、俺はあの世に行っているだろう」そして「息子よ、帰らないでおくれ」と言って、足にしがみつくバリさん。何やらどこかで見たシーン。それは、名著『ドラゴン炎のカムバック』の中の写真だ。腰痛で長期欠場していたドラゴンが、ひさしぶりにファンの前に姿を現わしたとき、興奮した熱狂的ファンに足にしがみつかれている、あの写真だ。パプアニューギニアにて、またもや、男性ファンの霊に取り憑かれてしまったドラゴン。合掌。

別れのとき、いつまでも見送りであとをついてくる、バリさん。それを「もういいから。ワタ、バリを連れて帰って」と犬のように追っ払う、ドラゴン。ワタくんも察して「ジイちゃん、行っちゃダメ」と、バリを止める。そこには、ほかの人の滞在記と違い、なんの感動もないのであった。

どうです？　散りばめられた、ドラゴンイズム。もうなんの説明もいらないでしょう。

ドラゴン！　一生ついていきます！

よみがえれ！ 伝説の〝コンニャク社長〟時代

声に出しても聞き取れない 藤波辰爾社長語録

破壊王引退騒動編 1999-2000

ドラゴンのトンチンカンぶりが、最も爆発していた時代といえば、新日本プロレスの社長時代。言ってることが毎日コロコロ変わることで〝コンニャク〟と呼ばれ、社長なのに会社の重要決定事項を『東スポ』を読んで初めて知ることから〝世の中の動きを『東スポ』で知る社長〟と呼ばれたドラゴン。そんなドラゴン社長時代の数々の迷言・珍言の中で、破壊王の引退問題が持ち上がっていた時代のものをここでは発掘再録。これを読めば、ドラゴンイズムが嫌というほどわかるだろう。

構成／堀江ガンツ

私の闘い同様、「攻撃は最大の防御なり」をモットーに〝闘う社長〟として積極的に行動していきたいと思います！

▼99年6月24日　新社長就任所信表明

あのドラゴンがついに新日本プロレス社長に就任したときの、じつに力強い所信表明。しかしちょっと待て。「攻撃は最大の防御なり」はわかる。でも「私の闘い同様」となると賛同者は激減するはず。ドラゴンといえば「受けの達人」そして「新日大量離脱時も猪木を裏切らなかった（というか寝返った？）」ことなどから、マット界有数の「守」のイメージが強い人のはずだ。それなのになぜ？　まさかドラゴン、デビュー30周年を迎えようという、このときまで自分を「攻撃的な選手」と思い込んでいたんじゃ……。

私のプロレス生活、長年の宿願でもありました「プロレスサミット」開催を含め、いまこそコミッショナー制度が必要なときと思います！

▼99年6月24日　新社長就任所信表明

長州の「俺たちの時代」発言（25年前！）を受けて以来、ことあるごとにドラゴンが叫び続ける「プロレスサミット」開催を、やっぱりここでも期待どおり提唱するドラゴン。もしや、この当時実現した10・9ドームの新日本vs全日本の対抗戦などは、「プロレスサミット」開催への第一歩か？　とも一瞬思ったが、全日本との交渉段階から何から、あきらかに社長であるドラゴンが蚊帳の外で進められているようなので、ドラゴンの宿願とはまったく関係ないのだろう。

猪木イズムをさらに追求し、慎重かつ大胆に攻めていきたい！

▼99年6月24日　新社長就任所信表明

〝1・4事変〟以降、ほとんど絶縁状態だった新日本とUFO（というかアントン）をもう一度、結びつけようというドラゴンの大英断。まさに、この発言から破壊王のオーちゃんへのリベンジがスタートしたといっても過言ではない。それにしても社長になっても「猪木イズムをさらに追求」しようというドラゴンなのに、アントンには引退時に「藤波を後継者に考えたことは一度もない！」と言いきられてしまうのだから、じつにかわいそうなのである。

橋本があの重たいキックを本当に叩き込みたい相手は俺じゃないでしょう。小川じゃないかな？（橋本は）興奮して鼻血が出るくらい勢いも戻っている

▼99年6月27日　社長就任後第1戦で破壊王とのタッグ戦の試合後

〝1・4事変〟以降、ほとんど破壊王にとっては禁句に近い状況だった小川とのリベンジマッチ。非常にデリケートな問題にもかかわらず、ドラゴンは破壊王の意向を確かめもせずに「本当にキックを叩き込みたい相手は小川じゃないかな」と例によって不用意に憶測で発言。しかも鼻の粘膜が弱い破壊王が鼻血を出しただけで、「勢いも戻っている」となぜか断言。こんなことの積み重ねで破壊王は、どんどん小川との再戦をしなくてはならない状況に追い込まれていったのである。それにしても「鼻血が出るくらいの勢い」とは、いったいどんな勢いなのか。ドラゴンボキャブラリーはじつに深い。

え〜っ！ 本当なの!?

自分に「プロレス用語」は通用しません！

▼99年7月1日　岐阜産業館　大仁田のIWGP挑戦宣言を受けて

社長就任で燃えに燃えるドラゴンは、所信表明で宣言した「ストロングスタイルへの回帰」に向かって爆走し始めた。その第一弾は「ストロングスタイル」とは対極をなす大仁田の排除。それを素早く察知したらしい大仁田は、ドラゴンが社長に就任するとすぐさま嫌がらせのように「IWGPへの挑戦」「プロレスサミットへのインディーの参加」を要請するも、ドラゴンは「俺にプロレス用語は一切通用しない！」と一蹴。ところがこれ以降、蝶野の度重なるシュートまじりの「プロレス用語」での暴言に、ドラゴンはいちいち激怒しているのは皆さんご存知のとおり。誰よりもプロレス用語に翻弄される男なのだ。

（WCW視察、エリック・ビショフとの会談後） あの会社とは仕事ができないな

▼「週刊ゴング」99年8月19日号

ドラゴンの社長就任後、まず第一の大仕事として行なわれた長州、マサら新日幹部、社員総勢10名でのWCWとの提携強化を目的としたアメリカ視察。ここで長州、マサは「会場のパワーは凄いな」「仕事ができそうな選手が多い。呼べるよ」と確かな手応えを感じる中、ドラゴンはなぜか一人ダークドラゴンに変貌。試合を観れば「まあ、あんなもんだね」と「アイ・ネバー・ギブアップ精神」のカケラも感じられない早すぎる撤退宣言をする始末。

（WCW視察から帰国後）
テレビとの綿密なミーティングが必要なんだと思いましたよ

▼『週刊ゴング』99年8月26日号
アメリカ視察旅行でWCWの『マンデー・ナイトロ』を観戦し、そのテレビ主導とも言うべき大がかりなシステムにカルチャーショックを受けたドラゴン。「一番感じたことは日本のプロレスがアメリカと比べて立ち遅れているということ」と、あまりにも正直に感想を述べると、アメリカに追いつけ追い越せとばかりに「テレビとの綿密なミーティングが必要」と力説した。ということは、まさか「橋本真也34歳、小川に負けたら即引退スペシャル」は「テレビとの綿密なミーティング」の結果ということか……。テレビ主導の被害者・破壊王。その火種は意外なところにあった。

（10・9橋本vs小川を電撃発表したあと）
橋本にはまだ話してません！

▼99年9月9日　橋本vs小川戦決定緊急記者会見にて
マット界の秩序を根底から崩した〝1・4事変〟の再戦という、デリケートきわまりないカードを破壊王本人に知らせずにフライング気味に緊急発表するという、〝闘う社長〟らしい積極的すぎる行動。ドラゴンは「選手のことをすべて思ったうえでの決定」と胸を張るが、破壊王にとってみたらこの決定は、〝1・4〟ばりの「不意打ち」以外の何物でもないだろう。この決定を『東スポ』の記者に知らされたあと、恐ろしく不機嫌になったという破壊王に心から同情する次第である。

（破壊王が小川を襲った〝ロス襲撃事件〟後）
橋本に処分は下さない。俺だって襲ったと思うよ

▼『週刊ゴング』99年10月21日号
この当時、ロスにいた小川を破壊王が襲うというアングルが行なわれたが、これを受けてドラゴンは「俺だって襲ったと思う」と、なんとテロを全面肯定！　かつて藤原が長州を襲った〝雪の札幌事件〟により長州戦をブチ壊され、「こんな会社辞めてやる！」と激怒した人間と同一人物とは到底思えない発言だ。しかも、この半年後、村上一成による〝破壊王テロ事件〟が起きると今度は「許さん！」と大激怒するのだから、つくづくドラゴンはわからない。

ここまできたら、二人の試合を裁けるのは俺しかいない

▼99年10月1日付　『東京スポーツ』
破壊王がロスで小川を襲撃するなど、一触即発の事態となっていた橋本vs小川戦。そのレフェリングになぜか中立とは到底思えない、新日本社長のドラゴンが名乗り。しかも「俺しかしない」といいながら、当日はご存知のとおり、赤の新日Tシャツに黒のロングスパッツというビッグマッチのレフェリーとはとても思えない格好で登場。しかも破壊王がSTOでボロボロにされても、ただボー然とするばかりのレフェリングで、結局レフェリーでもなんでもないアントンが試合を止める始末。

猪木さんも裁きたかったようだが、今回だけは譲るわけにいかない！

▼99年10月2日付　『東京スポーツ』
ついに正式決定したドラゴン・レフェリー。ここまで頑なに「レフェリーは譲れん！」と言いながら、結局当日はレフェリーでもなんでもないアントンが試合を止めて、破壊王はTKO負け。これに対しドラゴンは「確かに危険な状況だったかもしれないけど……橋本を最後まで俺が見すぎたのか……でも、あれは猪木さんが出るまでもなく俺が止めなきゃならなかったんだけど……自分と猪木さんの判断のタイミングは、本当にギリギリのところでほぼ同じだったと思いますよ」と、苦しい言い訳。

当日のレフェリーはぜひ猪木さんに任せたい

▼99年10月3日付　『東京スポーツ』
「今回だけは譲れない！」とあれほどまでに強固に言い放ったその翌日に、なんと正反対のコメント。もはやドラゴンのコンニャクぶりは誰にも止められない。ちなみに、この突然の要請に対しアントンは「俺のレフェリーは誰もが思いつきそうでおもしろくない！　レフェリーなんかじゃなく、もっととんでもないことをしにドームに行くよ。ンムフフフ」とコメント。そして予告どおり、タキシードで突如乱入し、レフェリーを完全無視しての独断裁定下すという、「とんでもないこと」を敢行。ドラゴンをとことんコケにしたアントンが、やはり一枚も二枚も上手だった。

今回の一件でひさびさに猪木さんの燃える部分を見せてもらった

▼99年10月7日　新日本事務所
破壊王vs小川はルール問題、レフェリー問題、NWAのベルトを賭けるか否かなど、ドラゴンとアントンはことごとく対立したが、結局ドラゴンが全面譲歩することで決着。新日本のトップとしてUFO側のアントンに交渉段階で完敗を喫したにもかかわらず、ドラゴンは「猪木さんの燃える部分を見せてもらった」と、感心することしきり。どこまでのんきなんだ、ドラゴン！

橋本vs小川戦というものを、ある部分では強引に本人の了承を得ずにね、発表したっていう一つのもの凄い責任を感じてるんですよ

▼99年10月14日　藤波辰彌、橋本真也記者会見
破壊王に内緒でカード発表、アントンと交渉したルール問題では全面譲歩、レフェリーをすればボロボロになっても試合を止めないなど、「責任を感じてる」も何もあきらかに責任重大なドラゴン。そのドラゴンに破壊王は「社長、すいません！」と涙を浮かべながら謝るのだから、じつに忍びない。これにはドラゴンも「橋本が再起して、いい結果を残すまで、自分も同じようなモノを背負わなきゃならない」と断言。ドラゴンのストーカー寸前とも言うべき破壊王への異常なこだわりは、このときのうしろめたさからすべては始まっていたのである。

この雰囲気、言葉の勢いを待っていたんだ

▼99年10月24日付　『東京スポーツ』
当初、小川戦敗北後、アントンへの弟子入りを志願する破壊王に「身勝手は許さん！」と断固反対の姿勢をとっていたドラゴンだが、破壊王と直接会談すると、すっかり熱意にほだされ例によってあっさり前言撤回。「話せばわかる社長」ぶりを見せつけた、というかまたもや言いくるめられたか……。

おそらく山ごもりだろう

▼99年12月9日付　『東京スポーツ』
1・4ドームでの小川＆村上vs橋本＆飯塚戦に向けてトレーニングを積む破壊王が、「関西に行ってきます」とドラゴンに告げて出ていったことに対しての発言。まじめな顔して「おそらく山ごもりだろう」。その発言に根拠はない。

（満面の笑みで）
今年は辰年、ドラゴンの年です！

▼00年1・4ドーム放送分『ワールドプロレスリング』オープニングでの新年の挨拶
リング上はともかく、確かに『東スポ』紙上では「ドラゴンの年」にふさわしい活躍ぶり。

（「2000年の目標は国立競技場進出！」とブチ挙げたあと）
猪木さんも長州もできなかった。俺はやってみせるよ！

▼00年2月9日付　『東京スポーツ』
リターン・トゥ・猪木イズムを打ち出したドラゴン社長が今度は「誰もできないこと、誰もやらないことに夢として挑戦する」という、アントンのロマン伝承を（「後継者として考えたことがない！」と言われながらも）打ち出した！　それが国立競技場進出である。夢の屋外会場10万人興行、まさに平壌19万人興行を思わせる金銭的にもハイリスクなプランである。もちろん天候面や大型ビジョン、ひな壇など問題は山積みだがドラゴンは「雨を気にしてたらダメ！」と、ここでも裏打ちのない自信をみせつけた。しかし、サミット開催、部屋別制度導入と同様にドラゴンプランはいつ何時でも具現化する気配はない。

橋本と小川のタッグなんて認めないですよ！

▼00年2月22日　両国国技館
あくまで破壊王の小川への雪辱をサポートしようとするドラゴン。この日は、リング上から4・7ドームのゴールデンタイム放送が発表され、俄然ヤル気マンマンのドラゴンは「これにふさわしいカードを提供します！」と宣言。あとは橋本vs小川戦の正式発表を待つばかり……となったところで、割って入る男がいた。「元気ですか――ッ!!」もちろんアントンである。アントンは破壊王にも、そしてドラゴンにも相談することなく「競い合う人間が、あるときは手を結ぶのもいいんじゃないかと、ンムフフフ。小川と橋本のタッグを実現させようと思いますが、いかがですか――ッ!!」と伝説の「どーですかッ！　お客さん」ばりにアピール。アントンのこの強引な既成事実作りに記者団に囲まれたドラゴンは、「小川、橋本組なんて認めないですよ！」と厳しい表情で断言したが、もちろんドラゴンの意思で覆るハズもなく、小川、橋本組vs天龍、ビッグバン・ジョーンズ組という不思議議カードは正式決定したのであった。

（『メモリアル力道山』での小川、橋本組のタッグ結成が決定して）
小川、橋本組は2000年最強コンビになるんじゃないかな

▼00年3月3日付　『東京スポーツ』
あれだけを強固に反対していた「小川、橋本組」プランを、突然『2000年最強コンビ』になるんじゃないかな」と、肯定発言をした。その言いぐさがまた素晴らしいので引用してみよう。「いまの二人を見ていると、昔のボクと長州とダブるんだよね。お互いどこかで認め合ってる部分がある。今度組むことによってお互いのいいところが見えてくるハズ。そうなったら2000年最強コンビになるんじゃないかな」。「史上最強」や「20世紀最強」などといった大きなくくりではなく、「2000年」というわずか1年間の最強という、凄いんだか凄くないんだかわからないところがじつにドラゴン節らしい。ちなみに、いがみ合っていた頃の長州とドラゴンが「最強コンビ」と呼ばれたことは、ない。

こんなタッグね、無責任に組むからこんなこなっちゃうんですよ!!

▼00年3月11日　横浜アリーナ『メモリアル力道山』試合終了後
会場入りする破壊王にテロを敢行する村上！　素早く介抱するキャット！　襲われてから数時間経っても傷がふさがらず、血だるまで入場する破壊王！「おがわぁ〜、試合前に村上になぜ俺を襲わせたぁ〜！」という状況説明風マイク！　文字どおりロボットのような動きのBB・ジョーンズ！　そのジョーンズにアッサリとフォール負けする破壊王！「4月7日ぁ、引退を賭けておまえとやるぞぉ〜！　それでどおだぁ、おがわぁ〜！」というアピール！「ハンチクな試合すんなって！」とひさしぶりに怒るアントン！　などなど、歴史的名場面、名ゼリフが続出したオーちゃんと破壊王の初タッグ。そんな中、当初は反対しながらも「2000年最強タッグになるんじゃないかな」と、言っていたはずのドラゴンは、自分ののんき発言は棚に上げて「言わんこっちゃない！」とばかりに猪木批判！　こんなところが「コンニャク」と言われてしまうゆえんか。

わかった……

▼00年3月14日　新日本プロレス事務所
破壊王が引退を賭けて小川戦に挑むことを断固として認めなかったドラゴンだが、破壊王に「社長だって進退を賭けて闘ったことがあるじゃないですか！」と突っ込まれると、言い返す言葉がなく、しぶしぶと「負ければ引退」を了承。また言いくるめられた……。

（「WCWが武藤を引き抜く」という噂に対して）

それならウチはゴールドバーグクラスを2人引き抜く！

▼00年3月16日付　『東京スポーツ』
ブッチャーを引き抜かれた後、ハンセンとシンを引き抜いた故G・馬場さんのごとく、ダークドラゴンがWCW恐怖の報復予告！　しかし、武藤がWCW入りして半年が経つというときも、ゴールドバーグクラスの選手が登場するどころか、相変わらず外人はノートンとジョンストンばかり……。

俺が橋本の練習相手を務めてもいい

▼00年3月17日付　『東京スポーツ』
破壊王のリベンジを全面バックアップするドラゴンが自ら、遂にが打倒・小川の秘策を授けるべくトレーニングパートナーに名乗りを挙げた！「一度、経験豊富な人間の胸を借りるのもいい。ウチにはアマレスの長州、柔道の坂口会長もいる。俺だって彼が言ってきたら出ていくよ！」。長州、ビッグ・サカの名前を出しながらも、心の中では自分に教えを乞いに来てほしいと感じているに決まっているドラゴンだった。

武藤のWCW入りは絶対に認めん！

▼00年3月26日付　『東京スポーツ』
新日本とWCWの二重契約を結んだ武藤に、ドラゴンの怒りが爆発した！「こんな前例ができたら選手を次々と取られてしまう。武藤のWCW入りは断固として認めん！」と武藤と40分間の会談を終えたドラゴンは、WCW入りを厳しく突っぱねた。これに対して武藤は「この問題は、弁護士同士の話し合いになる。藤波さんからは、いつものように玉虫色で優柔不断な言葉をいただいたけど、同じレスラーとして快く送り出してくれた」と、ドラゴンの怒りなどどこ吹く風。「玉虫色で優柔不断」な説得にまったく応じることなく、WCW入りをはたしたのだった。ドラゴン、またしても説得に失敗……。

（アントンの「橋本は死ね！」の檄に対して言）

橋本もどうせ死ぬなら、小川と猪木さんを道連れに死んでほしい

▼00年3月31日付　『東京スポーツ』でのインタビュー
ドラゴンまたもや失言！　なんと「ヤル前に負けること考える馬鹿」どころか、ヤル前に死ぬことを考えてしまうとは……。しかも「どうせ死ぬなら、小川と猪木さんを道連れにしろ」と、破壊王に無理心中を要求するという悪魔のような助言。

（急逝した）小渕総理の報道を見て、会社を任される社長がいつまでも危険と隣り合わせのリングにいるわけにいかないなと感じた

▼00年4月5日付　『東京スポーツ』
一国の首相と自らの立場をなぜか重ね合わせた、ドラゴンの摩訶不思議な引退理由（後にアッサリ撤回）。こんなことを言っていながら、しばらくすると「生涯現役」をブチあげ、死ぬまで「危険と隣り合わせのリング」にいようとするのだからじつに不可解。じつにドラゴン！

再起するなら、俺が相手になってもいい

▼00年4月9日付　『日刊スポーツ』
破壊王敗戦から一夜明けて、ドラゴンはあらためて破壊王の引退撤回を求めた。「あのファイトなら、ファンが引退を許さないだろう。再起するなら俺が相手になってもいい」傷心の破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、いざホントに復帰するとなって破壊王が対戦相手にドラゴンを指名すると、ドラゴンは突如豹変！「この期におよんで甘えるな！　そんな答えは期待してない！」と、罵倒し始める始末。もう破壊王もやってられないだろう。

橋本よIWGP王座に挑戦しろ

▼00年4月12日付　『東京スポーツ』
破壊王復帰プロジェクト第一弾として、ドラゴンは橋本に「橋本の目は少しもIWGPに向いていないハズ。王座挑戦も嫌がるだろう。しかし、だからこそ復帰に向けて強いショックを与えられる。再び王者になって小川を追うのも一つの道」と〝ショック療法〟を提案した。それにしても、挑戦したくもない選手に無理矢理挑戦権を与えるドラゴン。対戦相手が、自分の名前を呼ばないというだけの理由で「なんで俺が煮えきらない奴とやらなきゃならないんだ！」と激怒する王者・健介が聞いたら怒り狂いかねない。おまけに「王者になってから小川を追ってもいい」という、IWGPは小川への通過点とも取られかねない不用意な発言の追い打ちつき。IWGPの価値って一体なんなんだろうと実に考えさせられる発言である。

小川に勝ったらこのあいだの引退発表を撤回させてもらう

▼00年4月12日付　『東京スポーツ』
この一週間前に「小渕総理死去の報道を見て、会社を任される社長が、いつまでも危険と隣り合わせのリングにいるワケにいかないと感じた」という、摩訶不思議な理由で引退カウントダウンを発表したドラゴン。あきらかに歯切れが悪く現役に未練たっぷりなドラゴンの口振りから、目玉不在の福岡ドーム大会のテコ入れのために渋々承諾したんだろうことは容易に想像できるわけだが、なんと引退発表からわずか一週間で「小川に勝ったら」という条件つきながら引退撤回を表明。「エイプリルフール」を理由に一カ月で撤回した冬木の記録を大きく上回る、大物レスラーの有言不実行新記録達成である。

（蝶野のドラゴンに対する暴言を『東スポ』で一通り読んだあと）

蝶野はクビだ……!!

▼00年4月20日付　『東京スポーツ』
ドラゴンが社長就任以来、「無能社長」「プロレス界追放だ」など「本気で言ってるんじゃないの？」と心配になるほど、ギリギリのラインでドラゴンを罵倒し続ける蝶野。「俺にプロレス用語は通用しない」と公言するドラゴンは、ここまでなんとか怒りを抑えてきたが、とうとう堤防決壊。ドラゴンの暗黒の部分、ダークドラゴンをついに解禁し「蝶野はクビだ！」と言い放った。こうなると、もう歯止めは利かない。「社長権限を利用して潰してやる！」と脅し。

福岡ドームへの出頭を拒否したらそれまで。引退してもらってかまわない！

▼00年4月26日付　『東京スポーツ』
「試合の有無にかかわらず、橋本を福岡ドームに出頭させる。もし、拒否するならそれまでだ！」遂にドラゴンが破壊王に最後通告を突きつけた。まぁ、これ以降何度も最後通告を突きつけることになるのだが……。

橋本がグズグズしてるなら、俺がポジションを奪って格闘技路線の先頭に立ってやる！

▼00年5月5日　福岡ドーム　引退カウントダウン第1戦 vs蝶野戦試合後
引退カウントダウン第1戦で、蝶野にわずか6分で完敗を喫したあととはとても思えない強気な発言。このあと、「とにかく俺はこのままな終わらない」と続くのだが、その真意が、1試合のみで、カウントダウンをあっさり撤回することとは驚きだ。それにしても格闘技路線の先頭に立つドラゴン……見たい！

一匹狼になれ、俺が加勢してもいい

▼00年5月9日付　『デイリースポーツ』
新日で孤立しつつあった破壊王を思いやるドラゴンの親心。しかし、思いやりすぎて加勢したら一匹狼にならないよ！

もうこれが限界。解雇処分も辞さない！

▼00年5月14日付　『東京スポーツ』
小川に敗戦後1カ月が経ち、いまだ結論がでない引退問題に、いよいよ風当たりが強くなる破壊王とそれを擁護するドラゴン。しかし、そのドラゴンも再三の呼びかけにも応えない破壊王に「15日の最終会談で結論が出なければ解雇だ」と二度目の最後通告を突きつけた。しかし、ご存知のとおり結論が出たのはその4カ月後。ドラゴンの「最後」ほど、あてにならないものはないのか……。

同世代の選手がこんな活字で出るのは見たくない

▼00年5月16日付　『東京スポーツ』
永遠のライバル（とドラゴンが思っている）ジャンボ鶴田さんの突然の訃報に無念たっぷりにコメント。しかし「こんな活字で見たくなかった」とは、「プロレス界の動きを『東スポ』で知る社長」と言われるドラゴン、まさかジャンボの死まで『東スポ』を読んで知ったんじゃ……。

（辞表は）絶対に受理しません！　こんな簡単な文面で済まされるワケがない！

▼00年5月20日付　『東京スポーツ』
敗戦から一カ月半、引退か撤回か注目された破壊王の進退は「辞表」というかたちで、破壊王が引退を表明する結果となった。これに対し、これまで「引退してもらってかまわない！」「解雇も辞さない！」などとさんざん息巻いていたドラゴンだが、いざ辞表を手に取ると、こともあろうに破り捨て「こんな文面だけで済まされるワケがない！」と一喝。蝶野が言うとおり「辞表まで出した奴を引き留める権利はないはず」なのだが、契約書を「紙切れ」と言い放つマサ・サイトーばりのアナーキーさを発揮するのもダークドラゴンなのだろう。

個人的な闘いを会社組織として認めるわけにいかない

▼00年5月24日付　日刊スポーツ
この前日に発表された7・30横アリの長州vs大仁田戦。言うまでもなく社長のドラゴンの意向は完全無視して決行されたわけだが、ドラゴンは正式発表後も「個人的な闘いだ」を理由にしつこく断固反対。しかし、破壊王の小川へのリベンジも個人的な闘いだと思うのだが……。

社長語録

船木の命のやりとりを見て、何かを感じないワケがない。メラメラと燃えなければおかしい

▼00年5月26日　『コロシアム2000』全試合終了後

5・5福岡ドームに続く、ドラゴンの「試合を見れば燃えてこないワケがない作戦」第二弾。船木vsヒクソンを間近で見させることで、破壊王の闘争本能に火をつけるハズが……。結果は復帰するのか引退するのか煮えきらない破壊王の目の前で、船木がヒクソンに負けてキッパリ引退してしまうというあきらかな逆効果。ドラゴンの作戦はまたしても裏目に出たのであった。

橋本に小川ともう一度再戦させた張本人は俺。それがクリアするまで俺のカウントダウンは一時白紙

▼00年6月2日　日本武道館

「橋本の引退問題が解決してないから」と「俺のカウントダウンは一時白紙」になんの関係があるのか意味不明の発言。本当に問題を解決したいなら、社長に専念したほうがいいのでは、と普通は考えるはずだが……。これはドラゴンが破壊王問題のどさくさに紛れて引退を撤回しただけなのか、はたまた「俺を見てみろ！　おまえよりよっぽど簡単に引退撤回したぞ！」という、破壊王を安心させるためのアピールなのか？

決定権は俺にある！　カシンの『PRIDE』参戦はない！

▼00年6月7日付　『東京スポーツ』

石澤とヘンゾの『PRIDE・9』での握手の翌日、ドラゴンはあらためてカシンの『PRIDE』出場なしを明言。しかし、いつものように社長であるドラゴンの意向は完全無視され、石澤は『PRIDE・10』に出場。ドラゴンに決定権はこれっぽっちもないことは明白となった。

エーッ、本当なの？

▼00年6月14日付　『東京スポーツ』

全日本の三沢社長(当時)退団を報じる『東スポ』の一面を見て、ビックリ仰天のドラゴンは「エーッ、本当なの？」と言ったきりしばし絶句。「プロレス界の動きを『東スポ』で知る社長」をここでも実証。

ボクに任せてほしい。必ず橋本をリングに戻してみせる

▼00年6月16日付　『東京スポーツ』

6月11日に破壊王を自宅に招いて会食した(もちろん、"キッチンナビゲーター"伽織夫人のご自慢の手料理と思われる)というドラゴンが、破壊王復帰に自信のコメント。破壊王の進退を心配するファンに「ボクに任せろ」と大見得を切ったが、結局ドラゴンの作戦はことごとく功を奏さず、小学生の千羽鶴で復帰という結末に……。まあ、結果オーライか。

(川田の「新日本との交流を前向きに考えたい」という発言に対して)

眠っている橋本が迎え撃つ

▼00年6月19日　新日本プロレス事務所にて

この二日前に『ノア』の旗揚げが発表された際、「(全日本分裂の問題関して)くれぐれも軽はずみな言動はしてくれるな」と新日本の全選手、全社員に通告したというドラゴン。しかし、この日は復帰すら決定していない破壊王を全日本迎撃の先兵に指名するなど、舌の根も乾かぬうちに自らが率先して軽はずみな発言。

橋本のことで悩んでいる時間があったら、自分の練習時間に充てたい

▼00年7月8日付　『東京スポーツ』

破壊王の引退問題解決のために「引退カウントダウン」を凍結させたはずなのに、練習のために破壊王引退問題を放り出そうとするドラゴン。やはり「橋本問題解決のため」というのは、自分の引退カウントダウンをうやむやにするための口実でしかなかったのか……？

G1出場権を橋本に譲ってもいい

▼00年8月2日付　『東京スポーツ』

セミリタイヤ状態で、しかも46歳という年齢のドラゴンが出場するということで、注目されていたこのG1。ドラゴン本人も「橋本のことで悩んでいる時間があったら、自分の練習時間に充てたい」と語ったように「橋本よりもG1だ！」とばかりに燃えに燃えていたはずだが、突然「橋本が出たいというなら、俺はG1出場権を譲る」と、「やっぱりG1より橋本だ」宣言。G1一つとっても際だってしまうドラゴンのコンニャクぶり。本物だ。

引退前に小川と闘ってみたい。再起する橋本の力も感じてみたいし、長州の鋼の肉体だって、対大仁田戦のためだけに作り上げたワケじゃないハズ

▼00年8月3日付　『東京スポーツ』

全日本との交流が決まってもいないうちから、「橋本が迎え撃つ」と勝手に発言するなど、毎度毎度、無防備な先走り発言をしがちなドラゴンが、またもや仰天プランをアピールした。「元の鞘に納まる」という長州の発言を無視し、「長州の肉体は大仁田用のモノじゃない。出撃準備OKのサインと受け取った」と勝手な解釈をし、「小川と引退する前に闘いたいし、橋本の闘志も確かめたい」と自らの欲望をなんの根回しもなく、あいかわらず不用意にマスコミに喋るドラゴン。鶴田戦不発の教訓がまるで活かされてない……。これに対しアントンは「何度も言うがピントがズレてるのかな」と一蹴。

(破壊王が復帰戦の相手にドラゴンを希望したことについて)

この期におよんで甘えるんじゃない!!

▼00年9月10日付　『東京スポーツ』

これまで「再起するなら、俺が相手してもいい」「闘って橋本の闘志を確かめたい」と、常に破壊王との対戦に前向きだったドラゴン。ところが、いざ本当に破壊王が対戦相手に指名すると「俺の望んでいたことは、そんな答えじゃない！」「俺がやるのは最後でいい！」と、例によって正反対の仰天発言。

他の選手が過酷な巡業を続けてきた中で、いきなりいいポジションとはいかない。第1試合で受けてやるということを橋本に伝えました

▼00年9月12日　後楽園ホール

4・7以来、半年ぶりの復帰となる破壊王。これまで常に破壊王の復帰をバックアップしてきたドラゴンのこと、破壊王をあたたかく迎え入れるかと思いきや、「いきなりいいポジションとはいかない。第1試合で受けてやる！」と半年間のペナルティともいうべき「一から出直し」を要求した。この「半年間休んだおまえには、第1試合からやり直さねば居場所はない！」というドラゴンの主張はもっともである。しかし、確かドラゴンが腰の負傷で1年半ものあいだ欠場したあとの復帰戦(エキシビション除く)は、グリーンドーム前橋という2万人収容の大会場のメインだったような……。

こうなったら決まりきった技は通用しない。一発勝負でしかできない、ドラゴンスープレックスを含めた禁じ手を狙っていく！

▼00年9月16日付　『東京スポーツ』

何が「こうなったら」なのかはサッパリわからないが、ドラゴンの根拠なき危機意識がまたもや爆発！　あの、(自分の腰が)あまりに危険すぎるため15年ものあいだ封印されていたドラゴン究極兵器、ドラゴンスープレックスを含んだ禁じ手をついに解禁しようというのだ。しかし、実際にはドラゴンスープレックスどころか、"ドラゴンフルネルソン"すらも見られずじまい。またもや有言不実行か？　と思いきや、その発言をよく読んでみると「ドラゴンスープレックスを『含めた』禁じ手を出すと言っているだけで、ドラゴンは一言も「ドラゴンスープレックスを出す」とは言っていないのだ。そう、あの無駄に連発していた「グーパンチ」こそ、ドラゴンにとっての「禁じ手解禁」だったのであろう、たぶん。

(『東スポ』の「破壊王、炎のヤリ特訓」の記事を見て)

俺が見たいのはこんなもんじゃない！　このままなら俺と橋本の試合はドームから外したっていい

▼00年9月23日付　『東京スポーツ』

でも、僕らが見たいのは、こんな破壊王とこんなドラゴンだったりする。

(川田vs健介の勝敗予想を聞かれて)

いまの勢いからして健介に負ける要素はない！

▼00年10月8日付　『東京スポーツ』

新日と全日のトップ同士(？)が激突するという、誰もが待ち望んだ(？)世紀の一戦(？)健介vs川田。思わず？マークをいちいちつけてしまうほど注目のこの一戦を、ドラゴンは「いまの勢いからして、健介に負ける要素はない！」と、対戦相手の川田の分析をまったくせず、またもや不用意に予言。さらに「フライやジョンストンともやってるから打撃のディフェンスも頭に入っていると思う」と、例によっての希望的観測を恥ずかしげもなく豪語。しかし結果はご存知のとおり打撃技で健介完敗。

(10・9の前夜祭で翌日の意気込みを聞かれて)

全然予期せぬ指名だったんで、いまあわててコンディションを作ってます！

▼00年10月8日　10・9ドーム前夜祭

1カ月前に破壊王から対戦要求を受けたにもかかわらず、試合前日になっていま頃コンディションの調整に入るドラゴン。どう考えても遅すぎるだろ。カシンも「(トレーニングは)試合前日からやります」と表向きはドラゴンと同じようなこと言っていたが、裏ではパンクラスに出稽古に行ったり陰でしっかり準備はしてきたことはご存知のとおり。しかしドラゴンの場合は本当に調整を始めたばかりの可能性が大。

小川を倒さないかぎりは本当のスタートと言えない

▼00年10月9日　vs橋本戦試合後のコメント

ドラゴンの社長就任以来、この日を迎えるまで主に『東スポ』紙上を中心に大河ドラマを続けてきたドラゴン―破壊王ストーリー。数々の迷場面を生み出した二人の物語も、コブシで殴り合ってわかり合うという、青春ドラマのような闘い、そして破壊王の「今日からすべてが始まります」というコメントでひとつの決着を見たかのように思われた。しかし！　我らがドラゴンのコメントはこうだ。「小川を倒さないかぎり本当のスタートといえない」。なんと丸1年も続いたこのストーリーも、ドラゴンにとってはまだ始まってもいなかったのだ。

第52回

140字以上のつぶやき

豆リングの汁

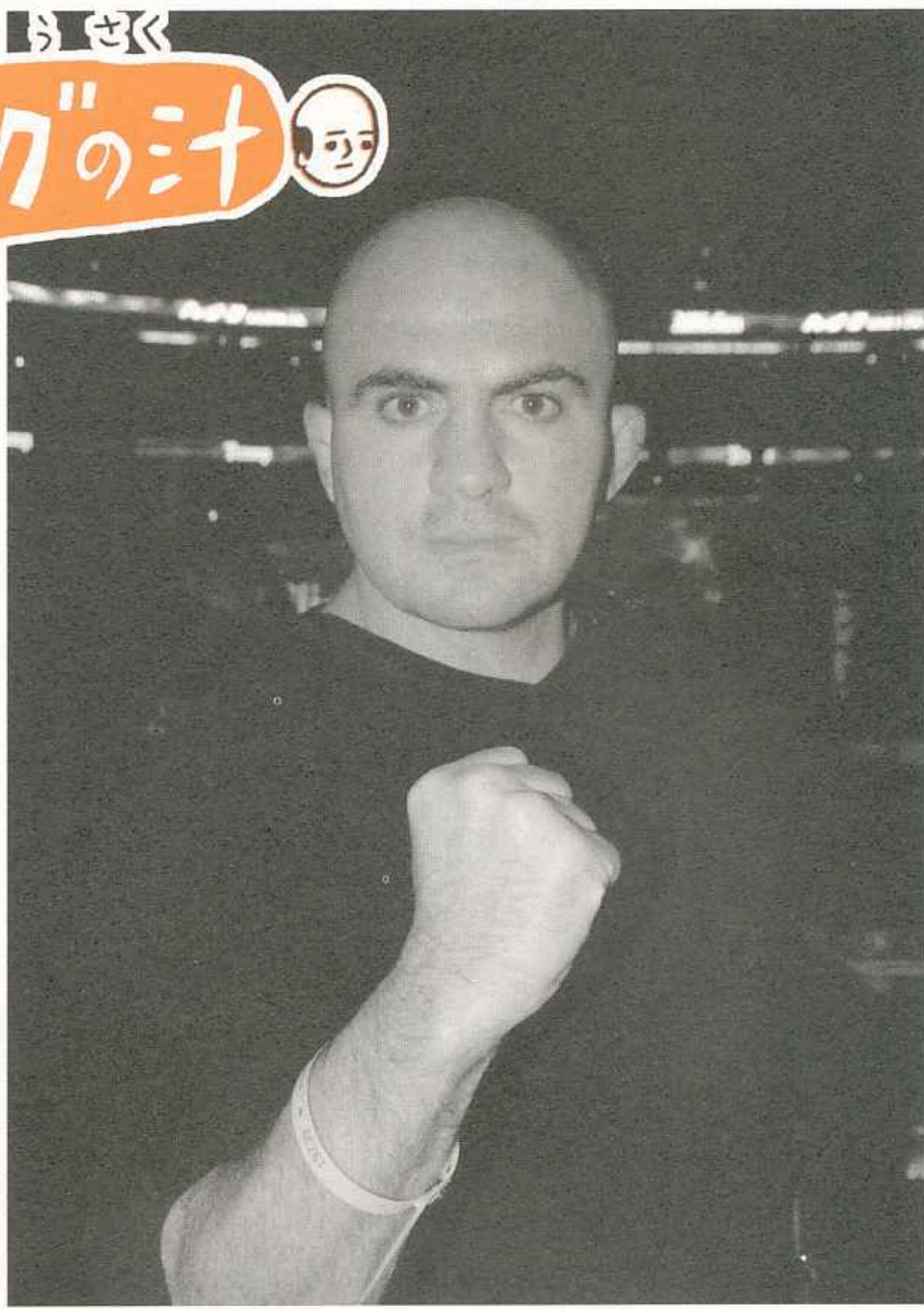
花くまゆうさく

『kamipro』、今月はツイッター特集か。イズマイウの語録が定期的に入ってくるイズマイウbotがあったらフォローしたいな、ないけど（3月9日現在）。

『格通』の休刊、あらためて考えるとしんみりしちゃう。サンボなど興味あるとこだけ読んでた初期から、じっくり隅々まで読んで毎号購入するようになったのは、格闘技オリンピックの表紙の号からじゃないかな。

メインの佐竹vsモーリスから、平直行の曲がりすぎたアームロック、市原vsP・スミット、西vsレンティング、前田と木村浩一郎のエキシと、あの大会のロマンはよかったね。そんで、UFCとグレイシー登場でイチバン熱があったなぁ。

今月の楽しみは、ビビアーノvsハンセン、菊野vs弘中、上田将勝vs勝村周一郎、そして五味vsケンフロ！　中蔵戦のような五味が出てきたらおもしろい。テレビはあるのかしら？

秋山がデミアン・マイア戦断ってたという情報も引っかかった。わかりやすすぎ！

Hanakuma Yusaku
◎映画『ハンナ・モンタナ』よかったよ。

金ちゃんのどこまでやるの？

第44回　5本の指に入る福田力の巻

2・28DEEP後楽園大会で、DEEPミドル級チャンピオンの福田力選手と対戦。相手がチャンピオンということもあって気合いが入ってたんだけど、結果は残念ながら判定負けで、勝つことはできませんでした。

それにしても、福田力はタフで強かったな〜。あんなに肉体的にハードだったのは、PRIDEでミルコとフルラウンド闘って以来だよ。まあ、1ラウンドの序盤にいきなりカウンターで、いい右フックもらっちゃって、こっちも前方回転ヒザ十字固めを極めにいったんだけど逃げられて、あそこでほとんど力を使いはたしちゃったのがいけなかったな。

福田力は体力があったし、圧力が凄かったし、試合中に心が折れそうになったのも、ミルコと闘って以来だったよ。ミルコと闘ったときもドクターチェックが入ったとき「ここで止められたら、楽になるのにな」とか思ったけど、今回も同じこと思ったからね（笑）。

俺もこれまでいろんな強い選手と闘ってきたけど、ひさしぶりに「こいつは強いな」って思ったよ。俺が闘った日本人では、一番強かったんじゃないかな。

外国人選手だったら、俺が一番「強いな」って思ったのはマリオ・スペーヒーだったんだけど、福田力もかなりのもんだったよ。俺はミルコやヴァンダレイ・シウバともやったし、アリスター、ショーグン、マット・ヒューズ、それからジェレミー・ホーンとダンヘンを一日で2試合したり、デイブ・メネーとノゲイラと一日に2試合したり、いろいろハードな試合をやってきたけど、その中でも闘って「強いな」って思う度合いでは、5本の指に入るくらいだったね。

だから試合が終わったあと、負けたからもちろん悔しいし、体力も使いはたしてキツかったんだけど「今日の相手は強かったなあ」って、なんだかさわやかな気分になったからね。

そして強いヤツと闘ったことで、「こいつともう一回闘って、やり返したい」っていう気持ちになったよ。もう一回這い上がって、福田力と闘うぞっていうモチベーションが出てきたね。

いま俺は39歳になったけど、今回も若くて伸び盛りの選手相手に、最後まで闘い抜けたからね。疲れきってはいたけど、クリーンヒットすれば相手を倒せるだけの打撃の威力も最後まであったと思うし。だから最終3ラウンドは、一発逆転のパンチかハイキックしかないと思って、バックブローなんかも出して逆転を狙ったんだけど、奇跡は起こらなかったな〜（苦笑）。

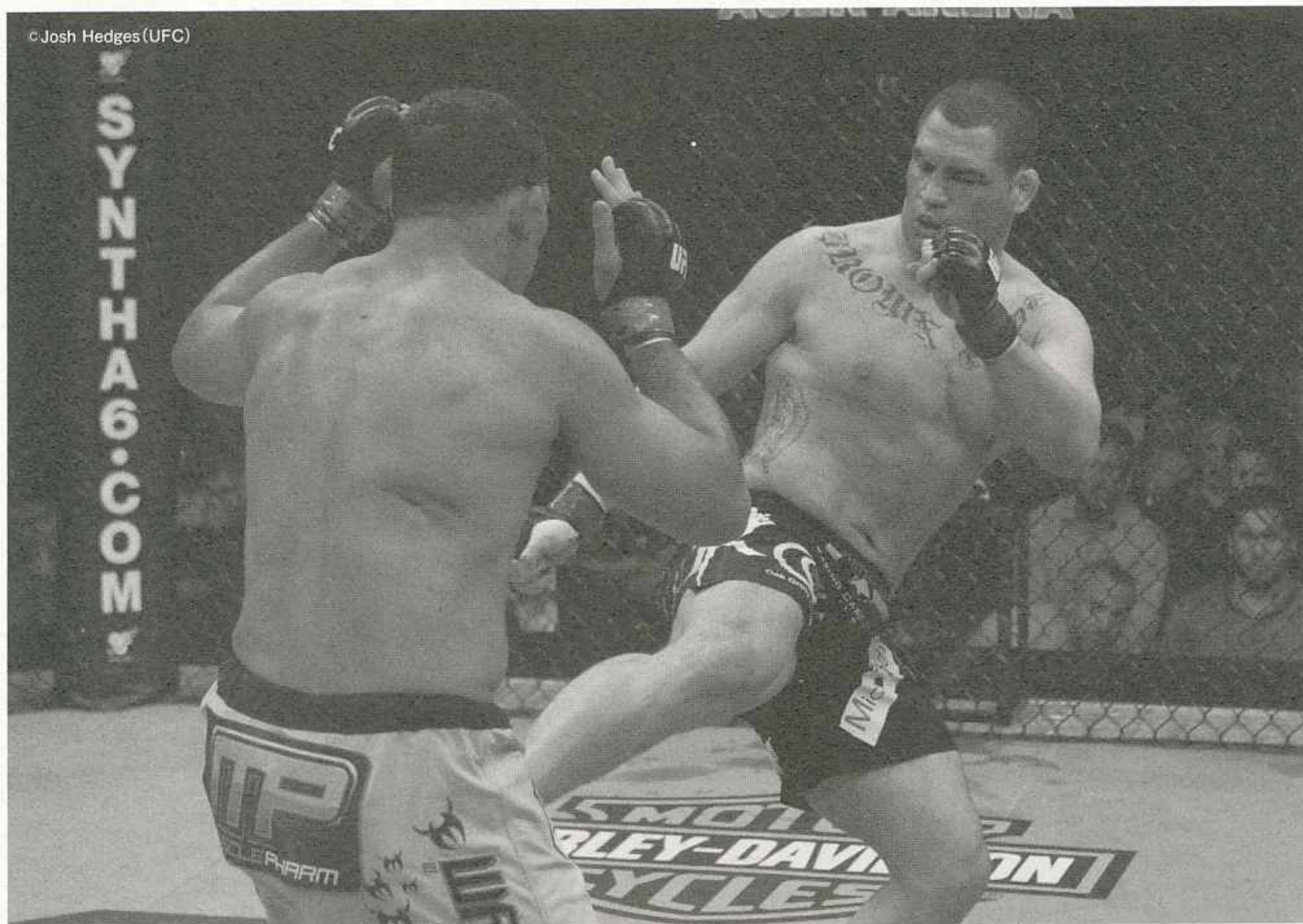
所英男なんてさ、小さいノゲイラとやったとき、バックブロー一発で奇跡を起こしたわけじゃん。俺にも一度くらいそういう奇跡が起きてほしいんだけど、スターになる人とならない人の差って、そういう奇跡が起こるかどうかなんだろうな〜（苦笑）。

まあ、今回は負けたけど、40歳前後の人たちには、みんな「よかった」って言ってもらえたし、身体も元気だから、ホントは4月のDEEPに出たいくらいなんだよね。強いヤツと闘って、39歳にしてますます試合したい気持ちが出てきたからさ。

これから福田力のような若くて強いヤツとどんどん闘っていきたいね。俺も去年は「田村さんと闘いたい」とか言ってたけど、やっぱりオッサン同士でやってる場合じゃないよ。現役でいるかぎりは、できるだけ強いヤツと闘っていきたいし、そいつらになんとかして勝ちたいね。

打倒・福田力を目指して、まだまだ頑張るよ！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

©Josh Hedges（UFC）

UFC初のオーストラリア大会のメインでノゲイラと対戦したヴェラスケス。185cmとヘビー級としてはさほど大きくないヴェラスケスだが、オールアメリカンに二度輝いたレスリング技術とK-1でも通用しそうなスタンド技術でデビュー以来7戦全勝で迎えたノゲイラ戦は、やはり打撃で圧倒。わずか140秒でTKO勝利！

椎名基樹のサムライ三昧

第47回

『金原に感動&ヴェラスケスに感服』

今月は先月とうって変わって、たくさんの格闘技イベントを観戦した（テレビでだけど）ので、印象に残ったことを、順番に箇条書き風に書いていこう。

一番、最初に触れたいのは、なんといっても2・28『DEEP46』で組まれた福田力vs金原弘光の一戦。

U系の選手で、こんなマッチメイクをこなしているのは金原だけだ。凄い。福田はDEEPのミドル級王者であり、これからの日本のMMAを背負っていくことを期待されるホープ。アマチュアレスリングの実績もあり、DREAMではムリーロ・ニンジャを倒していて、誰もが強いと認めている選手。しかも、ニックネームはフィジカル・モンスター。その名のとおり、闘い方はフィジカルを活かしたレスリング&パウンドの相手をぶっ壊すスタイル。最も闘いたくないタイプのファイターだろう。

その福田を相手に、1ラウンドから顔を腫らし、出血もしながら、現在のMMAのセオリーどおり、何度も立ち上がってグラウンドから脱出する金原。立ち上がる技術に金原の進化がよくわかる。ここに来て、現在進行形のMMAファイターにまで自分を磨いている金原に感動。

首相撲からボディへの強烈なヒザ蹴り（これが効いた）、パウンド、踏みつけ、サッカーボールキック（なんとこれが認められている恐ろしいルール）などで、終始劣勢なまま、さんざん削られてボロボロになりながらも金原は判定まで持ち込んだ。結果はもちろん「文句なし」の判定負けであったが、その闘いぶりは解説の青木真也の言うとおり「尊敬」に値する。

試合前は「打撃でもしや？」なんて思っていたのだが、福田のスタンドの打撃は荒削りながらも素晴らしかった。失礼であるが彼の見方がまったく変わってしまった。こんなに打撃のセンスがあろうとは。中重量級で世界に通用する選手になるかもしれない。

『DEEP46』のメインはフェザー級の対決、王者・大塚隆史vs山崎剛。大塚の強さには舌を巻く。前回の三島☆ド根性ノ助戦でも、その強さが際だっていた大塚。今後、日本の最激戦区となる階級はライト級ではなく、このフェザー級だと思われ、その頂点に立ちそうな雰囲気がムンムンである。

驚いたのは、この日、女子ライト級王者のMIKUが突然の引退を発表。強さはもちろん、その勝ちっぷりの鮮烈さでは女子の中では出色の存在であった彼女。引退の理由は「目標が見いだせなくなった」ためだという。女子選手はそういう気持ちにもなるかもしれない。しかし、あの強さが失われると思うと、もったいないねえ。誰か、彼女の「強さ」を筆者にインストールしてくれないものか。そしたら、オレ、超楽しいね。

ノゲイラ、シウバ、ミルコと、かつて日本で活躍したスター選手が大挙出場した2・21『UFC110』。初のオーストラリア大会だそうだが、彼らかつてのPRIDEオールスターズへの声援が凄まじかった。オーストラリアでPRIDEは放映されていたのだろうか？

そんな声援もいっぺんにかき消してしまったのが、ケイン・ヴェラスケス。メインのヴェラスケスvsノゲイラは、もちろんノゲイラに思い入れたっぷりで観戦したが、試合後は世代交代の現実を思い知らされ、新しいスターの誕生に喝采を送りたい気持ちにすらなった。ヴェラスケス、すげえ！　それは、かつてノゲイラがコールマン相手にしたように、技術の進歩を見せつけるようだった。

かつて、ヴェラスケスほど打撃のレベルが高いMMAのヘビー級選手は見たことがない。もちろん、ミルコ、ハント、ヒーゾ、古くはモーリス・スミスと元キックボクサーからの転向組はいたが、ヴェラスケスのようにレスリングベースにキックボクサーのような打撃を身につけたヘビー級の選手はいなかった。彼は新たなMMAヘビー級の基準にすらなりそうだ。

グラウンド、スタンド両方で、高レベルで技術を身につけたヘビー級の選手といえば、ノゲイラ、ヒョードル、フランク・ミア、クートゥアー、アルロフスキー等々いるが、ヴェラスケスのスタンドは、その誰よりも鮮烈で、レベルが高く感じる。

だいたい、ヘビー級の選手の打撃はボクシングが主なのだが、ヴェラスケスはパンチはもちろん、蹴りもいい。実際、ノゲイラ戦では、重くて速いローキックがバシバシ決まって、ボクシングタイプのノゲイラはカットすることもできず、先手を奪われてしまい、その時点で勝負が決まってしまった印象だ。

ノゲイラの最も勝利に近い〝戦術の軸〟はグラウンドに持ち込むことで、〝下〟を選択してでも、そうするべきだったと思うが、実際はスタンドで様子を見ているうちに、その間もなくパンチでKOされてしまった感じだ。もちろん、下を選択したとしても、じつに幽かな勝利の光明であっただろう。

こうなると、ヴェラスケスとレスナー、ヒョードルとの対戦が見たくなるのは心情。その前に3月の『UFC111』で行なわれるミアvsシェーン・カーウィンの勝者と闘うことになるだろうが、これもまた楽しみだ。

最後に、一回だけWOWOWで放送された『TUFシーズン10』。ヘビー級の争いはやっぱりおもしろい。その中でも、やはりキンボ・スライスの個性はダントツ。完全に狂気の目だ。今後が楽しみである。

ただ気になったのが、番組の中でダナ・ホワイトが「The Who」のTシャツを着ていたことだ。なんのメッセージだろう？

144号へのお便り紹介

桜庭×TKの対談がおもしろかった。TKは体調が凄くよさそうなので、解説ばかりしてないで、早く復帰してほしいと思います。もしかしたら桜庭vsTKとかもあるんじゃないですか？
【大阪府・青山クルマさん・会社員・35歳】

Dおっと、それはDREAMあたりがマジで考えてそうだから、あんまり大きい声で言うんじゃないぜ（小声で）。しかし、『kami-pro』はTKにまったく信用されてないみたいだな。『東スポ』と同じレベルだと思われてるだなんて、困ったもんだぜ。……え？ オマエの存在も『東スポ』並みに怪しいだって!?

サダハルンバとクマクマンボの話がおもしろかった。立嶋選手にいじめられているクマクマンボを激写して、誌面に載せてしまうサダハルンバは極悪非道だと思った。そういうところに〝黒魔術〟的要素が表われていると思う。でも、二人とも30代前半にしてよくあの時代に編集長をやってたもんだと、いま思うと凄いと思う。ひとまず『格通』お疲れさまでした。
【東京都・水道橋マニアさん・自営業・42歳】

Dクマクマンボのいじられキャラというのは、サダハルンバ時代の『格通』がスタートだったんだな。最近は『kami-pro』でも女子格ファイターとの対談で大暴れしているみたいだが、クマクマンボにはこれからもどんどん活躍してほしいとオレは思ってるぜ！ クックックック。

所さん×内藤さんの対談の記事がおもしろかった。二人の言うことが凄くおもしろかったし、ひさしぶりに内藤さんが見られてうれしかったから。
【福井県・大平一さん・無職・33歳】

Dダイスケ・ナイトーは、ここ最近ホントに取材をまったく受けてなかったみたいだから、ホントにタイミングがよかったんだろうな。しかし、ヒデオ・トコロのマイクのヒドさはとんでもないぜ。3回言って、3回とも伝わってなかったってことだからな。まったくドンマイだぜ！

「生き方はオヤジが教えてくれる！」特集の廣田瑞人のバイト先のオヤジの話が新鮮でおもしろかった。廣田が好きになりました。
【愛知県・白井真さん・会社員・39歳】

D前号はオレの知らないオヤジたちがたくさん出てたが、廣田のバイト先のオヤジっていったいどんな人選なんだよ。え？ でもおもしろかったって!? そりゃあ、オヤジぐらいの歳になると、一つや二つは含蓄のあるワードが出てくるってもんだよ。リュウホウって中華屋のオヤジだって大反響なんだからな。

語録で振り返る2000年代がおもしろかった。ひさびさの名物企画なのはもちろん、コメントがじつにいい味出してます！
【石川県・浅井清治さん・会社員・37歳】

D確かに、語録を見てるとこんなオレでもいろんなことが思い出されてくるよなあ。この10年間、いろいろあったぜえ……（しみじみと）。上井駅長もまだ元気に「シュポーッ！」ってやってたんだからな。復活してほしいよな、駅長には。

おいおい、我らがシンヤ・エイオキがストライクフォースに行くってのは本当かい？ そりゃ、オレもウカウカしてらんなくなってきたぜ。『バカサバイバー』はきっとアメリカじゃはてなマークだろうから、オレがビシッとした入場曲を作ってやるって話だ！ え？ そんなことない？ ウルフルズに謝れって!? …… ウルフルズさん、すみませんでした。

144号 おもしろかった記事 RANKING

NO.1 ありがとう!『格闘技通信』特集
NO.2 吉田秀彦
NO.3 マーク・コールマン
NO.4 内藤大助×所英男
NO.5 『龍朋』のオヤジ

『kamipro』読者といえども、『格通』休刊は相当こたえてるみたいだなあ。え？ それよりも、ゴ●格の“実態”を読めたのがおもしろかったって？ ユーたちはいったいどこがツボなんだい。そんな大人の事情よりも、もっと記事そのものを楽しんでくれよな! まあ、ゴ●格はサダハルンバも驚きを隠せないようなことをやってたらしいがな……。

大阪府・英加直純さん／ナオズミがハガキを送ってくれるのはひさびさじゃないかい？ これはうれしいぜ。あいかわらずハイセンスな切り絵をありがとよ!

大阪府・剣洋人さん／今号の読者ページでもユーのイラストは輝いてるぜ! 崖っぷちのコールマンを送ってくれたんだな。次号は船木あたりを送ってくれるとうれしいぜ!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを

Check it out!!

"読者ペイジ"
ジャクソン

「風間ルミを掟ポルシエが萌え直撃!」の記事がおもしろかった。「ウチ、いつからパンクラスになったの?」っていうコメントがサイコーでした。正直、LLPWの選手は弱かったなあ〜(笑)。
【静岡県・松本学さん・会社員・39歳】

D あの風間ルミがもう44歳だって、オレはそれが一番ビックリしたぜ。ちなみに、もっとビックリしたのは風間ルミの店が神楽坂にあることだ。『kami-pro』の新事務所から超近いじゃないか! まったく世間は狭いってもんだぜい。

保永さんのインタビューを今月号で読めてうれしかったです。自分は91年からプロレスを観ています。新日本の最強ジュニア戦士といったら、自分の中ではいまでも保永昇男です。そんな保永昇男のインタビューページを読むことができて本当にうれしかったです。
【青森県・菅原豪浩さん・23歳】

D ミスター・ホナガのインタビューが載ってるからって、ある関係者が興奮状態で「『kami-pro』送ってください!」って言ってきたらしいな。遠慮せずに、今度からはブックストアに直行してくれよ!

我々にとっては、やはり「オヤジ」、つまりプロレス全盛期の話がおもしろい。しかし、そのままではファンが高齢化していく。一方、若者が総合格闘技を見ているかというと、そうでないところがこの業界の先細りの不安要素。雑誌が生き残るには、『ファイト』方式しかないか!?
【熊本県・齋藤豊さん・無職・46歳】

D ユーは『kami-pro』やマット界のことを真剣に考えてくれてるんだな……。しかし、『ファイト』も結局潰れちまったからなあ。そんなことより、ユーはもっと自分の人生のことを心配しろよ。最近は年金だってもらえるかどうか、まったく不透明だからよお。え? オマエが払ってないからだろって!? ……勘弁してくれよお。

村田兆治インタビューがおもしろかった。"プロは奇人じゃないとダメなのよ"。"奇人、変人、達人までいかなきゃ"と言える村田さんは凄すぎます。青木、ガンバレ!
【東京都・岡田尚記さん・自営業・41歳】

D マット界だけが異常なボーイズ&ガールズであふれてると思ったら大間違いなんだろうな。きっと野球の世界なんかジーニアスばかりの集団だから、とんでもないトンパチ野郎がいるからチョウジ・ムラタからもこんな言葉が出るんだろうよ。まったくこの世はクレイジーなヤツばっかだぜ。

SACHIインタビューがよかった。さすがSACHIさん! でも、小見川選手のときも思いましたが、『kami-pro』は書いてはいけないと言っていることを記事にしているのでは……?
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・27歳】

D おっと、それは大きな誤解ってもんじゃないのかい? いくら『kami-pro』編集部のヤツらでも原稿チェックを出さないで載せるというのが掟破りだということはアンダスタンドなはずだ。ま、そのへんもプロレスってことだよ。アッハッハッハー!

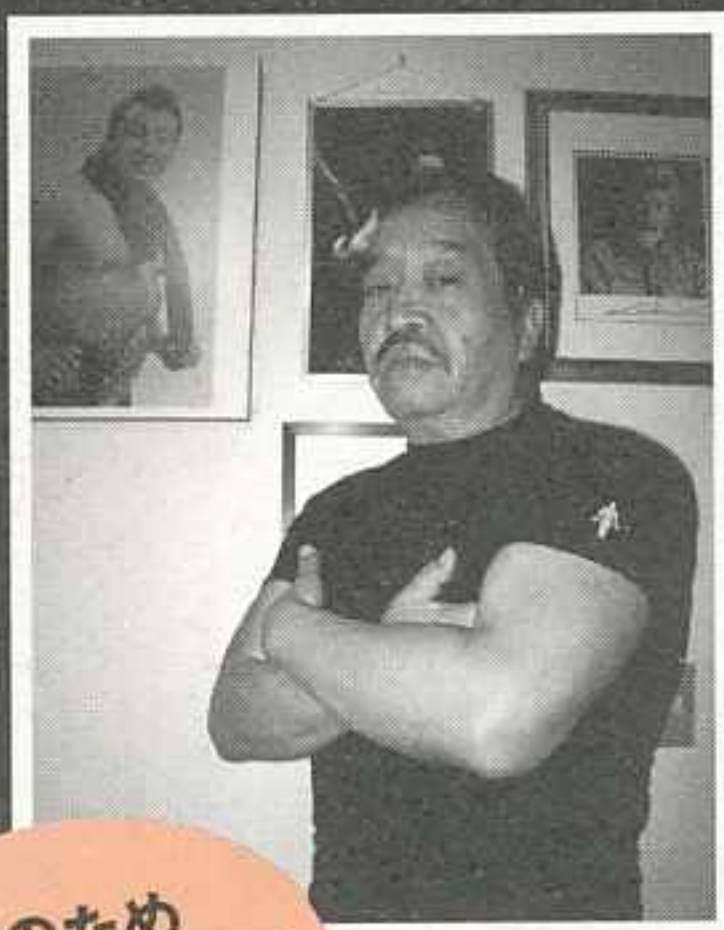
堀辺師範の『格通』連載、いつも読んでました! 懐かしいです。グレイシーとか何でもありって、何か凄いんじゃないかという我々の感情に、見事な理論的裏付けをしてくれていたと感じます。堀辺師範がいなければ、グレイシーやなんでもありは日本に根付かずに終わったのではないかと思います。
【東京都・横山雅敏さん・会社員・34歳】

D ミスター・ホリベはホントに怪しい感じだが、話している内容は間違いなくおもしろいからなあ。電車も一人で乗れないのに、いったいどこからそういうアイデアを引っぱり出してこれるんだい? まったく頭が上がらないぜ!

百田光男の話が興味深かった。プロレスの世界というのがいまいかに大変かがわかった。この先、どうすればプロレスが復活するのか、なかなか難しい。
【埼玉県・工藤ノリさん・会社員・40歳】

D おいおい、何をそんなにしんみりしてるんだい? もっと明るく楽しく考えたほうがいいぜ! うちの甥っ子なんかもプロレス大好きでいつも『ハッスル』のビデオばっかり観てるからな。……ま、昔のだけどよお。

『龍朋』のマスター・松崎さんの「プロ=八百長」論には目の覚める思いでした。八百人のことばかりでなく、自らも「八百長してきた」と言い切る姿勢は見事です。ゴ●格編集部は見習うべし。あと、クマクマンボがエロそうに見えるのは、8割方あの髪型のせいだと思います。
【福島県・毒柴さん・津波被害者・38歳】

D おっと、またクマクマンボの話かい? ユーたちも嫌いじゃないな。クックックック。しかし、髪型がエロそうというのはどういうことなんだい? オレはズバリ、目だと思うけどな!

念のため
今号でもお知らせ
するぜ!

kamipro編集部の住所が変わりました!

住所変更にも気づかないボーイズ&ガールズのために、
今号まで引き続きお知らせするぜ!
おっと、住所が変わったからって、ハガキを送らないなんて
イジメは勘弁してくれよ。『kamiproムーブ』からの送り方は
いつもと変わらないから、いままでどおり、
意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、そのほか
思いの丈を書いて送ってくれ! 待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんと来い! ってヤツだ。

目撃情報、タレコミ情報選手に対するコメント、
試合の感想、その他、オールOKだ!!
以上、すべてのお便り・イラストのあて先は

〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
kamipro編集部「民族大移動」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできます。

目撃情報が止まらない!

★先日、東急池上線というけっこうマニアックな電車の旗の台という駅で、中村和裕選手を目撃しました。というか、このところ凄くよく目撃します。それもけっこう夜遅い時間帯なので、このあたりに家があるんだとボクはにらんでいるのですが、どうでしょう!?
【東京都・戸越銀座さん】

★『kamipro』読者ペイジで活躍している剣洋人画伯のイラストを『HIHO』(映画秘宝)の読者ページにて目撃!! こちらでも斬新なタッチ、画力で他を圧倒しています!
【自営業・梶間浩幸さん】

★先日、渋谷のシダックスの前を通ったら、RGに似た人が目の前に飛び込んできました。しかし、RGよりも全然オーラがあったので、よく見てみるとなんと市川海老蔵でした! 海老蔵だとわかったときに、たいへん失礼な間違いをしてしまったなと反省しました。ちなみに小林麻央さんは一緒じゃなかったです。
【東京都・レイザーラモンさん】

大阪府・剣洋人さん/おっと、こっちもヒロトのイラストかい? ユーはホントにとんでもないセンスの持ち主だな。しかし、このシンヤはたいへんな悪童面だぜ。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

休日には誠軍団1号のマスクを被ってサウナの休憩室ですごすことにハマっているこじれプヲタ・掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは元Jd'の女子プロレスラーにして現格闘家の富松恵美さん！　素性はプヲタでメタルヲタというあきらかに「こちら側」の人ですよ！

掟　両親もプロレス好きみたいですけど、よくテレビでプロレスが流れているような家庭だったんですか？

富松　ウチは町内で初めてテレビを買った家みたいで、家にみんなプロレスを観に来てたって言ってましたよ（笑）。

掟　力道山の時代だ！

富松　亡くなったおじいちゃんのアルバムとか思い出に浸って見てたらデストロイヤーのブロマイドが挟まってたり。

掟　親子三代プロレスファンで（笑）。富松さんはプロレスを引退したいまでも、666や大日本プロレスとか普通に会場にも行かれてるプヲタみたいですけど、両親はそんなでもない？

富松　ウチの一家はプロレスよりは音楽ですね。妹もお父さんもバンドやってて、お父さんは「俺はベックだ」って言ってました（笑）。

掟　自称ジェフ・ベックで（笑）。

富松　最近、携帯を新しくして、メタルの着メロをダウンロードして一人で喜んでましたよ。メガデスとか（笑）。

掟　若いですね、お父さん。

富松　今度もまた家族でライブに行くんですけど。

掟　X JAPANの再結成ライブも家族で行かれたみたいですけど、チケットを取るのが大変だったんですよね？

富松　そうなんですよ。私の腹が割けてたときで（苦笑）。

掟　WINDY智美選手と闘って、腹部にキックを受けて腸を損傷して入院した、まさにそのときだったみたいで。

富松　試合前にチケットが当選したっていう連絡が来て、「やったー！　その前に試合やってこよう」と思ったら、試合後に病院に運ばれちゃった、みたいな（笑）。

掟　試合のときも、ずっとXのことを考え続けていたんじゃないですか？

富松　ちょっとTOSHIが入ってたかもしれない（笑）。でも、試合後にチケット代を振り込まなきゃいけないんで、点滴台を自分で持って、病院の地下にあるセブンイレブンに振り込みに行きましたからね（笑）。

掟　ドクターストップはかからなかったんですか？

とみまつ・えみ■1982年4月13日、神奈川県出身。プロレス&格闘技好きが高じて吉本女子プロレスJd'に入門し、01年7月の後楽園大会でのドレイク森松&阿部幸江戦（パートナーは亜利弥'）でデビュー。しかし、病気で苦しめられ03年4月に引退。その後、バラエストラ松戸に入門し、柔術や総合格闘技で活躍。156cm、50kg。ライターを目指していたというだけあって内容もイケてるブログアドレス→ http://www.kakutoh.com/pc/blog/tomimatsuemi/

富松　いや、腸だったんで、「とりあえず歩いたほうがいい」って言われてて。手術から24時間以内には歩いてましたよ。痛いのは超痛かったですけど。

掟　家族の誰かに頼めばいいでしょ？

富松　ですよね。でも、それも試練かと思って（笑）。おかげで、かなりいい席でしたよ。さすがにXジャンプはできなかったですけど（笑）。

掟　術後にXジャンプはさすがに腸がはみ出ると思います！　しかし、元プロレスラーのプヲタっていうのも珍しいですよね。フェイバリットレスラーは？

富松　怨霊ッス！

掟　ああ〜、男前ですもんね。

富松　えっ、誰がですか？

掟　怨霊さん……の中の人。

富松　あ、あ〜〜、うん？　っていうか、ウチのお父さんに似てるんですよ。

掟　お父さんに似てるから好き!?

富松　いや、わかんないですけど、怨霊さんもともと好きだったんですよ。なんかカッコいいじゃないですか。ゴシックレスラーで。で、メイクしてるのも、なんとなくウチのお父さんに似てるなぁって思って。

掟　お父さんもメイクしてるんですか!?　もしかしてお父さんは京本政樹っていう名前で？

富松　いや〜、ただのおっさんです（笑）。マジメなんですけど、見た目が怖かったみたいで、大学のとき暴走族に「おまえ、これ着てステージに上がってくれ」って言われて特攻服を渡されて、それ着て歌ってたらしくて。それで、バンド名が核弾頭なんですよ（笑）。

掟　ガハハハハ！　素敵すぎて困るネーミングですね！　富松さんはJd'での2年のプロレスラー生活を経て、病気療養でプロレスを引退されてから、しばらくして格闘技をやり始めることになるんですよね？

富松　プロレス時代は朝に練習があって、夜はジャガー（横田）さんの練習があって、いくら食べても太らなかったんですけど、プロレスを辞めてから同じぐらい食べてたら、もう子豚ですよ（笑）。

掟　要はダイエットのために格闘技を始めたって感じなんですね。

富松　まあ、そうですね。とりあえず家の周りを毎日走ってたんですけど、足が痛くなっちゃって。病院に行ったら「疲労骨折寸前だよ」って言われて。走ったあとに縄跳びとかしてたらアスファルトが足に悪かったみたいで。

掟　なんでもやりすぎちゃうんですね（笑）。

富松　それからヤバイと思って、スポーツジムに行こうと思って。そこで格闘エクササイズみたいなのがあって、「そういえば私、格闘技やりたかったんじゃん」って思い出して、いまに至るみたいな感じです（笑）。

掟　そこから柔術やグラップリングを始めて、最近は大会で優勝したりして紫帯まで取って、結果が出てきてますよね。総合格闘技は大ケガをして以来、お母さんから反対されてるってことですけど、打撃の練習はたまにしてるんですか？

富松　一応、秘密でやってるんですけど、親にはバレてるみたいで。「アンタ、してるんでしょ」って言われたり（笑）。

掟　隠れてタバコ吸ってるみたいな感じで（笑）。

富松　まあ、練習はしてて、いつでも出れるようにはしてるんですけど。

掟　自分の身体と相談しながら、やりたいことをやるって難しいですよね。

富松　仕事もウチは家族でやってるんですけど、ケガしたときは1ヵ月ぐらい会社もお父さん一人でやらせてたり、迷惑かけてるんで。

掟　プヲタらしくマスクを被るっていう手もありますよ（笑）。

富松　あ〜、それもいいかも？　……でも、アゴでバレる可能性があるんで、フルマスクじゃないとまずいッスね（笑）。

掟　もしかしたら、マスク姿で総合も復活するかもしれないので、親バレしないように頑張ってください！

08年1月のパンクラス後楽園大会でのWINDY智美戦で腹部を負傷して以来、親の反対もありMMAは休止中。現在は柔術やグラップリングで活躍する富松。09年11月に行なわれたブラジリアン柔術大会「東京国際オープントーナメント」では青・紫帯ブルーマ級で優勝し、紫帯に昇格！

Okite Porsche◎掟ポルシェ■ロマンポルシェ。6年ぶりのNewアルバム『盗んだバイクで天城越え』、4・21ついに発売！（¥2700 ミュージックマイン）。初回限定盤に限りDVD付き2枚組！　CD発売記念ライブは4・29（木・祝）新宿ロフト。ゲストはバニラビーンズ他。前売りチケット絶賛発売中。行く気がなくても転売目的で買い占めろ！　その他の情報は掟ポルシェブログをチェック！【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

よっ、中村屋！

中村カズのおでん屋がなんだか凄いぞ!!

すでに知っている人も多いかと思うが、中村和裕が3月2日に都内におでん屋『中村屋』をオープン！同じく3月には山本KIDプロデュースの焼き肉屋が開店されるなど、格闘家が飲食店を始めるのも珍しいことではなくなったが、カズのおでん屋はなんだか凄いらしいとの情報をゲッツ！さっそく潜入取材を敢行してみると……、ホントに凄かったッス！

取材／阿修羅チョロ（質より量のグルメ知らず）、松林貴（『kamipro』のグルメ番長）　撮影／梅木麗子

まだまだセブンイレブンの大根にはかなわないッス

『中村屋』支配人

中村和裕

VIVA柔道! VIVAおでん! というわけで、食に卑しい編集部のチョロと食にうるさい編集次長・松林貴の『中村屋』探検隊。まず最初に『中村屋』支配人の中村カズを直撃。インタビュー直前にビシッとスーツに着替えたカズのおでんトークが炸裂! うっす(カズ調)。

―カズさんがおでん屋をオープンされたということで、紹介を兼ねてうかがわせてもらいました!

カズ よろしくお願いします!

―肩書きは「オーナー」でいいんでしょうか?

カズ いや、オーナーは別にいるんで。「支配人」でお願いします!

―名刺には「総支配人」と書かれてますが〝総〟はつけなくていい?

カズ なんか恥ずかしいんで。

―来てみて驚いたんですけど、このお店って大仁田厚さんの事務所が入ってた場所ですよね?

カズ そうなんですよ。ここは大仁田さんがやられてたダイプロデュースっていう会社の事務所だったんで。大仁田さんとは接点もなくて、ホントにたまたまなんですけど。

―それも凄い話ですね(笑)。そもそも、なんでおでん屋を始めようと思ったんですか?

カズ ホントは一番やりたいのは道場なんですけど、道場は採算が取れないんで、じゃあ飲食店がいいかなって。自分の教え子とかが飲食店でバイトしてるのが多いんですけど、てんでバラバラなところで働いてたんで、一個にまとめられたらなって思って始めたっていう経緯もあって。

―そういうことでしたか。國保(尊弘)さんがブログで書かれてましたけど、最初はスポーツバーをやるつもりだったんですよね?

カズ そうッスね。その名残があのスクリーンで(笑)。

―おでん屋なのに大きなスクリーンで映像も楽しめる、と(笑)。スポーツバーは國保さんに反対されておでん屋になったってことですが、焼き鳥屋という構想もあったみたいで。

カズ 目黒にいい物件があって、そこは路面の1階だったんで焼き鳥屋がいいかなぁって。でも、飲食店をやるのは初めてなんで、まだ肉関係とかは仕入れを考えるとがっつり扱えないと思ったんで。野菜ならどこでも売ってるじゃないですか(笑)。

―まあ、売ってますよね(笑)。

カズ 店長も自分も素人なんで、最初はわかりやすいのでやろうかなって思って、おでん屋にしました。

―具体的には、去年の秋くらいから動きだしたんですよね?

カズ 飲食店をやろうと思ったのが去年の8月くらいですね。それで店長(木村貴生氏)と話をして、9月に店長は会社を辞めたんですよ。で、最初は焼き鳥屋をやろうと思ってたんで、店長は焼き鳥屋でバイトをやったり、相当振り回しましたね(笑)。

―二転三転ありながらも、「おでん屋でいこう」と思ったのは何が決め手だったんですか?

カズ (國保)社長に、スポーツバーは敷居が高いっていうのもあって反対されて。それよりは居酒屋的な、ちゃんとメシが出せるような店のほうがいいんじゃないかって。

―アドバイスを受けたわけですか?

カズ ハッキリは言わなかったんですけど、なんとなく雰囲気でつかんで。もう社長とは長いんで(笑)。それに、最初は店の名前も『中村屋』じゃなくて、名前も3回くらい変わってるんですよ。

―ガハハハハ! ちなみに『中村屋』の前はどういう候補が?

カズ 一番最初は『カズちゃんとゆかいな仲間たち』っていう名前で。そのあとは店長がラグビー時代にポジションがナンバー8だったんで、『ナンバー8』っていう案も出てて。で、そのあとにもう一個くらい挟んで『中村屋』に落ちつきましたね。

―『中村屋』の看板の字は古賀稔彦さんが書いてくれたんですよね?

カズ そうなんですよ。

―「吉田道場」の看板も古賀さんが書かれたみたいですけど、かなり達筆ですよね。それがきっかけでカズさんも書道を始められたとか?

カズ そうッスね。メニューとかも自分が書いたんで。

―オープンしたばっかりなのに「飲食業は大変なんだなぁ 中村和裕」っていう作品もトイレに飾られてましたけど(笑)。

カズ いや〜、でもオープンするまでは正直大変でしたね。内装したり、業者とかと会ったりして。オープンしたらしたで大変なんですけど、人と接したりするのは楽しいですよ。

―店を出そうと思ったのは、結婚して子どもができたってこともきっかけになってるんですよね?

カズ それは大きいッスね。やっぱ、格闘家っていうのはいつまでできるかわかんないし、自分の将来だったり仲間のことを考えて店を構えるっていうのはいつかやりたいなっていうのはずっと思ってたんで。

―オープン前は試食会も何度もやられていたみたいですね。

カズ 相当やりましたねぇ。「こうし

たほうがいい」とか、いろいろとアドバイスをしてもらって。

――試食会を何度も重ねて試行錯誤して、いまは自信を持って料理を出されてる感じですか？

カズ いや～（と大きく首を振って）。

――まだ納得はしてない？

カズ 大根だけ、いま悩んでますね。セブンイレブンのおでんの大根食べたことあります？

――ありますけど。セブンイレブンのおでんはコンビニとか抜きにうまいって言う人は多いですよね。

カズ そうなんですよ！　大根のあのシャキシャキ感がまだ出せなくて。しかも、味もしっかり染み込んでますからね。おでんの大根って味が染みたら柔らかくなるんですよ！　あのシャキシャキ感がどうやったら出せるのか教えてほしいッス。

――打倒セブンイレブンですか（笑）。

カズ いや、ホントそうッスよ。

――おでん茶漬けはカズさんのオススメなんですよね。

カズ イチ押しですね。締めで食べてもらえれば。あと、おでん丼も考えてるんですよ。ランチで。

――ランチも考えてるんですか？

カズ ここらへんは会社員が多いんで。だから、ゆくゆくはおでん丼でランチでも勝負かけたいなって思ってますね。ただまあ、おでん丼って言ってるだけで、中身はまったく取り組んでないんですけど（笑）。

――さすが、『中村屋』！（笑）。

松林 日本橋に「お多幸」っていうおでん屋があるんですけど、そこのランチで、茶めしの上にでかい豆腐のおでんが乗ってる「とうめし定食」っていう名物料理があるんですよ。

カズ そういうことだと思うんですよ。（店長に向かって）アドバイス、いただきましたっ！

店長 ありがとうございました！

――ガハハハハ！　おでんって仕込みに時間がかかるらしいですけど、ランチも始めたら店長は大変なんじゃないですか？

カズ だから、ランチは夜が落ちついてからかなって思ってますけどね。なにしろ、店長と長ちゃん（長倉立尚）の3人で始めたものなんで。

――3人で始めたお店なんですね。

カズ そうですね。店長をつないでくれたのも長ちゃんなんで。

――長倉選手はどういった立ち位置になるんですか？

カズ 長ちゃんはバイトで、ドリンクと厨房をちょっと手伝う感じで。だって店長より長ちゃんのほうが、飲食業が長いですからね（笑）。

――そうなんですか（笑）。お酒はどういったものを置いてるんですか？

カズ オススメは……ドンペリがあります！　裏メニューで（笑）。

――おいくらで出してるんですか？

カズ ドンペリは3万円で。モエ（・エ・シャンドン）もありますよ。1万円で。

松林 おでんとシャンパンってなんかいいですよね。「おでシャン」という言葉もあるくらいだし（笑）。

カズ （店長に向かって）ほめていただきましたっ！

店長 ありがとうございます！

――体育会系ですねぇ（笑）。カズさんのお店だったら格闘技関係の人もたくさん来るんじゃないですか。

カズ まだオープンしたばっかりですけど、たくさん来てくれてますね。

――カズさんの周りには吉田さんをはじめ豪快な飲み方をする人が多いじゃないですか。長南（亮）さんも酒癖は悪いらしいですし（笑）。

カズ あ～、悪いッスねぇ（笑）。

――お店で吉田道場の飲み会をやったらヤバイんじゃないですか？

おでん屋も本気！吉田さんとも本気で闘いたいッス!!

なかむら・かずひろ■1979年2月21日、広島県出身。柔道で活躍したのち、03年1月に吉田道場入り。03年3月の『PRIDE.25』でのアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ戦でMMAデビュー。その後はUFCや『戦極』で活躍。4.25 ASTRAでは吉田秀彦戦を猛アピール中。178cm、85kg。ブログアドレス→ http://ameblo.jp/kazism/

カズ いや、もう壊すんだったら自分も一緒に壊しますしね（キッパリ）。

――なんでですか！（笑）。

カズ 客との一体感がある店にしたいんで（笑）。そうなったら止めずに壊すときは自分も一緒に壊します。

――そうですか（笑）。カズさんは酒癖は悪くはないんですか？

カズ 自分は崩れないッスね。（店長に向かって）俺、量も相当飲むよね？

店長 飲みますねぇ。かなり強いと思います。最近とくに。

カズ 焼酎も全部ロックなんで。

――さすが、支配人！（笑）。この号の発売は3月23日になるんですけど、その頃には吉田さんの相手も発表されてるかもしれませんが、カズさんも名乗りを挙げてましたよね。

カズ 『kamipro』ってモバイル（サイト）もやってますよね？

――はい、やってます。

カズ 発売日よりも先に情報は出せたりします？　なるべく早く出してほしい話があって。

――どんな話ですか？

カズ 自分、本気で吉田さんとやりたいと思ってるんですよ。

――会見でも言ってましたよね。

カズ そうなんですけど、なかなか候補にしてもらえないんですよね。このチャンスを逃したら次がないんで、それをどうすりゃいいのかなって毎日悩んでるんですよ。

――そこで相手が決まる前にアピールをしておきたい、と？

カズ ファンの後押しがほしいと思ってて。なので、モバイルで先に載せてもらえるとうれしいッス！

――わかりました。吉田戦へのアピールは『kamiproムーブ』でアップしたいと思いますので、そちらをチェックしていただければと。

カズ よろしくお願いします！　違う相手に決まっちゃうかもしれないですけど、最後に闘って吉田さんを越えたいなって思ってるんで。もう、そんなチャンスはないですからね。

――引退されてしまったら、そういうチャンスはなくなりますからね。

カズ どうにかなんないですかね、『kamipro』さんの力で。

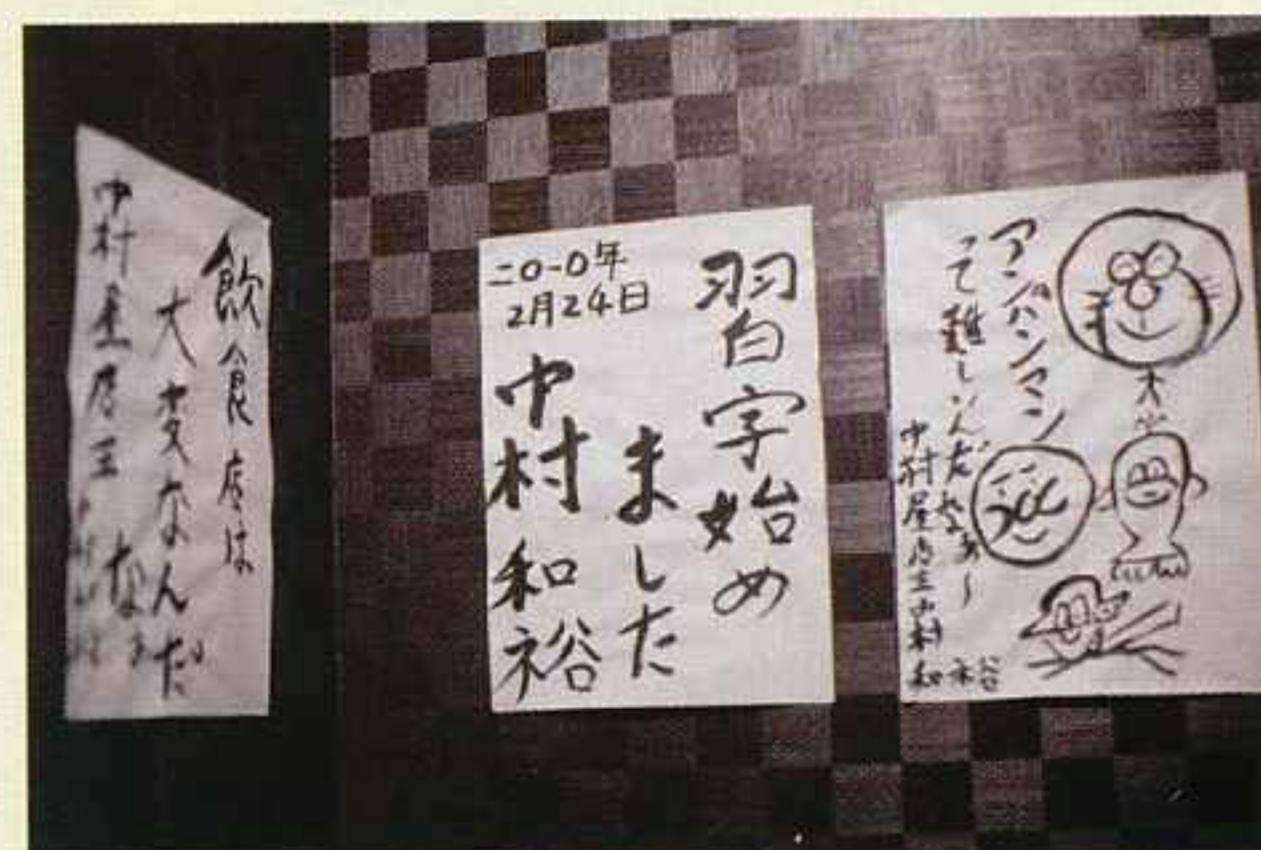
――いやいや、さすがに吉田さんの引退試合の相手はウチがどうこうすることはできないですけど（苦笑）。

カズ でも、ウチのおでん食べましたよね？（ニヤリ）。

――は、はい。手羽先とおでん茶漬けもおいしくいただきました。

カズ ですよね。ホント、『中村屋』とも、よろしくお願いしますよ！

――おでんで買収ですか（笑）。『中村屋』とカズさんの今後の活躍を期待してます！

【10年3月4日／都内・『中村屋』にて収録】

古賀稔彦氏の影響で習字を始めたカズ。トイレには相田みつを風（?）の作品がズラリ。「飲食店は大変なんだなぁ」って、気持ちはわかるけど、取材に行ったのはオープン2日後だよ！　頑張ってくれ～！

おでんも そうですけど 手羽先には 自信があります

『中村屋』店長

木村貴生

カズ支配人の次に直撃したのは『中村屋』店長にして料理長も務める木村貴生氏(25歳)。吉田道場の長倉立尚と大学時代はともにラグビー部で活躍し、大学卒業後は野村證券に勤務していたという木村氏が『中村屋』店長就任までのトンデモエピソードを大公開!

——木村さんは『中村屋』の料理長にして店長ってことでいいんですか？

木村 そうですね。

——そもそも、どういった経緯でカズさんとお店を出すことに？

木村 自分は立命館大学を卒業しまして、新卒でそのまま野村證券に入社したんですよ。

——一流企業じゃないですか⁉

木村 一応(笑)。で、自分は中学校から10年間ずっとラグビーをやってまして、そのときに大学で知り合ったのが長倉立尚なんです。

——デビューから8連続KO勝利中の吉田道場の注目ファイターですね。

木村 長倉はJTBに就職して、二人とも最初はサラリーマンだったんです。僕は約2年半勤めていたんですけど、長倉は「JTを辞めて格闘技をやる」って言って吉田道場に入ったんですよ。それで、僕も身体を動かしたかったので会社に勤めてるときから週一くらいで道場に通って、いろいろ教えてもらっていて。

——そこでカズさんに出会った？

木村 そうですね。自分は将来的に飲食業をやりたかったっていうのがあって、よくそういう話をしてたんですけど、たまたまカズさんが飲食業をやられるというのを聞いて紹介してもらいまして。で、カズさんと話をしていくうちに、「一緒にやらせていただきます」ってなって会社を辞めて、いまに至ります。

——また、おもいきった決断をされたんですねぇ(笑)。

木村 そうですね(笑)。昨年の9月末に辞めまして、(店の)立ち上げから一緒にやらせていただいてます。

——なんでも、当初はおでん屋という構想ではなかったみたいですね？

木村 はい。自分が会社を辞めた時点では具体的に「○○の店をやろう」っていうのはまったく決まっていなくて。ただ、「飲食店をやる」っていうのだけは決まってたんですよ。

——焼き鳥屋とかスポーツバーといった話も出ていたみたいですが。

木村 一番最初は焼き鳥で、その次はもつ鍋で。あとは馬刺し屋とかコロコロ変わって、最終的にたどり着いたのがおでんでした。

——それ、変わりすぎです！(笑)。

木村 おでん屋の一個前はスポーツバーだったんですけど、カズさんは自分や道場のコたちの試合も流せるので「スクリーンを置いたスポーツバーがいいんじゃないか」って。ただ、出したいメニューっていうのは、おでんとかうどんだったので、和風な感じのお店にスクリーンを入れるっていうのも新しいんじゃないかってことで、こうなりました。

——料理は昔から好きでよく作ったりしてたんですか？

木村 いや、本格的にやり始めたのは9月に会社を辞めてからですね。

——あ、そうなんですか(笑)。

木村 その時点では焼き鳥屋をやるって話が出てたので、修行のつもりで焼き鳥屋にバイトで入ったんですよ。そこの焼き鳥屋では約3ヵ月働いたんですけど、ちょっと方向性が変わっちゃって。実際におでん屋に向けて料理に取り組み始めたのは今年の1月の初めですね。

——こ、今年の1月⁉ オープンが3月2日ですから、おでん修行は実質2ヵ月くらいってことですか。

木村 そうですね。1月からおでんとか、ほかの料理とかも教わりながら間に合わせた感じで。いままで和食というものを扱ったこともなかったですし、ずっとスポーツやってたんで、食べる機会もあんまりなくて。ホントにゼロからのスタートです。

——可能性はゼロではないと思います(笑)。でも、9月に会社を辞めて、何もないところから約半年でオープンっていうのも凄い話ですよね。

木村 店の場所が決まったのは12月の終わりか、1月くらいだったんで。だから場所も内容も確定せず、とりあえず飲食店をやるって方向性だけですね、決まってたのは(苦笑)。

——最終的に、おでん屋に落ちついたのは、どういう経緯で？

木村 カズさんが食べたいっていうのが大きかったと思います。

——ガハハハハ！

木村 1月の初めまではスポーツバーって聞いていたんで、「お酒とかをしっかり出して、イタメシ系でいくのかな」と思ってたら、「いや、うどんがいい」「おでんもいい」ってなって、もうわけがわかんなくなって(笑)。

——ガハハハハ！ 『中村屋』に来たら、これだけは食べてもらいたいっていうメニューはなんですか？

木村 まず、おでんと手羽先は絶対に食べていただきたいですね。手羽先は自分で作った特製のタレがあるんですけど、それをかけて食べていただくと、皆さん「おいしい」って言っていただけてるんで。

——自分なりには満足している？

木村 自分でも好きな味っていうのはありますね。出身が名古屋なのでけっこう濃い味が好きで。おでんの具でいったら、つみれですかね。

——おでんってけっこう仕込みに時間がかかるんですよね。

木村 そうですね。大根とかは味を染み込ませるのに一回冷やさないといけないんで。なので、昼に作って冷ましてから、夕方にもう一回温め直す感じで。自慢のおでんと手羽先とおでん茶漬けを用意してるので、食べていってください！

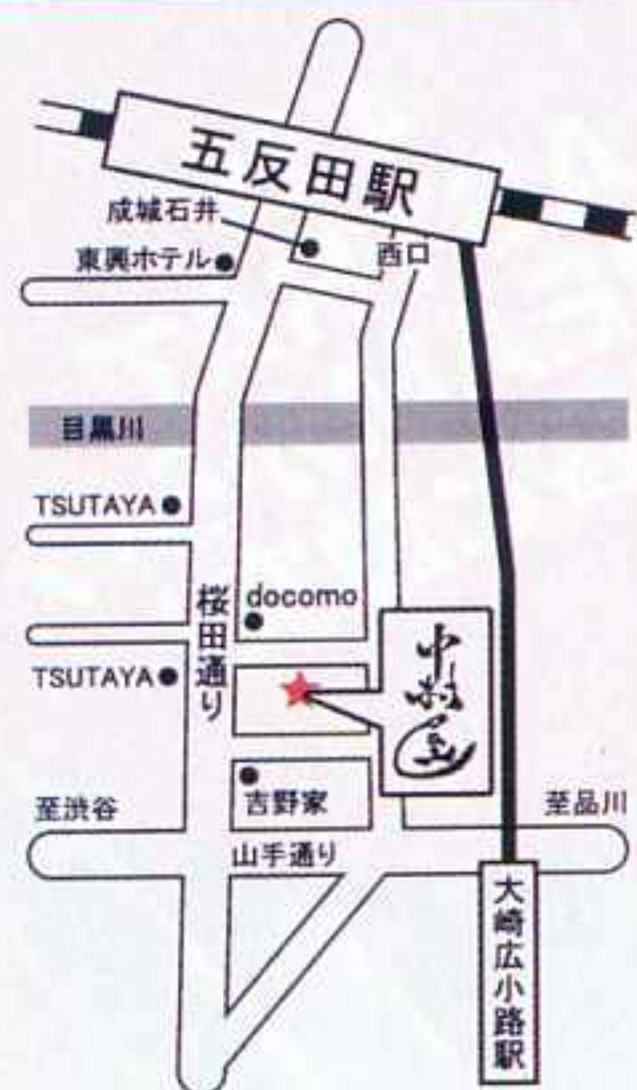
——ありがとうございます。冗談抜きで本気で応援してますので、ホントに頑張ってください！

【10年3月4日/都内・『中村屋』にて収録】

これが『中村屋』自慢の3点セットだ!

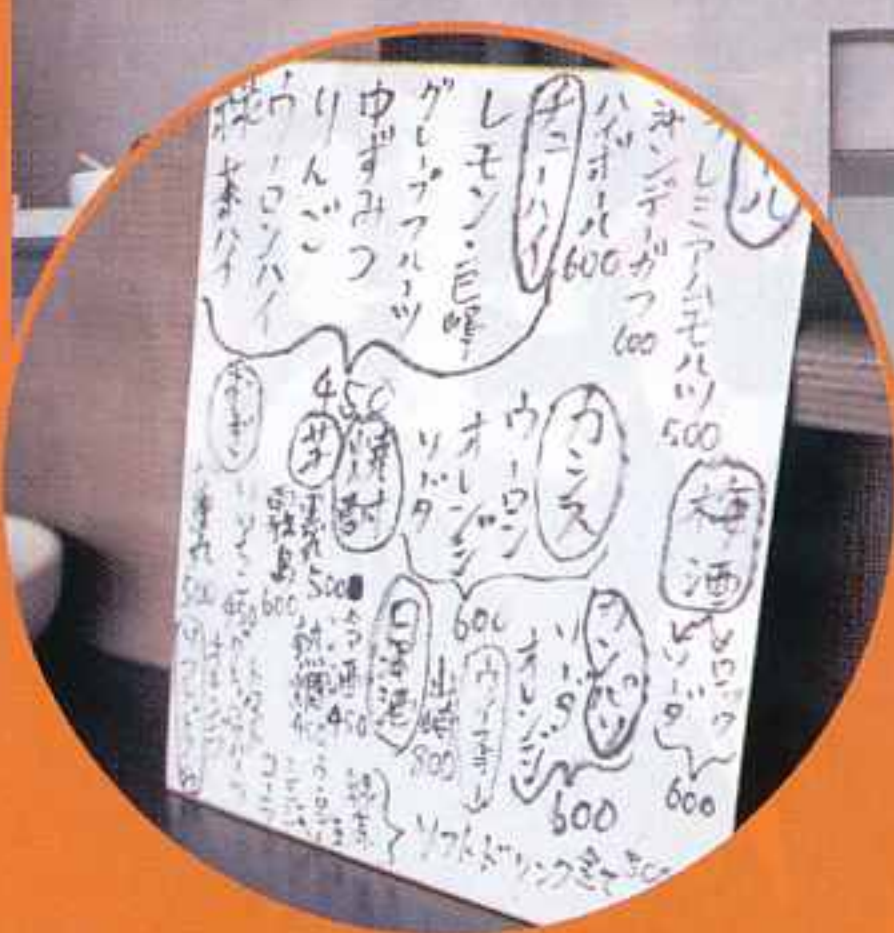
これが木村店長が自信を持ってお届けする『中村屋』自慢のおでん盛り合わせ(5種800円)、手羽先(3個500円)、おでん茶漬け(550円)。中でも木村店長オススメは試行錯誤の末に完成した特製のタレをかけた手羽先。ホントおいしいですよ。いや、マジで!

皆さん、これが中村屋ですよ!

五反田駅
成城石井
東興ホテル
西口
目黒川
TSUTAYA
docomo
桜田通り
TSUTAYA
至渋谷
吉野家
山手通り
至品川
大崎広小路駅

『中村屋』
■東京都品川区西五反田
1-32-3 DAIビル3F
■営業時間／18:00～深夜
閉店は深夜となっているが場合によっては早朝まで営業してることもあるらしいので要確認
■定休日／日曜日
■TEL.03-5759-6337

壁に貼られたメニュー、さらにはテーブルに置かれたドリンクメニューもカズ支配人の直筆。トイレの作品とともに、これだけでも見る価値あり!?　来年あたりには『中村屋』で個展も開かれるはず。書いて書いて書きまくれ!

『中村屋』の自慢の一つが大型スクリーン。取材時には長倉の試合映像が流れていたが、長倉の入場パフォーマンス（ラグビーでおなじみのマオリの民族舞踏、ハカを踊る）では隣に木村店長の姿を発見! デビューは近いか!?

体育会系のノリと元気がウリの『中村屋』。吉田秀彦引退興行となる4.25 ASTRA武道館大会にはカズと長倉も参戦!　大会後には『中村屋』で打ち上げが行なわれるかも? あ、その日は日曜で定休日でした。残念!

『kamipro』のグルメ番長 松林貴の中村屋評

今回の取材は味よりも量と値段が命という阿修羅チョロが担当。グルメレポートには不向きということで、本誌編集次長にして、おいしいものに目がないことで知られる松林も同行。案の定、取材後のチョロは「お腹いっぱい」と味よりも食費が浮いたことでご満悦。そんなチョロはおいといて、松林の『中村屋』評。「俺の自宅からわりと近くてね。あのへんは深夜にやってる店が少ないんでその点ではいいね。カズの味のある書道作品も見られるし、おでん屋なのにスクリーンで試合も観られるし、吉田道場的な雰囲気を味わいたい人は一度行ってみたらいいんじゃないか、と」。……ん?　まあ、そういうことです!

―なんか最近まで結膜炎で大変だった

悪いけど フェザー級日本人最強は俺だから!

小見川道大

『戦極』フェザー級GP準優勝、『Dynamite!!』では高谷裕之をKOで下すなど、2009年はMVP級の活躍を見せた小見川。『kamipro』的にはネコ好きファイターとしても注目を集めた小見川の今年初戦の相手は"DREAMからの刺客"ミカ・ミラー。自ら「日本のフェザー級で一番強い自信がある」と堂々と言い放つ、この男はどこへ向かおうとしているのか?

聞き手&撮影／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

——なんか最近まで結膜炎で大変だったみたいですね？

小見川　なんで知ってるんですか？

——自分でブログとかツイッターに書いてたじゃないですか？

小見川　あ〜、書いてましたね（笑）。

——まだちょっと目が赤いですけど。

小見川　でも、もう大丈夫ですよ。

——なら、よかったです。あと、最近のブログとかを見ると、かなりラブリーな感じですよね。愛妻弁当の写真を披露してたり（笑）。

小見川　な、なんすか、今日はそういうコンセプトなんですか!?（笑）。

——いやいや、心身ともに絶好調なのかなって思って。

小見川　そうッスね（笑）。試合以外は気楽にやろうと思ってるんで。

——リング内外で充実している、と。

小見川　そんな感じッスね。

——リング外でいうと、おでん屋を始めた中村カズさんも頑張ってますけど、小見川さんも去年は頑張りましたよね。

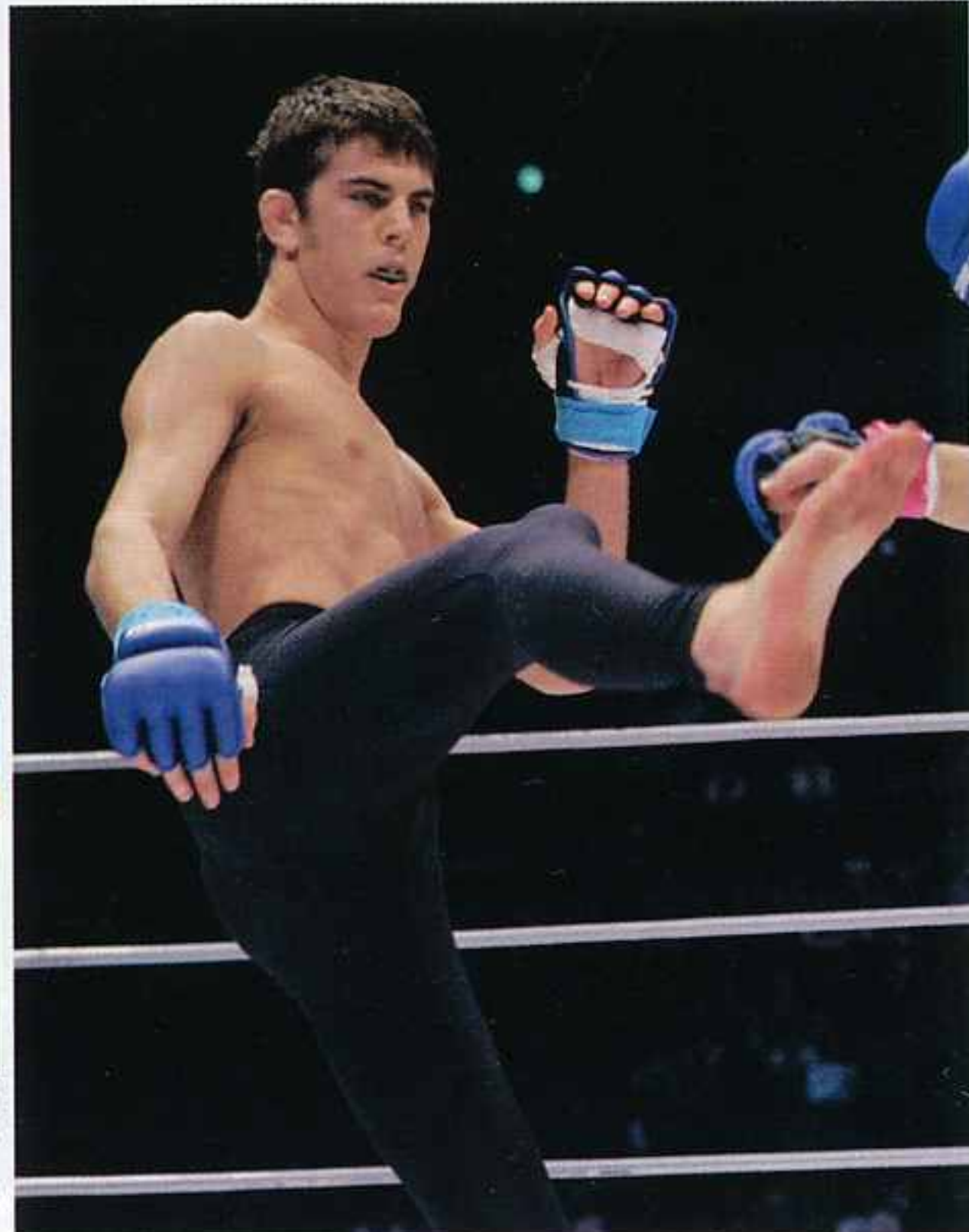
小見川　7試合しましたからね。

——大晦日の高谷裕之戦もいいかたちで勝利を収めて、今年一発目の相手も決まったわけですが、2010年はどういう一年にしたいですか？

小見川　前から言ってるんですけど、フェザー級最強を目指してやっていくっていうのは変わらないッスね。

——先日の会見でも言ってましたが、日本人のフェザー級では自分が一番強いと

日本の二大イベントの中で俺が一番強いって自信はありますね

小見川の今年一発目の試合は4.25 ASTRAでのミカ・ミラー戦に決定。日本へは09年の『DREAM.7』で前田吉朗に判定負けを喫して以来の登場となるミラーだが、その後は3連勝と絶好調。小見川はデビュー戦のアーロン・ライリー、2戦目のJZカルバンとATT所属選手に負けっぱなしなため、ミラーとともにATTへのリベンジも宣言。2010年は"動物界のギャング"ミーアキャット化宣言した小見川なら約15センチの身長差もノー問題!?

いう自負もあるみたいで。

小見川　かなり自信はありますね。

——その自信っていうのは去年の『戦極』フェザー級GPでの準優勝や、大晦日の高谷戦での勝利が大きいわけですか？

小見川　そうッスね。なんか、振り返ってみると、去年は凄い楽しかったし、自信もついた一年でしたね。

——7試合もやって、そのときそのときは大変だったと思いますけど、終わってみれば楽しかった、と。

小見川　終わってみればっていうか、やってる途中も、最後のほうは自分でストーリー作りができるようになってたんで楽しかったし、自信にもなったのかなって。

——去年は「クソッタレ劇場」ってことでやってましたけど、自分で意識してストーリーを作っていた、と？

小見川　いや、最初に『戦極』のトーナメントで勝ったあとに、たまたま出た言葉が〝クソッタレ〟で（笑）、その流れで自然とストーリーができたって感じですけどね。

——大晦日はなかなか試合が決まらなかったり、違う意味での〝クソッタレ〟っていうイライラもあったと思うんですけど。

小見川　まあ、そういう意味では〝クソッタレ〟で始まり〝クソッタレ〟で終わった一年でしたね（笑）。

——「クソッタレ」三昧の一年（笑）。

小見川　まあでも、11月の日沖（発）戦はケガもあったんですけど、不甲斐ない試合だったんで。自分的には「まだできる」っていうのもあって自分自身に〝クソッタレ〟ってツバ吐いて。そういうのもあって大晦日は全身全霊で〝クソッタレ〟パワーを最高値に持っていって、いい結果が出せたと思ってるんで。「俺がやればあそこまでできる」って自信にはなりましたね。

——いまの日本人のフェザー級では最強だと自信を持って言える？

小見川　日本の二大イベントの中で俺が一番強いって自信はありますね。

——いいですねぇ。「クソッタレ劇場」はとりあえず高谷戦で完結して、今年は新たなテーマを考えるってことでしたけど、何か決まりました？

小見川　まだ決まってないですけど、試合をやったら、課題だったりいろんな思いとかも出てくると思うし、そのへんも含めて楽しみにしてもらいたいですね。自分でも何が飛び出すかわかんないんで（笑）。

——また〝クソッタレ〟って叫んでるかもしれないですしね（笑）。で、次の対戦相手のミカ・ミラーは〝DREAMからの刺客〟ってことになってましたけど、何人かの候補の中から選んだかたちになるんですか？

小見川　いや、自分で選んだわけではないですけど、DREAMの外国選手だったら、ジョー・ウォーレンとやりたかったっていうのはありましたね。

——ちょっと前にDREAMフェザー級王者のビビアーノ・フェルナンデスとも闘いたいとアピールしてましたよね。

小見川　まあ、やりたいはやりたいんですけど、ビビアーノ選手は3月にタイトルマッチがあるんで。

——現実的には不可能ですからね。

小見川　だったら、3番手じゃないですけど、ウォーレン選手とならやりたいなって思って。DREAMでなくても海外の強い選手を呼べるんだったら、それでもよかったんですけど。

——同じ階級でいうと、WECのチャンピオンのジョゼ・アルドや元チャンピオンのユライア・フェイバーとかも、闘いたい相手として名前を挙げてましたよね。

昨年の『Dynamite!!』では高谷裕之とのDREAM&『戦極』フェザー級GP準優勝者対決を制した小見川。この試合で09年クソッタレ劇場はひとまず完結。今年の小見川劇場も引き続き注目だニャー!

小見川　そうッスね。強い選手は大好物なんで（笑）。ただ、契約とかいろいろあるじゃないですか。

――そうですよね。でも、フェザー級最強を目指している小見川さんとしては、そういった選手たちのこともチェックされてるんですね？

小見川　そうッスね。基本的に世界基準で考えてるんで、そういう強い選手とやれば自分がどの位置にいるか確かめられると思うんで。できれば闘ってみたいなとは思ってますね。

――現段階で小見川さん的にフェザー級最強は誰だと思ってます？

小見川　一人挙げるっていうのは難しいですけど、トップ3となると、WECのチャンピオンのアルド、ユライア、マイク・ブラウンとかじゃないですかね。あとはDREAMのチャンピオンのビビアーノだったり、今度タイトルに挑戦する（ヨアキム・）ハンセンだったり。……もちろん、『戦極』のチャンピオンの金原（正徳）選手にも負けてるんで、金原選手とも、いつかはやりたいっていうのはあるんですけど。

――いま、フェザー級の層が一番厚いと言われているのがWECになりますよね。

小見川　そうッスね。層が厚いとかっていうよりも、そこに入れるって自信があるから名前を出してるんで。

――ASTRAは吉田さんの引退興行以降はいまのところどうなるかはわからないですけど、チャンスがあればWECにも上がってみたいですか？

小見川　WECに上がりたいっていうか、そこのトップとやりたいっていう気持ちのほうが強いッスね。まあでも、ASTRAもどうなるかわかんないんで、いまはミラー選手のことしか考えてないです。ミラー選手も間違いなく強い選手ですから。

――そうですよね。

小見川　自分としてはミラー選手は〝DREAMからの刺客〟って感じはないんで。それこそWECでも強い選手に勝ってる選手ですからね。

――DREAMでは前田吉朗選手に敗れてますけど、その前はWECで活躍してましたし、前田戦後も3連勝中ですからね。

小見川　そうなんですよね。ミラー選手を選んだっていうのも、DREAMだけじゃなく過去のWECの戦績だとか、最近の結果とかを見ると強い選手だと思うし、そこに惹かれたっていうのはありますね。

――ミラー選手は身長が183センチとフェザー級ではかなり規格外の選手になりますよね。

小見川　けっこう苦手なんですよねぇ。そういう手足が長い選手っていうのは。逆に言うと、苦手なんで、そういう選手を克服するうえでもやっておかなきゃいけない相手かなって。最強であるために。

――ツイッターではミラー選手のことをヘビにたとえてましたよね。

小見川　そうッスね（笑）。彼がヘビなら、自分はミーアキャットですね。

――ただのキャットからミーアキャットに進化しましたか（笑）。

小見川　今回はミーアキャットでいこうと思ってるんで（笑）。

――カエルだったらヘビに睨まれちゃいますけどミーアキャットなら問題ない……ですかね？（笑）。

小見川　ミーアキャットっぽい動きで撹乱して、最後はパンパンパ～ンってパンチで仕留められれば。

――すでにイメージはできている、と。あと、ミラー選手がATT所属っていうのも

勝ったら〝美人すぎる市議〟と対談？じゃあ、気合い入れて頑張ります！

意識してるんですよね。

小見川　そうッスね。自分のデビュー戦がアーロン・ライリーで、2戦目が（JZ）カルバンで、どっちもATTの選手なんですけど、2連敗してるんで、そろそろ借りを返しておかなきゃなって。

――その後はATTの選手とはやってないんでしたっけ？

小見川　ないッス。でもやっぱりATTは強い選手が多いし、世界でもトップのチームだと思ってるんで、そこも燃えるポイントですね。

――チームということで言えば、いまの吉田道場はどんな感じですか？

小見川　いいかたちになってきてるんじゃないですかね。

――チームとして吉田道場がATTに勝っているところって、どういうところだと思います？

小見川　そうッスねぇ。誰かが試合になったら道場とか関係なく、一緒に練習してる仲間で声かけ合って試合に臨むってところですかね。

――チームの一体感なら負けない、と。

小見川　そうッスね。まあ、ほかの道場からもたくさん出稽古に来てるんで。UFCで闘ってる岡見（勇信）選手だったり、吉田（善行）選手なんかとも練習してるんで。

――あまり階級は関係なく練習してる感じなんですか？

小見川　階級は関係なくやってますね。自分はあんまりウェートトレーニングとかはやんないんですよ。その代わり重い選手とスパーリングしてる感じなんで。

――ウェートは昔からあまりやらないタイプだったんですか？

小見川　ウェートは好きじゃないんで、大きい選手とやって力をつけてますね。

――前回の試合前は会見とかでもイライラしてる感じでしたけど、さすがに、今回の試合は大晦日のときのようなドタバタもないですし、イライラというか〝クソッタレ〟っていう感情はないんですよね？

小見川　そうッスね。……まあ、ちょっと

Michihiro OMIGAWA

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道時代は国際大会でも数度優勝するなど実力を発揮。05年5月から吉田道場に所属。その後はPRIDE、UFC、DEEPなどで活躍。09年に開催された『戦極』フェザー級GPでは準優勝、大晦日の『Dynamite!!』では高谷裕之を下すなど昨年はMVP級の大活躍。168cm、65kg。

はありますけどね（苦笑）。

――あ、ありましたか（笑）。それは何に対しての〝クソッタレ〟なんですか？　格闘技業界的なものに対して？

小見川　そうッスね。なんか面倒くさいッスよね。日本の格闘技情勢は自分にはよくわからないです（苦笑）。

――よくわからないけど、ややこしそうな感じは伝わってくると？

小見川　ややこしいッスよね。まあ、自分はファイターなんで、そういうことは気にしてもしょうがないんで、自分は自分でストーリーを作ってやっていきますよ。

――吉田さんの引退に関しては、あらためてどう思われます？

小見川　やっぱり、吉田秀彦っていう偉大なスーパースターは、ある意味、引退したら伝説の星になるわけじゃないですか。

――まあ、そうですね。

小見川　そうなると新しい星が出ないといけないと思うんで。なので、ほかの周りの星は悪いんですけど消えてもらって、俺がそこで輝きたいッスね。吉田さん以上にきれいに（笑）。

――まあでも、今度の相手は〝ミラー〟だけに、反射して向こうを輝かせないように気をつけてください（笑）。

小見川　アハハハハ！　うまいッスね、なんか『kamipro』っぽいなぁ（笑）。

――いやいや、全然うまくはないと思いますけど（笑）。でも実際に吉田さんの引退後は、吉田さん以上に輝いてもらわないと吉田道場的にもよくはないですからね。

小見川　ですよね。まあ、伝説の星のためにも自分がそれに負けない輝きを放って恩返しできればなって。

――そういえば、ジェイロックで〝美人すぎる市議〟で知られる藤川優里さんの政治活動以外のマネージメントをすることになったみたいですね。

小見川　あ〜、なんか聞きましたね。

――個人的に会ってみたいっていうのもあるんで、ミカ・ミラーにいいかたちで勝ってもらって、試合後に対談でもやれたらいいなって勝手に思ってまして（笑）。

小見川　あ〜、それいいッスね。

――まあ、出てきてくれるかどうかはわかんないですけど、可能性はゼロではないと思うんで、國保さんにお願いしてみます！

小見川　アハハハハ！　じゃあ、『kamipro』のために頑張りますよ！（笑）。

――ホ、ホントですか（笑）。じゃあ、いままで以上に力を込めて応援させてもらいます！　頑張ってください!!

【10年3月10日／都内・『J-ROCK workout studio』にて収録】

吉田秀彦ラストマッチ、いざ！

『吉田秀彦 引退興行〜ASTRA〜』

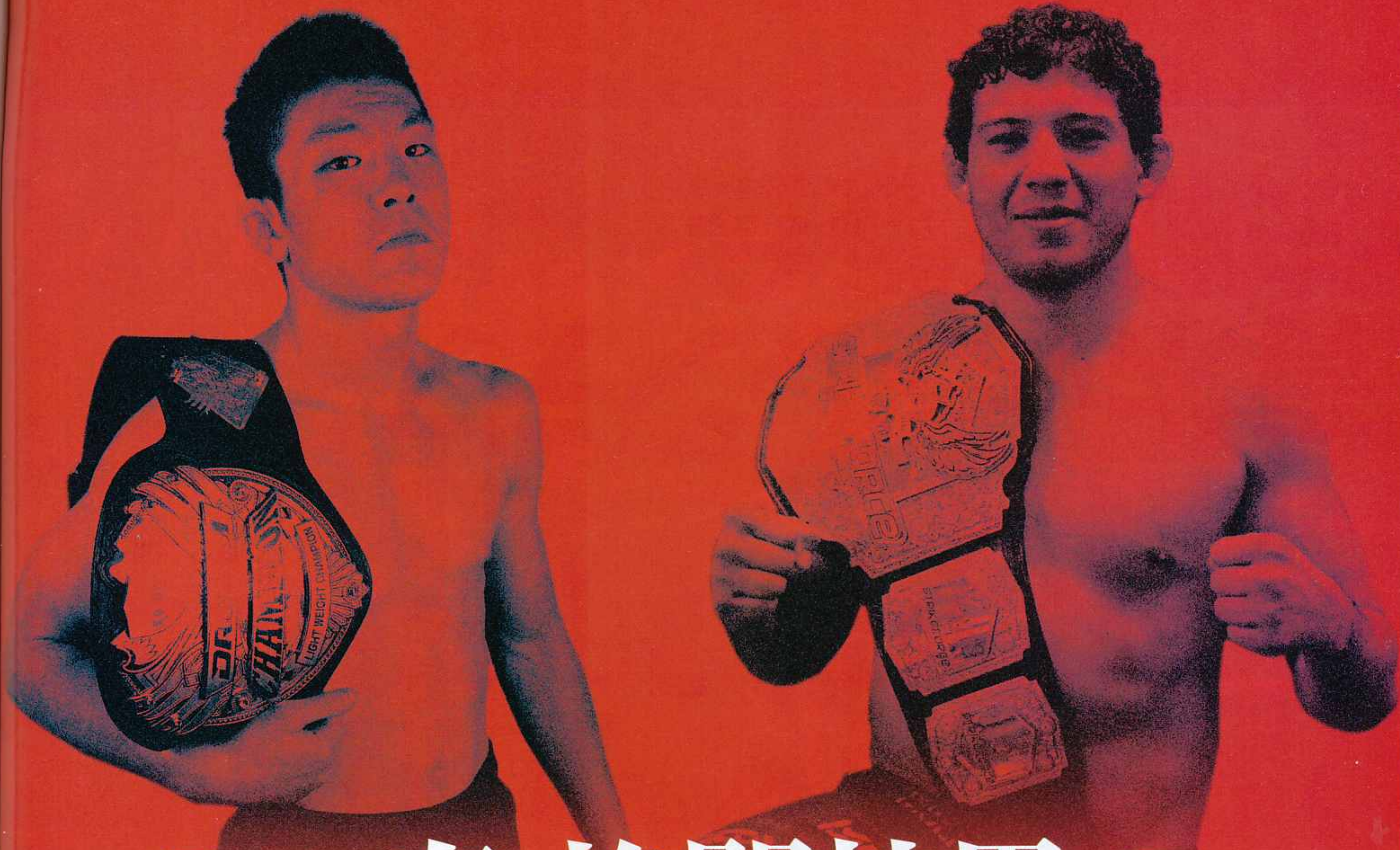
東京・日本武道館
4月25日（日）開場14:00　開始16:00

決定分対戦カード
小見川道大（吉田道場）vs ミカ・ミラー（ATT）
長倉立尚（吉田道場）vs 毛利昭彦（毛利道場）
白井祐矢（Team M.A.D）vs チェ・ミルス（M1グローバル／チーム・トロージャン）

チケット料金
ロイヤルVIP席 100,000円（完売）／VIP席 70,000円（専用ゲート、特典付き）
RRS席 30,000円／S席 17,000円／A席 7,000円

お問い合わせ
『吉田秀彦 引退興行〜ASTRA〜』オフィシャルサイト
http://www.astra-official.com/
株式会社ジェイロック代表 國保尊弘オフィシャルブログ
http://ameblo.jp/takahiro-kokuho/

この春、格闘技界の命運が決まる!

JUDGEMENT

4.17 ストライクフォース ナッシュビル大会

青木VSメレンデス決戦座談会

ついに決定した青木真也のストライクフォース出場。4.17に米国テネシー州ナッシュビルで行なわれるギルバート・メレンデスとのストライクフォース世界ライト級タイトルマッチは、単なる青木のアメリカ進出ではない!日本格闘技界全体に影響を与えるこの一戦の意味を語りまくります!

青木vsメレンデスは結果次第では日本格闘技界の浮沈にかかわる

斉藤 いやあ、ついに青木真也のストライクフォース参戦が決まりましたね！

橋本 燃えてくるね〜。

斉藤 この青木vsメレンデス戦っていうのは、以前から取りざたされてましたけど、いざ正式発表されたら、自分の中でも不思議なくらいの興奮度があるんですよ。

橋本 「やるんじゃないか？」とは言われてたけど、いざ正式発表記者会見を目の当たりにすると、燃え上がり方が段違いなんだよね。

ガンツ 「やるやるとは聞いていましたが、ここまでやるとは知りませんでした」という、辻よりなりイズムですね（笑）。

橋本 ヒャッホー!!……って、違うよ！（笑）。でも、あの会見では青木の決意の大きさや重さみたいなのが凄く伝わってきた。

斉藤 今回のストライクフォース参戦、そしてメレンデス戦というのは、なんでこんなに燃えるんですかね。もしかしてTOYOTAとイルカのバッシングでみんなアメリカにイライラしてるのかな。

橋本 そんなわけないだろ（笑）。単純に「よくぞこのビッグカードが実現した！」っていうことプラス、もの凄く深い意味がある試合だってことだよね。

ガンツ 勝敗いかんによっては、日本マット界の浮沈に関わるってことですよね。

松林 俺はそっちのほうがデカい気がするな。今年のDREAMはまだ始まってもいないのに、いきなり合格発表の日が来ちゃうというか。

ガンツ 勝てば、これからいろんな展開が見えてくるけど、もし負けたら、DREAM自体が「閉店ガラガラ」って感じで。

斉藤 ただでさえガラガラなのにますます……っていう嫌みを言い忘れるほどですよ！

橋本 おもいっきり言ってるじゃねーか！（笑）。だいたい日本で一番大きい団体の現役チャンピオンにして、事実上のエースが海外の大会に乗り込んでタイトルマッチをするっていうシチュエーション自体が初めてだよね。

DEEP道場で飾り気なく行なわれた青木真也のストライクフォース参戦会見。しかし、サービストークの中に潜む青木の言葉の端々からは、この一戦に対する責任の重さ、覚悟がうかがえた。

ガンツ 団体のトップ同士っていう意味では、青木vsJZカルバンが最初に実現したときに近いけど、あれは旧PRIDE vs『HERO'S』という、すでにない団体の"イメージ"を背負った闘いだった。今回はリアルに団体を背負ってるわけだからね。

松林 あと、これまでの海外大会参戦の流れでいうと、青木真也がストライクフォースに参戦するといっても、最初の相手は関脇とか小結クラスでいいと思うよね。

橋本 まずは"顔見せ"ですよね。

松林 それが今回は、いきなりチャンピオンシップだもんな。

斉藤 言ってみれば、新日本vsUインターの対抗戦でいきなり実現した、武藤敬司vs高田延彦ですよ。

橋本 まあ、ストライクフォースvsDREAM対抗戦という見方をすると、メレンデスvs石田光洋というのがあるんだけどね。

斉藤 それは新日本vsUインターでいうところの"9・23横アリ"になるのか。

橋本 石田が顔面腫らした安生洋二か（笑）。

ガンツ ということは、青木真也も武藤敬司に4の字固めで負けた高田延彦と同じ運命に……。

斉藤 控室へ引き上げる高田にファンが叫んだあの名シーン「高田、前田が泣いてるぞ!!」ならぬ「青木、川尻が泣いてるぞ！」……って何を妄想させるんだ！

橋本 存亡を懸けた対抗戦というと、どうしてもそういうことを思い出しちゃうのがイヤだけどね。ただ、こういうあとがない感じっていうのはやっぱり燃えるし、こんなの何年に一度のことだろうからね。

斉藤 だから、こうやって青木が日本を背負って闘う立場になったことで、ようやく青木に思い入れが湧いてきた人も多いと思うんですよ。ウチの座談会でもマッハ戦、シャオリン戦のあと「青木が求心力を増すのは日本を背負ったときだ」って話したじゃないですか。そのシチュエーションがようやく来ましたね。

橋本 日本の中での青木はちょっと意味不明な、手のつけられない怪物的な部分もあるけど、日本を背負った瞬間に「こいつしかいない！」っていう頼もしさが誰よりも出てくる。

ガンツ でもこんなカード、スコット・コーカーもよく組むよね。ここ半年くらいのストライクフォースのカードって、スコットが自分で観たいカードを組んでるんじゃないかって思うほど、コアファンのツボを突いてくるよね。

斉藤 今回はCBS全米放送なのに、とても地上波向きのカードとは思えないですよね。

橋本 青木vsメレンデス以外に、ダン・ヘンダーソンvsジェイク・シールズ、ゲガール・ムサシvsキング・モーでしょ？ 俺に向けて組んでるんじゃないかっていうくらい、どストライクだよ！

斉藤 どストライクフォース（笑）。

ガンツ 日本向けマッチメイクのセンスでいったら、SRCの100倍あるというか（笑）。

橋本 コラコラコラ！（笑）。でも、アメリカでは「地上波向き」っていう考え方そのものが違うのかもね。

ガンツ たぶんネームバリューうんぬん以上に、よりハイレベルなものを見せるっていうのがスポーツ中継の基本なのかもしれない。

橋本 でも、こんなカード組まれたら、日本から行かないわけにいかんでしょう。俺はもう"密航"するって決めてるから。

斉藤 いまどき"密航"なんてターザン用語を使ってる人いませんよぉぉぉお！

ガンツ しかし、アメリカの南部に密航って凄いな（笑）。

橋本 テネシー州だよ。

ガンツ ジェリー・ローラーだね。

橋本 そう、キングだよ。……って関係ないだろ（笑）。

ガンツ ちなみに五味隆典のUFCデビュー戦が行なわれるノースカロライナ州シャーロットは、かつてNWAクロケットプロの本拠地だった場所です。

橋本 もっと関係ないよ！（笑）。

松林 でも、ナッシュビルってカン

座談会出席者

橋本宗洋
日本が世界に誇る重量級ライター。青木真也とはトークイベント「格闘秘宝館」でたびたび共演。昨年11月に続きストライクフォース現地取材を敢行する。

堀江ガンツ
小ちゃい頃からプロレスばかり観てた変態のくせに、最近はUFCにかぶれる、通称"ミスター北米"。ダナ・ホワイトとヴァンダレイから「さっさと英語を覚えろ」とダメだしされた男。

松林 貴
うまいものと、おもしろいことがあるところにひょっこり現われる本誌編集次長。UFCを愛し、プレスなのになぜか自腹で飛行機&入場券を買って会場にひょっこり現われることも。

ジャン斉藤
本誌編集長。ツイッター特集に向けて、現在毎日iPhoneでつぶやき中。本誌青木番でもあり、今後の日本格闘技界のためにも、青木vsメレンデス戦の結果が心配でしょうがない男。

に始まり、青木の中指で終わったけ
ガンツ　あのときはとんでもない大
ガンツ　でかいですよね。普通に90
斉藤　もう聞きたくない〜、こんな
いんでしょう。シーザーのところも

左からニック・ディアス、ジェイク・シールズ、そしてメレンデスと、ストライクフォース3階級王座を独占するシーザー軍団。この最強軍団全体が青木の相手なのだ。

トリーミュージックくらいしかない町だからね。凄いところでやるよな。
斉藤　そんなのんきな町で、日本格闘技の命運が決まるわけですか。『kami pro』の青木番としては凄く胃が痛い……。
橋本　ホントにメチャクチャ観たいけど、悪いほうの結末を考えると観たくないカードだよね。
ガンツ　でも、まだファンとか関係者のあいだで、そこまで切羽詰まった思いというか、危機感みたいなのってあんまり感じないよね。
斉藤　メレンデスが日本で過小評価されてるところがあるんですよね。
ガンツ　ファンの声とかでも「メレンデスならいけんだろ」くらいの意見ってけっこう多いもんね。
橋本　本当に⁉
ガンツ　石田くんと1勝1敗、ジョシュ・トムソンとも1勝1敗だから、UFCファイターと比べたら、たいしたことないとか思ってる人いるんだよね。
橋本　それはずいぶんな認識不足だな〜。
ガンツ　みんな最近のメレンデスの試合を観てないんだろうね。昨年12月のジョシュ・トムソン戦なんて、超強かったよ。スタミナも底なしだし。PRIDEに出てた頃と全然違う。
橋本　石田とトムソンと1勝1敗といっても、最新の試合でどちらにも勝ってるからね。
斉藤　だいたいね、今回の青木vsメレンデスを「これで日本ライト級のレベルがわかる」とか、そういう視点で語ってるヤツの気が知れない。
ガンツ　「ロングスパッツを脱いで、

メレンデスは過小評価されている　いまやPRIDE時代とは別人

ようやく青木の本当の実力がわかる」とかね（笑）。
斉藤　なんで語るポイントがそこなんだって！
橋本　「本当の実力」うんぬんの言いぐさっていうのは、逆に言えばJZとかヨアキム・ハンセン、エディ・アルバレスなんかに失礼ですよ。要は日本格闘技界全体をバカにしてるんだよね。
斉藤　「スパッツ」とか「ネバダ州ルール」とか、ホントにつまんないこと言ってる人が多すぎるんですよ！
橋本　もちろん、そういうルールやケージの中で青木がどんな闘いをするのかっていうのは興味があるんだけど、そこばっかり見ててもこの闘いの本質は見えないよね。
斉藤　もっと大きな意味合いの試合ですよ。だって日本って、興行面ではアメリカに完敗してるわけじゃないですか。
橋本　〝敗戦国〟ですよ。
斉藤　でも、ギリギリ日本の総合格闘技、〝ジャパニーズMMA〟という、アメリカMMAとは違う文化だけは守ってる状況だと思うんですよ。まあ、スーパーハルクとかはどうでもいいんだけど、日本には力道山から脈々と流れる格闘技文化があるわけでしょ。でも、もし今回青木が負けたら、その流れすらも分断されかねない。格闘2等国になりますよ！
橋本　国連にたとえるなら、議長国はアメリカに移ったけれど、まだ常任理事国ではあると思うんだよ。でも、結果次第では非常任理事国に格下げか、ヘタすりゃ鎖国だよね。「もう世界とか、いいっスわ」っていう。で、後楽園ホールとかディファ有明とか新宿FACEで大会やって、選手の手売りチケットで友だちが来てワーワーやってるだけみたいな格闘技界になっちゃう可能性だってあるよね。
ガンツ　修斗の世界タイトルマッチのように（笑）。
橋本　よけいなこと言うな！（笑）。
斉藤　やっぱり、格闘技には「最強」というイメージ、幻想って必要なんだよね。去年のDREAMフェザー級GP、ウェルター級GPにいまいち乗りきれなかったのって、やっぱり「優勝しても最強じゃない」「何を決めてるのかわからない」っていう疑問が観る側の心のどこかにあったからだと思う。
ガンツ　ましてやウェルター級GP王者のザロムスキーが、早くもニック・ディアスにKO負け食らってるからね。
斉藤　でも、ライト級にはまだギリギリ、世界最強を競っているという感がありますから。最後の最強幻想すら、青木は背負ってるわけですよね。
橋本　世界につながる唯一の窓口という意味合いもあるよね。
斉藤　日本格闘技界の命運がかかってるんだから。ゼロゼロ年代は桜庭

青木vsメレンデス決戦座談会

に始まり、青木の中指で終わったけど、2000年に桜庭がホイスに勝ってくれたからこそ、この10年間の盛り上がりがあったわけで。大げさに言えば、青木vsメレンデスも今後10年間を左右する試合ですよ。

橋本 たぶん試合後に「2010年4月17日以前、以後」みたいな格闘技史の分け方ができると思うよ。

ガンツ だから、青木vsメレンデス、五味vsケニー・フロリアンが同時期にあるっていうのは、2000年に桜庭vsホイス、田村vsヘンゾがあったのと同じような意味合いがあるよね。

橋本 これワンセットだよね。連鎖してる。

斉藤 これはね、偶然じゃないですよ、きっと。誰かいいシナリオライターいるんだろう、間違いない（笑）。

橋本 五味vsケンフロは過去から現在につながる試合であり、青木vsメレンデスは現在から未来につながる試合。そのワンセットだよね。ある意味で「日本」が問われる。格闘技大国、格闘技王国って日本が言われたことの意味が問われるよね。日本人選手のトップ、その実力が否定されたら「結局、日本はお金持ってたから、いい外国人選手を呼べてただけ」ってことになっちゃう。

ガンツ しかも今回のメレンデスって厄介なことに、桜庭にとってのホイスより強敵だと思うんだよね。

橋本 ああ、そうかもしれない。

青木vsメレンデス戦はある意味 桜庭vsホイス戦以来の重要度

ガンツ あのときはとんでもない大一番ではあったけど、桜庭が負けるような気もしなかったから、ある意味、安心して観てられた。でも、今回は期待と不安がごっちゃになってるでしょ。

橋本 勝負の大きさが桜庭vsホイス戦で、勝負自体は桜庭vsヴァンダレイ・シウバというか。

斉藤 また縁起でもないこと言わない！（笑）。

松林 今回も「青木真也が勝つ」って思いたいし、言いたいんだけど……、やっぱり恐怖心が先にくるよね。

ガンツ だいたいこんな大事な一戦がアウェーであるアメリカで、青木にとっては初めてとなるケージで行なわれるわけだからね。

松林 そういうハンデ込みで、心配だよなあ。

橋本 あと、不安がよぎる要因としては、メレンデスのファイトスタイルがあるよ。この数年で青木が負けたのってヨアキムであり、マッハでしょ。メレンデスのスタイルを考えると、それと同じような思いがちょっとよぎるよね。

松林 だってメレンデスって、普段の体重はマッハくらいあるもんね。

ガンツ でかいですよね。普通に90キロ近くある感じで。

斉藤 いやだな〜、もう観たくないな。

松林 そこから絞って前日計量でリミットギリギリで、もう翌日には戻ってるだろうからね。

ガンツ で、パワーと打撃の圧力がとんでもなくあるんだから。不安は募るよな……。

斉藤 もう言わないでくれ（笑）。

ガンツ さらに言えば、メレンデスは青木戦に向けた練習相手に事欠かないんですよ。ニック・ディアス、ネイト・ディアス兄弟にジェイク・シールズっていう、世界トップクラスの寝技系ファイターを〝仮想・青木〟にして練習してるわけだからね。

昨年8月には、石田光洋に完勝してリベンジをはたしているメレンデス。このときも石田のタックルをことごとく切っていたが、青木はテイクダウンを奪うことができるのか?

斉藤 もう聞きたくない〜、こんな話（笑）。

松林 だからさ、ホントにリスクがデカすぎるんだよね、今回の試合は。

斉藤 『kamipro』の青木番として言わせてもらえば、これまでの青木の大一番。カルバン戦、ヨアキム戦、廣田戦とか、相手は実力者なんだけど、それでも「青木が勝つだろう」っていう安心感みたいなのがあった。でも、今回のメレンデスはアウェーだったり、そういった状況だったりも含めて怖いですね。

橋本 やっぱり敵地だし、初の金網だし、ヒジもあるルールだしっていうのは当然関わってくるし、そういう心配はもちろんあるよね。でも、青木ってどんな強いヤツにでも勝てそうだけど、もろさも併わせ持ってるからね。打たれ強いタイプじゃないから。

ガンツ そういう相性でいうと厄介だよね。だいたいシーザー・グレイシー道場なんて、ワルの溜まり場でしょ。暴力柔術だもん。

斉藤 暴力柔術！（笑）。

ガンツ あと怖いのは、青木真也という選手は青木自身が司令塔で、青木自身が日々いろいろ考えてトレーニングしてるわけでしょ。でも、向こうは作戦参謀のコーチがガッチリやってて、選手はその指示どおりにひたすら練習するだけっていうチーム体制が完全にできあがってるんだよね。

橋本 へんな話、アメリカのトップクラスって団体戦でやってるよね。

ガンツ それは、一流のコーチはちゃんと稼げるっていうところも大きいんでしょう。シーザーのところもそうだし、AKAなんかもそう。有名なところではGSPのコーチであるグレッグ・ジャクソンとかね。

橋本 青木が作戦をどう組み立てていくか。青木には練習仲間はいるし、師匠の中井先生もいる。そういう人たちが向こうに負けない〝参謀〟になれるかどうかだよね。ツイッターによると、北岡がメレンデスのビデオ見てたみたいだけど。

松林 だから、これはちょっと言い方がよくないけど、刺しにいったら、アメリカなだけに撃たれて帰ってくるようなことが……。

ガンツ また、そんな縁起でもないことを！（笑）。

斉藤 でも、逆の立場で考えると、メレンデスのほうも青木が何をやってくるかって当然怖いわけでしょ？

橋本 もちろん、そうだよ。「俺たちの知らない技を仕掛けてくるんじゃないか」みたいな。アオキプラッタ2とか3とか。

斉藤 だいたいエディの足を折り、廣田の腕を折り、しかも中指立ててリング上で騒ぎ回ってる人だからね。

橋本 クレイジー・ジャップですよ。

ガンツ クレイジー・ジャップ（笑）。でも、ホントに大一番の前に相手の幻想が大きくなるっていうのは、もちろんお互い様なんだよね。

斉藤 いま頃ね、アメリカのメレンデスファンはシンヤ・エイオキのキラーぶりに、五味調で言うと、夜も眠れてないはずですよ。俺にはわかる（笑）。

ガンツ だから今回の試合って、青木にとってもの凄く大きな意味のあ

る試合だけど、メレンデスにとってもファイター人生最大の一戦なんだよね。CBS全米生放送でのタイトルマッチなんだから。ここが億万長者になれるかどうかの境目だと思ってるはず。

橋本 モチベーションはとんでもなく高いだろうね。

ガンツ ここで勝てばファイターとしての知名度も地位も上がるし、スポンサーだって大きな企業がつくだろうし、人生が変わる可能性がおおいにあるわけじゃん。それをチーム全体でサポートして、試合に挑むわけだからね。

斉藤 だから青木にも、できるかぎりのサポート体制をつけてほしいよね。もちろん中井先生や北岡がいてくれるのも頼もしいんだけど。

橋本 少年漫画のノリで、ここはライバル同士が一致団結してほしいよね。川尻やマッハが「俺がスパーリングパートナーになってやるぜ」ってDEEPジムに来たりね。そういう妄想しちゃうよ。

ガンツ あとは、やっぱり五味隆典でしょう！ メレンデスはレスリングベースのハードパンチャーだけど、それってまんま五味隆典のスタイルだからね。

橋本 五味にとってもそれはいいはずなんだよね。対戦相手のケニー・フロリアンは手足が長くて寝技が強い。これってまんま青木真也なんだから。ここは一つ、合同スパーリングやってほしいな～。

斉藤 〝サイヤ人〟という巨大な敵が目の前にいるんだから、孫悟空とピッコロが共闘しないと！ まあ、どっちが悟空かで揉めそうだけど（笑）。

橋本 もしくは、フリーザと闘うために、悟空とベジータが手を組むとかね。

ガンツ 川尻&石田くんは、なんか天津飯&チャオズって感じだし（笑）。

橋本 勝手なイメージで語るな！（笑）。でも、ホントに少年漫画のノリで一致団結してもらいたいよ。

ガンツ だって、今回の青木vsメレンデスって青木だけの問題じゃなくて、大げさに言えば、日本格闘技界に関わってる人みんなの生活がかかってるわけだからね。

斉藤 いや、ホントにそうですよ。冗談じゃなく、日本格闘技界のこの先10年間にかかわってくる。

松林 そういう意識はあるのかな、ほかの選手たちには。

橋本 どうなんでしょうねえ。

斉藤 中にはそういう意識がある人もいるでしょうけどね。たとえば朝日昇なんかは、ウチでコメントもらったときも「青木が通用しなかったらおしまいでしょう」みたいなことは言ってるから。選手より、マスコミを含めた業界関係者にそういう危機感がない感じがしますけどね。

橋本 なんか普通に、いち選手がUFCやWECに挑戦するのと同じような感覚なのかな。そういう人たちにとっては。

斉藤 だから青木のストライクフォース参戦会見のとき、それをすぐ感じたんですよ。周りの記者とかの反応見て「あ、この人たちはそういう危機感みたいなのないんだな」って。まあ、スポーツ紙とかは総合格闘技自体あまり取り上げなくなってるし、2～3年でほかの部署に異動するからジャンルがどうなろうが知ったこっちゃないのかもしれないけど。

橋本 もともと、いまの総合格闘技界のグローバルな現状を知らないっていうのもあるんだろうね。

斉藤 やっぱり、青木が〝最強〟っていうイメージを背負うことで、日本格闘技界を精神的に支えてることとか、〝日本の格闘技〟っていう文化的な面を支えてるってことにピンときてないんだろうね。

青木vsメレンデスの約2週間前に、ついにUFCデビューをはたす五味隆典。この男の活躍もまた、日本格闘技界の浮沈を担っていることは言うまでもない。

青木も五味もマット界のために いまこそ一致団結してほしい

松林 っていうことは、青木vsメレンデス戦も五味vsフロリアン戦と同じ感覚でとらえているってこと？

斉藤 まぁ、そうでしょうね。

松林 そりゃあダメだよなあ（笑）。

斉藤 もちろん五味vsフロリアンも間違いなく大一番なんだけど、青木vsメレンデスとはちょっと違う意味合いがあるじゃないですか。

松林 ちょっと違う意味合いじゃなくて、ま～ったく違う意味合い（笑）。

橋本 五味は個人の挑戦だけど、青木の場合はDREAMや、〝いまの日本総合格闘技〟全体に影響を与えることだからね。

ガンツ でもね、スポーツ紙なんかも含めたあんまりピンときてない業界関係者の人たちにとって、青木vsメレンデス戦って五味vsフロリアンどころか、秋山成勲のUFCデビュー戦よりもはるかに低いくらいに思ってる。

松林 そ、そ、そうなの!?

ガンツ 絶対そう。青木がスポーツ新聞的価値観では、そんな大物じゃないから。実力はともかく、〝見出しファイター〟じゃないから。

松林 なるほど。スポーツ新聞って偉いんだなあ（笑）。

ガンツ だから、いま日本の格闘技界がコアファン以外で盛り上がらないっていうのはそこに問題があると思うよ。PRIDE全盛期っていうのは、〝見出しファイター〟と本当のメインイベンターが一致してたんだよね。でも、いまは本当に大事な試合が「マニアック」で片づけられてしまう。

斉藤 だからこそ、ウチだけでもどんどんと太鼓を叩いて盛り上げていきたいですけどね。

橋本 だから、もし青木が負けたとき自分たちがどんな気分になるか考えてみればいいんだよ、みんな本当に。

斉藤 で、厄介なのは、青木がもし負けたらその報道っていうのは、日本格闘技界にとっての〝玉音放送〟なわけじゃないですか。でも、それを聞いてもなんとも思わない人がたくさんいるんじゃないかって。それでも日本が戦争に勝ったと思ってる〝勝ち組〟じゃないけど（笑）。

ガンツ だからさ、日本格闘技界の現状ってPRIDEがなくなって〝焼け野原〟みたいになってるわけじゃん。アメリカ格闘技界に敗戦を喫してね。で、青木っていうのは、瓦礫の山から出てきた新しい芽なんだよね。いまは小さな芽だけど、それって今後のことを考えると凄く重要で、育ててあげなきゃいけないものじゃん。でも、青木vsメレンデス戦にピンときてない人って、そこに気づいてないんだよね。

斉藤 PRIDE時代の大きな木に比べたら、そんな小さな芽はどうでもいい、と。

青木vsメレンデス決戦座談会

なんだったらドンキの安田会長もナッシュビルまで来てほしい（笑）

ガンツ　俺らはこの芽が大きな木になって、森になってっていう可能性があるから大事にしたいと思ってるんだけど、「そんな小さい芽がちょっと大きくなろうが、枯れようが、瓦礫と変わんねぇじゃん」っていうふうに思ってるマスコミ連中ばっかりなんだよ。

橋本　あとは瓦礫の中で、闇市で儲けることしか考えてないとかね。

斉藤　そういう風潮に目にもの見せるためにも、青木の狂気が炸裂してほしいですね。

橋本　ここは激勝してほしいよ！　まあ俺たちっていうのは試合前はどうしても悲劇を想像して、ゾクゾクするっていう嫌な習性がついちゃってるんだけど。

ガンツ　変態的には、〝負けたらどうしよう〟っていう不安感も快感だからね（笑）。

橋本　胃が痛くなるのがうれしい、みたいなね（笑）。

ガンツ　ちょっと気持ちが燃え上がることを言わせてもらうと、皆さん想像してみてください、と。アメリカの大観衆の中で青木真也が〝バカサバイバー〟で入場してくるシーンを！

橋本　あ～、シビれる！

ガンツ　海外の試合で何がしびれるって、そういうシーンだから。ミルコがPRIDEのテーマで入場してきたり、ヴァンダレイがいつものテーマで登場したりね。だって郷野がラスベガスで〝矢島美容室〟で入場してきたときも、心に火がともったからね（笑）。

昨年11月にストライクフォースに訪れたときのショット。このときも青木はコアファンに大人気だったが、今回はCBSの電波に乗り、全米に衝撃を与えてほしい！

橋本　やっぱそうなっちゃうよね。川尻vs魔裟斗のときなんかもさ、川尻がDREAMのスタッフ引き連れて入場してくるのとか、燃えたもんな。だから、今回のメレンデス戦も佐伯さんが一緒に入場してきたりしてほしいよ。ま、同じ日にDEEPの興行が日本であるんだけど（笑）。

松林　俺、今回何が一番残念かって、青木真也についていってほしい佐伯さんが不在なことなんだよ。

橋本　でも、この前の会見のときに真顔で「俺もアメリカ行くかなぁ。うちの興行は任せといても大丈夫だからな、大丈夫だよ」って言ってたけどね（笑）。

斉藤　ここは佐伯さんも行くべきですよ！

橋本　MIKUの引退セレモニーにいないわけにはいかないけどねぇ。でも、今回の青木vsメレンデスは日本格闘技界の総力戦で挑んでほしい。それぐらいの試合なんだからさ。みんなで危機意識を共有してほしいよね。

斉藤　なんだったら廣田にも来てほしいし、ドンキの安田会長も会場に来てほしい！（笑）。

橋本　ケージサイドに安田会長がいたら涙が出るね（笑）。

松林　みんなで「刺しにいけ！」っていうか、「撃ちにいけ！」ってハッパをかけてほしいな。

ガンツ　でも、敵地でケージっていうのはちょっと分が悪いかなぁ。相性的にもあまりよくない気がするし……（ぶつぶつ）。

斉藤　また、不安になることをつぶやいてる（笑）。

橋本　ガンツは北米の回し者だから（笑）。その点、俺はこの件に関しては国粋主義者だってくらいの勢いだね。日の丸の鉢巻きを巻いてナッシュビルに乗り込んでやる！

斉藤　ちょっと現地のヤンキーとケンカとかしないでくださいよ、恥ずかしいから（笑）。

ガンツ　なんか青木の入場シーンでノボリとか立てたいね。

斉藤　「世界一強い青木真也　頑張れ！」っていう、猪木さんばりのノボリ（笑）。

ガンツ　記者会見にも羽織袴で登場したりね。

橋本　いいね～。で、メレンデスに納豆プレゼントしたりして。これは燃えるな～。

斉藤　というわけで今回の座談会は堀江さんを中心に、不安になるようなことばかり言ってましたが、これは〝北米寄り〟の発言であることをくれぐれも忘れずに（笑）。

橋本　ミスター北米の言うことだからね（笑）。

ガンツ　でも、アメリカ格闘技界の現状を考えると、やっぱり練習環境だったりなんだったり……（ぶつぶつ）。

松林　それに、12月のトムソン戦とか最近のメレンデスの試合を観たら、誰だって不安になるよな……（ぶつぶつ）。

橋本　あ、ここにもミスター北米がいた（笑）。

斉藤　とにかく、青木の激勝を願って盛り上げていきましょう！

【10年3月10日／都内・ルノアール新宿三丁目店にて収録】

MMA新世代の出世頭は

暴言スーパールーキー

大塚隆史

暴走ファイターの遺伝子だった!?

平成のテロリスト
ビッグ村上

ビッグマウス

な、なんだなんだ、この意外な顔合わせは!?　どんな大物に対しても躊躇しないビッグマウスキャラの大塚隆史と、そのブチ切れファイトで平成のテロリストと呼ばれた現ビッグマウス・ラウド社長のビッグ村上は、じつは師弟関係にあった! 恐れ知らずのファイター二人の揃い踏み。さぁ、問答無用のビッグマウストークに耳を傾けろ!

聞き手／鈴木佑　撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄

（大塚が少し時間に遅れて登場）

大塚　すいません！　お待たせしちゃって……。

村上　いやいや、気にしないで（笑）。

――今回は意外な顔合わせといいますか、ビッグマウスキャラで注目を集める大塚さんとビッグマウス・ラウド社長の村上さんが、じつは師弟関係にあったということを聞きつけてこの対談を企画しました！

村上　あぁ、ビッグマウスつながりっていうのもあるんですね。

――はい（笑）。まず、そもそもお二人の出会いのきっかけというと？

大塚　えっと、俺が中1ぐらいのときにPRIDEが流行りだしたんですね。無差別級GPで藤田（和之）とかが活躍して。

――あ、今日も年上の選手でも呼び捨てですね（笑）。

大塚　（意に介さず）で、もともと俺は野球をやってたんですけど、いろいろあって辞めちゃったんですよ。それで「自分の長所を活かせるのは格闘技かな」と思ってジムを探してたら、友だちに「行徳のゴールドジムが格闘技のスクールやってるよ」って聞いて。

――それが村上さんが代表を務めていたJJA（順道柔術アカデミー）だった、と？

大塚　そうです。俺、当時はプロレスが大好きだったんですね。ちょうど橋本真也と小川直也の抗争にめっちゃハマってて。だからもちろん村上和成っていう名前も知ってて、「有名人に教えてもらえるんだ、いいな」って思って通いだしたんです。

村上　JJAは自分を中心に仲間内で集まって、打撃や柔術に分けて授業をやってたんですよ。当時はいまみたいに一般にも開放した格闘技のスクールはなかったんで、ある意味ではハシリでしたよね。そのときは小川さんも練習に来て、あとはたまに藤田さんとかも参加して。

大塚　俺、藤田は会ったことありますね。

――藤田（笑）。

村上　フフフ。

――どうでした、藤田さんの印象は？

大塚　「うわ、デカ！」って（笑）。当時は俺も中1で40何キロとかしかなかったんで。村上さんもデカいと思いましたよ。俺、ジムに通う前から『PRIDE』のDVDを借りてたんで、ジョン・ディクソンとの試合も観てるんですよ。村上さんが腕十字で勝ったヤツ。

村上　そうそう、腕十字。よく覚えてるね～。あの試合の頃、大塚くんはいくつ？

大塚　え～と、10歳とかじゃないですかね。

村上　10歳!?　俺も年取るわけだな（笑）。

大塚　あの頃にメインで練習を見てくれたのは、いまも僕が世話になってる小幡太郎なんですけど、月に何度か村上さんも直接教えてくれたんですよね。寝技のスパーもやりましたけど、俺はずっと押さえ込まれてました（笑）。

オレ、橋本真也のファンだったから会うまでは村上さんのこと好きじゃなかったんですよ（笑）

――そりゃ中学生と大人ですもんね（笑）。

大塚　でも単に力任せじゃなく、押さえ込みながらうまく逃がす方向を作ってくれるんですよ。なんかあのときの練習のことは凄く覚えてますね。

――村上さんは厳しかったですか？

大塚　ぜ～んぜん。だからビックリしたんですよ。村上さんは飯塚（高史）とかを「オラオラ！」ってボコってたじゃないですか？　だから「アレ？」って思って（笑）。

――ダハハハ！　村上さんの表情や迫力は凄まじいですもんね。

大塚　でも実際は優しくて。俺、橋本ファンだったから、会うまでは正直、村上さんのこと好きじゃなかったんですよ（笑）。

村上　ハハハハ！

――村上さんの大塚さんへの印象は？

村上　いや、じつは取材のオファーが来たときは「大塚……？」っていう感じだったんですよ。俺も最近の総合は観てないんで、ここに来る車の中でもずっと「誰だろう？」って（笑）。

ス師弟対談

大塚　もう10年以上も前ですからね。

村上　確かにあの当時、何人か中学生がいたのは覚えてるんです。そうしたらさっき小幡に「ほら、あの生意気なヤツですよ」って昔の話を聞かされて、「あ～、あの時間にルーズなヤツか！」ってわかったんですよ（笑）。

――ダハハハ！　その頃から遅刻してましたか（笑）。

大塚　へへへ……（恥ずかしそうに）。

村上　で、「太郎ちゃんがよく怒ってたヤツ？」って聞いたら、「そうそう」って（笑）。そこから一気にバーッといろいろ思い出しましたよ。大塚くんはいつも3回に1回ぐらいは遅れてくるんですけど、堂々と「おはよ～ございま～す！」って挨拶するようなマイペースなコでね。

大塚　あぁ、いまもちょっとそうかもしれないです（苦笑）。

――いまも（笑）。

大塚は09年DREAMフェザー級GPに最年少出場するも、1回戦でビビアーノ・フェルナンデスに判定負け。「俺、KIDに勝った金原に勝ってるんですけど、KIDに負けたビビアーノに負けてるんですよね（笑）」（大塚談）

村上　で、「みんな練習してんだから早く準備しろ！」って言われても「は～い」って答えて、なんかやる気があるのかわからないような感じで。でも、いざ練習が始まると妥協しないんですよね。自分が押さえ込んでもとにかくガムシャラで。
大塚　あの頃はよく小幡さんには泣かされてましたね（笑）。俺は学校生活も悪さばっかしてたんで、小幡さんから「そんなんじゃ強くなれねーよ」って言われたり。
村上　でも、そこから頑張ってこの若さでチャンピオンになったんだから凄いことですよ。だってありえないじゃないですか？　自分の中では子どもだったのに、「え、あのコがDEEPのチャンピオンに？」みたいな感じですよ。
大塚　へへへ（得意げに）。やっぱり俺にとって村上さんは最初にお世話になった人なんで、いまの姿を見せられてうれしいですね。「プロで頑張ってます」レベルだったらアレでしたけど、「チャンピオンになりました」っていうのはいつか伝えたいなと思ってたんで。

00年代前半、小川直也とともにその暴走ファイトで新日マットを席巻した村上。その感情ムキ出しのファイトは当時現場監督だったあの長州力をして、「アイツの気迫はいいよ、うん」と言わしめるほどだった。

――大塚さんは村上さんがJJAを辞めてUFOに入団したときに、阿部兄さんのAACCに入ったかたちですか？
大塚　いや、村上さんが辞める頃には、もう俺はAACCに入ってましたね。で、その頃は総合よりもレスリングに没頭し始めて。俺、中学の頃からプロの格闘家になりたいと思ってたんですけど、そのベースを作るために高校のレスリング部へ練習に行ってたんですよ。それもあってか、頭は悪かったけど高校にも進学できて（笑）。
――UFO以降の村上さんの活躍は見てました？
大塚　俺、レスリングを本格的に始めた頃にちょうど橋本vs小川の抗争も一区切りついたこともあって、プロレスに興味がなくなっちゃったんですよ。だから村上さんの試合はPRIDEで佐竹（雅昭）とやったのとか、あとは大晦日のステファン・レコ！　武蔵が村上さんに花束贈呈したのに、その花束で村上さんが武蔵のこと殴

自分の中では子どもだった大塚くんがDEEPの王者になるなんてありえないよ

りつけたのは最高でしたね（笑）。
村上　あぁ、あったね～（笑）。
大塚　だから最近の村上さんの試合は正直観てないんですけど、その動向とかは人づてに聞いたりしてて。なんか長いあいだ欠場してたんですよね？
村上　そうそう、脳の負傷で最近までね。2月11日に復帰したばっかりなんだけど、2年7ヵ月欠場してたの。
大塚　そんなにですか⁉　もう体調は大丈夫なんですか？
村上　復帰したときは万全じゃなかったんだよね。でも、試合せざるえない状況を自分で作ってしまったというか。まぁ、相手も相手だったし（佐々木健介）、自分はこれまでにも何度もリングで死にかけてるし、今回は勝ち負けとか超越して生きてリングを降りられればいいかなって。
大塚　それ、ハンパじゃないですね……。
村上　で、ちょうど昨日、復帰してから初めての検査が終わってね。医者からは「とりあえずOKだけど絶対に無理しちゃダメだ」と。いままでは「リング上で死ねれば本望だ」みたいな感じだったんけど、最近はやっぱり家族もいるわけだし、それは違うって思うようになったね。リングをしっかり降りることもプロっていうか。それが一つの礼儀であり、自分への責任なのかなって最近は思ってる。
大塚　……（神妙な表情で）。
――ファイターは命懸けでリングに上がる職業ですものね。
村上　自分はプロレスも格闘技も両方を体験してますけど、それはどっちも同じですよね。そもそもリングに上がること自体がまず恐怖なんですよ。でも、そういう気持ちが向上心につながるし、それがなかったらそこでストップするだろうし。
大塚　そうですね。やっぱり俺もリングに上がるときはいつも怖いですよ。それは闘う前に自信があっても同じですね。
――ビッグマウスで知られる大塚選手でも恐怖心はある、と。
大塚　あれも恐怖の裏返しってところがあるかもしれないです。ああやって言うことで自分のテンションを上げてるっていうか（笑）。それが練習のモチベーションにもなりますし、「なんだよ、あいつ口だけかよ」ってならないように有言実行しないとって思いますね。
――そもそもあのビッグマウスは大塚選手にとってプロ意識の表われだったりするんですか？
大塚　というか、普通に友だちなんかと試合を観てると「あいつ、よえーな」とか言うじゃないですか？　そんな感じでしゃべったのがたまたまDREAMの煽りVで使われちゃって、こういうキャラが浸透しただけです（笑）。まぁ、でもそれが俺の

ビッグマウス

自然体だし「これでいこう、ボンボン言ってやろう」って思ってますけど。
村上　根性据わってるねぇ（笑）。
大塚　べつに俺、ヒールでも全然いいんですよね。お客さんに無理にファンになってもらおうとかはあんまり。でも、魅力のある選手だとは思われたいんですよ。俺が大口叩くことでお客さんの中には「なんだよ、あいつ」ってむかつく人もいるだろうけど、それって逆に「そこまで言うなら試合で見せてみろ」って興味を持たれると思うんです。そこで結果を出せば魅力的な選手になれるんじゃないかなって。
村上　いいプロ意識だと思いますよ。プロ意識の話だと、自分はアントニオ猪木さんにかけてもらった言葉が印象的なんですよね。猪木さんに初めて出会った頃、はっきり言って自分は「何がプロレスだよ」って感じだった。で、あるとき猪木さんに「おまえ、リングに絵を描いたことがあるか？ それがどういうことかわかるか？」って言われたんです。だから「勝ち負けです」って答えたら猪木さんに「おまえはアマチュアだな」って言われて。そのときに凄く「恥ずかしいこと言ったな」っていう葛藤が自分の中に生まれて。
大塚　葛藤、ですか？
村上　そう。で、さらに猪木さんに「おまえ、お客さんと闘ったことあんのか？ プロは相手と闘うのはあたりまえ、勝ちにいくのはあたりまえ。そのうえ、お客さんに勝ちにいくのが本当のプロなんだ」って言われて。それで次第にプロは勝ち負けだけじゃなく、闘う者としての殺気や気持ちをお客さんに見せないとダメなんだってことがわかってきたんだよね。
大塚　深い言葉ですね……。
村上　猪木さんの言葉で自分は「プロレスって本当にプロの世界なんだな」って思ってハマったんですよ。あと、プロになってすぐ死に直面したのも自分の中でターニングポイントになりましたよね。
——1・4の東京ドームの小川vs橋本戦後に乱闘に巻き込まれた事件ですね。
大塚　俺、あのとき会場に行ってましたよ！ 小幡さんに聞いたことあるんですけど、かなりやばかったんですよね？
村上　そうそう、太郎ちゃんなんかも餌食になって（笑）。自分は顔にリングシューズの跡が5足も6足もついて、イビキかいて意識不明状態で運ばれたからね。
大塚　うわ〜、すげ〜……。
村上　自分の中に「プロレス＝危険」っていうイメージがそこでついたわけだけど、それって自分がアメリカに行って金網の中で闘ったときの感じに似てたんだよね。その頃の総合はレフェリーもストップのタイミングがわからないし、殺すか殺されるかみたいな世界だから（笑）。その感覚をプロレスでも体感したから、「命懸けてやらないと」って思って。あと、これも一種のプロ意識だと思うんだけど、最近は年を取るたびに練習量が増えてるんだよね（笑）。
大塚　え、凄いですね！ じゃあ節制とかもしてるんですか？
村上　うん。タバコも酒もやらないし、夜も22時に寝て朝5時には起きて走って。やっぱり何度か死にかけてるから、そういう生活を送るのが凄く心地いいんだよ。30すぎると体力も落ちるけれども、逆に気持ちの部分で上がってきて、両方のバランスがちょうどよくとれるのかなって。
大塚　そういうもんなんですねえ。
——大塚選手はまだ23歳ですし、実感しにくいかもしれないですね（笑）。
村上　でも、大塚くんは若いうちから「こうなりたい」っていう自分の道を進んで着実に結果を残してるから、大塚くんにしか出せないプロの味が出るのは早いんじゃないかな。
——ちなみに大塚さんがDEEPのベルトを獲った相手の三島☆ド根性ノ助選手も、中学生の頃に観てた選手なんですよね？
大塚　そうですね、10年前に阿部さんが修斗出るときに観戦に行ったら、五味（隆典）vs三島のタイトルマッチがあって。その三島から俺はベルトを獲って（笑）。
村上　おぉ、それも感慨深いよなぁ。
大塚　で、最近俺が試合して勝ったGRABAKAの山﨑（剛）さんも、もともと小幡さんが知り合いで、俺が学生のときにたまに指導してくれた人なんですよ。だから今回の村上さんもそうですけど、なんか最近は不思議な感覚が続いてるんですよね（笑）。
村上　大塚くんは世代交代の皮切りみたいな感じなんだね。たいしたもんだよ。
——さて、いま村上さんはアウトサイダーの運営にも関わってますが、不良あがりの選手たちを見てると自分の若いときを思い出したりしますか？
村上　まあ、自分もヤンチャはヤンチャでしたからね（笑）。でも、自分の場合はどっちかというと『花の応援団』的だったんですよ。チャラチャラしたのを見ると「このヤロー！」みたいな。
——硬派だったわけですね（笑）。
村上　アウトサイダーの選手を見てると、自分の出し方や表現が下手だなって思いますよ。それはたぶん不良であるがゆえに、なかなか世の中に受け入れられなかったからなんでしょうけど。そういう選手たちが格闘技を通して輝く場所を見つけられれば、それを見た下のコたちも続いていくと思うんですよね。自分もスタッフとして関わっている以上は、そういう選手たちがDREAMやDEEPに上がれるような道を作らなきゃなって思いますね。
大塚　今度、DEEPの本戦にアウトサイダー出身の加藤（友弥）って選手が出るんですよね。凄くまじめに練習してるって人づてに聞きました。
村上　あいつはアウトサイダーでMVPも獲ってるからね。
大塚　暴走族の総長だった人間がプロで活躍したら、下も「俺も頑張れば出れるんだな」って励みになりますよね。
——大塚さんも昔はヤンチャだったってお話でしたけど、格闘技と出会って更生し

見てみぃ、このツラ！ 村上といえばこの鬼気迫る表情がトレードマークだ。ちなみに村上と、大塚が所属するAACC代表の阿部兄は拓殖大学の先輩後輩の関係にあたるのだ。

09年8月のDEEPで三島を破り若きDEEP王者となった大塚。今年は再びDREAM参戦をはたすか？ ちなみにトランクスのモチーフは仲のいいメルヴィン・マヌーフなんだとか。

たような部分はありますか？

大塚　たぶん、高校のレスリングの先生と出会ったのが大きかったですね。その人はオリンピックにも出場経験があって、やっぱり内面も素晴らしい人で。その先生の姿を見てたら俺も一気にまじめになりましたよ。練習しかしてなかったですから（笑）。

――村上さんも試合では狂犬キャラですけど、リングを降りると礼儀正しいって評判を耳にしますが。

村上　まぁ、自分の場合はキャラっていうか、あれはさっき言った恐怖から出てくるものなんですよ。あとはいつも敵地に乗り込む立場でしたから、どこに行っても常に臨戦態勢っていうのもあって（笑）。

大塚　臨戦態勢ってカッコいいですよね。俺、「臨戦態勢」って書いてあった村上さんのTシャツ持ってましたもん（笑）。

村上　だから自分は「プロレスラーの友だちは？」って聞かれても、「いや、作んないです」って答えるんだよね。やっぱり作ったら情が移るっていうか殴り合いはできないからさ。

大塚　それ、俺もわかりますね。いまの総合って、いろんなところでみんなが集まって合同練習したりしてるんですけど、俺はあんまり好きじゃないんですよ。闘うかもしれない相手と仲良くなるのはどうなのかなって。

村上　確かにいまの選手はみんな仲いいよね。さっき闘った人間と普通に一緒にいて。まぁ、確かにノーサイドという言葉はあるけど。

大塚　俺はそういうのは嫌いですね。闘った相手と集まって飲んだりするのは好きじゃないです。こっちはリングで闘いを見せる仕事してるんだから。

村上　大塚くんは反骨精神が旺盛だね（笑）。そうやって周りに流されないから強くなれるんだろうね。やっぱり大塚くんなんかはいまが一番楽しい時期だと思うんだよ、飲みに行ったり合コンしたりオシャレしたり。そういう時期に脇目も振らずに総合にポーンと身を投じれるのは凄いよ。だから頭角現わすのも早いんだね。

大塚　へへへ。

いまの総合ってみんなで仲良く合同練習したりするのが好きじゃないんですよね

大塚くんは反骨精神が旺盛だね（笑）。周りに流されないから頭角現わすのも早いんだね

おおつか・たかふみ■1986年8月22日、千葉県出身。学生時代にレスリングで活躍後、06年にWカプセルでMMAデビュー。その後、DEEPを中心に活動し、09年3月に『DREAM』フェザー級GPに出場。同年8月に三島☆ド根性ノ助を下してDEEPフェザー級チャンピオンに。168cm、69kg。AACC所属。

びっぐ・むらかみ■1973年11月29日、富山県出身。95年に和術慧舟會に入門。97年に『PRIDE.1』に出場、99年よりプロレスラーとして活動。05年にはビッグマウス・ラウドの所属レスラー第1号となり、同団体の社長にも就任。07年7月より長期欠場していたが、今年2月の佐々木健介戦で復帰。186cm、105kg。

ビッグマウス師弟対談

村上　自分も30ぐらいになって気づいたんだけど、くだらない見栄や格好で遊んだ経験っていうのは、そのときは楽しいけどのちのち財産として自分に残るかっていうとクエスチョンなんだよね。大きい会社の社長の話を聞くと、「オレは26でこうなる。30のときはこうなる」っていうビジョンをみんな組んでる。で、そういう人たちは自分の目標というものに対してよそ見をしないから成功に近づくわけで。

大塚　あぁ、俺もそんな感じだったかもしれないです。俺が遊んだり悪さしないようにって、阿部さんが格闘技一本でやっていくような練習スケジュールを作っちゃったんですよ（笑）。で、もともと俺はお酒もほとんど飲まないし、遊びとかにもそこまで興味もなくて。いまはホントに強くなるために練習するのが楽しいですね。

村上　まぁ、あと大塚くんに気をつけてほしいのは、これからもっとビッグになって注目されると、周りがチヤホヤしだすってことかな。急に知らないところで友だちや先輩だったり、親戚が増えたりするから。勝手に彼女ができたりさ（笑）。

――そんなことあったんですか？（笑）

村上　知り合いが飲み屋で「プロレスが好きなんだよね」って話を女の子にしたら、「うそー、私の友だちで村上和成と付き合ってたコいるよ」って。で、こっちが名前を教えてもらっても全然知らないんですよ（笑）。まぁ、これは極端だけど、大塚くんもそういうのがあるかもしれないから。

大塚　それ、ヒドいですね！　俺も気をつけます（笑）。なんか今日は村上さんからいろいろ教わった気がします。

村上　いや、とんでもない。俺の場合は年がいっているぶん、修羅場をくぐったというか、泥を食わされた部分が多いから（笑）。

大塚　今度試合があるときにぜひ観に来てください！　ビッグマウスは伊達じゃないってところ見せるんで（笑）。

村上　うん、ぜひ！　これからも体調に気をつけて頑張って。あとは小幡太郎にも「大塚くんをしっかり見といて」って頼んでおくから（笑）。

【10年3月9日／都内・ゴールドジム行徳にて収録】

kamiproドットコムの更新情報は

twitter™

でもチェックできます!!

Follow us on Twitter

@kamipro

http://twitter.com/kamipro

週刊!? ワオ木真也

携帯サイト『kamipro ムーブ』で大好評不定期連載中の青木真也のコラムがこちらで一部のみ読めてしまう!! いま最も注目すべき世界的なファイターの素顔に迫る!!

金沢"GK"克彦 こちらプロレス村役場ドットコム

元『週刊ゴング』編集長・金沢"GK"克彦氏が、プロレス界の最前線で見てきたこと、取材したことを週一回のコラムで激筆!!

ポッドキャスト番組『mimipro』

カリスマ司会者・原タコヤキ君がお届けするプロレス&格闘技トーク番組。多彩なゲストも登場、ここでしか聞けない話もあります!!

試合速報

注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。

ニュース

カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

最新号情報

次号の表紙は？　内容は？　そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!

大好評のフォトニュースも見てね♥

プロレス&MMAの総合WEBサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

無料です!

レッツ毎日アクセス → http://www.kamipro.com/

MIKU
さよならインタビュー

**携帯サイト『kamiproムーブ』で1年4ヵ月にわたって毎日ブログを連載していたMIKU。
非常に人気が高く、1月末の連載終了時には惜しむ声が多かったのだが、
そのときすでにMIKUは引退の決意を固めていたのだ。
女子48キロ級で敵なしの状態だった最強女王はなぜ引退しなければならないのか？
2月28日『DEEP 46 IMPACT』のリングで唐突に引退を発表した前日に話を聞いてみた。**

聞き手／坂井ノブ　撮影／タイコウクニヨシ

——いやぁ、ビックリしました。

ＭＩＫＵ　すいません。ホントになんと説明していいのやらって、あのときも考えたんですけど。

——あぁ、12月下旬に本誌の携帯サイト『kamiproムーブ』の連載を「やめたい」と連絡をいただいたときですね。

ＭＩＫＵ　はい。そういう感じで、あのときいっぱい考えたので。

——気持ちが切れた中で1月末まで連載を続けていただいて申し訳なかったです。

ＭＩＫＵ　いやいや、それは自分の責任なので、逆にご迷惑おかけしてしまって。

——いえいえ、こちらこそ。というわけで、お疲れさまインタビューなんですけども。引退を決意した原因というか、大きなきっかけになったことがあったんですか？

ＭＩＫＵ　最後の試合がＷＩＮＤＹ智美選手との試合だったんですけど、あの試合のあとぐらいに気持ちの変化があって。自分でもちょっとよくわからない気持ちの変化で。いままで感じたことのない感覚だったんですね。

——それはやっぱり、相手がＷＩＮＤＹさんだからっていう部分が影響してますか？

ＭＩＫＵ　だと思いますね。ずっとデビュー当時から見てきた人で、自分の中でずっと怖い人って言ったらへんですけど、デビュー当時に初めて見て、私よりも凄い、強い、怖い選手だって思って。「絶対にＷＩＮＤＹさんとだけは試合したくないです」って言ってたぐらいの人なんですよ（笑）。その人と試合ができるようになって、試合をしたときに、もちろん勝つ気なんですけど、試合前から周りに「落ち着け、とにかく落ち着け」って言われるぐらいに気が焦ってしまって。試合でも空回りというか、そんな感じで迷いがある試合で。試合中に迷いがあること自体、ちょっとおかしなことなんです。本当は打撃戦をしたかったんですね。ＷＩＮＤＹさんと試合をする意味っていうのは、打撃戦をすることだって思ってたんですけど、思いのほか打撃戦にならなくて。寝技をする気はないんだけど、意外に寝技の展開になって。そこでまた「離れて立とうか」って考えたり。

——迷いながらの試合だったわけですね。

ＭＩＫＵ　勝ったんですけど、うれしくなくて。もしかしたら、べつにＷＩＮＤＹさんに勝ちたくなかったというか、自分が強いと思ってた人が……へんなんですけど、負けてほしくないんですよね。

雑念があること自体がありえない。いままでそういうことは一切なかった

——それは格闘技を始めた頃にＷＩＮＤＹさんの試合を観て「強い」と思って認めてたから？

ＭＩＫＵ　うん、そういう気持ちとか、そうやって勝ってもうれしくないっていうことを思った時点で、ちょっとおかしいぞってことに少しずつ気づいていったという感じで。で、次は藤井（惠）さんって言われてたんですけど、なんか、う～ん……みたいな。

——気持ちが藤井戦に向いていかなかったんですか？

ＭＩＫＵ　試合に勝ってもうれしくないとか、そういうゴチャゴチャしたものを感じたのは初めてなので。強くなるためだけにずっとやってきたのに、そうじゃないものが自分の中にある状態っていうのが初めてだったんですね。私の中に雑念があること自体がありえないんですよ。いままでそういうことは一切なかったので。雑念がある状態で練習をしてる時期がちょっとあったんですけど、耐えられなくて。これはホントに自分一人の感覚で、たぶん誰も何も思ってないんですけど、みんながただ強くなるためにやってる中で、私だけいらないことを考えながらやってるのが、凄く失礼な気がして。一緒に練習しても失礼だし、自分で許せないんですね。で、練習するのがキツくなるんです。

——身体じゃなくて精神が？

ＭＩＫＵ　そうなんですよ。私は凄い頑固者というか、私の勝手な価値観なんですけど「守るべきものがあるのに格闘技をできるわけないよ」みたいな感じなんですね、私は。死ぬ気でやらないと、死んでもいいと思わんとやれん、みたいな感じで。極端ですけどね、そういう感覚でやってきて。そうじゃなくなったらもう選手としては終わりだと思ってやってきたんで、「これがそういうときなんだ」って感じたんです。

——いつのまにか自分が変わってた、と。

ＭＩＫＵ　よく「いつまでするの？」とか「何歳までするの？」って聞かれてきたんですけど、そのときに「もしかしたら、いまかもしれないし、30歳かもしれないし、35歳かもしれないし、そのときになればわかると思う」って答えてきたんですけど、

2月27日の記者会見でMIKUの引退が発表された。佐伯繁DEEP代表、福本吉記バーバリアン代表も出席。両者が説得したものの、MIKUの決意は固かった。

死んでもいいと思って
やってきたけど
そうじゃなくなったら
終わりなんです

「あ、それがこれなんだ」ってわかったときに、もう私は選手として終わりなんだって思いました。だから原因が何かっていうのはちょっとわからないんですけど、そういうことです。

――ほかの選手に申し訳ないって言われてましたけど、みんな雑念と共存しながらやってる部分はあるとは思うんですよ。

MIKU　まあ、それはそれでいいと思うんです。でも、ただ、私はそれができないんですよ。だから一番悩んだのは、ジムのみんなとか、あと藤井さんとの試合に向けて動いていた話とか、ファンの方が藤井さんと試合することを期待していてくれたことですよね。その葛藤が凄く苦しくて。でも自分はもうできません、という……。自分の気持ちをごまかして試合をしたところで、藤井さんに対して失礼だし、みんなにそういう試合を見せることは一番してはいけないんじゃないかと思って、これでいいんだって思えたんですけど。

――周りの方との話し合いはどうだったんですか？

MIKU　福本（吉記）さん（バーバリアン代表）にも「頑固だ」「そうやって決めつけて、そんなふうにしなくてもいいよ。少し落ち着いて考えてみたらいいんじゃないか？」って言われて。よく「なんでも決めつける」って言われるんですけど、一つそうなると絶対ダメだから。「そんな0か100じゃなくてもいいんだよ」って言われるんですけど。

――でも、MIKUさんは0か100じゃないとできないんですね。

MIKU　たぶん、そうなんですよ。格闘技を始めてから私は人間が変わったと思うので。

――どういうふうに変わりました？

MIKU　まったくの別人格ですよね。私、本名は松本未来じゃないですか。柔術だけをやってるときは松本未来で、総合格闘技を始めてからMIKUになったんですけど、もう別人格なんですね。自分でも信じられない子なんですよ。人前でしゃべることもまずありえない、社交的でもないし。

――え～、そうなんですか？

MIKU　そうですよ、ホントに。だからMIKUであることに懸けてたんじゃないかなと思って。すべてを懸けるということが、信念だったんじゃないかと思うんですよね。それがなくなったときは、MIKUという選手は終わりなんだと思って。

――全部懸けるからそういうふうになれた。全部懸けられなくなった時点でそういうふうになれない。本当に0か100かですね。

MIKU　そう、だから選手としては終わりなんです。

――引退の件は藤井さんと話しました？

MIKU

MIKU　話しました。試合の話は私から辞退するかたちになるので「すみません」って。先に福本さんが言ってくれてたんで、時期を見て電話したんです。「MIKUちゃんの決めたことなんだったら、それが一番正しい答えだから、ホントに残念だけど、自分が納得して引退できるんだったら、それは一番いいことだから」って言ってもらいました。藤井さんと試合をするって話が出たのはだいたい1年前なんです。いままでは試合のときに連絡し合ったり、東京に行ったら練習に行ったり、接触は常にあったんですけど、試合の話が出てから、お互いに少しずつ距離を置いて。

――あんまり仲よくしないように意識してたんですね。

MIKU　そうですね。試合前のメールとかもちょっとずつ減らしていったり、会っても「元気？」とか「最近どうですか？」って話はするんだけど、大事なところは絶対触れないようにしゃべってたりしてて、ずっと私は距離を感じてて。それはお互いに同じだったんですけど。私にとっては特別な人だから、凄く苦しかったですよね。藤井さんと試合しないといけないっていうのは、試合をしたいって気持ちもあるんだけど、みんなの期待を背負ってるって感覚が凄く大きくて。なので、電話で話してやっと本音でしゃべれた気がします。凄く楽になったというか。でも、誤解をしてほしくないのは、試合したくないとか、そういうことじゃないんですよ。

――ただWINDYさんとやったあとで、もう一人の大きな存在である藤井選手といざ試合で向き合うってなると、それは心理的にもしんどい作業じゃないですか。

MIKU　そうなんですよね。まあ、もし試合をしてもそれが引退試合になってただろうなと思うんです。試合をやるからにはもちろん勝ちにいくつもりで。すべての集大成として、いままでのすべてを懸けてここに持っていくんだって話はずっとしてたんですよ。だけど、その試合が終わったときに、私はたぶんそこですべてが終わるっていう感覚しか持てなくて。そうやって引退するって感覚がある状態で、選手としてはやれないと思うんですよね。

――それは相当潔いなと思いますけど。

MIKU　そうですね（笑）。

――ちょうど女子格闘技が大きく変わる時期にさしかかっていると思うんですよ。こないだの『ヴァルキリー』ではV一（ヴィー・はじめ）さんが辻（結花）さんに勝つということもあったばかりだし。

MIKU　ああ、ビックリしましたね！

――で、Vさんが「誰とやりたいですか？」って聞かれて、「藤井さんとMIKUさんとやりたい」って名前を挙げてたんですけどね。引退することになりましたけど、女子格闘技は今後こうなってほしいという希望はありますか？

MIKU　わかりませんねえ（笑）。

――あんまり業界全体みたいな意識はなかったですか？

MIKU　そうですね、藤井さんみたいにああやって大きなとらえ方をされてるのは凄いなと思うんですけど。なんかね、富山で離れて孤立した状態でやってるからか、あんまりわからないんですよ。

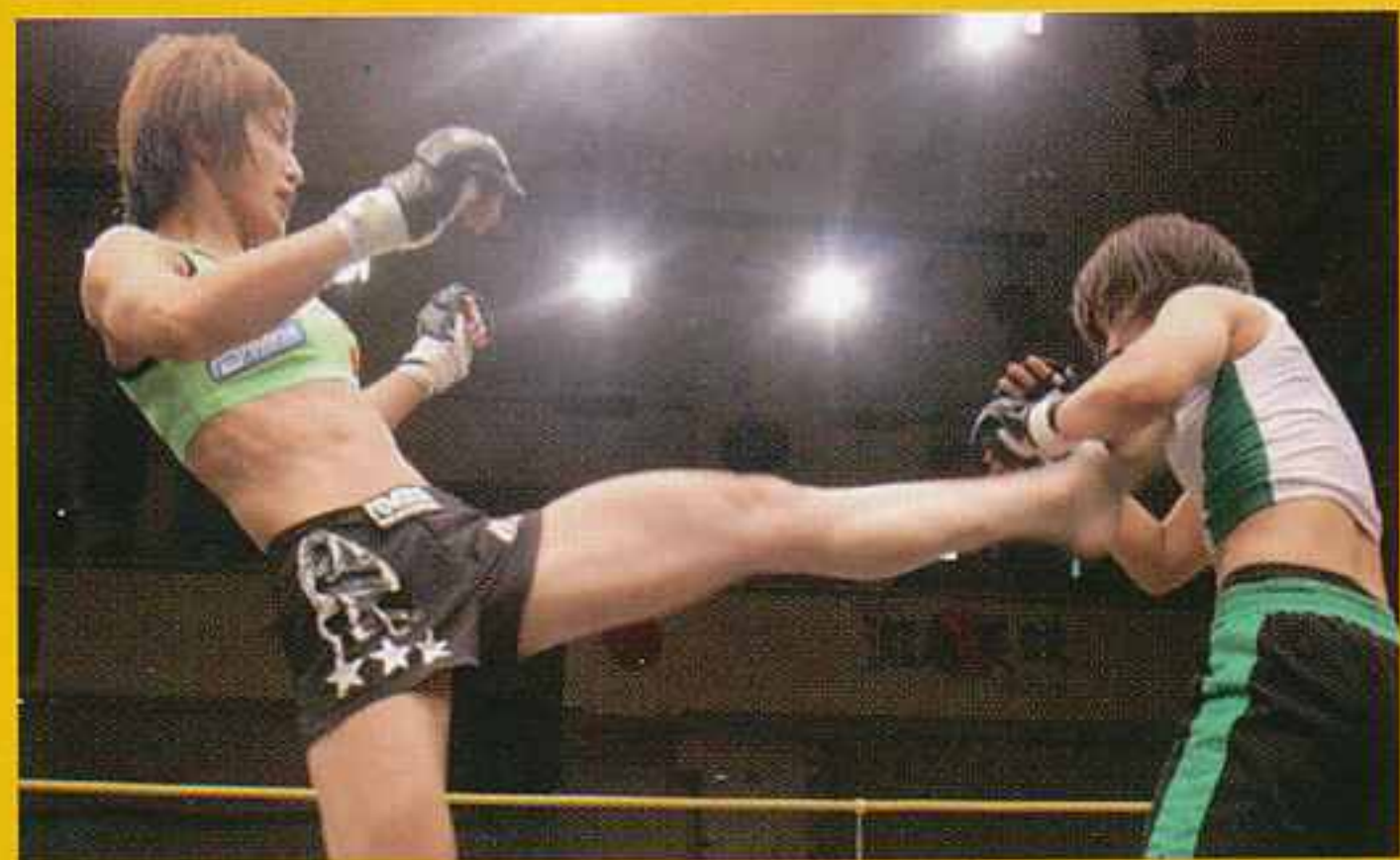
――情報がバンバン入ってくる環境でもないし。

MIKU　全然伝わらないです。自分から積極的に調べたりすればわかるのかもしれないですけど、とにかく自分のことでいっぱいいっぱいなので、あんまりそうやっ

DEEP女子ライト級王者
MIKUの激闘DIGEST

[2007.8.5 DEEP 31 IMPACT]
東京・後楽園ホール

○MIKU vs 渡辺久江×
(2R 終了 判定2-0)

SMACKGIRLを中心に活動して女子格闘技を牽引していた女王・渡辺と激突。打撃でも一歩も引かず、判定勝利で王座を奪取した。

[2008.8.17 DEEP 37 IMPACT]
東京・後楽園ホール

○MIKU vs 瀧本美咲×
(2R 4分40秒 KO)

瀧本とは4度も対戦しているMIKUだが、この試合のフィニッシュはじつに壮絶!! えぐい角度でMIKUの左ミドルが決まり、瀧本がダウン。そのまま決着した。

[2008.11.24 SHOOT BOXING WORLD TOURNAMENT S-cup2008]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○MIKU vs RENA×
(3R 終了 判定3-0)

現役女子高生ファイターRENAと対戦。シュートボクシングルールにもしっかり適応して首相撲からのヒザ蹴り、投げを使いこなして完勝した。

[2009.10.10 DEEP 44 IMPACT]
東京・後楽園ホール

○MIKU vs WINDY智美×
(2R 終了 判定3-0)

結果的に、この試合が最後の試合（エキシビションは除く）となってしまった。52キロ級への肉体改造の途中でもあったため、この試合は51キロで行なわれた。

て大きくとらえたりしたことがないんですよね。凄く器が小さいんですけど（笑）。やっぱり東京では噂も早いじゃないですか。「みんな（引退のこと）知ってるよ」みたいな感じで。いろんな情報が早いですよ。東京ってそうなんだ、みたいな感じですね。私、基本的にいつも一人で知らなくて。あと、あまり他人に興味がないというか、たとえば選手のブログをいっぱい見たりとかもしないし、ミクシィもしないし。

——ツイッターは？

MIKU　しないです。そういう感じなんですね。一人でずっと勝手にやってたんで。だからいろいろビックリしますね。

——記者会見では一番記憶に残ってる試合としてリサ・ワード戦を挙げてましたね。

MIKU　はい。

——地元・富山の大会で、しかもメインでした。僕もリングサイドで取材してたんですが、印象深い試合でしたよね。

MIKU　あれはね、試合もそうなんですけど、状況も凄かったんで。試合前に交通事故に遭った状態だったんですよ。リサも凄い選手なのに、状況もいままでで最悪で。しかも勝ち方も調子よくて、自分の中では凄く印象深いですね。

——アントニオ猪木みたいな腕固めでしたよね（笑）。あのときは試合前に自転車に乗ってたら、車にはねられて……。

MIKU　そうですね、ひどかったのは腰と股関節ですね。地上での運動すらダメだって言われたので、減量がたいへんじゃないですか、48キロ契約だったので。とにかく少しでも無理したら試合がダメになるので毎日プールで歩いてました。

富山で離れて孤立した状態だから業界全体とかわからないんですよ

——地元でメインというプレッシャーもあるだろうし、減量もケガも乗り越えて、強敵リサ・ワードに勝つって並大抵の精神力じゃないですよね。

MIKU　あれはホント、精神力で勝てた感じですよね。やっぱり気持ちで勝った感はありましたね、あれは。「絶対に勝つ」と思って。

——MIKUさんの試合って、気持ちが前面に出てますよね。だから観てて凄く伝わるんですよ。

MIKU　ああ、そうかもしれないですね、気持ちは一番大事だと思うんで。よくそういう話になりますよ、練習中も私が熱くなりすぎるって苦情が出るんですけど（笑）。「追いかけ回す」って言われて。

——追いかけ回すんですか（笑）。

MIKU　打撃のスパーのときに、たとえば相手が下がるじゃないですか。下がっても、下がった先でとどめを刺そうとするんですけど。

——えーと、練習なんですよね？（笑）。

MIKU　そうなんですけど、べつにとどめは刺さないですよ。普通だったらもうやめるようなところを逃さないというか、一息置かないって言ってるんですけど。「ひどすぎる」とかよく言われるんです。でも、私はそれが凄く大事だと思っていて。実際に試合で成功してるんです……成功って言ったらへんですけどチャンスはものにする（笑）。私は練習中も試合のことばっかり考えてやってるんですよ。だからそうやって気持ちが一番大事じゃないかと思うんですけどね。

——練習のときっていつも試合のテンションなんですか？

MIKU　たとえば走り込みの練習でも、凄くつらいときに「ここであと一歩、二歩、三歩足が出せなければ相手が出てくる」と思うようにしてるんですよね、そういう意味での試合モードですけど。だから休憩中も絶対に座らないで、これをインターバ

ルだと思うようにしたり。そういう感じでずっと試合を想定してる感じで動いてた感じかな。まあ、苦情ばっかり出ますけど（笑）。

——「もうちょっとさあ……」みたいな（笑）。

MIKU　「ホントに目つきが変わって、もうおまえとスパーできないよ」とか言われるんですけど、「そんなのやれよ！」って感じなんですけどね（笑）。大事だと思うんですよ。

——実際に結果が出てますからね。

MIKU　そう。練習で一息つける人は試合中に一息ついて、そこで負けてるんですよね。だから私が言ってるのはそこなんだって話なんですけど。私がどうかしてるふうにしか聞こえないらしいんですけど（笑）。だから私がリング上で追いかけ回すのわかります？

——わかります。

MIKU　コーナーに追い詰めてグワーッて。

——追い詰めたあとのボディへのヒザ蹴りとか鳥肌モノですよ。

MIKU　勝ちたいんで（キッパリ）。

——へんな意味じゃなくて、男でこういう選手がいたら凄いだろうなって思ったんですよ。

MIKU　でも男の人はそういう人がいっぱいいるのに、女の子ではあんまりいないのかなって思う。たぶん私は男の人の中に入って格闘技をやってたからそういう考え方なんだと思うんですね。バルバロ（Barbaro44）が練習中に一切休まないでスパーしてるのを見て、私も絶対負けないようにしようと思って。この人よりもう一本多くしようとか、それを目標に私も頑張るみたいな感じでした。

——でも、こうと決めたときの気持ちの強さとかが女子特有なのかなとも思ったんですけどね。今回の引退もそうですけど。

MIKU　それは自分でもちょっと頑固すぎるなとか思うんですけど。でもね、そういう性分なんだなって自分では思ってますけど。

——格闘技を100か0かという気持ちでやってきて、100だったものが0になったときに、自分ではどうなると思います？

MIKU　本来の私になるんじゃないかなと思いますけど。ホントに0になったとき、松本未来になるんじゃないかな。別人なんですよ。だから松本未来を知ってる人は、私のことを「信じられない！」って言うから。お母さんも、「考えられん」って言って。ちっちゃい頃も凄く静かで、ピアノ弾いたりお絵描きしたり、そういう系なんですよ。おとなしい系というか。わかりませんか？

［2009.6.28 DEEP TOYAMA IMPACT］
富山・テクノホール
○MIKU vs リサ・ワード×
（3R 2分53秒 腕ひしぎ十字固め）

地元富山でDEEP富山大会史上最大規模の会場で開催された大会のメインを務めたMIKU。かつて一本負けを喫しているリサ・ワードを完封して勝利。試合後には涙を見せた。

MIKU

格闘技をやったのは5～6年ですけど人生の半分ぐらい費やした感じがします

——リング上だけ観てたら想像できませんけど（笑）。いま、趣味はありますか？

MIKU　趣味ありますよ。ほら、キルティングですよ。

——ああ、『kamipro ムーブ』の連載でも書いてましたよね。ハワイアン・キルティングを習ってるって。

MIKU　めっちゃハマってます。格闘技ほどじゃないんですけどね。

——でも引退したら、逆にそっちに猛烈にハマったりして。

MIKU　徹底的にやって、教室とかやってね（笑）

——「ぶっ殺す！」ぐらいの勢いでハワイアン・キルトを（笑）。

MIKU　でもね、ここまでのものはもう出会えないと思いますね。人生が変わったと思うので。5～6年かもしれないですけど、人生の半分ぐらい費やした感じがします。

——枯れちゃうじゃないですか（笑）。

MIKU　いや、枯れてるんですよ。それは凄くいいことなんですよ。すべてが変わった感じですね。普通に幸せすぎる人生ですよ。練習はもちろんキツいんですけど、毎日が楽しすぎるっていうか。

——楽しくなければ続かなかったでしょうね。じゃあこれからまた楽しいことを探していく感じですか？

MIKU　はい、のんびりします。

——やりたいこととかあります？

MIKU　いまはちょっと。引退試合が大きすぎて、先のことはわからないです。

——エキシビションの相手は藤井惠さんですよね。

MIKU　うん。やっぱり最後にね、格闘技で最初に知った人なんで。藤井さんがいいですね。

——最後に聞くようなことじゃないかもしれないんですけど、格闘技を始めようと思ったきっかけはなんだったんですか？

MIKU　暇つぶしです。

——暇つぶし（笑）。

MIKU　はい。ホントにそうなんです、最初に柔術を始めたきっかけは。なんか身体を動かしたいからスポーツしたいって思って、空手でもしようかなってなんとなく思って。で、知り合いの人に「どっかないですかね？」って言ったら、たまたまバーバリアンに行ってる知り合いがいたんです。で、「今日行くから連れてってあげる」って即行で連れてってもらって。で、見て次の日に入ったんです。完全に趣味で始めた感じでしたね。

——まさに暇つぶし（笑）。

MIKU　はい、暇つぶしでしたね。

——相当つぶれましたね。

MIKU　つぶれました、人生が（笑）。

——ハハハ！　最後の試合も楽しみにしてます。

MIKU　ありがとうございました。

【10年2月27日／都内・DEEPジムにて収録】

みく■1981年6月26日、富山県出身。柔術から格闘技をスタートして2004年に『CROSS SECTION』でデビュー。スマックガールにも出場。2006年には『MARS』でカリーナ・ダムに勝利。主戦場であるDEEPでは2007年8月に渡辺久江を破り女子ライト級王者に。瀧本美咲、リサ・ワードを破り二度の防衛に成功。シュートボクシングではRENA、富田美里といった強豪にいずれも勝利、グラップリングではV―にも勝利している。総合では12連勝中だったが、2010年2月28日に引退を表明。4月17日『DEEP 47 IMPACT』でのエキシビションマッチを最後に現役を退く。160cm、48kg。

ライトヘビー級トーナメント決勝戦も開催

『DEEP 47 IMPACT』

東京・後楽園ホール
4月17日（土）開始18:00

決定対戦カード

エキシビションマッチ　藤井惠 vs MIKU

チケット料金

VIP 15,000円／SRS 10,000円
指定A 8,000円／指定B 6,000円
※当日券はいずれも500円UP

お問い合わせ

DEEP事務局 TEL.052-339-0303
http://www.deep2001.com

豪華プレゼント揃ってますなう

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年4月26日(月)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたはいまツイッターをやっていますか?⑧今後、ツイッターをやってほしいと思う選手&関係者は?

【宛先】〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
(株)ツー・スリー内『kamipro』編集部
「読者プレゼントなう」係まで

※応募締切は2010年4月12日(月)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

水道橋博士&谷川貞治サイン色紙

[非売品]

本誌でついにツイッター対談が実現した両巨頭の寄せ書きサイン色紙を1名様にプレゼント!! これを当選した人は喜びのつぶやきを!!

水道橋博士■http://www.twitter.com/shakase
谷川貞治■http://www.twitter.com/K1_Tany

PRESENT*02

1名様

キム・ドク サイン色紙

[非売品]

レジェンド中のレジェンド、タイガー戸口ことキム・ドクのサイン色紙もプレゼント!! なかなか手に入らないことは間違いないです。貴重な機会を逃すな!!

PRESENT*03

1名様

掟ポルシェ&富松恵美サイン色紙

[非売品]

大好評連載『萌え萌え女々苑』から掟さんと富松選手の寄せ書きサイン色紙をゲット!! お二人の動画は携帯サイト『kamipro Move』でも公開中です!!

富松恵美■http://www.twitter.com/tommyemi666

PRESENT*04

1名様

BRUTAL QUEEN Tシャツ

[リバーサル/¥5,040(税込)]

"最強女王"MIKUの引退を記念したTシャツ。激しく獰猛なファイトをBRUTAL QUEEN というコピーで表現!! プレゼントは白のSサイズ。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*05

TokyotoM アントニオ猪木オフィシャルTシャツ「勇姿」

[TokyotoM/¥4,725(税込)]

猪木デビュー50周年記念Tシャツ、福岡GROUNDCOBRA店頭およびオンラインショップ、アートジャンキー東京オンラインショップで発売中!!

GROUNDCOBRA■http://www.groundcobra.net/

PRESENT*06

1名様

FRONT / BACK

NNNプリントTシャツ ラインスカル

[NO NEED NEW/¥3,150(税込)]

長谷川秀彦、佐藤豪則、桜木裕司も試合時に着用しているアパレルブランド、NO NEED NEWのスカル柄プリントTシャツです。サイズはM。

PRESENT*07

1名様

FRONT / BACK

NNNラッシュガード長袖 龍虎

[NO NEED NEW/¥4,200(税込)]

テクノファインという吸汗、速乾性に優れた機能的な素材を使用したラッシュガード。格闘技だけでなく広くスポーツウェアとして活用できます。サイズはM。

NO NEED NEW■http://www.no-need-new.com/

PRESENT*08

1名様

鶴見五郎のトロフィー

[闘道館]

プロレス・格闘技のお宝満載のショップ「闘道館」から、鶴見五郎本人が闘道館に持ち込んだトロフィーです。ところどころ破損してますがセロテープで補修した状態で鶴見さんが持ち込んだものです。

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*09

1名様

単行本

『覚悟 人生60年、覚悟が生死を分けた!』

[文・斉藤文彦/ビジネス社/¥1,680(税込)]

ガンから生還した藤原組長が闘病記と生い立ちを語った単行本。そして"神様"カール・ゴッチとの幻のスパーリング映像を収録したDVDつきです。

ビジネス社■http://www.business-sha.co.jp/

PRESENT*10

1名様

DVD

『青木真也 跳関十段3』

[クエスト/¥5,880(税込)]

青木真也が世界最先端の技術を徹底解説することで高い評価を得ているシリーズの第3弾。特典映像は大晦日、廣田瑞人戦で使ったテクニックの解説!! 必見です。

PRESENT*11

1名様

DVD

『長南亮 怒りの拳』

[クエスト/¥5,880(税込)]

アグレッシブなファイトで世界のトップファイターの仲間入りをはたした長南が、闘いの軌跡を本人のインタビューとともに振り返り、世界で闘った一流の技術を公開!!

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro145 応募券
応募なう

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!!

http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス

No.145
2010年4月6日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（オフショアのため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（つぶやかない!）
松林 貴

デザインGM
出田さん（TwoThree）

デザイン班長
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
山口比佐夫
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
丸山剛史

お勘定
工藤ちゃん

「龍朋」行って炒飯大盛りだう!
555入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本"プリモ出校"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
白倉"クララ"明子

つぶやきマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

エッ、あの人が!? 衝撃インタビュー掲載!

次号特集テーマは

1993年の……

NEXT ISSUE

3.22 DREAM、3.27 K-1 MAX、3.31 UFN速報号!!

kamipro Special 2010 MAYは4月9日（金）発売予定!

4.17ストライクフォース&4.25『ASTRA』情報満載!!

No.146は4月23日（金）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れることがあるガオ!

大勝負！青木、狂気の全米出撃!!

kamipro

enterbrain MOOK

4・17ストライクフォース参戦！アメリカ死闘篇!!

青鬼、ふたたび！

治

kamipro 2010 145

4・17ストライクフォース参戦！アメリカ死闘篇!!
青鬼、ふたたび！

「チケットはほぼすべて完売いたしました」（向井徹）

2010年4月6日

発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一、青柳昌行
発行所／株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
発売元／株式会社角川グループパブリッシング　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

eb! enterbrain

kamipro 2010 145

eb! enterbrain

特別定価：本体895円＋税

雑誌 61971-55 Ⓗ2010.07

Printed in Japan 図書印刷株式会社